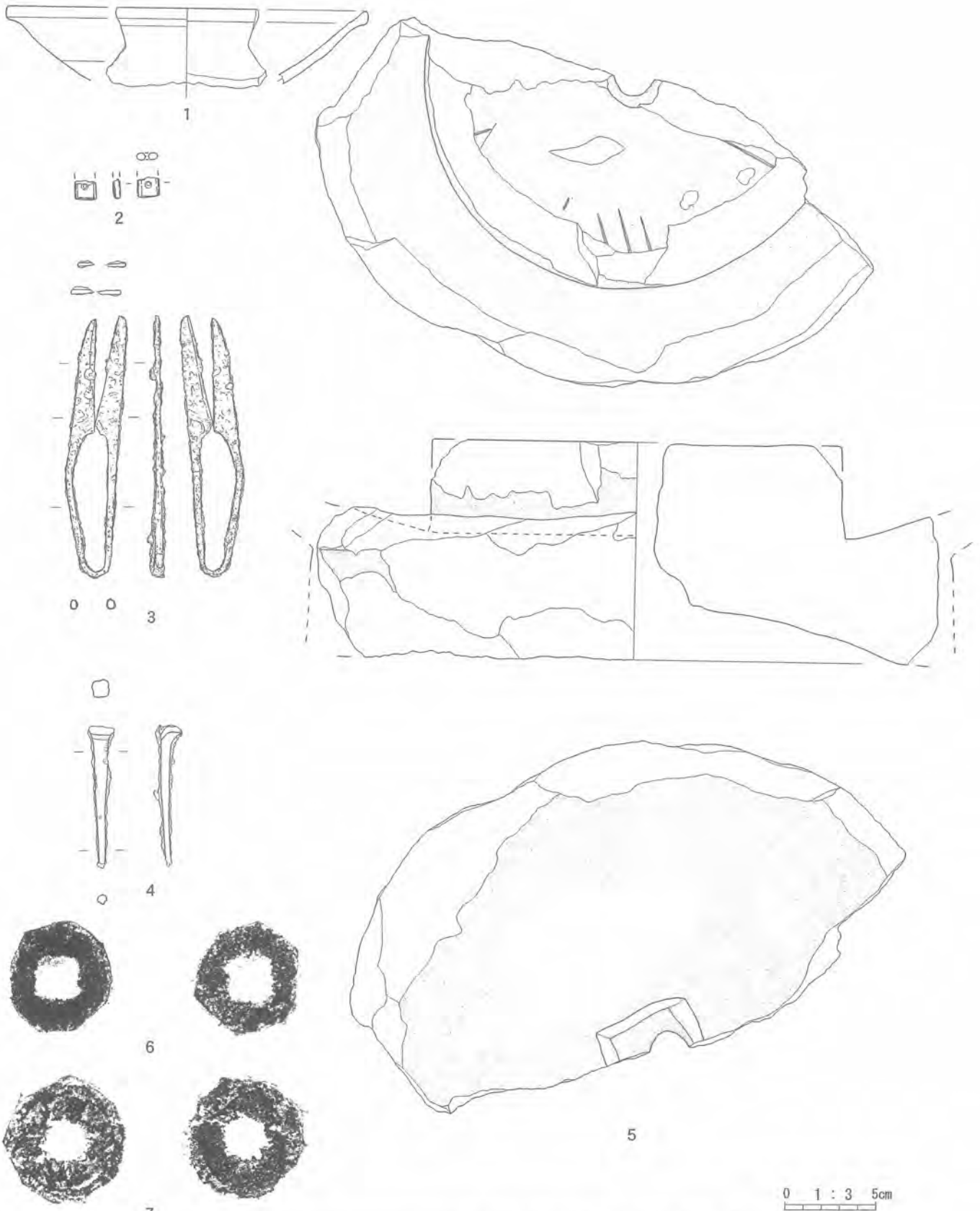


第75图 SD1311号堀切跡・SK1321・1489土坑跡平面図・土層断面図

SD1311-SK1489

a1 (10YR6/2)	砂壤土	10YR6/1	徑5~30mm 塊狀 5%	礫 徑2~5mm 1%	砂質 礫 (整地層)
a2 (10YR6/1)	砂壤土	10YR6/2	徑5~10mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 1%	砂質 礫 (整地層)
a3 (10YR7/2)	砂壤土	10YR7/3~7/4	徑5mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 1%	砂質 礫 (整地層)
a4 (10YR6/3)	砂壤土	10YR6/1	徑5~50mm 塊狀 5%	礫 徑2~5mm 1%	砂質 礫 (SK1489覆土)
b1 (10YR7/1)	砂壤土	10YR7/4	徑2~5mm 塊狀 1%以下	礫 徑2mm 1%	砂質 礫 (SK1489覆土)
b2 (10YR7/2)	砂壤土	10YR7/4	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 1%	砂質 礫 (SK1489覆土)
b3 (10YR6/1)	砂壤土	10YR7/3	徑2~10mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫 (SK1489覆土)
c1 (10YR7/1)	砂壤土	10YR7/4~7/5	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c2 (10YR7/1)	砂壤土	10YR7/4	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c3 (10YR7/2)	砂壤土	10YR6/1~7/1	徑2~10mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c4 (10YR7/1)	砂壤土	10YR7/3	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c5 (10YR7/1)	砂壤土	10YR5/1~6/1	徑5~30mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c6 (10YR7/2)	壤質砂土	10YR6/1~7/1	徑 ϕ 2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c7 (10YR5/1)	砂壤土	10YR5/1	徑5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c8 (10YR7/1)	砂壤土	10YR8/2	徑5~10mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c9 (10YR7/2)	砂壤土	10YR8/2	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c10 (10YR8/1)	壤質砂土	10YR6/1	徑2mm 粒狀 1%	礫 徑2~5mm 50%	砂質 やや密
c11 (10YR7/2)	砂壤土	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 1%	砂質 やや密
c12 (10YR7/3)	砂壤土	10YR8/1	徑2mm 塊狀 1%以下	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c13 (10YR8/2)	砂壤土	10YR7/1~7/3	徑2~10mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c14 (10YR8/3)	壤質砂土	10YR7/1	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 30%	砂質 礫
c15 (10YR7/1)	砂壤土	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c16 (10YR8/1)	壤質砂土	10YR7/1~7/2	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 50%	砂質 やや密
c17 (10YR7/2)	砂壤土	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c18 (10YR7/1)	砂壤土	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 1%	砂質 礫
c19 (10YR8/1)	壤質砂土	10YR8/2~8/3	徑2mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c20 (10YR7/3)	砂壤土	10YR7/1~7/2	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 やや密
c21 (10YR8/3)	壤質砂土	10YR7/2	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 やや密
c22 (10YR7/1)	砂壤土	10YR7/3	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c23 (10YR6/1)	砂壤土	10YR7/3	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c24 (10YR7/2)	砂壤土	10YR8/2	徑2~5mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c25 (10YR7/1)	沙質壤壤土	10YR7/3~7/4	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑1mm 1%以下	やや沙質 礫
c26 (10YR8/2)	壤質砂土	10YR7/1~7/2	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 50%	砂質 礫
c27 (10YR8/3)	壤質砂土	10YR7/1~7/2	徑2~10mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 50%	砂質 やや密
c28 (10YR8/1)	壤質砂土	10YR6/1~7/1	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 50%	砂質 やや密
c29 (10YR6/2)	砂壤土	10YR7/2~7/3	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c30 (10YR8/1)	壤質砂土	10YR7/1~7/2	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2~10mm 50%	砂質 やや密
c31 (10YR7/2)	砂壤土	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀 5%	礫 徑2~5mm 5%	砂質 礫
c32 (10YR8/2)	砂壤土	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 5%	礫 徑2~5mm 10%	砂質 やや密
c33 (10YR7/3)	砂壤土	10YR6/4~7/4	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 やや密
c34 (10YR7/1)	砂壤土	10YR6/1	徑1~2mm 粒狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c35 (10YR8/2)	壤質砂土	10YR7/1~7/2	徑2~5mm 塊狀 5%	礫 徑2~10mm 50%	砂質 やや密
c36 (10YR6/1)	砂壤土	10YR5/1~8/1	徑2~10mm 塊狀 10%	礫 徑2~5mm 5%	砂質 やや密
c37 (10YR7/2)	砂壤土	10YR8/1~8/2	徑5mm 塊狀 5%	礫 徑2~5mm 10%	砂質 やや密
c38 (10YR6/1)	砂壤土	10YR6/2~8/2	徑2~10mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 5%	砂質 礫
c39 (10YR5/1)	沙質壤壤土	10YR7/4~8/4	徑10~50mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%	やや沙質 礫
c40 (10YR7/3)	砂壤土	10YR6/2	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 1%	砂質 礫
c41 (10YR8/1)	壤質砂土	10YR7/2	徑2~5mm 塊狀 1%以下	礫 徑2~5mm 50%	砂質 やや密
c42 (10YR8/3)	壤質砂土	10YR7/2	徑2~5mm 塊狀 1%以下	礫 徑2~5mm 30%	砂質 やや密
c43 (10YR4/1)	砂壤土	10YR6/1~6/3	徑2~30mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 5%	砂質 礫
c44 (10YR7/2)	砂壤土	10YR6/1~6/2	徑2~40mm 塊狀 5%	礫 徑5mm 1%	砂質 礫
c45 (10YR8/2)	壤質砂土	10YR7/4	徑5mm 塊狀 1%以下	礫 徑2~5mm 30%	砂質 礫
c46 (10YR5/1)	砂壤土	10YR7/1	徑2~10mm 塊狀 10%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c47 (10YR7/2)	壤質砂土	10YR8/2~8/3	徑2~5mm 塊狀 1%以下	礫 徑2mm 30%	砂質 礫
c48 (10YR7/1)	壤質砂土	10YR7/3	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 20%	砂質 礫
c49 (10YR8/3)	砂壤土	10YR6/1	徑5mm 塊狀 1%以下	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c50 (10YR8/2)	壤質砂土	10YR7/2~7/3	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 50%	砂質 やや密
c51 (10YR7/3)	砂壤土	10YR7/4~7/5	徑2~30mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 5%	砂質 礫
c52 (10YR7/2)	砂壤土	10YR5/1	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	砂質 礫
c53 (10YR7/2)	沙質壤壤土	10YR6/4~7/4	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%以下	やや沙質 礫
c54 (10YR7/1)	砂壤土	10YR7/2	徑5mm 塊狀 1%以下	礫 徑2~5mm 10%	砂質 礫
c55 (10YR7/3)	砂壤土	10YR7/1	徑2~5mm 塊狀 5%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c56 (10YR7/1)	砂壤土	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 1%	砂質 礫
c57 (10YR7/2)	砂壤土	10YR8/2~8/3	徑2mm 塊狀 1%	礫 徑2~5mm 1%以下	砂質 礫
c58 (10YR6/1)	砂壤土	10YR8/1~8/3	徑2~5mm 塊狀 1%	礫 徑2mm 1%	砂質 礫
c59 (10YR7/1)	壤質砂土	10YR7/2	徑5mm 塊狀 1%以下	礫 徑2~5mm 10%	砂質 礫



No.	出土遺構	出土位置		錢文		外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	重量 (g)	初鑄年代
		層位	位置	面	背						
6	SD1311	覆土上位		無文錢	無背	18.2~19.9	7.2~7.5	0.5~0.6	-	0.7	不明
7	SD1311	覆土中位		不明	不明	21.5~22.5	6.1~6.5	1.0~1.1	1.9	1.8	不明

第76図 SD1311号空堀跡出土遺物

SI1239A号竪穴住居跡(第77、78図)

〈検出状況〉平坦部南側縁辺部、地山面で確認する。

〈規模・形態〉竪穴南側は消失し、北側の一部を残すのみである。SI1239B号竪穴住居跡と重複し、当遺構が古い。覆土は2層に細別できる。残存する北側の掘り方で深さは0.30mである。柱穴跡は1基、柱穴状ピットは6基確認される。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時期・時代〉不明。

SI1239B号竪穴住居跡(第77、78図)

〈検出状況〉平坦部南側縁辺部、地山面で確認する。

〈規模・形態〉竪穴の形状は、その南側を消失するが残存部分から方形と考えられる。SI1239Aと重複し、当遺構が新しい。覆土は3層に細別できる。

竪穴は東西で3.92m、深さが0.27mである。柱穴跡は4基、柱穴状ピットは3基確認される。柱穴跡の柱間はP3—1.59m—P4—1.22m—P5—1.21m—P7である。

〈出土遺物〉釘1点(遺構確認面)、鉄滓1点(a1層下位、流動滓重量2.3g)が出土している。

〈時期・時代〉不明。

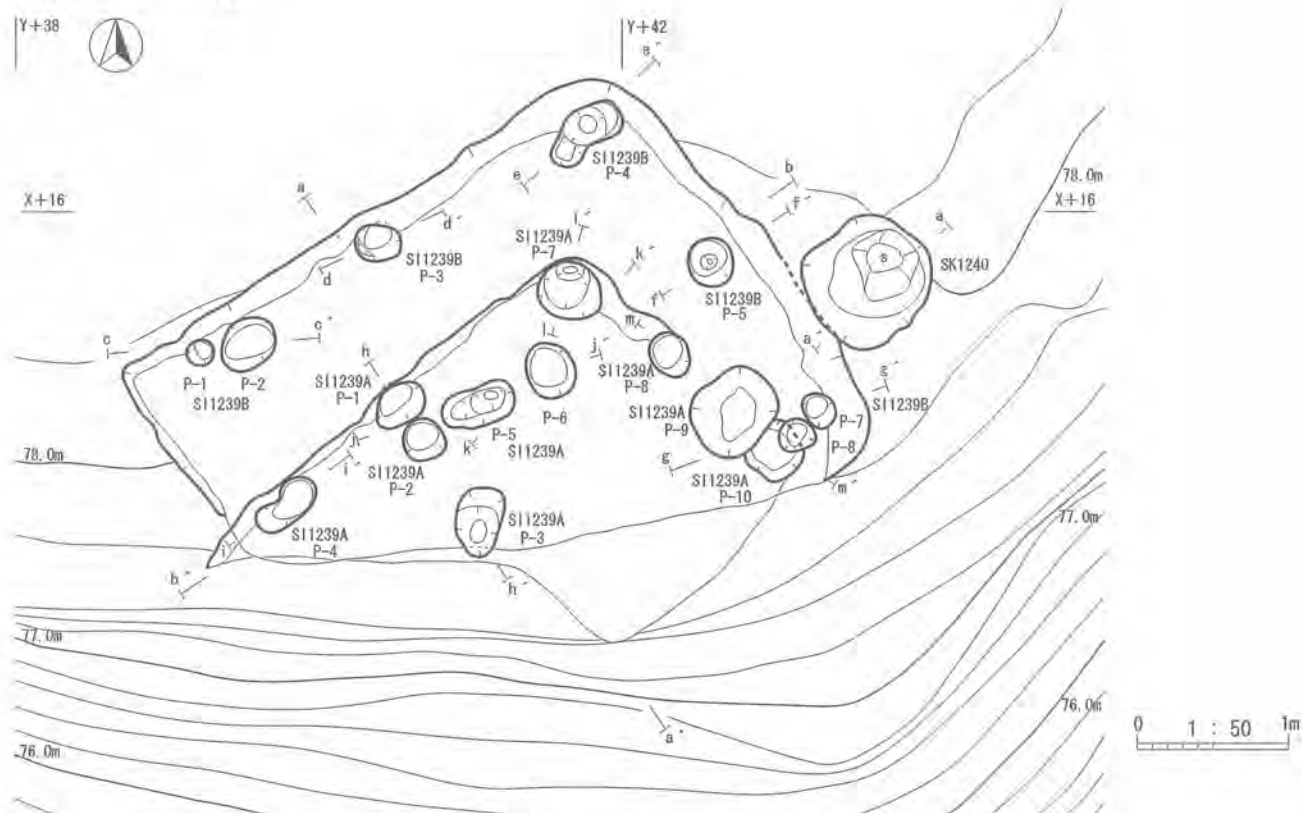
SK1240号土坑跡(第77、78図)

〈検出状況〉平坦部南側縁辺部、地山面で確認する。

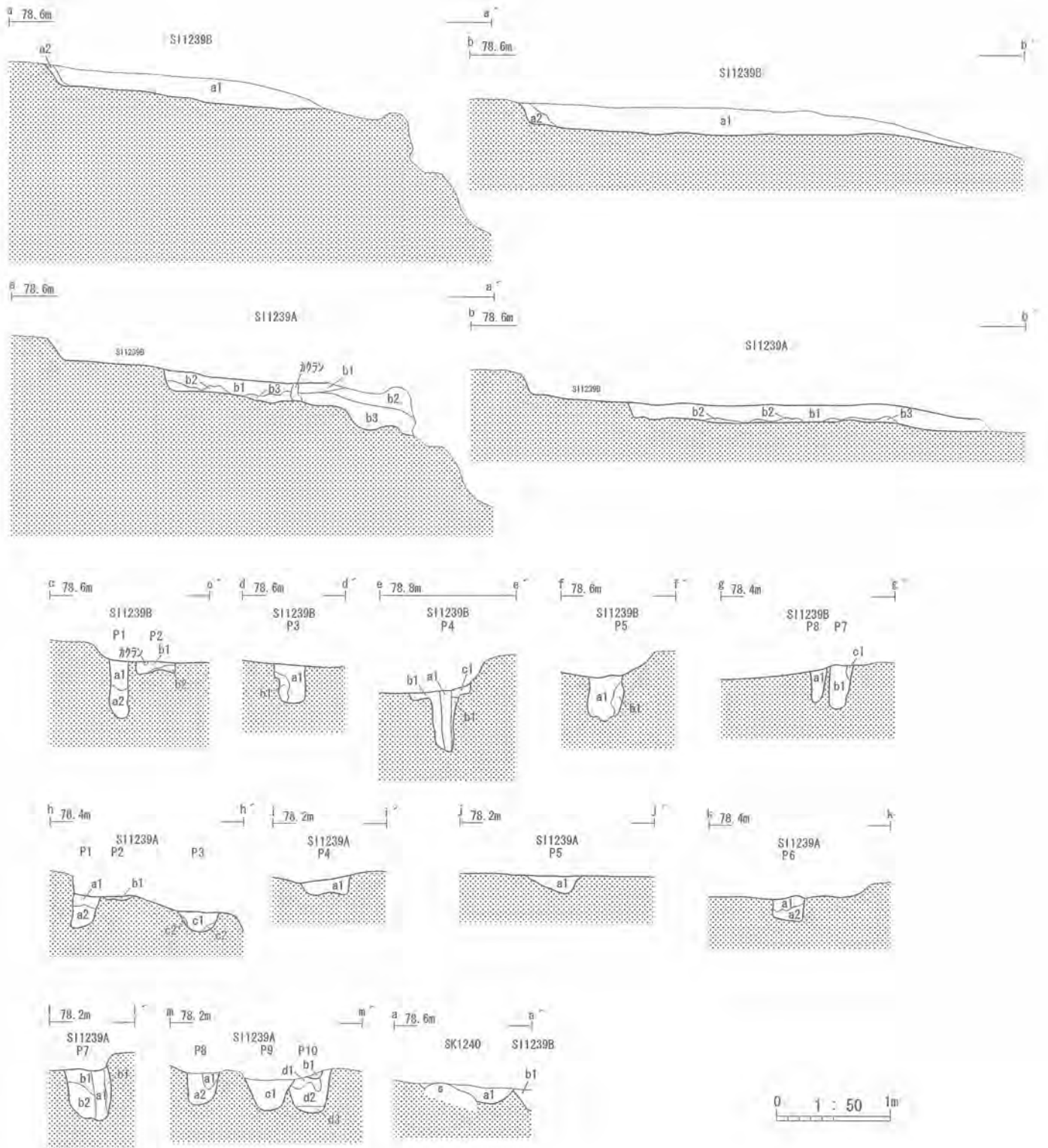
〈規模・形態〉SI1239Bと重複し、当遺構が新しい。長軸0.85m、短軸0.78m、深さ0.18m、不整形円形である。覆土は単層である。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時期・時代〉不明。



第77図 SI1239A・B号竪穴住居跡・SK1240号土坑跡平面図



第78图 SI1239A·B号竖穴住居跡・SK1240号土坑跡土層断面図

SI1239A									
b1 砂壤土	(10YR5/2)	10YR7/3~7/6	径5~20mm 塊状 5%	砂質 礫					
b2 砂壤土	(10YR7/3)	10YR5/2	径5mm 塊状 1%	砂質 礫					
b3 砂壤土	(10YR8/3)	地山							
SI1239A P1									
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR 7/3	径2~5mm 塊状 1%	礫 径2mm 塊 1%	砂質 礫				
a2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR 7/1	径5mm 塊状 1%	礫 径2mm 塊状 1%	砂質 礫				
SI1239A P2									
b1 砂壤土	(10YR6/2)	10YR 7/3	径5mm 塊状 1%	礫 径2mm 塊状 1%	砂質 礫				
SI1239A P3									
c1 砂壤土	(10YR5/1)	10YR 7/3	径5~10mm 塊状 1%	炭 径 2mm 1%	礫 径2mm 塊状 1%	砂質 礫			
c2 砂壤土	(10YR6/1)	10YR5/1	径2mm 塊状 1%	礫 径2mm 塊状 1%	砂質 礫				
SI1239A P4									
a1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR 7/3	径5~20mm 塊状 5%	礫 径2mm 塊状 1%	砂質 礫				
SI1239A P5									
a1 沖積堆積土	(10YR7/1)	10YR 7/3	径5~10mm 塊状 5%	ややシルト質 礫					
SI1239A P6									
a1 沖積堆積土	(10YR7/2)	10YR6/1~7/1	径5~10mm 塊状 1%	ややシルト質 礫					
a2 沖積堆積土	(10YR6/1)	10YR5/1	径10mm 塊状 1%以下	ややシルト質 礫					
SI1239A P7									
a1 沖積堆積土	(10YR5/1)	10YR 7/3	径52~5mm 塊状 (柱跡) 5%	炭 径5~10mm 1%	ややシルト質 礫				
b1 沖積堆積土	(10YR7/2)	10YR7/4	径5~10mm 塊状 3%	ややシルト質 礫					
b2 沖積堆積土	(10YR7/1)	10YR7/4	径2~5mm 塊状 1%	ややシルト質 礫					
SI1239A P8-P9-P10									
a1 沖積堆積土	(10YR6/1)	10YR5/1	径5mm 塊状 1%	ややシルト質 礫					
a2 沖積堆積土	(10YR7/1)	10YR5/1	径2mm 粒状 1%	ややシルト質 礫					
b1 沖積堆積土	(10YR5/1)	10YR6/1	径2mm 粒状 1%	ややシルト質 礫 (P-8覆土)					
c1 沖積堆積土	(10YR6/2)	10YR5/1,10YR6/2~6/3	径2~10mm 塊状 1%	ややシルト質 礫					
d1 沖積堆積土	(10YR7/2)	10YR6/2~6/3	径5~10mm 塊状 3%	10YR5/1 径5~10mm 塊状 1%	ややシルト質 礫				
d2 沖積堆積土	(10YR6/1)	10YR6/2	径2~10mm 塊状 1%	ややシルト質 礫					
d3 沖積堆積土	(10YR6/1)	10YR6/2	径2mm 粒状 1%	ややシルト質 礫					
SI1239B									
a1 沖積堆積土	(10YR7/1)	7.5YR6/3~6/4	径5~30mm 塊状 10%	礫 1%	炭 径10mm 1%以下	ややシル質 やや礫			
a2 沖積堆積土	(10YR7/2)	7.5YR6/3~6/4	径5~10mm 塊状 3%	礫 1%	ややシル質 やや礫				
SI1239B P1									
a1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR7/3	径5~10mm 塊状 5%	礫 径2mm 1%	砂質 やや礫				
a2 砂壤土	(10YR6/2)	10YR7/3	径5~10mm 塊状 1%	礫 径2mm 5%	砂質 礫				
SI1239B P2									
b1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR7/3	径5~10mm 塊状 5%	炭 径5mm 1%	礫 径2mm 1%	砂質 やや礫			
b2 砂壤土	(10YR7/3)	10YR6/1	径5mm 粒状 1%	礫 径2mm 1%	砂質 やや礫				
SI1239B P3									
a1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR7/4	径1~10mm 塊状 5%	礫 径1mm 5%	砂質 礫 (柱痕)				
b1 砂壤土	(10YR6/2)	10YR7/4	径1~10mm 塊状 10%	礫 径2mm 1%	砂質 礫 (根固土)				
SI1239B P4									
a1 砂壤土	(10YR5/1)	10YR7/1~7/3	径1~5mm 塊状 5%	礫 径1~5mm 1%	砂質 礫 (柱痕跡)				
b1 砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1~8/2	径5mm 塊状 1%	礫 径1~5mm 1%	砂質 礫 (根固土)				
c1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR7/4	径1mm 塊状 1%	礫 径1mm 1%	砂質 礫				
SI239B P5									
a1 沖積堆積土	(10YR6/1)	10YR7/4	径1~5mm 塊状 1%	礫 径1mm 1%	ややシル質 礫 (柱痕)				
b1 沖積堆積土	(10YR6/2)	10YR7/4	径1~30mm 塊状 5%	礫 径1mm 1%	ややシル質 礫 (根固土)				
SI1239B P7-P8									
a1 沖積堆積土	(10YR6/1)	10YR 7/2	径5mm 塊状 1%	ややシル質 礫					
b1 沖積堆積土	(10YR6/2)	10YR 7/2	径2~5mm 塊状 1%	ややシル質 礫 (柱痕力)					
c1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR6/2	径2mm 粒状 1%	砂質 礫					
SK1240									
a1 砂壤土	(10YR5/2)	10YR7/1~7/3	径5~30mm 塊状 10%	礫 径5mm 1%	砂質 礫				
b1 沖積堆積土	(10YR7/2)	7.5YR6/3~6/4	径5~10mm 塊状 3%	礫 1%	ややシル質 やや礫 (SI1239B覆土)				

SI1318号工房跡 (第79、80、82図)

〈検出状況〉平坦部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉北東側、北西側の竪穴の掘り方を確認する。南西側は斜面となる。SD1322号、1340号溝跡、SD1407号溝跡、SD1311号堀切跡、SK1313号炭焼跡と重複し、当遺構はSD1340号、SK1313号より古く、SD1322号、SD1407号より新しい。SD1311号との新旧関係は不明である。覆土は4層に大別でき、さらに9層に細別される。いずれも自然堆積と考えられる。

周溝は竪穴に沿って確認され、一部途切れながらSK1313号の北側まで確認できる。柱穴跡を4基確認する。柱間はP1-2.17m-P2-2.00m-P3-2.55m-P4である。竪穴床面中央で7基の焼土遺

構を確認する。焼土遺構は、すべて浅い掘り込みを伴う。焼土遺構SN5号では使用面から釘状鉄製品が出土する。

〈出土遺物〉1は香炉で瀬戸美濃産である。床面から出土する。口縁部は外反し、口縁部内面から胴部外面に灰釉が施され、底部には三足が付けられている。時期は16世紀頃のものと考えられる。2は釘状鉄製品で焼土遺構SN5号から出土する。3は銅製品で板状のものを折り曲げたものと考えられる。4は埴塼である。覆土中から出土する。

〈時代・時期〉出土遺物から16世紀頃と考えられる。また、焼土遺構SN1号、SN5号について熱残留分析を実施している(後章参照)。

SK1313号炭焼跡(第79、81、82図)

〈検出状況〉平坦部、覆土中で検出する。

〈規模・形態〉SI1318号工房跡(周溝)と重複し、当遺構はSI1318号より新しい。長軸3.39m、短軸0.98m、深さ0.28mである。東側壁面の一部が凸状に張り出す。覆土は2層に大別でき、さらに4層に細別される。a層は自然堆積土、b層は使用面覆土と考えられる。使用面から木炭が多く出土する。遺構内から出土した木炭を用いて放射性炭素年代測定を実施している(後頁参照)。

〈出土遺物〉染付皿1点(a3層中位)出土する。染付皿は口縁部であり、内面は横線、外面は草花文が施されている。中国産で、16世紀頃の製品と考えられる。

〈時代・時期〉SD1318号(周溝)との新旧関係と出土遺物から16世紀以降と考えられる。

SK1314号土坑跡(第79、81図)

〈検出状況〉平坦部、覆土中で検出する。

〈規模・形態〉SKP1329号、SKP1330号と重複し、当遺構は両遺構より新しい。長軸0.82m、短軸0.76m、深さ0.25m、不整円形である。覆土は3層に細別でき、c2層は木炭を多く含む。SK1313号炭焼跡と近接することから、これに関係する遺構の可能性が考えられる。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時代・時期〉不明。

SN1316号焼土遺構(第79、81図)

〈検出状況〉平坦部、地山面で検出する。

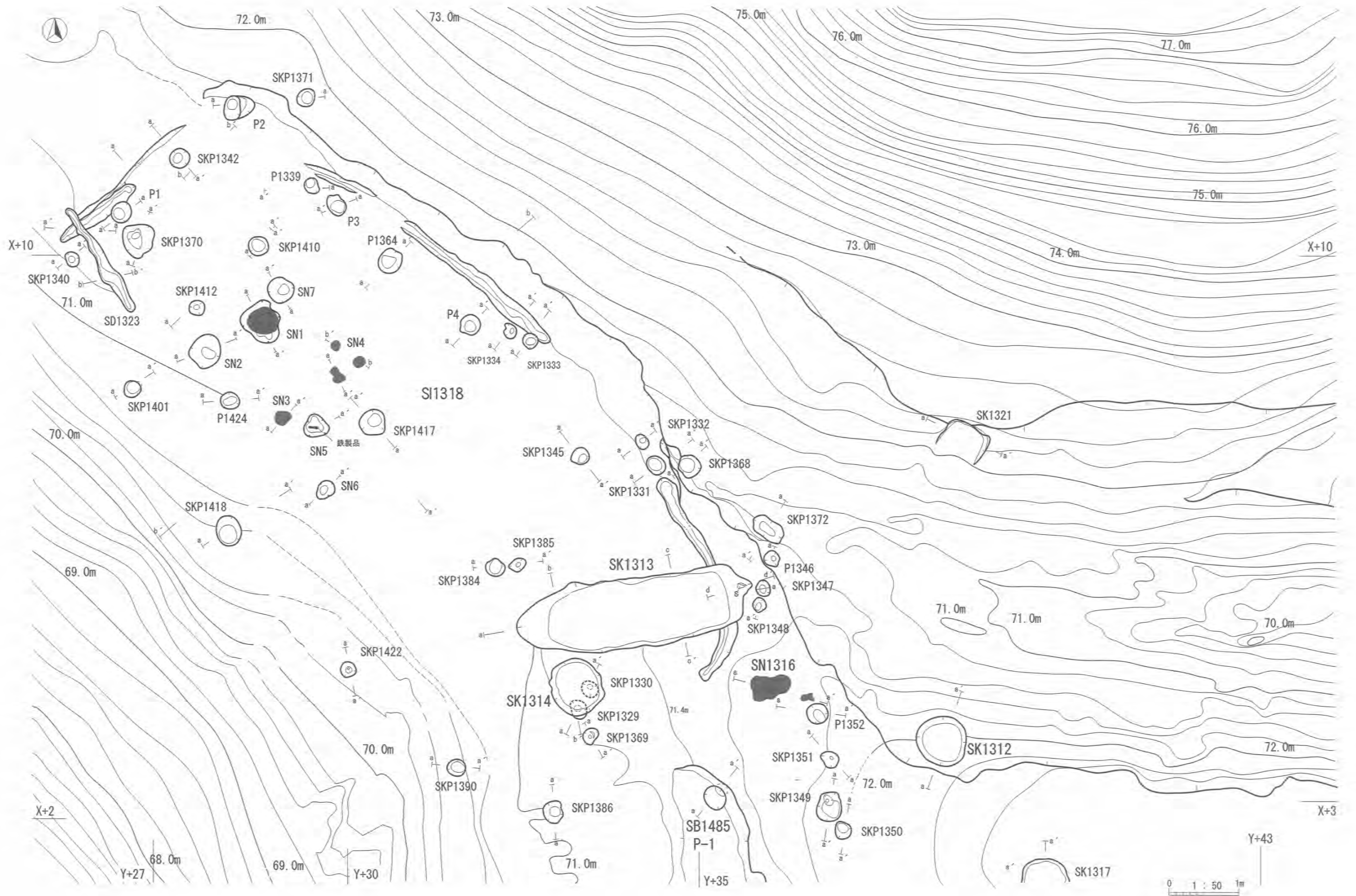
〈規模・形態〉近接して2基のプランを確認する。これらのプランは本来同一の遺構であったと考えられる。下位に掘り込みはなく、SK1313号炭焼跡と近接することから、これに関係する遺構の可能性が考えられる。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時代・時期〉不明。

SD1322号溝跡(第81、84図)

〈検出状況〉平坦部、地山面で検出する。



第79图 SI1318号工房跡・SK1313号炭焼跡・SK1312号・1314号土坑跡・SN1316号焼土遺構平面図

〈規模・形態〉 SI1318号工房跡、SKP1339号、P1364号、SD1407号溝跡と重複し、当遺構は重複するこれらの遺構より古い。覆土は単層である。南東端部分はSD1407号との重複により消失する。等高線に沿うように築かれている。

〈出土遺物〉 出土なし。

〈時代・時期〉 SI1318号工房跡(16世紀)より古いことから、16世紀以前と考えられる。

SD1407号溝跡(第82、84図)

〈検出状況〉 平坦部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉 SI1318号、SK1313号、SD1322号、SKP1342号、1370号、1412号、1417号、1418号と重複し、当遺構はSD1322号より新しく、その他重複する遺構より古い。覆土は自然堆積で、砂礫を多く含むものである。遺構はSI1318号工房跡北側からSKP1385号北側まで掘り込まれている。底面は雨裂が入りこみ不規則な凹凸が見られ、遺構南側は北東から南西に向って雨裂が入り削平を受けている。

〈出土遺物〉 出土なし。

〈時代・時期〉 SI1318号工房跡(16世紀)より古いことから16世紀以前と考えられる。

SD1414号溝跡(第84図)

〈検出状況〉 平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉 SK1313号炭焼跡、SD1415号溝跡と重複し、当遺構は両遺構より古い。等高線にほぼ直行するように確認される。底面は北から南に向かい傾斜しており、雨裂による不規則な凹凸が見られる。

〈出土遺物〉 出土なし。

〈時代・時期〉 SK1313号炭焼跡(16世紀以降)より古いことから、16世紀以前の可能性が考えられる。

SD1415号溝跡(第84図)

〈検出状況〉 平坦部、地山面西側縁辺部で検出する。

〈規模・形態〉 SD1414号と重複し、当遺構はSD1414号より古い。覆土は単層である。等高線に沿って築かれており、底面は北から南に向かい緩く傾斜している。

〈出土遺物〉 出土なし。

〈時代・時期〉 SD1414号溝跡(16世紀以前)より古いことから、16世紀以前の可能性が考えられる。

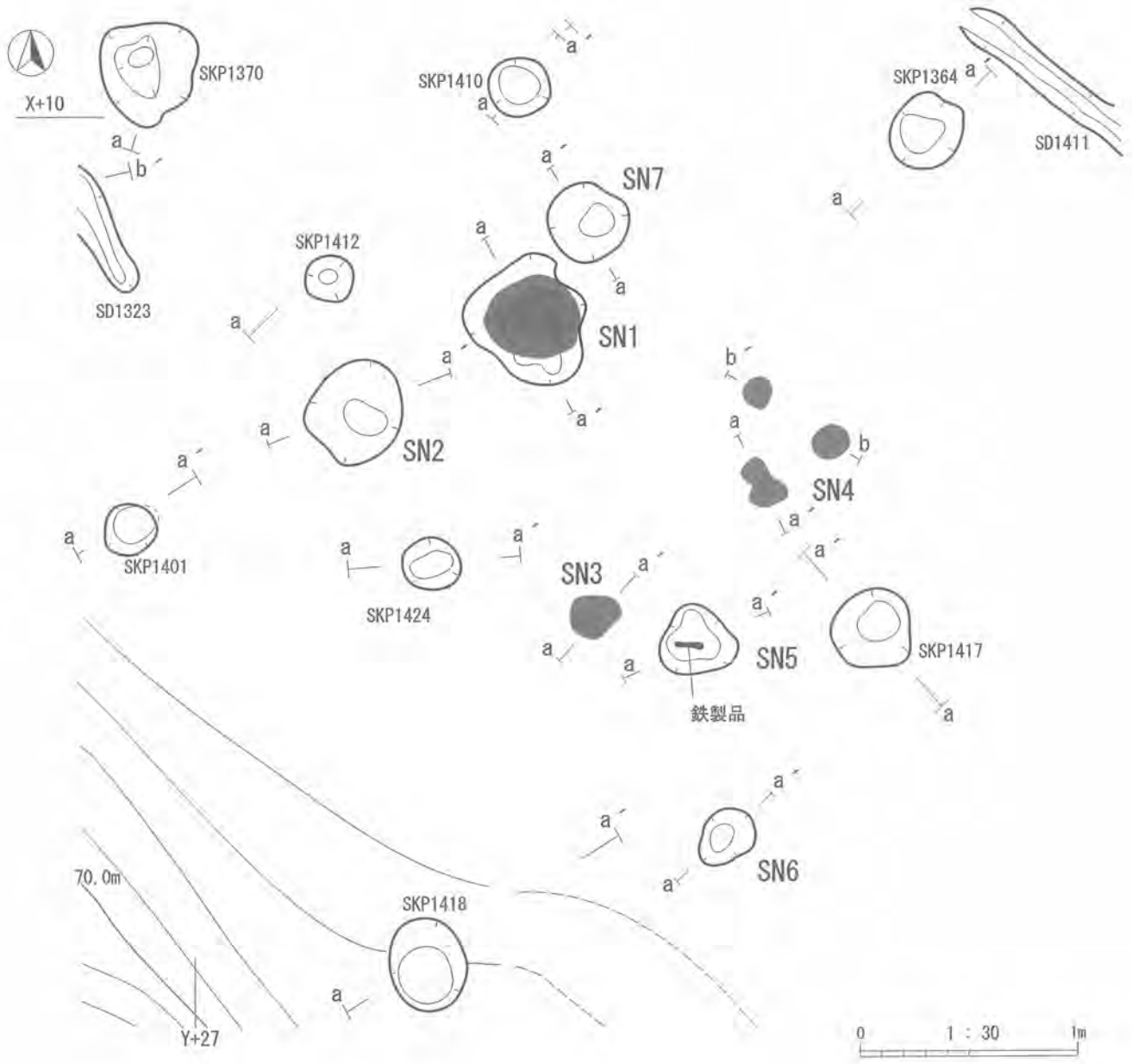
SD1421号溝跡(第84図)

〈検出状況〉 平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

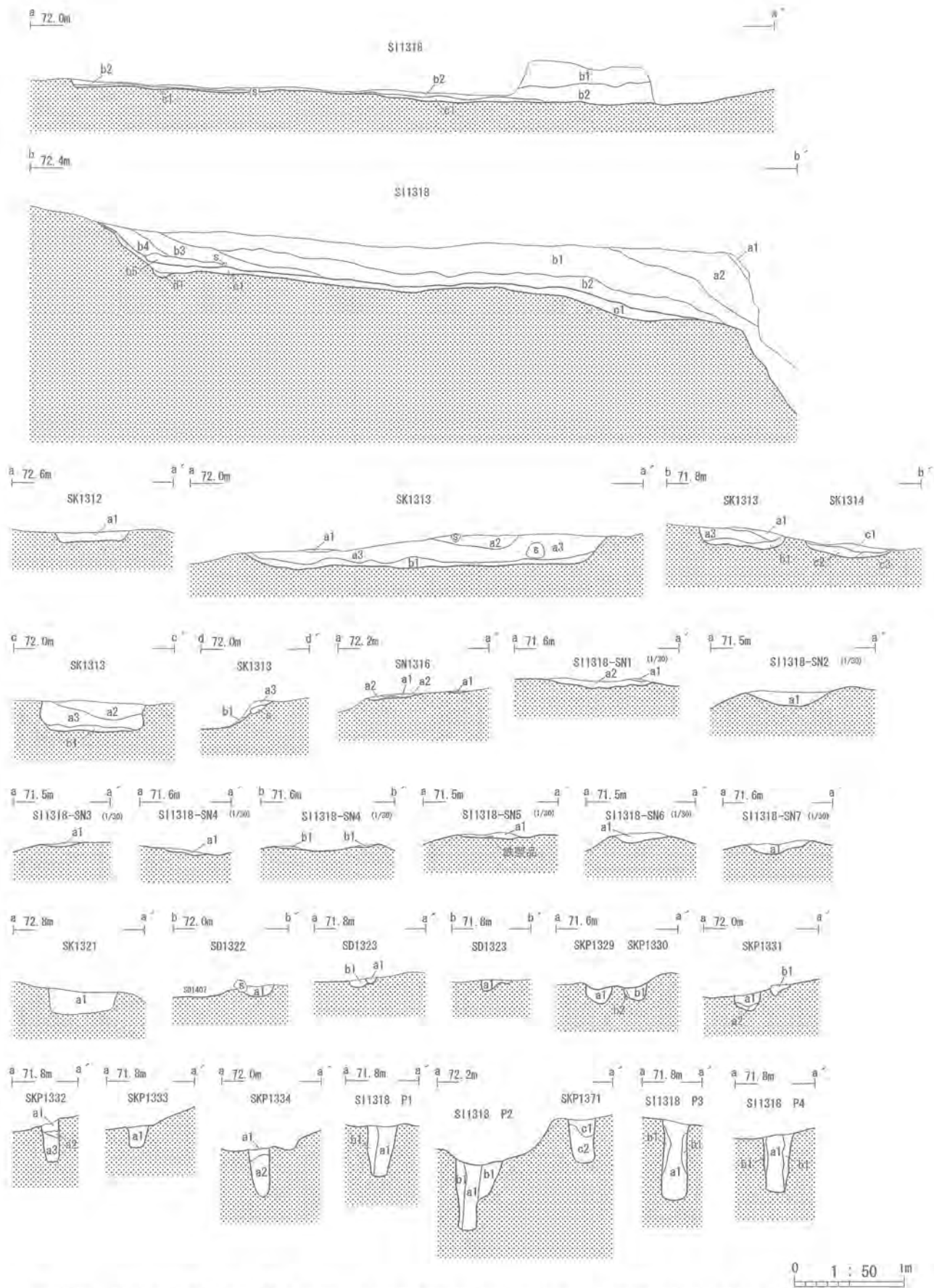
〈規模・形態〉 SD1407号溝跡と重複し、当遺構はSD1407号より新しい。遺構北側は等高線に沿っており、SKP1428東側付近から西に折れ、斜面部に至る。

〈出土遺物〉 出土なし。

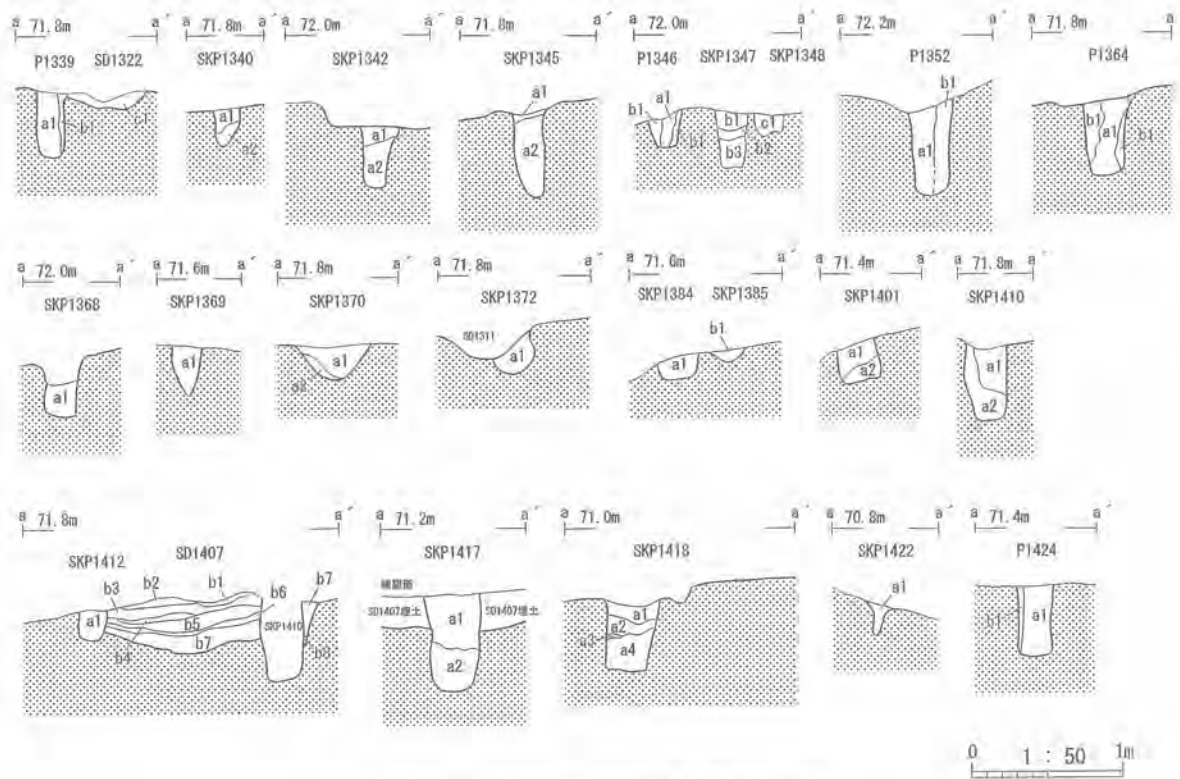
〈時代・時期〉 重複するSD1407号溝跡より新しいことから、16世紀以降の可能性が考えられる。



第80図 SI1318号工房跡焼土遺構平面図



第81图 SK1312号·1314号土坑迹·1313号炭烧迹·SN1316号烧土遗构·SI1318号工房迹土层断面图



第82图 SD1407号沟迹土层断面图



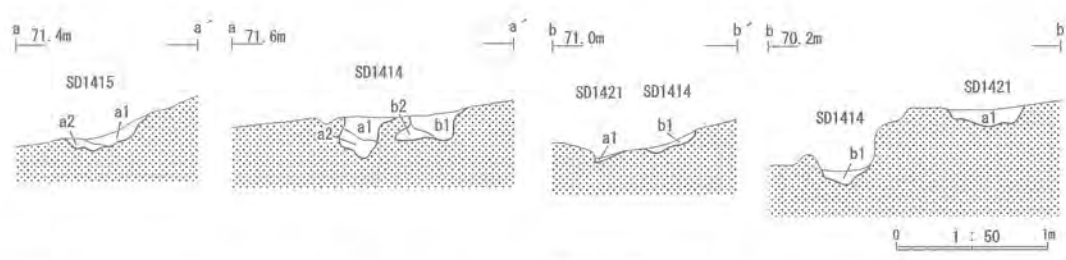
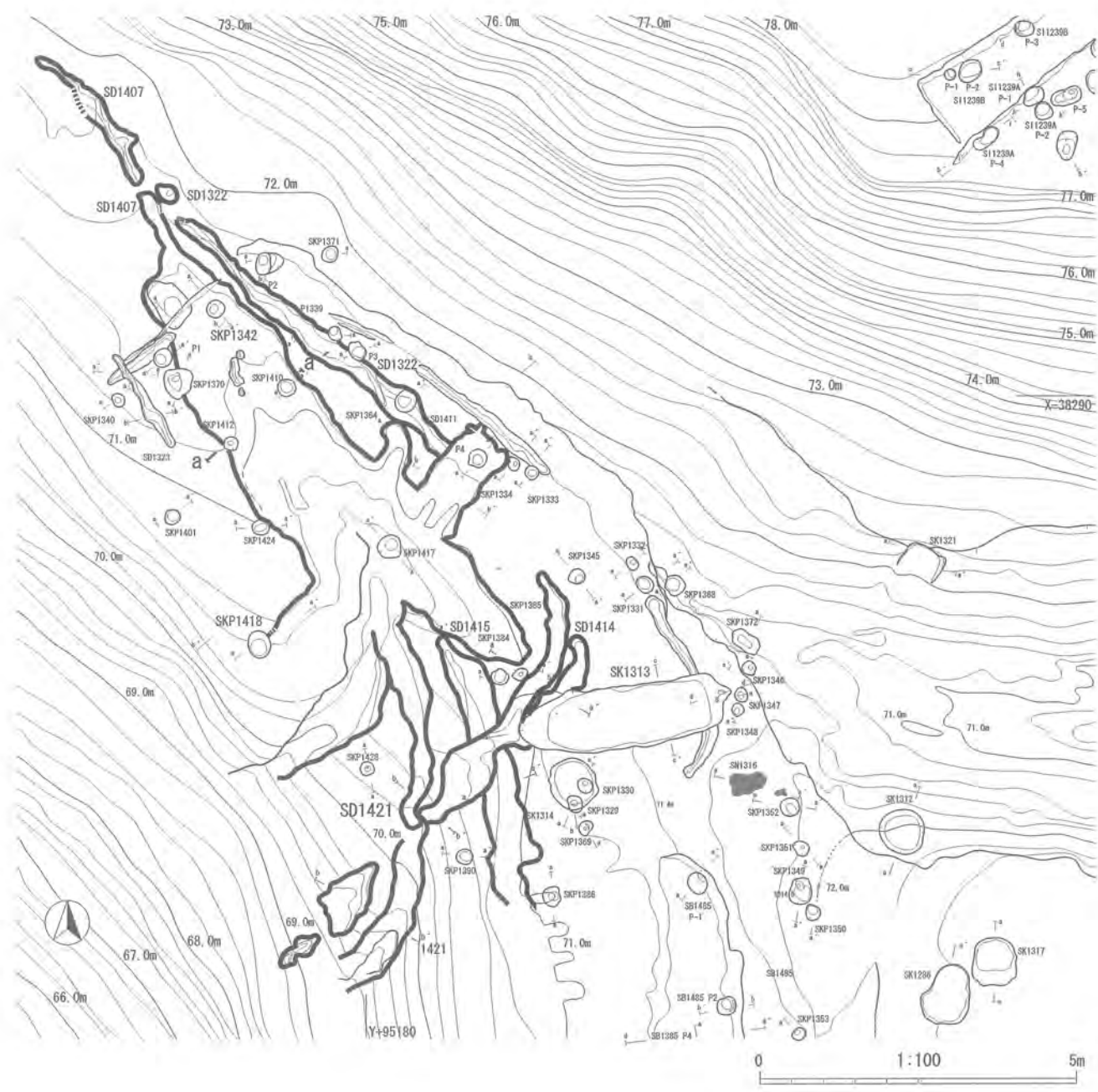
5(SK1313号炭烧迹出土遗物)

6(SK1329号出土遗物)

第83图 SK1313号炭烧迹·SI1318号工房迹·SKP1329号出土遗物

SK1312									
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径5mm 塊状 1%	礫 径2mm 1%	砂質 礫				
SK1313									
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	径2~5mm 塊状 1%以下	礫 径2mm 1%	炭 φ5mm 5%	砂質 礫			
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR4/1	径10~50mm 塊状 1%	10YR7/2 径2~5mm 塊 1%	炭 径2mm 1%	礫 径2mm 1%	砂質 礫		
a3 砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1	径5~30mm 塊状 1%	礫 径2mm 1%	炭 径2~10mm 1%	砂質 礫			
b1 砂壤土	(10YR5/1)	10YR5/1	径5~10mm 塊状 5%	炭 径2~50mm 50%	砂質 礫				
SK1314									
c1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2	径2~5mm 塊状 1%	炭 径2~10mm 1%	礫 径2mm 1%	砂質 礫			
c2 砂壤土	(10YR6/2)	10YR7/3	径2mm 塊状 1%	炭 径2~10mm 50%	砂質 礫				
c3 砂壤土	(10YR7/2)	10YR5/1	径5mm 塊状 1%	炭 径2mm 1%	礫 砂質 礫				
SN1316									
a1 砂壤土	(10YR6/1)	7.5YR6/2	径5mm 塊状 1%	炭 径2~5mm 1%	砂質 礫				
a2 砂壤土	(10YR6/2)	10YR6/1	径2mm 粒状 1%	炭 径1mm以下 1%以下	砂質 やや密				
SI1318									
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2	径2mm 塊状 1%	礫 径5mm 5%	砂質 礫				
a2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	径2~5mm 塊状 1%	礫 径2mm 1%	砂質 礫				
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2~8/2	径2~10mm 塊状 1%	礫 径2~5mm 1%	砂質 礫				
b2 砂壤土	(10YR6/2)	10YR7/1~7/2	径5~10mm 塊状 1%	礫 径2~5mm 1%	砂質 礫				
b3 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/2~7/3	径5~10mm 塊状 1%	礫 径2~5mm 5%	砂質 礫				
b4 砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1~8/2	径2~10mm 塊状 3%	礫 径2mm 1%	砂質 礫				
b5 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/3~7/4	径2~5mm 塊状 5%	礫 径2mm 1%	砂質 礫				
c1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/3	径2mm 塊状 1%	砂質 礫					
d1 砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/3	径2mm 塊状 1%	砂質 礫					
SI1318-SN1									
a1 沖積堆積土	(7.5YR4/2)	10YR8/1	径2~5mm 塊状 1%	炭 径5mm 5%	ややシルト質 やや密				
a2 沖積堆積土	(10YR7/2)	10YR7/3	径5~10mm 塊状 1%	炭 径5~10mm 3%	ややシルト質 やや密				
SI1318-SN2									
a1 沖積堆積土	(10YR7/1)	10YR8/2	径2~10mm 塊状 5%	礫 径2mm 1%	炭 径5mm 5%	ややシルト質 礫			
SI1318-SN3									
a1 沖積堆積土	(7.5YR6/1)	10YR7/1	径2mm 粒状 1%	炭 径5mm 1%	ややシルト質 礫				
SI1318-SN4									
a1 沖積堆積土	(7.5YR6/2)	10YR6/2	径5mm 塊状 1%	炭 径2~5mm 1%	ややシルト質 やや密				
b1 砂壤土	(7.5YR6/1)	10YR8/2	径5mm 塊状 1%	炭 径2~5mm 1%	砂質 礫				
SI1318-SN5									
a1 沖積堆積土	(10YR7/2)	10YR7/3~7/4	径2~5mm 塊状 1%	炭 径5~30mm 1%	ややシルト質 やや密				
SI1318-SN6									
a1 沖積堆積土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 塊状 1%	炭 径2mm 1%以下	ややシルト質 礫				
SI1318-SN7									
a1 砂壤土	(7.5YR6/1)	10YR7/3	径2~5mm 粒状 1%	炭 径5mm 1%	砂質 礫				
SI1318-P1									
a1 沖積堆積土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫 (柱痕)					
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫 (根固土)					
SI1318-P2									
a1 沖積堆積土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 5%	やや沖積質 礫 (柱痕跡)					
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 5%	砂質 礫 (柱固土)					
SI1318-P3									
a1 沖積堆積土	(10YR7/1)	10YR6/1~8/2	径2~5mm 塊状 1%	やや沖積質 礫 (柱痕跡)					
b1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1~8/1	径2~10mm 塊状 5%	砂質 礫 (根固土)					
SI1318-P4									
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫					
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫					
SK1321									
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2~7/3	径5~10mm 粒状 5%	砂質 礫					
SD1322									
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 5%	砂質 礫					
SD1323 (a-a')									
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径5mm 粒状 1%	砂質 礫					
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 礫					
SD1323 (b-b')									
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径5mm 粒状 1%	砂質 礫					
SKP1329									
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 礫					
SKP1330									
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	炭 φ5mm 1%	砂質 礫				
b2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2~8/2	径2mm 粒状 1%	砂質 礫					
SKP1331									
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/4	径5mm 塊状 1%	砂質 礫					
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/4	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫					
b1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/2	径2mm 塊状 1%	砂質 礫					
SKP1332									
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 礫					
a2 砂壤土	(10YR7/3)	10YR7/2	径2mm 粒状 1%	砂質 礫					
a3 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径mm 粒状 1%	砂質 礫					
SKP1333									
a1 砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/3	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫					
SKP1334									
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/2~8/3	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫					
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/2~8/3	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫					

P1339・SD1322				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径5mm 塊状 1% 砂質 疎 (柱痕)
b1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎 (根固土)
c1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 10% 砂質 疎 (水性堆積層)
SKP1340				
a1	赤黄壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2	径2mm 塊状 1% 砂質 疎
SKP1342				
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎
SKP1345				
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径1mm 粒状 1% 砂質 疎
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
P1346				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2	径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎 (柱痕)
b1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1~7/3	径2~5mm 塊状 5% 砂質 疎 (根固土)
SKP1347				
b1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/2	径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎
b2	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
b3	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP1348				
c1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
P1352				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 1% 砂質 疎 (柱痕)
b1	砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/2~8/2	径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎 (根固土)
P1364				
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/3~7/4	径2~5mm 塊状 5% 砂質 疎 (柱痕)
b1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~7/2	径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎 (根固土)
SKP1368				
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径5mm 粒状 5% 砂質 疎
SKP1369				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP1370				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
a2	砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP1371				
c1	砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/1	径5mm 粒状 5% 砂質 疎
c2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径5mm 粒状 5% 砂質 疎
SK1372				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP1384				
a1	砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP1385				
b1	砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%以下 砂質 疎
SKP1401				
a1	砂壤土	(10YR7/3)	10YR7/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
a2	砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/3	径2mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP1410				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/2	径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/2	径2~10mm 塊状 10% 砂質 疎
SKP1412・SD1407				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/2	径5~10mm 塊状 5% 砂質 疎
b1	砂壤土	(7.5YR6/1)	10YR8/1	径1~5mm 粒状 5% 砂質 疎 (SI1318-SN1 被熱層)
b2	砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/1	径5mm 粒状 5% 砂質 疎
b3	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径5mm 粒状 5% 砂質 疎
b4	砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 1% 砂質 疎
b5	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 5% 砂質 疎
b6	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2mm 粒状 5% 砂質 疎
b7	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径5~10mm 粒状 5% 砂質 疎
b8	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP1417				
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径5~10mm 塊状 10% 砂質 疎
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎
SKP1418				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 5% 砂質 疎
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 1% 砂質 疎
a3	砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1	径2mm 粒状 1% 砂質 疎
a4	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径1~2mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP1422				
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径1mm 粒状 1% 砂質 疎
P1424				
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 1% 砂質 疎 (柱痕)
b1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 10% 砂質 疎 (根固土)



SD1414				SD1414-1421			
a1	(10YR8/2)	壤質砂土	10YR7/2 径5mm 塊状 1%	砂質 礫	10YR8/1 径2~5mm 粒状 5%	砂質 礫	
a2	(10YR8/1)	壤質砂土	10YR7/2 径5mm 塊状 1%	砂質 礫	b1 (10YR7/2)	砂壤土	10YR8/1 径2~5mm 粒状 1%
b1	(10YR6/2)	砂壤土	10YR8/1 径2mm 粒状 1%	砂質 礫			
b2	(10YR7/2)	砂壤土	10YR8/1 径1~2mm 粒状 1%	砂質 礫			
SD1415							
a1	(10YR7/2)	壤質砂土	10YR8/1 径2~5mm 粒状 30%	砂質 礫			
a2	(10YR7/1)	砂壤土	10YR8/1 径2mm 粒状 5%	砂質 礫			

第84図 SD1322号・1407号・1414号・1415号・1421号溝跡平面図

SB1485号建物跡(第85、87図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉SK1486号竪穴状土坑跡、SI1483号工房跡、SI1484号竪穴住居跡と重複し、当遺構はSK1486号より古く、SI1483号、SI1484号より新しい。竪穴を伴う建物跡である。覆土は単層である。柱穴跡は竪穴に沿って3基、これより西側の床面で1基確認する。柱間はP1-2.01m-P2-2.11m-P3である。柱痕はP4のみで確認される。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時代・時期〉SI1484号竪穴住居跡(中世)より新しいことから中世以降と考えられる。

SI1484号竪穴住居跡(第85、87図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉SD1320号溝跡、SI1483号工房跡、SB1485号建物跡、SK1486号竪穴状土坑跡と重複し、当遺構はSD1320号溝跡より新しく、このほか重複するいずれの遺構よりも古い。長軸2.13m、短軸2.08m、深さ0.37m、不整形である。覆土は3層に細別でき、自然堆積と考えられる。柱穴跡は竪穴の隅と中央で合計7基確認される。P1~P3、P6、P7で柱痕を確認する。柱間はP1-1.41m-P2-1.72m-P7-1.55m-P5-1.92m-P1である。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時代・時期〉遺構の形態から中世と考えられる。

SI1483号工房跡(第85、86、87、88図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉SB1481号建物跡、SB1485号建物跡、SI1484号竪穴住居跡、SK1486号竪穴状土坑跡と重複し、当遺構はSI1484号、SB1481号より新しく、SK1486号、SB1485号より古い。覆土は3層に細別できる。柱穴跡は2基確認でき、柱間はP1-1.67m-P2である。柱痕は確認されなかった。

遺構内南側で、鍛冶炉跡を検出する。深さ0.26mの掘り込みとその東側に被熱痕跡のある礫を配置する。礫は鉄砧石で上面中央が赤色に変色する。この鍛冶炉跡はSKP1335号、SB1481号-P1と重複、鍛冶炉跡はSB1481号-P1より新しく、SKP1335号より古い。覆土は2層に大別、さらに4層に細別される。b層、c層ともに使用時の覆土と考えられる。

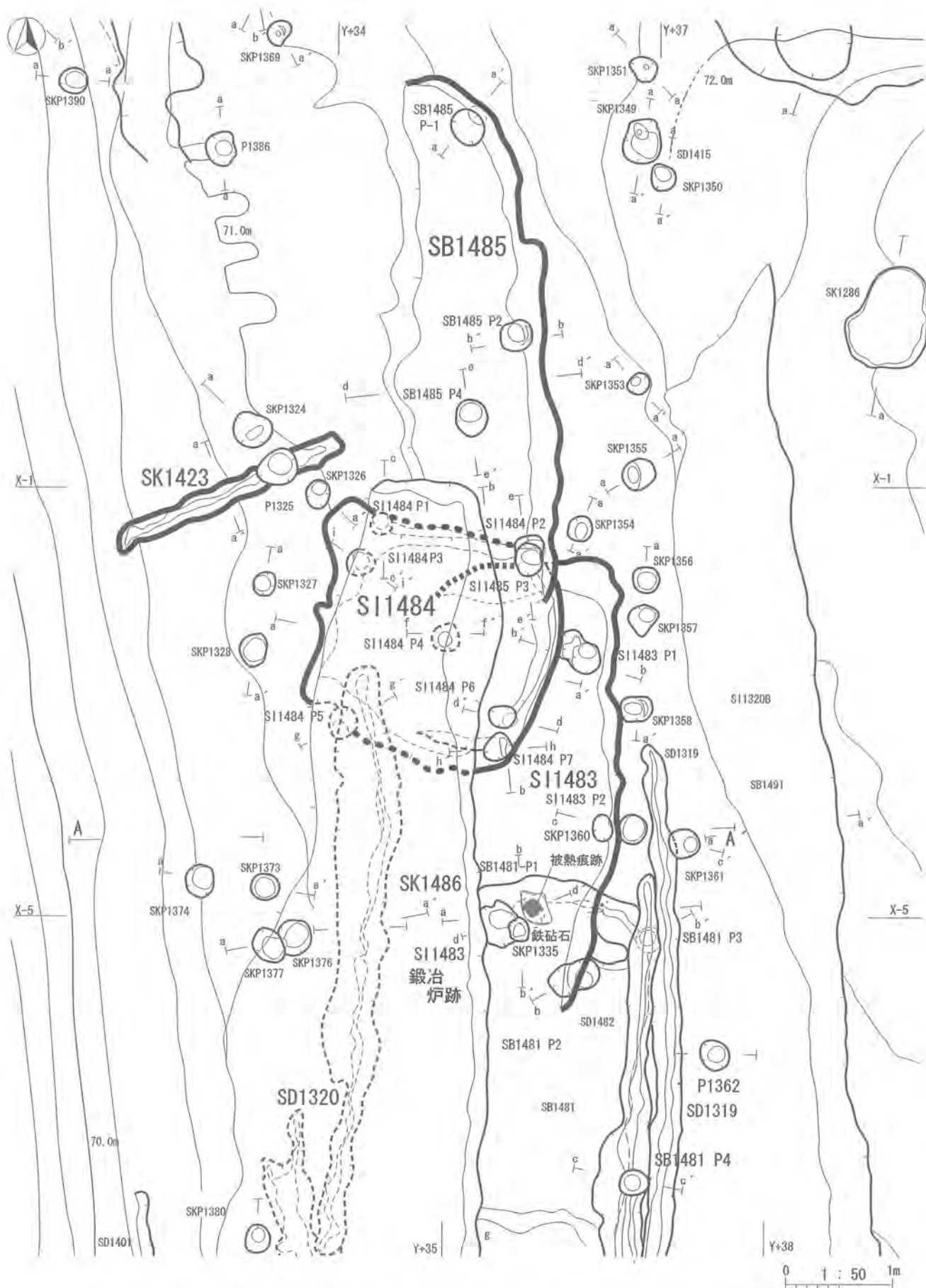
〈出土遺物〉1は鉄砧石である。銭貨片1点(鍛冶炉跡確認面)が出土するも、極小片で銭文不明である。

〈時代・時期〉SI1484号竪穴住居跡(中世)より新しいことから、中世以降と考えられる。鍛冶炉跡については熱残留分析を実施している(後章参照)。

SB1491号建物跡(第89、90図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉竪穴を伴う建物跡と想定される遺構である。覆土は3層に細別できる。この竪穴に係



第85图 SI1483号工房跡・SB1485号建物跡・SI1484号竪穴住居跡・SK1423号土坑跡平面图

る柱穴跡(柱間)は並びでP1357号-2.14m-SKP1361号-2.00m-P1362号-2.15m SKP1363号、SKP1355号-1.00m-SKP1356号-1.23m-SKP1358号-1.14m-SKP1360号が可能性として考えられる。

〈出土遺物〉 出土なし。

〈時代・時期〉 不明。

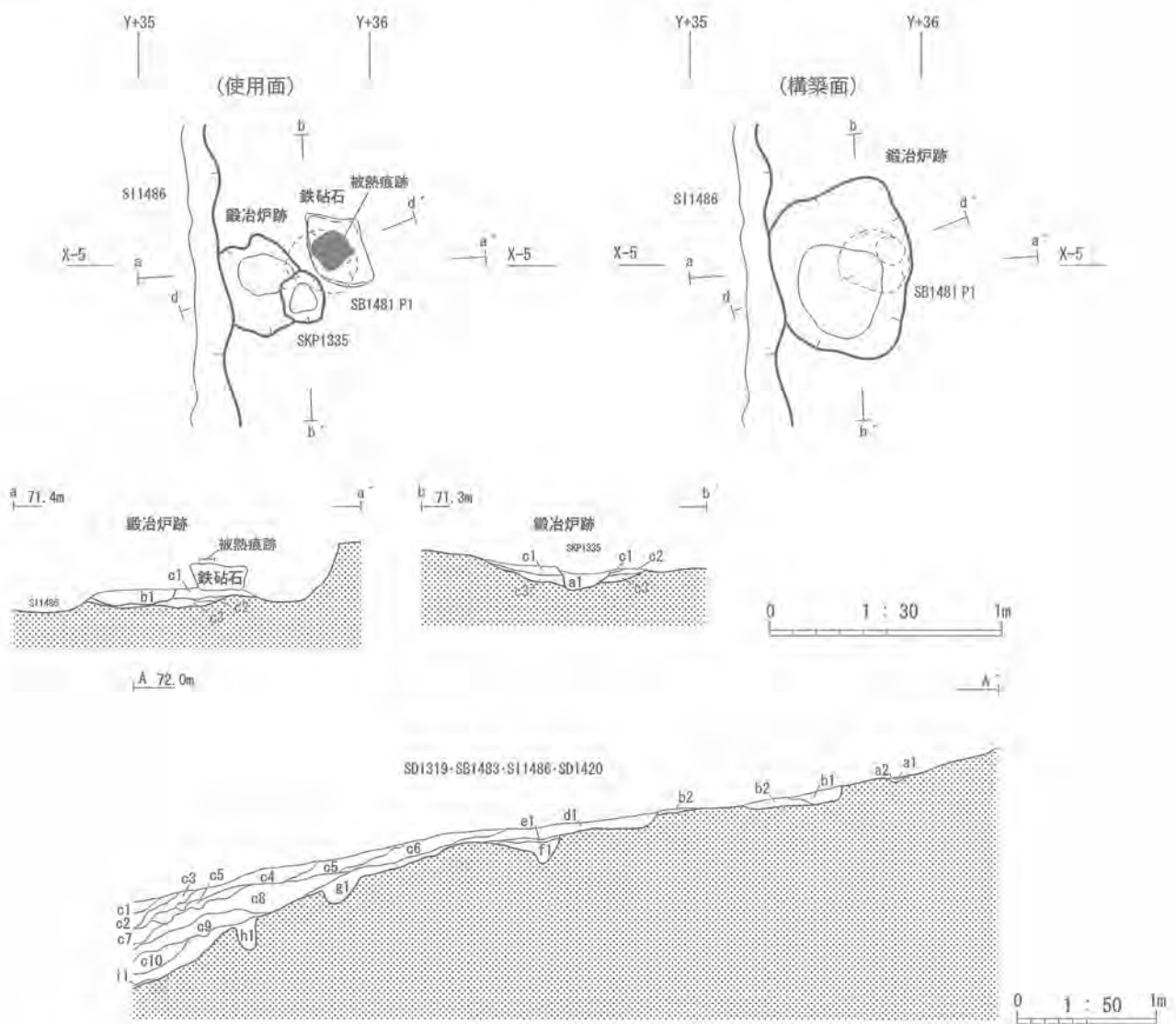
SK1423号土坑跡(第85、87図)

〈検出状況〉 斜面部、地山面で検出する。

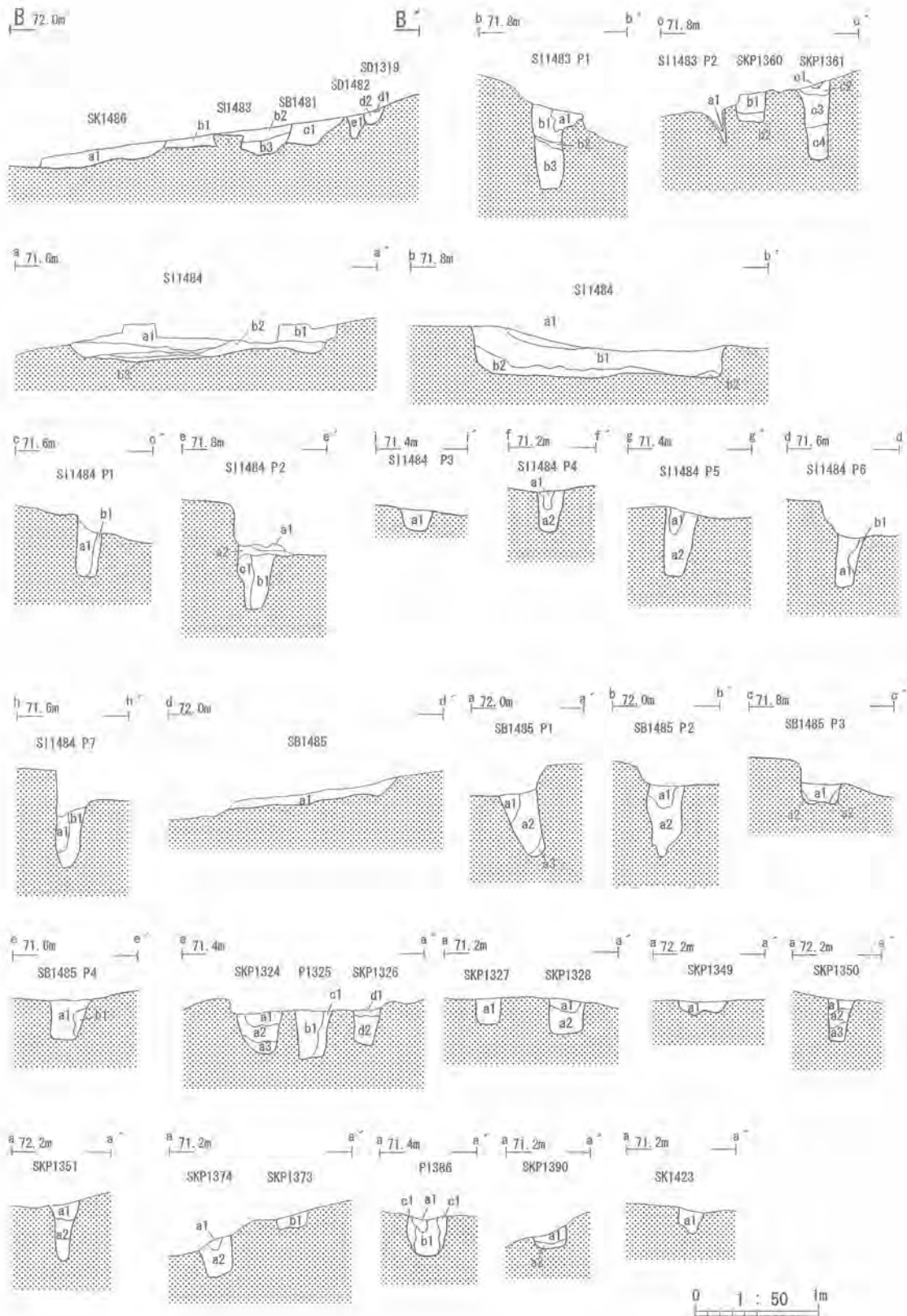
〈規模・形態〉 SKP1325号と重複し、当遺構はSKP1325号より古い。

長さ2.28m、幅0.21m、深さ0.23mの細長い土坑跡である。覆土は単層である。等高線に直交するように築かれている。同様な遺構はSK1406号が確認されている。陥穴跡の可能性が考えられる。

〈出土遺物〉 出土なし。 〈時代・時期〉 不明。

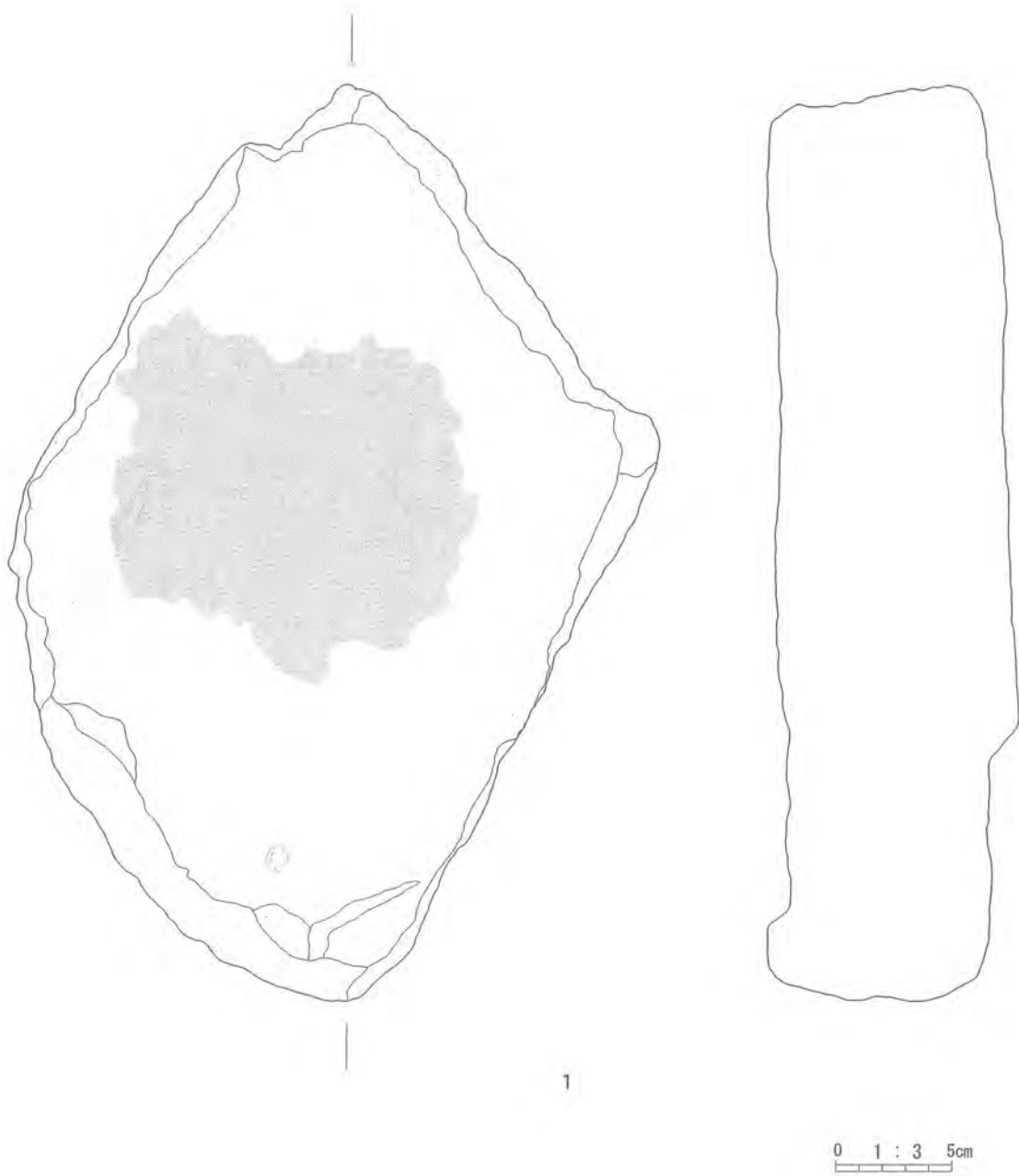


第86図 SB1483号工房跡 鍛冶炉跡平面図・土層断面図(1)

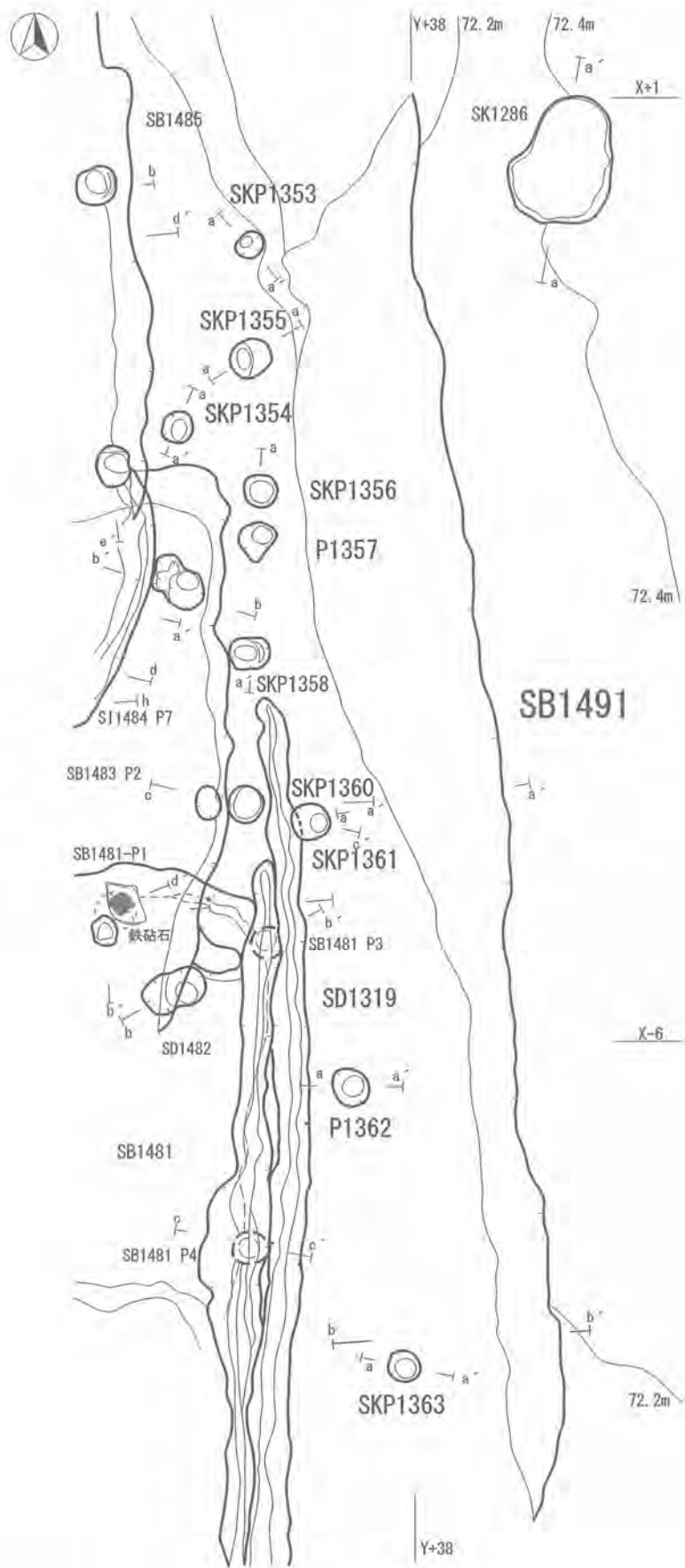


第87图 SI1483号工房跡・SB1485号建物跡・SI1484号竪穴住居跡・SK1423号土坑跡土層断面図(2)

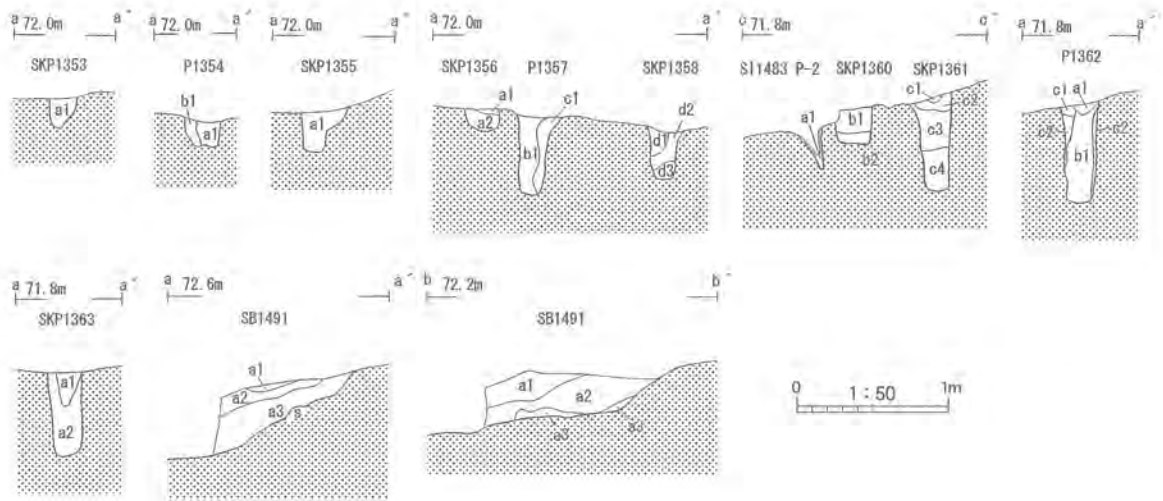
SKP1324					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2~10mm 塊狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~10mm 塊狀 10%	砂質 礫	
a3 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2~10mm 塊狀 5%	砂質 礫	
P1325					
b1 沙質壤壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	やや沙質 礫 (柱痕跡)	
c1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/2	徑2~10mm 塊狀 1%	砂質 礫 (根固土)	
SKP1326					
d1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/2	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
d2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/2~7/3	徑2~10mm 塊狀 5%	砂質 礫	
SKP1327					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR6/1~7/1	徑2~5mm 粒狀 1%	砂質 礫	
SKP1328					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀 5%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2~8/2	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
SKP1349					
a1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	徑2~5mm 粒狀 1%	砂質 礫	
SKP1350					
a1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/2~8/3	徑2~5mm 粒狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/2~8/1	徑2~5mm 粒狀 1%	砂質 礫	
a3 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~10mm 塊狀 1%	砂質 礫	
SKP1351					
a1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/2~8/3	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
SKP1374・1373					
a1 砂壤土	(10YR5/1)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR6/1	徑5~10mm 塊狀 1%	砂質 礫	
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
P1386					
a1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
b1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1~7/2	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (柱痕跡)	
c1 砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1	徑5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (根固土)	
SKP1390					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
SK1423					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	徑2~10mm 粒狀 5%	砂質 礫	
SB1483 鑛冶炉跡-SKP1335					
a1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑2~10mm 塊狀 1%	砂質 礫	
b1 沙質壤壤土	(7.5YR6/3)	7.5YR6/3~6/4	徑2~5mm 塊狀 1%	炭 徑5~10mm 1% 沙質 礫	
c1 沙質壤壤土	(7.5YR5/2)	10YR7/2~8/2	徑2~5mm 塊狀 5%	炭 徑5~10mm 1% やや沙質 礫	
c2 砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/1	徑1~2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
c3 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑1~2mm 粒狀 10%	砂質 礫	
SB1483 P1					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/2	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
b1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	徑2~10mm 塊狀 5%	砂質 礫	
b2 砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/2	徑2mm 塊狀 1%	砂質 礫	
b3 砂壤土	(10YR8/2)	10YR6/1	徑5~10mm 塊狀 5%	砂質 礫	
SB1483 P2					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
SI1484					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	徑2~5mm 粒狀 1%	砂質 礫	
b1 砂壤土	(10YR5/1)	10YR8/1~8/2	徑5mm 粒狀 1%	砂質 礫	
b2 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/2~7/3	徑2~10mm 塊狀 1%	砂質 やや密	
b3 砂壤土	(10YR5/1)	10YR8/2	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
SI1484 P1					
a1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR7/2~7/3	徑2~5mm 塊狀 5%	砂質 礫 (柱痕)	
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR6/1	徑2~5mm 塊狀 5%	砂質 礫 (根固土)	
SI148 P2					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/3	徑2~30mm 塊狀 10%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/2~7/3	徑2~10mm 塊狀 1%	砂質 やや密	
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	徑2~10mm 塊狀 5%	砂質 礫 (柱痕)	
c1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (根固土)	
SI1484 P3					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑5mm 塊狀 1%以下	砂質 礫	
SI1484 P4					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/3~7/4	徑2~10mm 塊狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/3~7/4	徑2~10mm 塊狀 5%	砂質 礫	
SI1484 P5					
a1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR7/2~7/3	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR6/1~7/1	徑2~10mm 塊狀 10%	砂質 礫	
SI1484 P6					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2	徑5~10mm 塊狀 10%	砂質 礫 (柱痕)	
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	徑5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (根固土)	
SI1484 P7					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/2	徑5~10mm 塊狀 5%	砂質 礫 (柱痕)	
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/2	徑5~10mm 塊狀 3%	砂質 礫 (根固土)	
SB1485 P1					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2	徑2~5mm 粒狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/2	徑2~5mm 粒狀 1%	砂質 礫	
a3 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/3	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
SB1485 P2					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 5%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	徑2~10mm 塊狀 10%	砂質 礫	
SB1485 P3					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR6/1	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/3)	10YR6/1	徑2~5mm 塊狀 5%	砂質 礫	
SB1485					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
SB1485 P4					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/2	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫 (柱痕)	
b1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	徑2~5mm 粒狀 5%	砂質 礫 (根固土)	
SD1319B1483-SK1486-SD1320 (A-A)					
a1 壤質砂土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑2mm 塊狀 1% 炭 徑2~5mm 5%	砂質 礫 (SD1319号壤土)	
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1% 炭 徑2~5mm 1%	砂質 礫 (SD1319号壤土)	
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~7/1	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫 (SD1483号壤土)	
b2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2mm 塊狀 1%	砂質 礫 (SD1483号壤土)	
c1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/2	徑5mm 塊狀 5%	砂質 礫	
c2 砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
c3 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1~8/2	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
c4 壤質砂土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫	
c5 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
c6 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
c7 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑10~30mm 塊狀 5%	砂質 礫	
c8 壤質砂土	(10YR7/2)	10YR6/1~7/1	徑5~10mm 塊狀 1%	砂質 礫	
c9 壤質砂土	(10YR8/2)	10YR8/1~8/2	徑5~10mm 塊狀 5%	砂質 礫	
c10 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 粒狀 5%	砂質 礫	
d1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (SD1486号壤土)	
e1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1~7/1	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (SD1320号壤土)	
f1 壤質砂土	(10YR7/2)	10YR8/1	徑5~10mm 塊狀 1%	砂質 礫 (SD1320号壤土)	
g1 壤質砂土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
h1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~7/2	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
i1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫	
SK1486-SI1483-SB1481-SD1482-SD1319 (B-B)					
a1 壤質砂土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑3mm 塊狀 1% 炭 徑2~5mm 5%	砂質 礫 (SK1486号壤土)	
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1% 炭 徑2~5mm 1%	砂質 礫 (SK1483号壤土)	
b2 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (SD1483号壤土)	
b3 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2mm 粒狀 1%	砂質 礫 (SD1483号壤土)	
c1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (SD1481号壤土)	
d1 壤質砂土	(10YR8/1)	10YR8/1	徑3mm 塊狀 1% 炭 徑2~5mm 5%	砂質 礫 (SD1319号壤土)	
d2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2~5mm 塊狀 1%	砂質 礫 (SD1319号壤土)	
e1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑2mm 粒狀 (SD1482号壤土)		



第88図 SI1483号工房跡出土遺物



第89図 SB1491号建物跡平面図



SKP1353					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2~10mm 塊状 1%	砂質 礫	
P1354					
a1 砂質堆積土	(10YR7/1)	10YR7/2~7/3	径2~5mm 塊状 1%	やや砂質 礫 (柱痕)	
b1 砂壤土	(10YR7/3)	10YR6/1~7/1	径2~10mm 塊状 3%	砂質 礫 (根固土)	
SKP1355					
a1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/3~7/4	径5~10mm 塊状 5%	砂質 礫	
SKP1356					
a1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/3~7/4	径2~10mm 塊状 1%	砂質 礫	
P1357					
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 1%	砂質 礫 (柱痕)	
c1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/2~8/3	径2~5mm 粒状 1%	砂質 礫 (根固土)	
SKP1358					
d1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1	径5mm 塊状 1%	砂質 礫	
d2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 1%	砂質 礫	
d3 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/3~8/3	径2mm 粒状 1%	砂質 礫	
SKP1360					
b1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	径5~10mm 塊状 5%	砂質 礫	
b2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/3~7/4	径2~5mm 粒状 1%	砂質 礫	
SKP1361					
c1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 礫	
c2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径1~2mm 粒状 1%	砂質 礫	
c3 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径5~20mm 塊状 5%	砂質 礫	
c4 砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1~8/2	径5~10mm 塊状 1%	砂質 礫	
P1362					
a1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/2	径2mm 粒状 1%	砂質 礫	
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫 (柱痕)	
c1 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~7/2	径2mm 粒状 1%	砂質 礫 (根固土)	
c2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 礫 (根固土)	
SKP1363					
a1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1	径2~5mm 塊状 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径5~10mm 塊状 1%	砂質 礫	
SB1491					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 礫	
a2 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/2	径2mm 粒状 1%	砂質 礫	
a3 砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 5%	砂質 礫	

第90図 SB1491号建物跡土層断面図

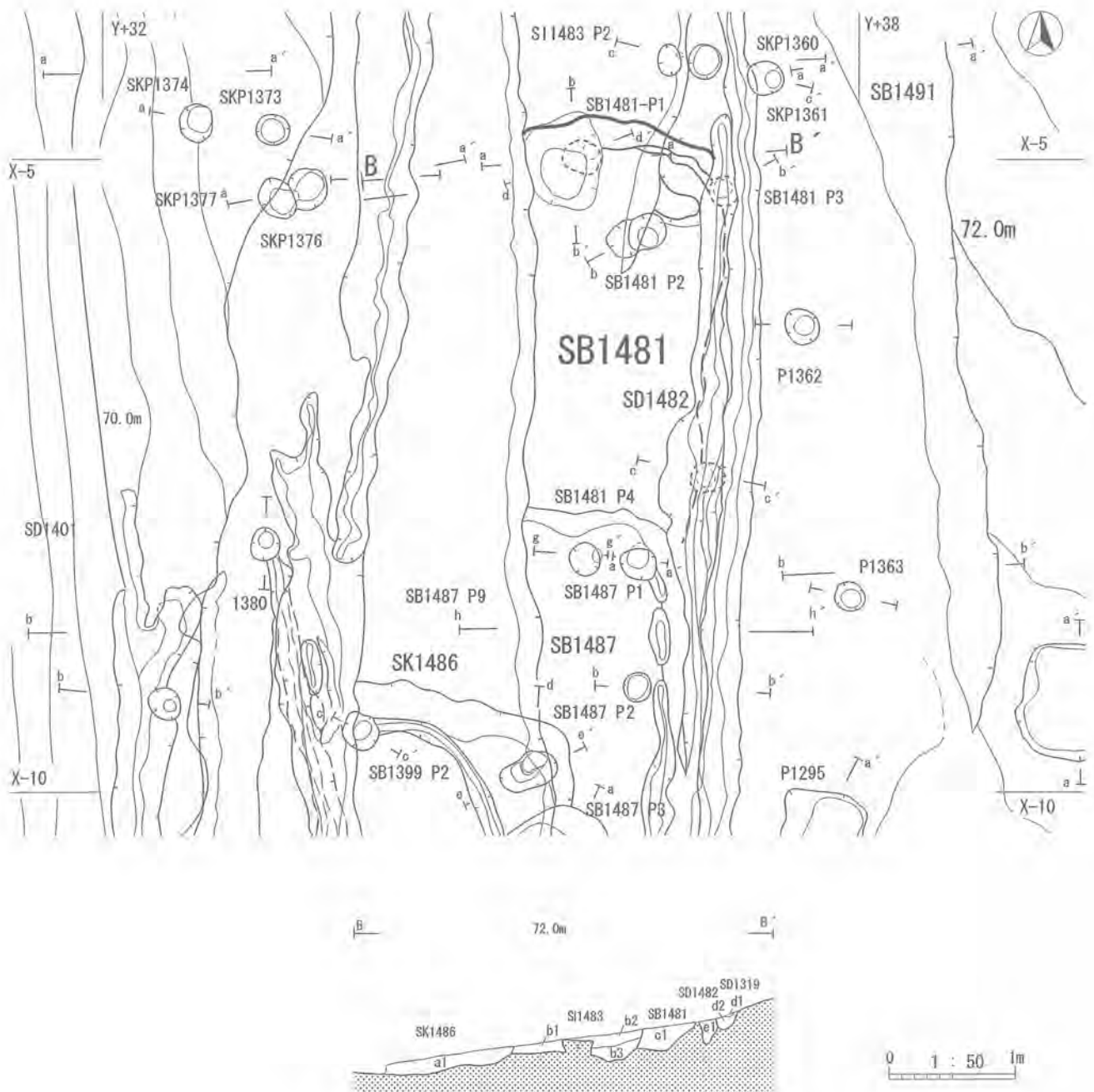
SB1481号建物跡 (第91、92図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

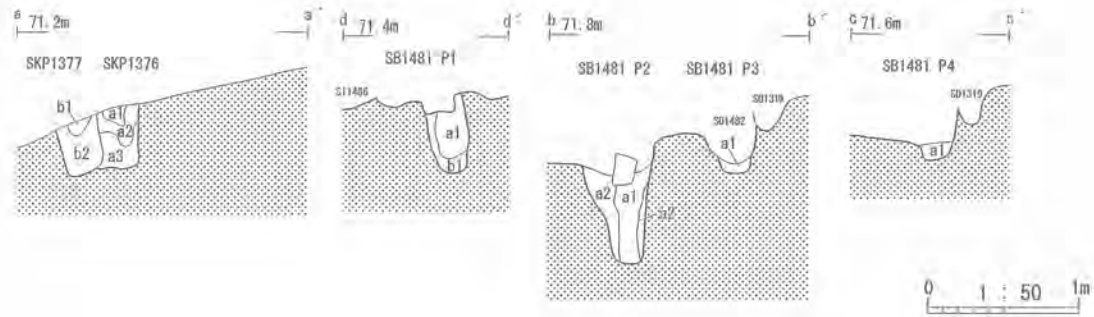
〈規模・形態〉竪穴を伴う掘立柱建物跡と考えられる。SD1482号溝跡、SB1483号工房跡、SK1486号竪穴状土坑跡、SB1487号建物跡と重複し、当遺構はいずれの遺構よりも古い。覆土は単層である。遺構北東側に一部高まりがある。柱穴跡を4基伴う。P1、P2において柱痕を確認する。柱間はP1-1.17m-P3-2.29m-P4である。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時代・時期〉SB1483号工房跡(中世)より古いことから、おおむね中世かそれ以前と考えられる。



第91図 SB1481号建物跡平面図・土層断面図(1)



SKP1376							
a1	砂壤土 (10YR6/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状	1%	砂質 礫		
a2	砂壤土 (10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状	5%	砂質 礫		
a3	砂壤土 (10YR6/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状	5%	砂質 礫		
SKP1377							
b1	砂壤土 (10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状	1%	砂質 礫		
b2	砂壤土 (10YR8/1)	10YR7/1	径5mm 塊状	1%	砂質 礫		
SB1481 P1							
a1	砂壤土 (10YR6/1)	10YR8/1	径1~2mm 粒状	1%	砂質 礫 (柱痕)		
b1	砂壤土 (10YR7/2)	10YR8/1	径2~5mm 粒状	5%	砂質 礫 (根固土)		
SB1481 P2							
a1	砂壤土 (10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状	5%	砂質 礫 (柱痕跡)		
a2	砂壤土 (10YR8/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状	10%	砂質 礫 (根固土)		
SB1481 P3							
a1	砂壤土 (10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状	1%	砂質 礫		
SB1481 P4							
a1	砂壤土 (10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状	1%	砂質 礫		
SK1486・SI1483・SB1481・SD1482・SD1319							
a1	填質砂土 (10YR8/1)	10YR7/1	径2mm 粒状	1%	礫 径2~5mm 5%	砂質 礫 (SK1486号覆土)	
b1	砂壤土 (10YR7/1)	10YR8/1	径2~5mm 塊状	1%	礫 径2~5mm 1%	砂質 礫 (SI1483号覆土)	
b2	砂壤土 (10YR8/1)	10YR7/1	径5mm 塊状	1%	砂質 礫	(SI1483号覆土)	
b3	砂壤土 (10YR7/1)	10YR8/1	径2mm 粒状	1%	砂質 礫	(SI1483号覆土)	
c1	砂壤土 (10YR7/2)	10YR8/1	径2~5mm 塊状	1%	砂質 礫	(SB1481号覆土)	
d1	填質砂土 (10YR8/1)	10YR7/1	径2mm 粒状	1%	礫 径2~5mm 5%	砂質 礫 (SD1319号覆土)	
d2	砂壤土 (10YR7/1)	10YR8/1	径2~5mm 塊状	1%	礫 径2~5mm 1%	砂質 礫 (SD1319号覆土)	
e1	砂壤土 (10YR8/1)	10YR7/1	径2mm 粒状	1%	砂質 礫	(SD1482号覆土)	

第92図 SB1481号建物跡土層断面図(2)

SB1487号建物跡(第93、94図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、覆土中で検出する。

〈規模・形態〉 竪穴を伴う掘立柱建物跡と考えられる。SD1320号、1482号溝跡、SK1486号竪穴状土坑跡、SB1481号建物跡、SK1391号土坑跡、SB1399号建物跡と重複し、当遺構はSD1320号、1482号、SK1486号より古く、SB1481号、SK1391号、SB1399号より新しい。覆土は4層に細別できる。床面では周溝と9基の柱穴跡を確認する。柱痕はP1～P3、P6、P9で確認する。柱間はP1-1.00m-P2-1.52m-P3-2.71-P5-3.03m-P8である。

〈出土遺物〉 出土なし。

〈時代・時期〉 重複するSB1481号建物跡(中世)より新しく、おおむね中世かそれ以降と考えられる。

SB1399号建物跡(第93、94、95図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、覆土中で検出する。

〈規模・形態〉 竪穴を伴う掘立柱建物跡と考えられる。SK1486号竪穴状土坑跡、1391号、1406号土坑跡、SB1487号建物跡、SD1320、1408号溝跡と重複し、当遺構はSK1406号、SD1408号より新しく、SK1486号、1391号、SB1487号、SD1320号より古い。覆土は5層に細別できる。床面で周溝状の浅い溝と雨列と見られる浅い溝を確認する。柱穴跡は10基確認される。柱痕はP1、P3、P6、P9、P10で確認する。柱間はP1-1.56m-P2-1.39m-P3-2.30m-P6-2.45m-P10-2.10m-P7、P1-2.47m-P4である。

〈出土遺物〉 近世磁器碗1点(確認面)、無文銭1点(覆土上位中)が出土する。

〈時代・時期〉 重複するSB1487号竪穴住居跡(中世)より古いことから、これより古い時期の遺構と考えられる。

SK1391号土坑跡(第93、94図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、覆土中で検出する。

〈規模・形態〉 SB1487号竪穴住居跡、SB1399号竪穴住居跡、SK1486号土坑跡と重複し、SB1399号より新しく、SB1487号、SK1486号より古い。長軸1.37m、単軸1.15m、深さ0.55m、不整円形である。覆土は7層に細別でき、層中に塊状土が多く含まれることから人為堆積と考えられる。

〈出土遺物〉 出土なし。

〈時代・時期〉 重複するSB1487号竪穴住居跡(中世以降)より古いことからおおむね中世かそれ以前と考えられる。

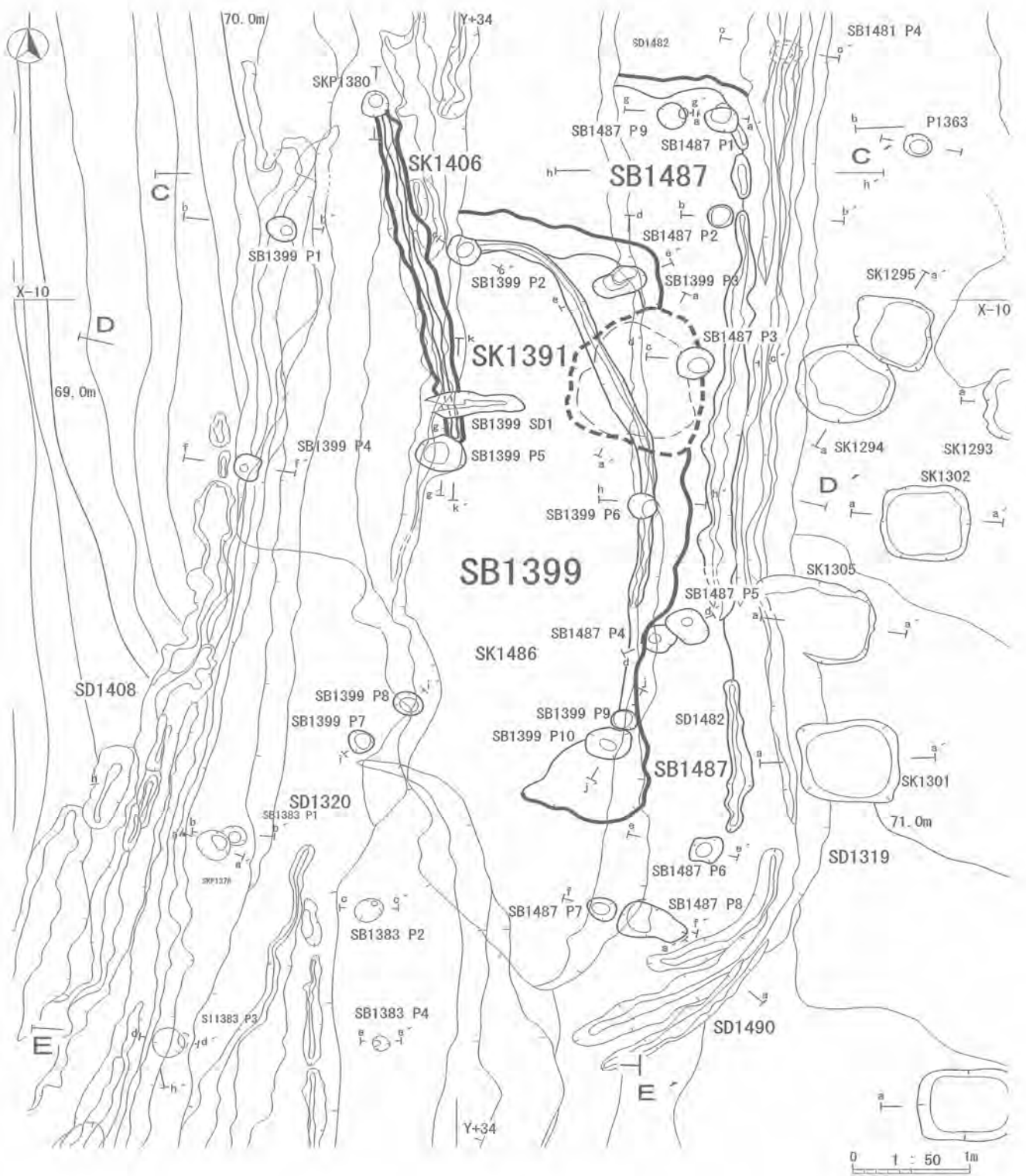
SK1406号土坑跡(第93、94図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉 SD1320号溝跡、SB1399号竪穴住居跡と重複し、当遺構は両遺構より古い。覆土は単層である。短軸0.22m、深さ0.34m、細長い形態の土坑である。同様な遺構として、SK1406号北側約8mの地点でSK1423号が検出されている。陥穴跡の可能性が考えられる。

〈出土遺物〉 出土なし。

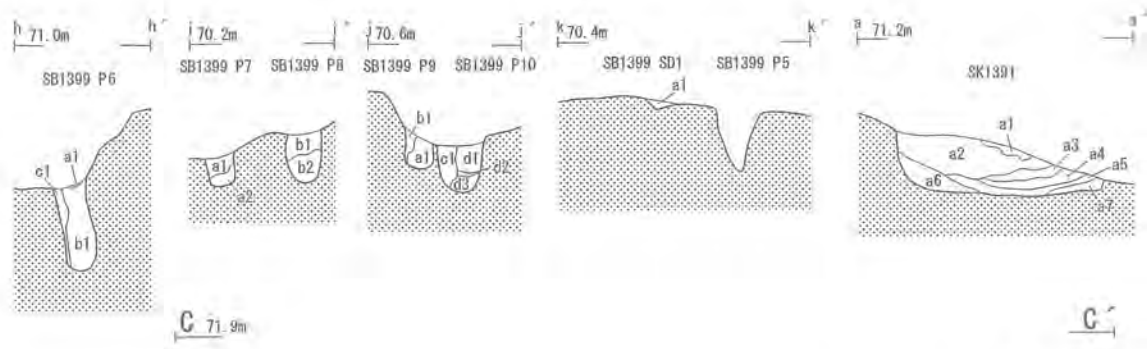
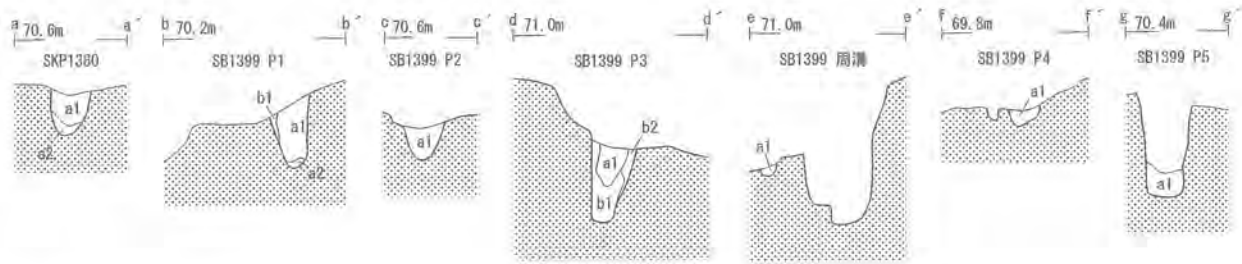
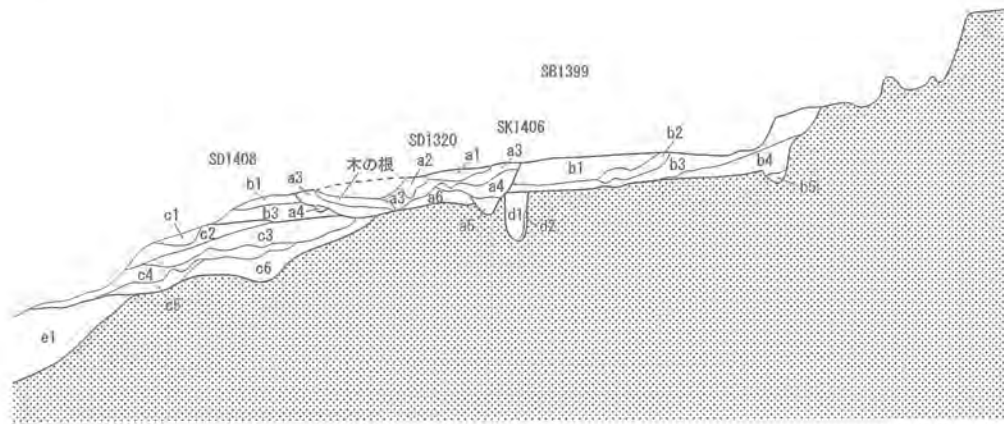
〈時代・時期〉 不明。



第93图 SB1487号·1399号建物跡·SK1391号·1406号土坑跡平面图

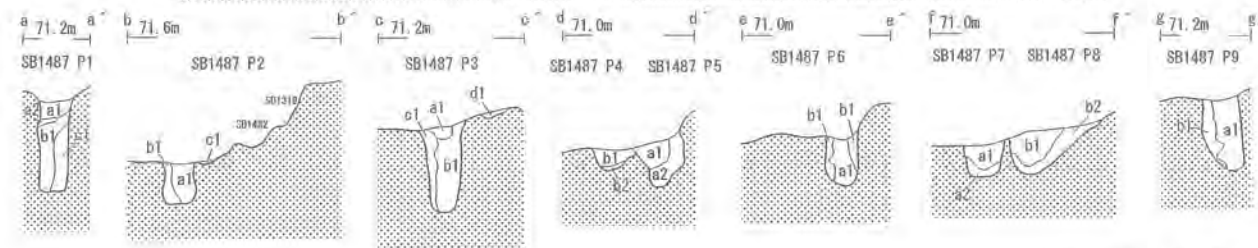
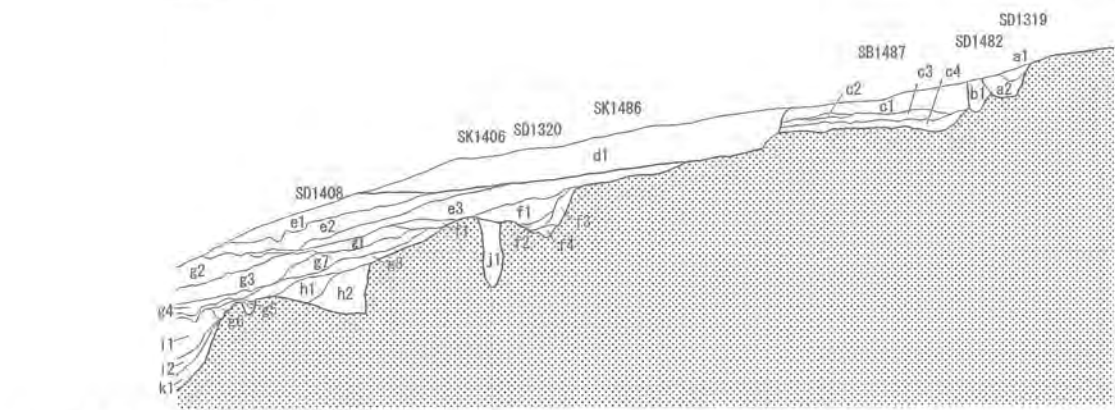
0 71.6m

0



0 71.9m

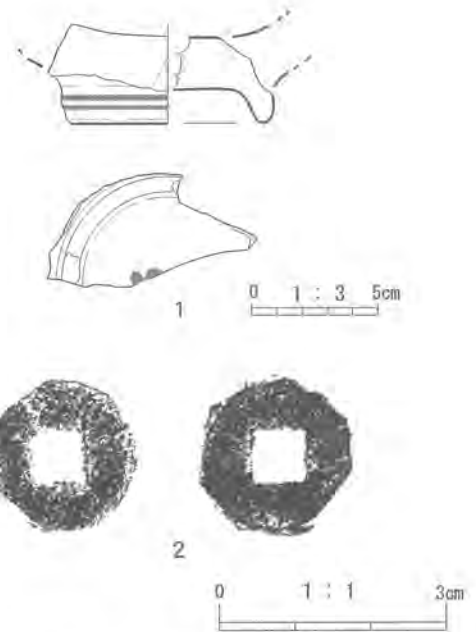
0



0 1 50 1m

第94図 SB1487号・1399号建物跡・SK1391号・1406号土坑跡土層断面図

- SKP1380
- a1 砂壤土 (10YR7/3) 10YR8/1~8/2 径2~10mm 塊状 1% 砂質 礫
- a2 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1~8/2 径2~10mm 塊状 1% 砂質 礫
- SK1391
- a1 砂壤土 (10YR8/2) 10YR7/1~7/2 径2~10mm 粒状 30% 砂質 礫
- a2 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1~8/2 径2~10mm 塊状 20% 砂質 礫
- a3 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1~8/2 径2~10mm 塊状 10% 砂質 礫
- a4 砂壤土 (10YR8/2) 10YR7/1~7/2 径2~10mm 塊状 10% 砂質 礫
- a5 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1~8/2 径2~10mm 塊状 10% 砂質 礫
- a6 砂壤土 (10YR6/1) 10YR8/1~8/2 径2mm 粒状 1% 砂質 礫
- a7 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1~8/2 径2~5mm 塊状 1% 砂質 礫
- SB1399 P1
- a1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/2 径2~10mm 塊状 5% 砂質 礫 (柱痕)
- a2 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/2 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (柱痕)
- b1 砂壤土 (10YR8/2) 10YR7/1 径1mm 粒状 1% 砂質 礫 (根固土)
- SB1399 P2
- a1 砂壤土 (10YR7/2) 10YR7/1~8/1 径2~10mm 塊状 10% 砂質 礫
- SB1399 P3
- a1 砂壤土 (10YR6/1) 10YR8/2 径5~10mm 塊状 1% 砂質 礫 (柱痕)
- b1 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1~8/2 径2~5mm 粒状 10% 砂質 礫 (根固土)
- b2 砂壤土 (10YR8/2) 10YR7/1~8/1 径2~5mm 粒状 1% 砂質 礫 (根固土)
- SB1399 周溝状溝
- a1 砂壤土 (10YR6/1) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫
- SB1399 P4
- a1 砂壤土 (10YR8/2) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫
- SB1399 P5
- a1 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2~5mm 粒状 5% 砂質 礫
- SB1399 P6
- a1 砂壤土 (10YR8/3) 10YR8/1 径1mm 粒状 1%以下 砂質 礫
- b1 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2~5mm 粒状 1% 砂質 礫 (柱痕)
- c1 砂壤土 (10YR8/2) 10YR8/1 径2~5mm 粒状 5% 砂質 礫 (根固土)
- SB1399 P7-P8
- a1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1~8/2 径2mm 粒状 1% 砂質 礫
- a2 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2~5mm 粒状 1% 砂質 礫
- b1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1~8/2 径2mm 粒状 1% 砂質 礫
- b2 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1~8/2 径2mm 粒状 1% 砂質 礫
- SB1399 P9-P10
- a1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (柱痕)
- b1 砂壤土 (10YR8/1) 10YR7/1 径5mm 塊状 1% 砂質 礫 (根固土)
- c1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1 径2~5mm 塊状 5% 砂質 礫 (柱痕)
- d1 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/2 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (根固土)
- d2 壤質砂土 (10YR8/2) 10YR7/2 径1mm 粒状 1% 砂質 礫 (根固土)
- d3 砂壤土 (10YR8/1) 10YR7/1 径2~5mm 塊状 1% 砂質 礫 (根固土)
- SB1399 SD1
- a1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫
- SK1406-SD1408-SB1399-SD1320 (D-D')
- a1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SD1320号覆土)
- a2 壤質砂土 (10YR8/1) 10YR8/1~8/2 径2~5mm 粒状 30% 砂質 礫 (SD1320号覆土)
- a3 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SD1320号覆土)
- a4 壤質砂土 (10YR8/2) 10YR7/1~8/2 径2~5mm 粒状~塊状 30% 砂質 礫 (SD1320号覆土)
- a5 壤質砂土 (10YR8/1) 10YR7/1~8/2 径2~5mm 粒状~塊状 50% 砂質 礫 (SD1320号覆土)
- a6 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SD1320号覆土)
- b1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SB1399号覆土)
- b2 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1~8/2 径2~10mm 塊状 10% 砂質 礫 (SB1399号覆土)
- b3 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1~8/2 径2~10mm 粒状~塊状 10% 砂質 礫 (SB1399号覆土)
- b4 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SB1399号覆土)
- b5 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2~5mm 粒状 1% 砂質 礫 (SB1399号覆土)
- c1 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SD1408号覆土)
- c2 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/2 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SD1408号覆土)
- c3 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1 径2mm 粒状 5% 砂質 礫 (SD1408号覆土)
- c4 砂壤土 (10YR6/1) 10YR8/1 径2~5mm 粒状 1% 砂質 礫 (SD1408号覆土)
- c5 壤質砂土 (10YR7/2) 10YR8/1~8/2 径2~10mm 粒状 50% 砂質 礫 (SD1408号覆土)
- c6 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SD1408号覆土)
- d1 砂壤土 (10YR7/2) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SK1406号覆土)
- d2 砂壤土 (10YR7/1) 10YR8/1 径2mm 粒状 1% 砂質 礫 (SK1406号覆土)
- e1 砂壤土 (10YR7/4) 10YR8/1~8/2 径5~50mm 塊状 5% 砂質 礫 (地山漸移層)



第95図 SB1399号出土遺物

No.	出土遺構	出土位置		銭文		外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	重量 (g)	初鑄年代
		層位		面	背						
2	SB1399	覆土上位		無文銭	無背	19.2~20.0	6.1~6.4	0.6	—	0.7	不明

SB1487 P1						
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/3	徑2~5mm 塊狀	1%	砂質 礫
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/3	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫
b1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/3	徑2~5mm 塊狀	1%	砂質 礫 (柱痕)
c1	砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫 (根固土)
SB1487 P2						
a1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2~8/2	徑2~5mm 塊狀	1%	砂質 礫 (柱痕跡)
b1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/3	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫 (根固土)
c1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫 (SB1487周溝埋土)
SB1487 P3						
a1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫
b1	砂質堆積土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀	1%	砂質 礫 (柱痕跡)
c1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫 (根固土)
d1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫 (SB1487周溝埋土)
SB1487 P4-P5						
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀	5%	砂質 礫
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀	5%	砂質 礫
b1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2mm 粒狀	5%	砂質 礫
b2	砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1~8/2	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫
SB1487 P6						
a1	砂質堆積土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫 (柱痕)
b1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 粒狀	5%	砂質 礫 (根固土)
SB1487 P7						
a1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫
a2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫
SB1487 P8						
b1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑2~10mm 塊狀	1%	砂質 礫
b2	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫
SB1487 P9						
a1	砂壤土	(10YR6/1)	10YR7/2~8/2	徑2~30mm 塊狀	10%	砂質 礫 (柱痕)
b1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR6/1~6/2	徑2~10mm 塊狀	5%	砂質 礫 (根固土)
SD1319-SD1482-SB1487-SK1486-SK1406-SD1320-1408 (C-C')						
a1	砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/2	徑5mm 塊狀	5%	砂質 礫 (SD1319号覆土)
a2	砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫 (SD1319号覆土)
b1	砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫 (SD1482号覆土)
c1	砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/2	徑2~5mm 粒狀	10%	礫 徑2~5mm 10% 砂質 礫 (SB1487号覆土)
c2	砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/2	徑2mm 粒狀	5%	礫 徑2~5mm 10% 砂質 礫 (SB1487号覆土)
c3	砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/2	徑2mm 粒狀	5%	礫 徑2~5mm 10% 砂質 礫 (SB1487号覆土)
c4	砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1	徑2~10mm 塊狀	10%	礫 徑2~5mm 10% 砂質 礫 (SB1487号覆土)
d1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	徑5mm 塊狀	1%	砂質 礫 (SK1486号覆土)
e1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀	1%	砂質 礫
e2	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀	5%	砂質 礫
e3	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫
f1	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2~10mm 粒狀~塊狀	5%	砂質 礫 (SD1320号覆土)
f2	壤質砂土	(10YR8/2)	10YR7/1	徑2~5mm 塊狀	1%	砂質 礫 (SD1320号覆土)
f3	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 塊狀	1%	砂質 礫 (SD1320号覆土)
f4	壤質砂土	(10YR8/2)	10YR7/1~7/2	徑2mm 塊狀	1%	砂質 礫 (SD1320号覆土)
g1	砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	徑2~5mm 粒狀~塊狀	5%	砂質 礫
g2	壤質砂土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	徑2~10mm 粒狀~塊狀	30%	砂質 礫
g3	砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	徑2~10mm 塊狀	10%	砂質 礫
g4	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑2~5mm 粒狀	5%	砂質 礫
g5	砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/1	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫
g6	壤質砂土	(10YR8/2)	10YR7/1	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫
g7	砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/1	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫
g8	砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫
h1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	徑~10mm 塊狀	5%	砂質 礫 (SD1408号覆土)
h2	砂壤土	(10YR8/2)	10YR8/1	徑2mm 粒狀	1%以下	砂質 礫 (SD1408号覆土)
i1	砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1	徑2mm 粒狀	1%	砂質 礫
i2	砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1~8/1	徑2~10mm 粒狀~塊狀	10%	砂質 礫
j1	砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	徑2~5mm 粒狀	1%	砂質 礫 (SK1406覆土)
k1	砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1~8/2	徑2~10mm 粒狀~塊狀	5%	砂質 礫 (地山漸移層)

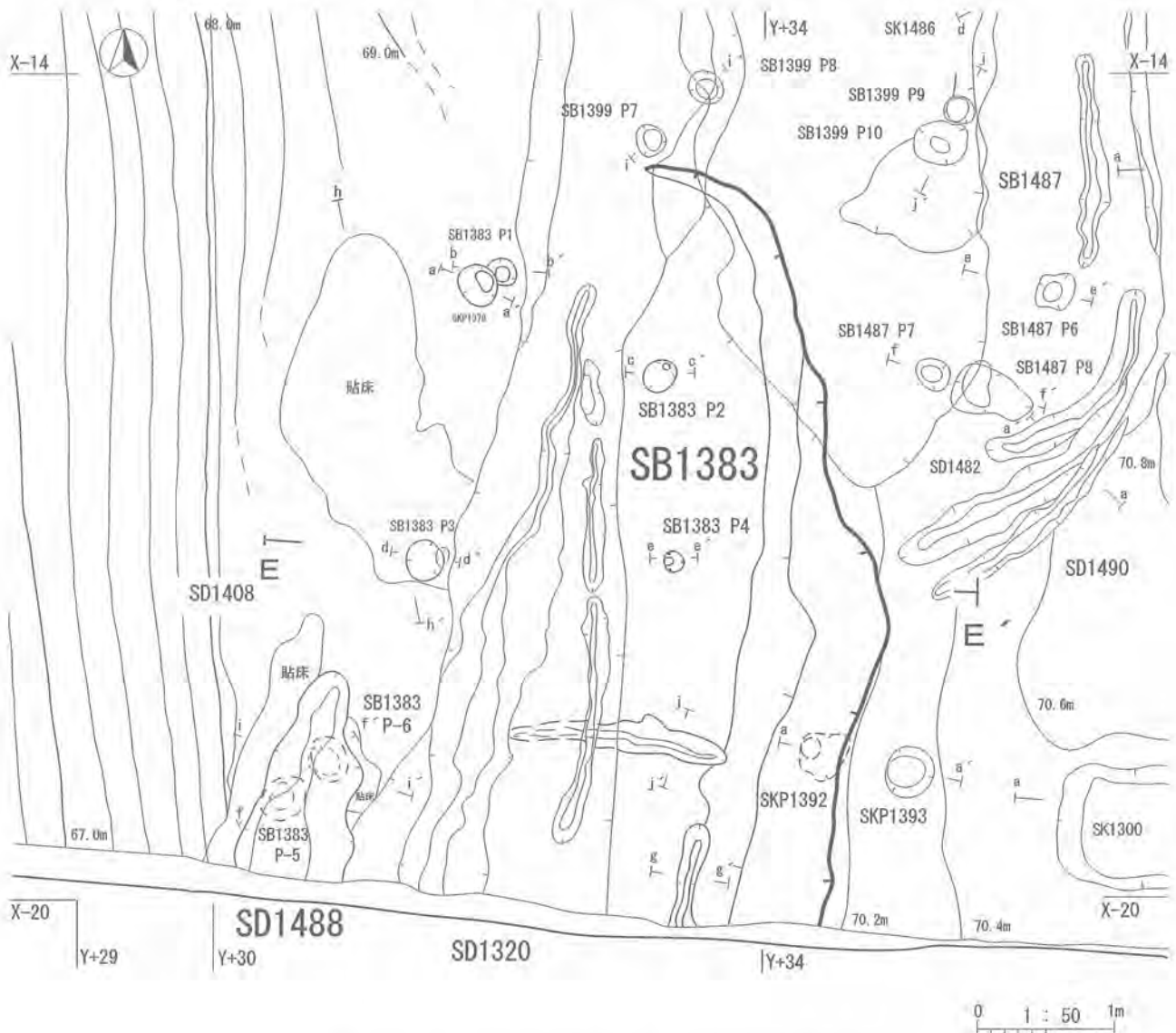
SB1383号建物跡(第96、97、98、99図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、覆土中で検出する。

〈規模・形態〉竪穴を伴う建物跡と考えられる。調査区の南端部で検出し、遺構はさらに調査区外に続くものと考えられる。遺構西側は急斜面となる。SD1408号、1320号、1488号溝跡、SK1486号竪穴状土坑跡と重複し、当遺構はSD1408号より新しく、SD1320号、SK1486号、SD1488号より古い。また、直接は重複していないが、SB1399号建物跡に係る覆土を掘り込こんで築かれていることから、当遺構はSB1399号よりも新しいものと考えられる。覆土は2層に大別でき、さらに8層に細別される。b層は竪穴覆土、d層は貼床土と考えられる。遺構西側で貼床を、床面の南端で周溝状の落ち込みを確認する。柱穴跡は6基確認し、そのうち、P2、P3とした柱穴跡はP1、P3、P5、P6とした柱穴跡よりも掘り方、深さともに小規模である。貼床の下位はSD1408号溝跡となっており、ここから建物跡に伴う遺構は確認されなかった。

〈出土遺物〉鉄製品 2点(いずれも覆土下位)。

〈時代・時期〉SB1399号建物跡(中世以前)より新しいことから、中世以降と考えられる。



第96図 SB1383号建物跡・SD1488号溝跡平面図(1)

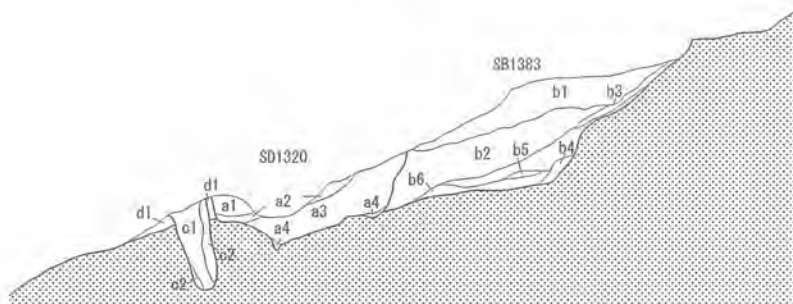
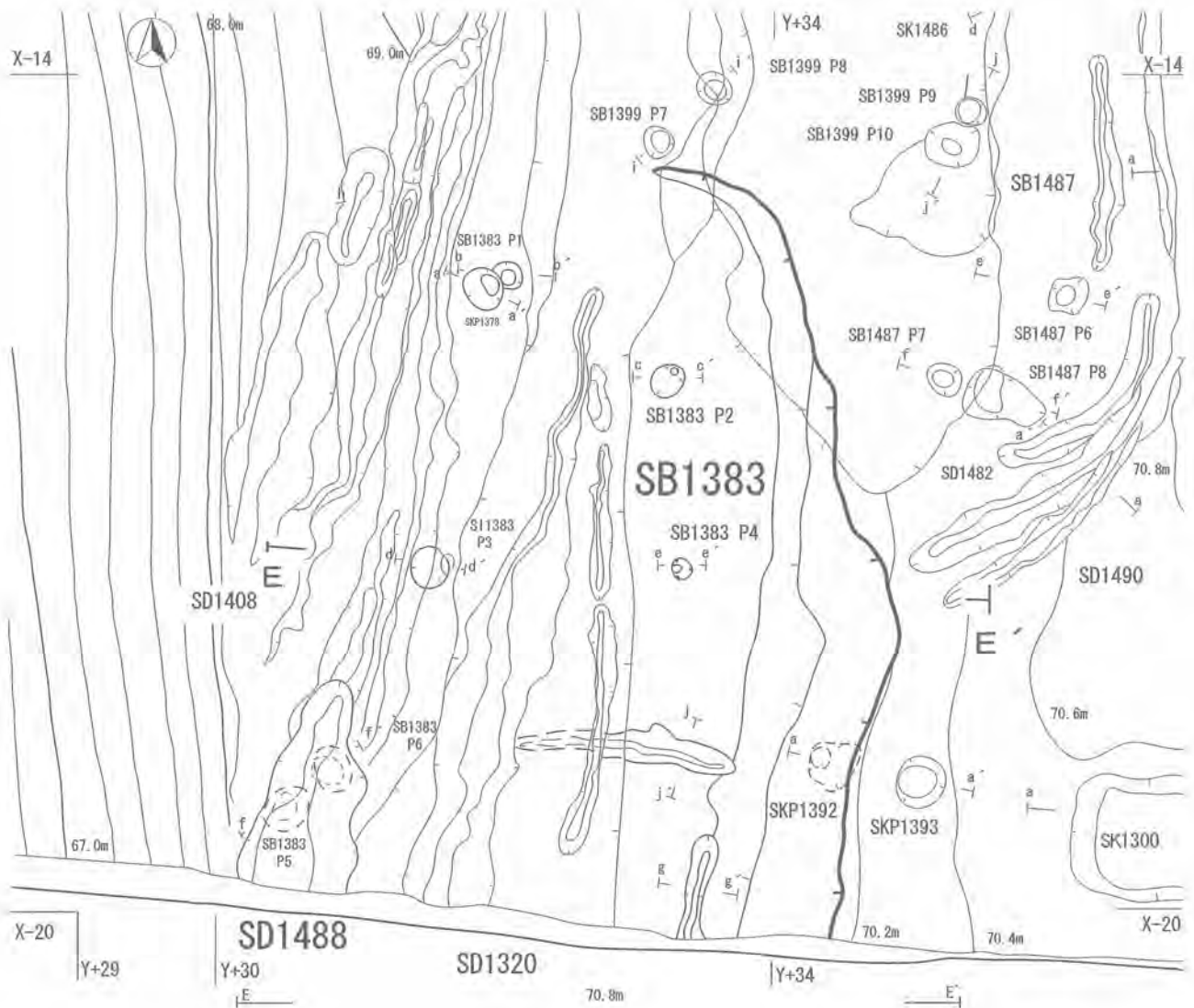
SD1488号溝跡(第96、98)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、覆土中で検出する。

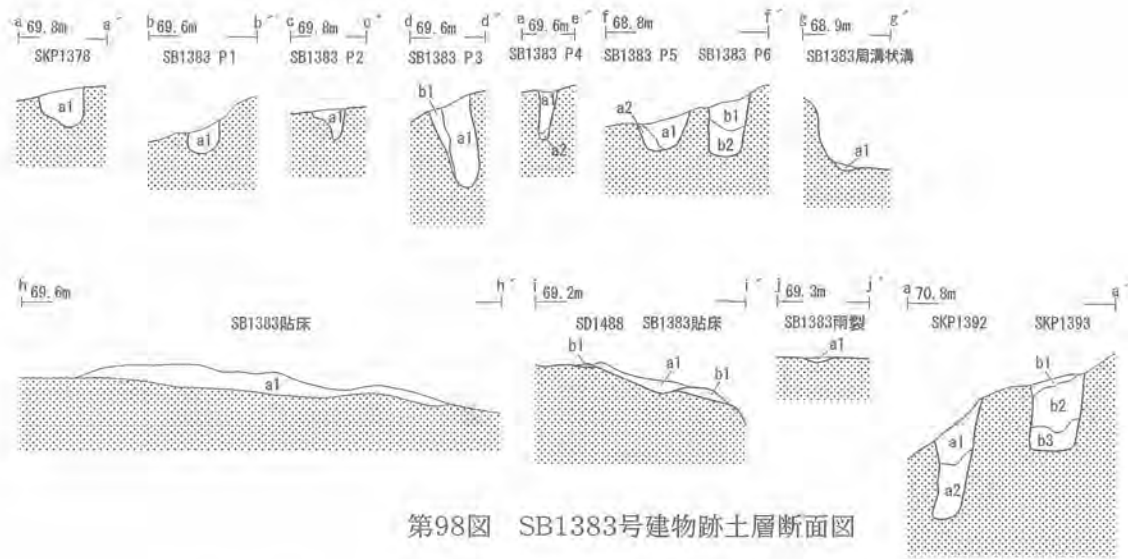
〈規模・形態〉調査区の南端部で確認し、遺構はさらに南側に続くものと考えられる。SI1383号竪穴住居跡、SD1320号と重複し、当遺構はSI1383号より新しく、SD1320号より古い。SI1383号建物跡の貼床を切るように築かれている。長さ1.56m、深さ0.18mである。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時代・時期〉SB1383号(中世以降)より新しいことから、これ以降と考えられる。



第97図 SB1383号建物跡平面図・土層断面図(2)



第98図 SB1383号建物跡土層断面図

SKP1378					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	径2~10mm 塊状 1%	砂質 疎	
SB1383 P1					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
SB1383 P2					
a1 砂壤土	(10YR6/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎	
SKP1383 P3					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎 (柱痕)	
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 5%	砂質 疎 (根固土)	
SB1383 P4					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
a2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
SB1383 P5					
a1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 5%	砂質 疎	
a2 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/2	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
SB1383 P6					
b1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR7/1	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
b2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR7/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎	
SB1383 周溝状溝					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
SB1383 貼床					
a1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR6/1~7/1	径2~10mm 塊状 10%	砂質 やや密	
SD1488・SB1383 貼床					
a1 壤質砂土	(10YR7/2)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 5%	砂質 疎 (SD1488覆土)	
b1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR6/1~7/1	径2~10mm 塊状 10%	砂質 やや密 (SB1383貼床土)	
SB1383 雨裂					
a1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
SKP1392・1393					
a1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
a2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
b2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎	
b3 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2mm 粒状 1%	砂質 疎	
SB1383-SD1320					
a1 砂壤土	(10YR5/1)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎 (SD1320号覆土)	
a2 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1~7/2	径2~5mm 粒状 10%	砂質 やや密 (SD1320号覆土)	
a3 砂壤土	(10YR5/2)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎 (SD1320号覆土)	
a4 砂壤土	(10YR8/1)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎 (SD1320号覆土)	
b1 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎 (SB1383号覆土)	
b2 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~10mm 粒状 10%	砂質 疎 (SB1383号覆土)	
b3 砂壤土	(10YR7/3)	10YR8/1	径2mm 粒状 1%	砂質 疎 (SB1383号覆土)	
b4 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1	径2~5mm 粒状 5%	砂質 疎 (SB1383号覆土)	
b5 砂壤土	(10YR8/2)	10YR7/1~8/1	径2~5mm 粒状 10%	砂質 疎 (SB1383号覆土)	
b6 砂壤土	(10YR6/1)	10YR7/1~8/1	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎 (SB1383号覆土)	
c1 砂壤土	(10YR7/2)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎 (柱痕跡) (SB1383号P3)	
c2 砂壤土	(10YR7/1)	10YR8/1~8/2	径2~5mm 粒状 5%	砂質 疎 (根固土) (SB1383号P3)	
d1 砂壤土	(10YR8/1)	10YR7/1	径2~5mm 粒状 1%	砂質 疎 (SB1383号貼床)	

0 1 : 50 1m



2

0 1 : 3 5cm

第99図 SB1383号建物跡出土遺物

SK1486号竪穴状土坑跡(第86、91、94、103、105図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉西側は斜面部となる。長さ16.10m、掘り込み深さは0.45mである。底面はほぼ平坦であり、平場を作り出すために掘り込まれた遺構と考えられる。これに伴う柱穴跡等の遺構は確認されていない。

SI1484号竪穴住居跡、SI1483号工房跡、SB1481号、SB1485号、SB1487号、SB1399号、SB1383号建物跡、SD1320号溝跡、SK1391号土坑跡と重複し、当遺構はこれら重複する遺構より新しい。

〈出土遺物〉石臼・下石1点(覆土上位)。

〈時代・時期〉重複するSI1483号工房跡(中世以降)より新しいことから、中世以降と考えられる。

SD1319号溝跡(第86、87、91、100、104図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉SD1482号溝跡、SKP1361号、SK1294号、1301号、1305号土坑跡と重複し、当遺構はSD1482号より新しく、SKP1361号、SK1294号、1301号、1305号より古い。覆土は2層に細別できる。長さ14.4mである。SK1301号南側から西側に曲がり、SI1383号の東側まで掘り込みが確認されている。重複するSD1482号溝跡もこれと平行するように築かれている。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時代・時期〉SB1481号建物跡(中世以前)と重複するSD1482号より新しいことから、中世以降と考えられる。

SD1482号溝跡(第91、94、100、104図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉長さ12.45mである。重複するSD1319号と同様にSK1301号南側から西側に曲がり、SI1383号の東側まで掘り込みが確認されている。SB1481号建物跡、SB1487号建物跡、SD1319号溝跡と重複し、当遺構は、SB1481号、SB1487号より新しく、SD1319号より古い。覆土は単層である。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時代・時期〉SB1481号建物跡(中世以前)より新しいことから中世以降と考えられる。

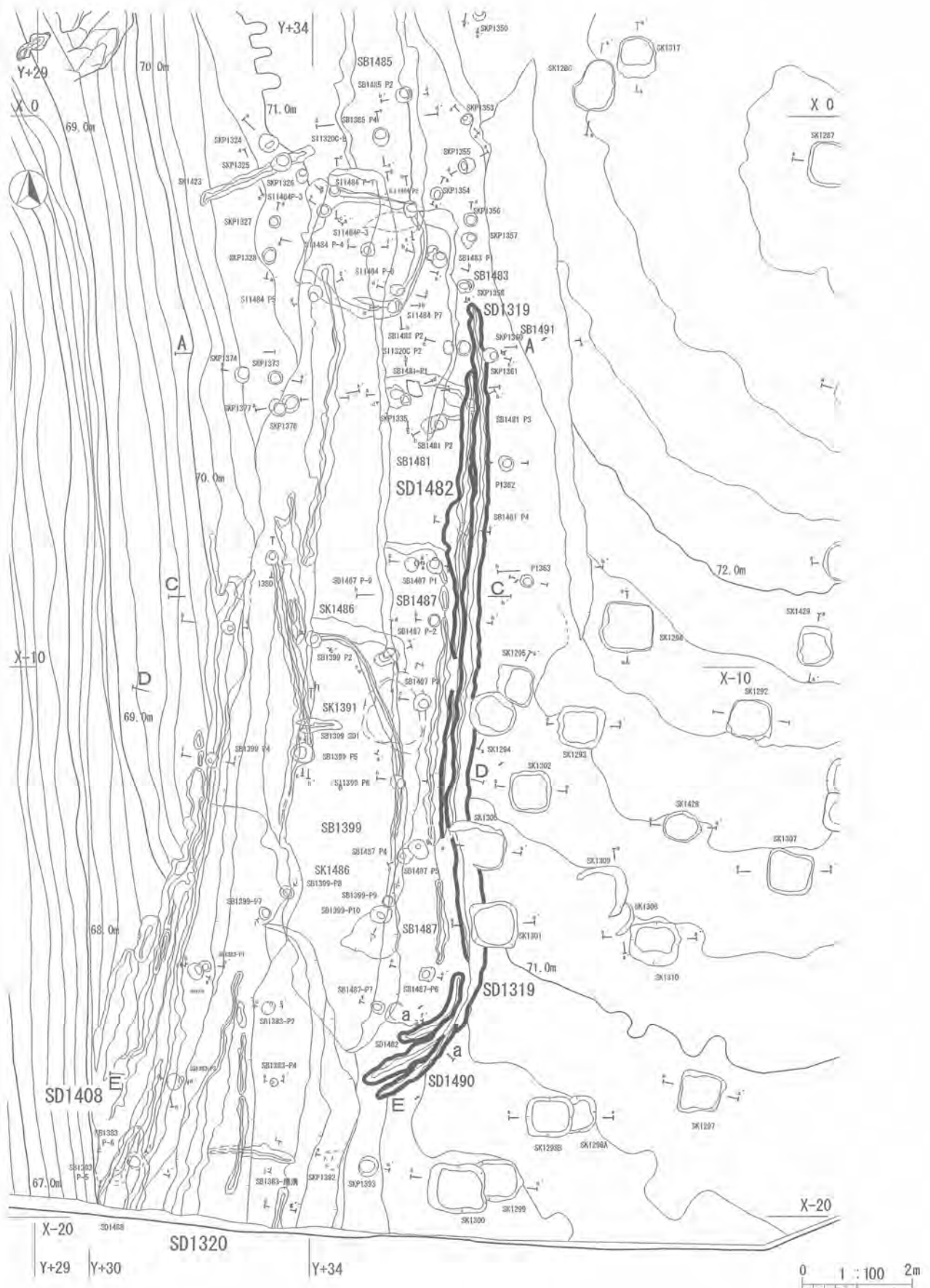
SD1490号溝跡(第100、104図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

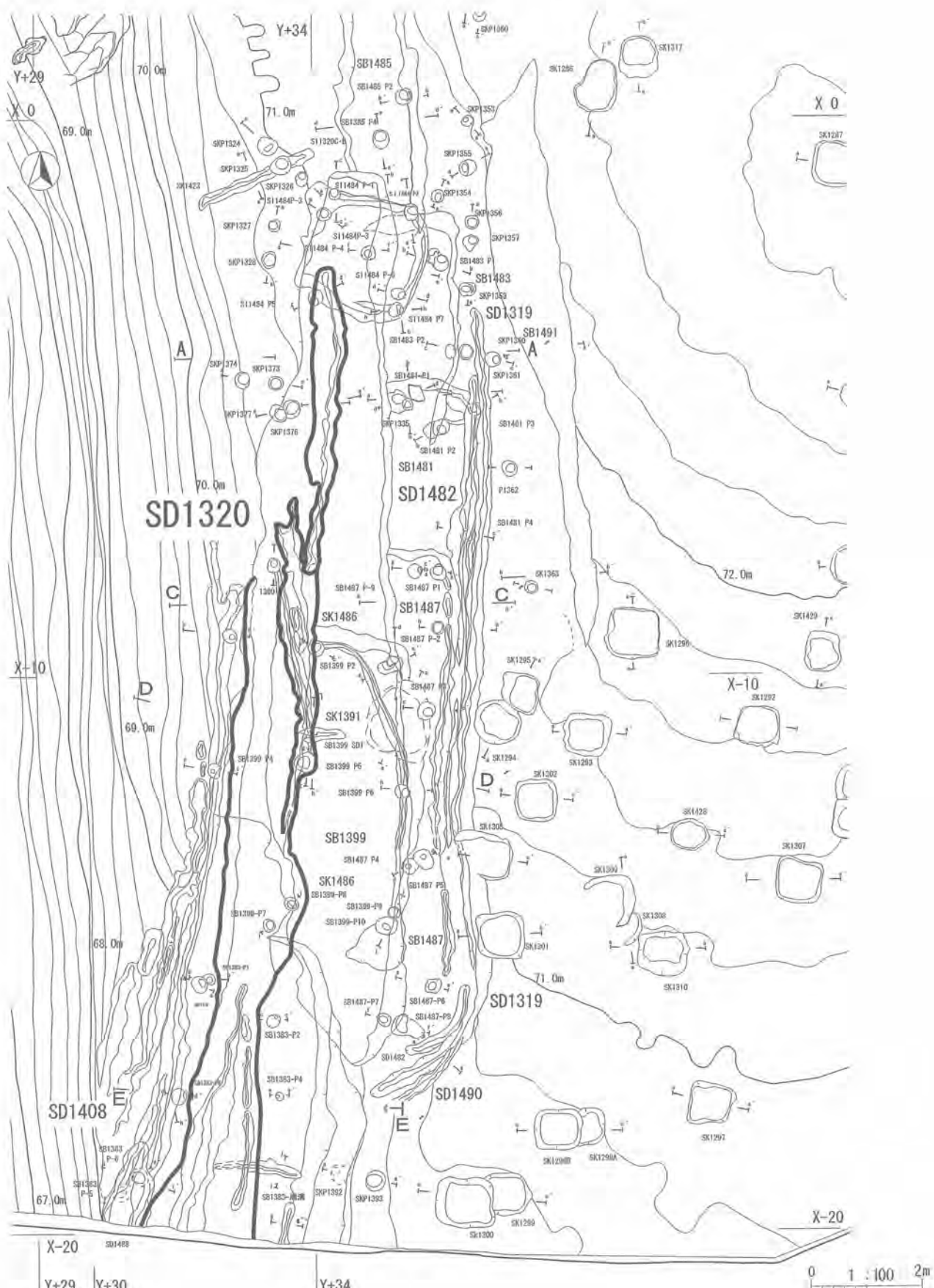
〈規模・形態〉長さ1.37mである。北側部分は後世の削平により消失しその一部が残存したものと考えられる。SD1319号、1482号溝跡と平行して築かれている。SD1319号溝跡と重複し、当遺構がSD1319号より新しい。覆土は単層である。

〈出土遺物〉出土なし。

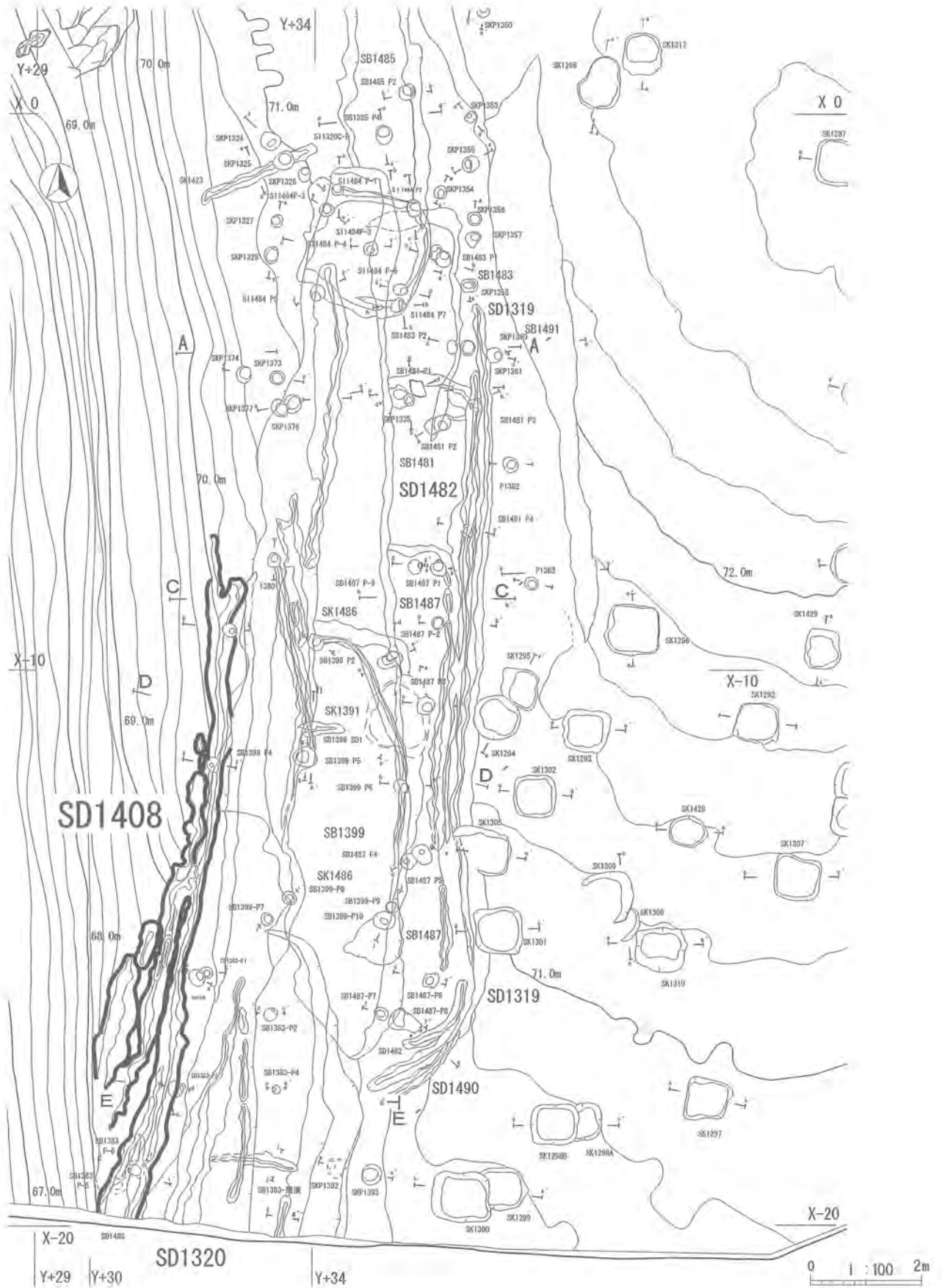
〈時代・時期〉SD1319号溝跡(中世以降)より新しいことから、中世以降と考えられる。



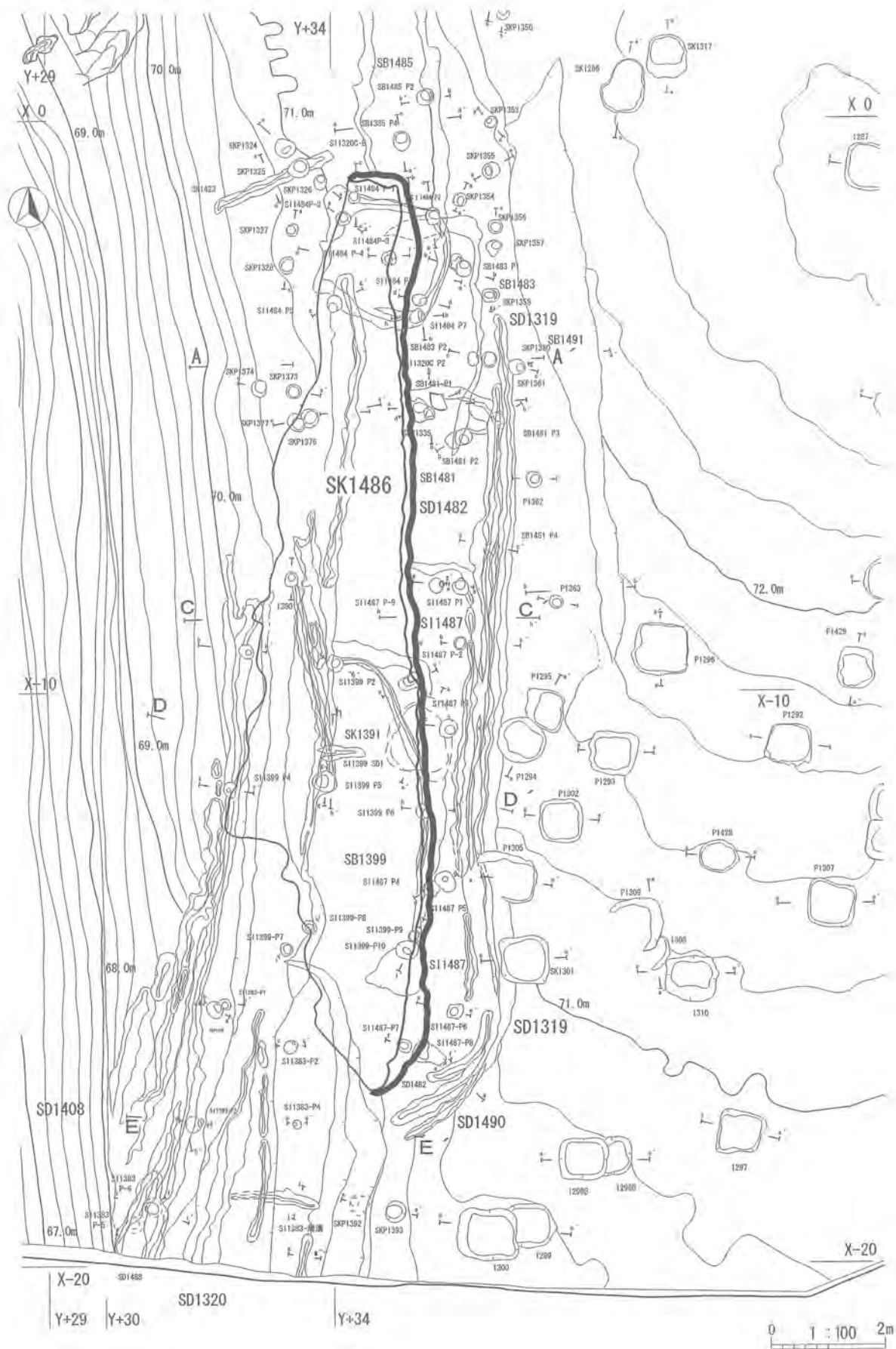
第100图 SD1319号·1482号·1490号沟迹平面图



第101图 SD1320号沟迹平面图



第102图 SD1408号沟迹平面图



第103图 SK1486号竖穴状土坑迹平面图

SD1320号溝跡(第94、97、101、105図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉SI1484号竪穴住居跡、SB1487号、SB1399号、SB1383号建物跡、SK1406号土杭跡、SD1488号溝跡と重複し、当遺構はSB1484号、SB1399号、SK1406号、SB1383号より新しく、SB1487号、SD1488号より古い。覆土は4層に細別できる。遺構は調査区北側に続くもので、長さは17.63m、深さは、E-E'セクションの位置で0.52mである。

〈出土遺物〉1は覆土上位から出土したもので、瀬戸碗の胴部で近世以降のものである。2は銅製品で覆土下位から出土する。3は棒状鉄製品で覆土中位から出土する。

〈時代・時期〉重複するSB1484号竪穴住居跡(中世)より新しいことから中世以降と考えられる。

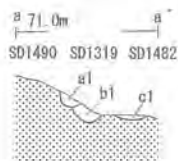
SD1408号溝跡(第94、102図)

〈検出状況〉平坦部西側縁辺部、地山面で検出する。

〈規模・形態〉SK1486号竪穴状土杭跡、SB1399号建物跡、1383号建物跡、SD1320号溝跡と重複し、当遺構は重複するいずれの遺構よりも古い。遺構は南側の調査区外へと続く。長さ12.37m、深さはD-D'の位置で0.41mである。覆土は6層に細別できる。

〈出土遺物〉なし。

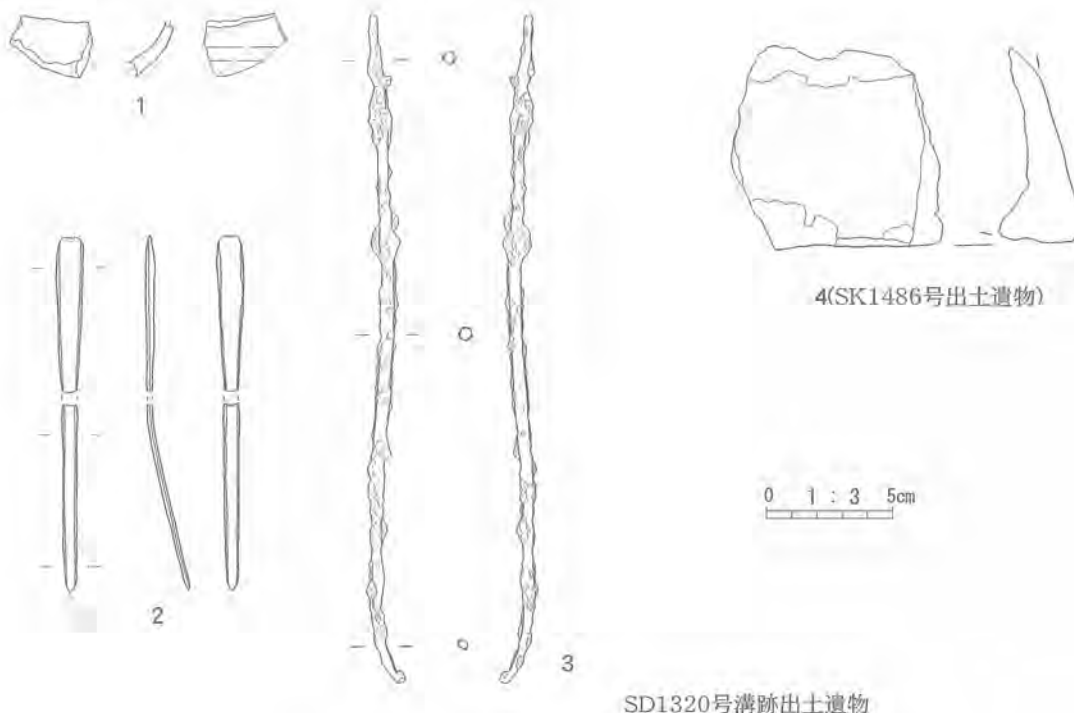
〈時代・時期〉重複するSB1399号建物跡(中世以前)より古いことから、中世以前と考えられる。



SD1490-SD1319-SD1482

a1	砂壤土 (10YR7/2)	10YR7/3~7/4	径2mm	粒状	1%	砂質	礫
b1	砂壤土 (10YR7/1)	10YR7/3~7/4	径2mm	粒状	1%	砂質	礫
c1	砂壤土 (10YR7/1)	10YR7/3	径2mm	粒状	1%	砂質	礫

第104図 SD1319・1482・1490号溝跡土層断面図



第105図 SD1320号溝跡・SK1486号竪穴状土坑跡出土遺物

遺構外出土遺物(第106～128図)

中世陶磁器と考えられる資料は今回の調査で遺構内、遺構外を合わせ45点出土した。各資料については別頁の観察表を参照されたい。

出土位置は遺構内からの出土が9点、遺構外からの出土が36点であり、遺構外からの出土が8割を占める。また、出土した陶磁器の内訳は、輸入陶磁器が37点、国産陶磁器が8点、産地不明が1点である。

輸入陶磁器は白磁碗1点、青磁碗23点、青磁盤2点、青磁皿1点、染付皿8点、染付碗1点である。国産陶磁器は瀬戸産灰釉皿3点、灰釉香炉2点、瀬戸産天目碗3点が出土する。

この輸入陶磁器のなかでは白磁碗が最も古く、14世紀後半～15世紀初頭のものである。ピローノ型に伴う資料として紹介されているものである。

94～100号は石鉢である。94は口縁～底部にあたり内面底部に擦痕が確認できる。96は口縁～底部にあたる。95、98、100は口縁部にあたり、97は底部にあたり、内面底部に煤状付着物が残る。99は口縁から底部にあたり、底部は高台状に作りだされている。

101、102、105は菱形の飾りがみられ、101は飾り部分を黒色に塗り飾っている。これら3点は茶臼・上石となる可能性が考えられる。103、104、106、107、109、113は石臼・下石と考えられる。108、110、111、112、114は石臼・上石と考えられ、108、111は挽き手穴がみられる。

116～134は砥石である。135～140は茶臼である。140は白面に煤状の付着物が見られる。141～148は基石である。扁平形であり、平面に使用痕と見られる擦痕が確認できる。150は硯である。海部分が欠損する。149はスタンプ形の石製品であり、先端部に擦痕が確認できる。152、153は挿鉢である。152、153は瀬戸産で18世紀前半頃の製品と考えられる。

154、155、156は刀子である。いずれも錆により細部の形状は不明である。154は直線的な棟に刃区が確認できる。茎は折れ曲がっている。155は直線的な棟に刃区、棟区が確認できる。156は鋒と茎が欠損する。

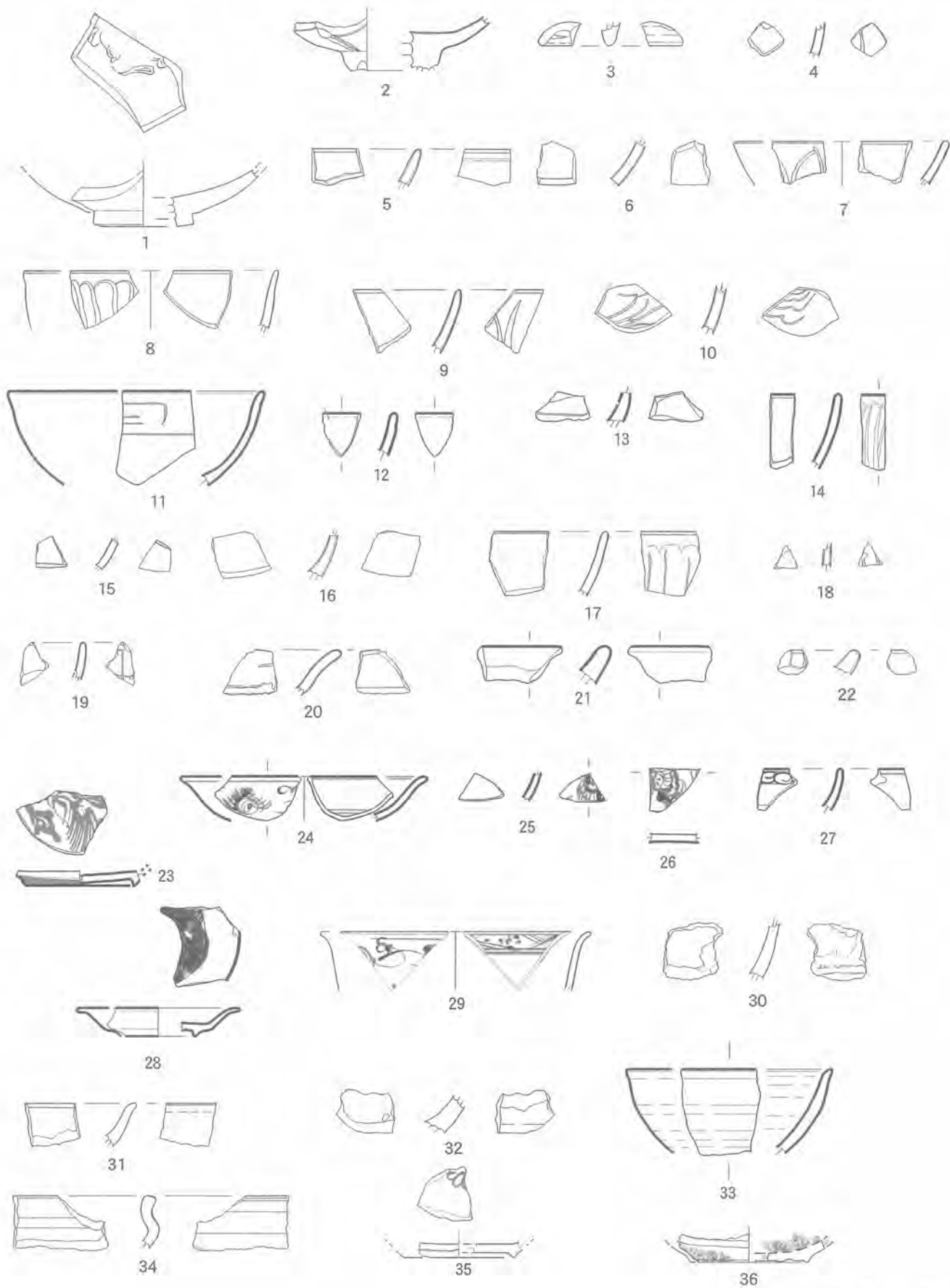
157、158、159は鉄鏝である。いずれも柳葉形といわれるものである。157と158は鏝部の幅が狭くまた長さも短い。159は157や158と比べ鏝部が長い。

160～175は釘であり、多くは角釘である。

176は棒状鉄製品である。177、178はC字形の鉄製品である。181は鉄製品であり、大小二つの環状の鉄製品をつなぎ合わせたものと考えられる。182は銅製品であり、表面には細かい刻みのような模様が観察できる。

183～192は埴塼である。内外面に溶滓が付着する。

193、194は羽口である。193は炉側先端部である。



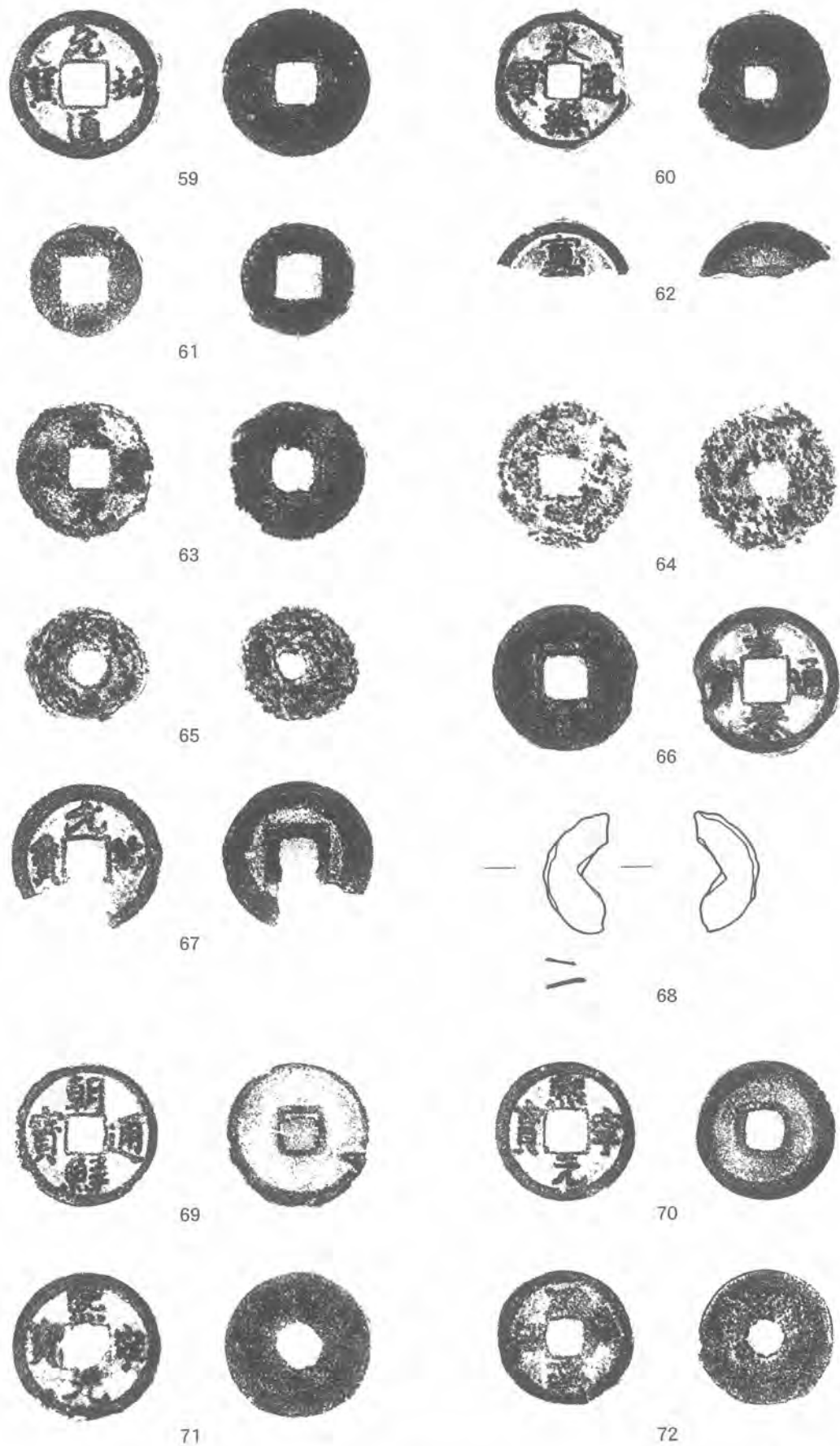
第106図 遺構外出土遺物(1)



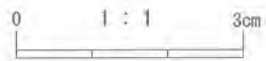
第107図 遺構外出土遺物(2)

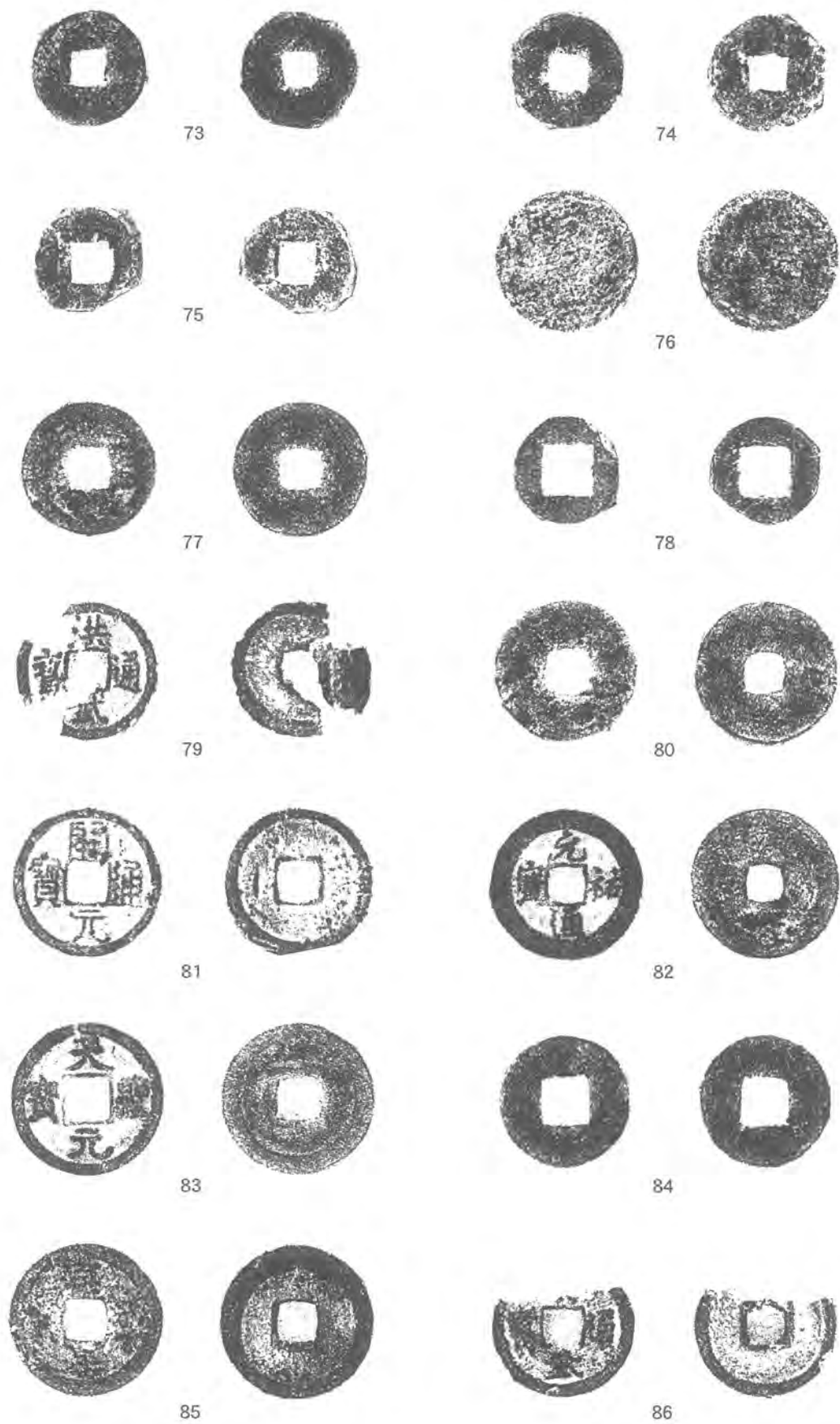
No.	出土地点	層位	種類・器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	内面	外面	その他の特徴
1	X+10 Y+10 付近	覆土中	白磁碗	高台部	—	4.0	—	陰印花	—	内外面 胴部に施釉 釉薄い 14世紀後半～15世紀初頭
2	X-0 Y+10	II層(褐色土)中	青磁碗	胴部下半～高台部	—	—	—	—	片切彫蓮弁文	壺付部欠損 15世紀
3	X-13 Y+19	—	青磁碗	高台部	—	—	—	—	—	中世
4	X-3 Y-4	覆土中	青磁碗	胴部	—	—	—	—	蓮弁文	中世
5	X-5 Y-18	覆土中	青磁碗	口縁部	—	—	—	—	—	中世
6	X-5 Y-18	覆土中	青磁碗	胴部	—	—	—	—	—	中世 色調No.8と類似
7	X-19 Y+5	覆土中	青磁碗	口縁部	11.6	—	—	—	片切彫蓮弁文	15世紀
8	X-9 Y-40	覆土中	青磁碗	口縁部	—	—	—	—	片切彫蓮弁文	15世紀
9	X+34.1 Y+21.3	平場覆土層中	青磁碗	口縁部	—	—	—	—	蓮弁文	中世
10	X+36.3 Y+19.0	平場覆土中	青磁碗	胴部	—	—	—	細線文	蓮弁文	蓮弁文単位不明瞭 中世
11	X-1 Y+9	旧表土確認面	青磁碗	口縁～胴部上半	13.8	—	—	—	雷文	15世紀
12	X+23 Y+14	表土下位	青磁碗	口縁部	—	—	—	—	—	中世
13	X+21 Y+9.8	覆土	青磁碗	胴部	—	—	—	—	—	中世
14	X+19.3 Y+12.6	覆土中位	青磁碗	口縁部	—	—	—	—	蓮弁文	16世紀
15	X+10 Y-16	覆土上面	青磁碗	胴部	—	—	—	—	—	中世(15～16世紀)
16	X+9 Y+12	覆土下面	青磁碗	胴部	—	—	—	—	—	中世(15～16世紀)
17	廃土中	—	青磁碗	口縁部	—	—	—	—	蓮弁文	16世紀前半 線描蓮弁文 蓮弁と山形の剣頭にやや乱れ有
18	X-17.5 Y+32	覆土上位	青磁碗	胴部	—	—	—	—	蓮弁文	中世 小破片
19	X-19.3 Y+31.3	覆土上位	青磁碗	口縁部	—	—	—	—	雷文か	中世 小破片
20	X-19.95 Y+41.29	覆土中	青磁皿	口縁～胴部	—	—	—	—	—	中世
21	X+25 Y+11	表土下位	青磁盤	口縁部	—	—	—	—	—	中世
22	X-9 Y+9	覆土中	青磁盤	口縁部	—	—	—	—	—	中世 小破片
23	X+10 Y+10付近	覆土中	染付皿	底部	—	5.9	—	玉取獅子文	—	中世
24	X+32.2 Y+17.1	地山漸移層	染付皿	口縁部～胴部	13.2(推定)	—	—	横線	玉取獅子文	中世
25	X+42.9 Y+25.5	覆土下位	染付皿	胴部	—	—	—	—	玉取獅子文	中世
26	X+7.1 Y+27.8	覆土層中	染付皿	底部	—	—	—	玉取獅子文か	—	中世
27	X+16.4 Y+37.9	平場表土下位	染付皿	口縁部	—	—	—	唐草文	横線	中世
28	X+32.9 Y+26.5	覆土中	染付皿	口縁部～底部	8.6	4.1	1.6	獅子文か	—	中世 1/4弱残存
29	X+38.1 Y+17.4	平場覆土下位	染付皿	口縁部～胴部	14.6	—	—	四方	唐草文・界線	内外面ともに2次被熱痕跡有 16世紀後半か
30	X+10 Y+10付近	覆土中	天目茶碗	胴部	—	—	—	—	—	中世～近世 産地不明
31	X+22.4 Y+6	地山面	天目茶碗	口縁部	—	—	—	黒褐色釉	黒褐色釉	瀬戸美濃産か 中世か
32	X-7.1 Y-29	表土下位	天目茶碗	底部	—	—	—	黒褐色釉	露体	瀬戸美濃産か 目あと 中世か
33	X+24.4 Y+6.7	表土下面	天目茶碗	口縁～胴部	11.1	—	—	黒褐色釉	黒褐色釉	瀬戸美濃産か 16世紀
34	X+37.5 Y+17.5	平場覆土中	香炉	口縁～胴部	—	—	—	口縁部灰釉	口縁～胴部に灰釉	瀬戸美濃 中世
35	X+23.8 Y+9.8	斜面部覆土	灰釉皿	底部	—	—	—	底部に印花	—	瀬戸 16世紀か
36	X+10 Y+10付近	覆土中	灰釉皿	高台部	—	6.2	—	—	—	瀬戸 削り高台 増場に転用16世紀
37	X-6 Y+2	覆土中	碗	口縁～胴部下半	—	—	—	—	—	瀬戸美濃 近世～近代か
38	X-7 Y+20	覆土中	皿	口縁部	13.7	—	—	灰釉	灰釉	17世紀 美濃焼菊皿
39	X+10 Y+10付近	覆土中	皿	胴部～高台部	—	—	—	灰釉	灰釉	美濃焼 菊皿 目あとあり 17世紀
40	X+10 Y+10付近	覆土中	碗	口縁～底部	8.5	—	—	—	—	肥前産 近世後期(1780～1860年)
41	X+22 Y+70付近	覆土中	碗	口縁～底部	—	—	—	—	唐草文	肥前系 近世以降
42	X+1.2 Y+5.0	表土下位	碗	口縁～底部	—	—	—	網目文か	二重網目文	肥前産 近世
43	X+6.8 Y47.9	表土下位	碗	口縁～底部	—	—	—	—	草花文	肥前産 近世
44	X+36.3 Y30.6	廃土中	碗	底部	—	—	—	草花文	横線	肥前産 近世
45	X+36.3 Y30.6	廃土中	碗	胴部	—	—	—	—	二重網目文	肥前産 近世
46	X+22.2 Y+12.2	覆土中位	碗	口縁～胴部	—	—	—	横線	草花文	肥前産 近世
47	X+31.8 Y+29.3	表土下位	碗	底部	—	4.2	—	—	二重網目文	高台内裏銘有 肥前 近世
48	X+47 Y+35	表土下面	碗	胴部～底部	—	6.6	—	—	網目文	肥前 18世紀末か
49	X+44 Y+26	覆土下位	碗	口縁～胴部	—	—	—	横線	矢羽根	肥前 18世紀末～19世紀前半
50	X+30 Y+63	覆土中	碗	口縁～胴部	—	—	—	横線	幾何学文	肥前 近世
51	X+42.5 Y+27.9	覆土層下位	碗	口縁～胴部	—	—	—	—	二重網目文	肥前 近世
52	X+43 Y+34	覆土中	碗	口縁～胴部	10.9	—	—	—	梅文	肥前 近世
53	X+45 Y+34	覆土中	碗	底部	—	—	—	—	不明	肥前 近世
54	X+22.7 Y+26.7	覆土上位	碗	胴～底部	—	4.2	—	—	網目文か	肥前 近世
55	X+22 Y+79付近	覆土中位	皿	口縁～胴部	9.2	4.8	2.2	山水風景か	—	肥前系 近世以降
56	X+22.2 Y+12.2	覆土中位	皿	口縁～胴部	—	—	—	横線	草花文	肥前産 近世
57	X+23 Y+72	斜面部覆土中	皿	口縁～底部	9.9	6.6	2.3	唐草文	唐草文	肥前磁器 17世紀末～18世紀 底面蛇の目凹型高台
58	X+37.4 Y+19.2	表土下面	皿	底部	—	6.2	—	底部・草花文	—	肥前系

第3表 遺構外出土遺物(1)(2)観察表

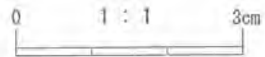
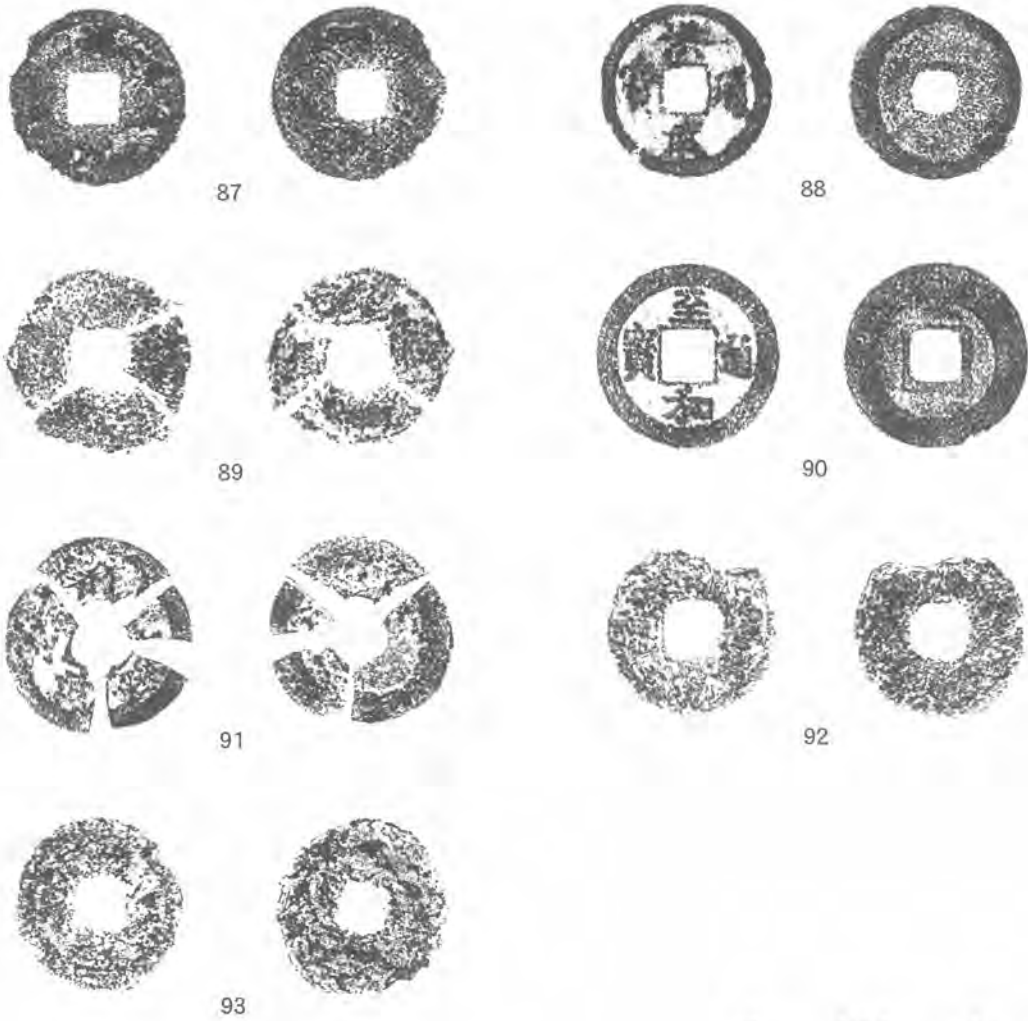


第108図 遺構外出土遺物(3)





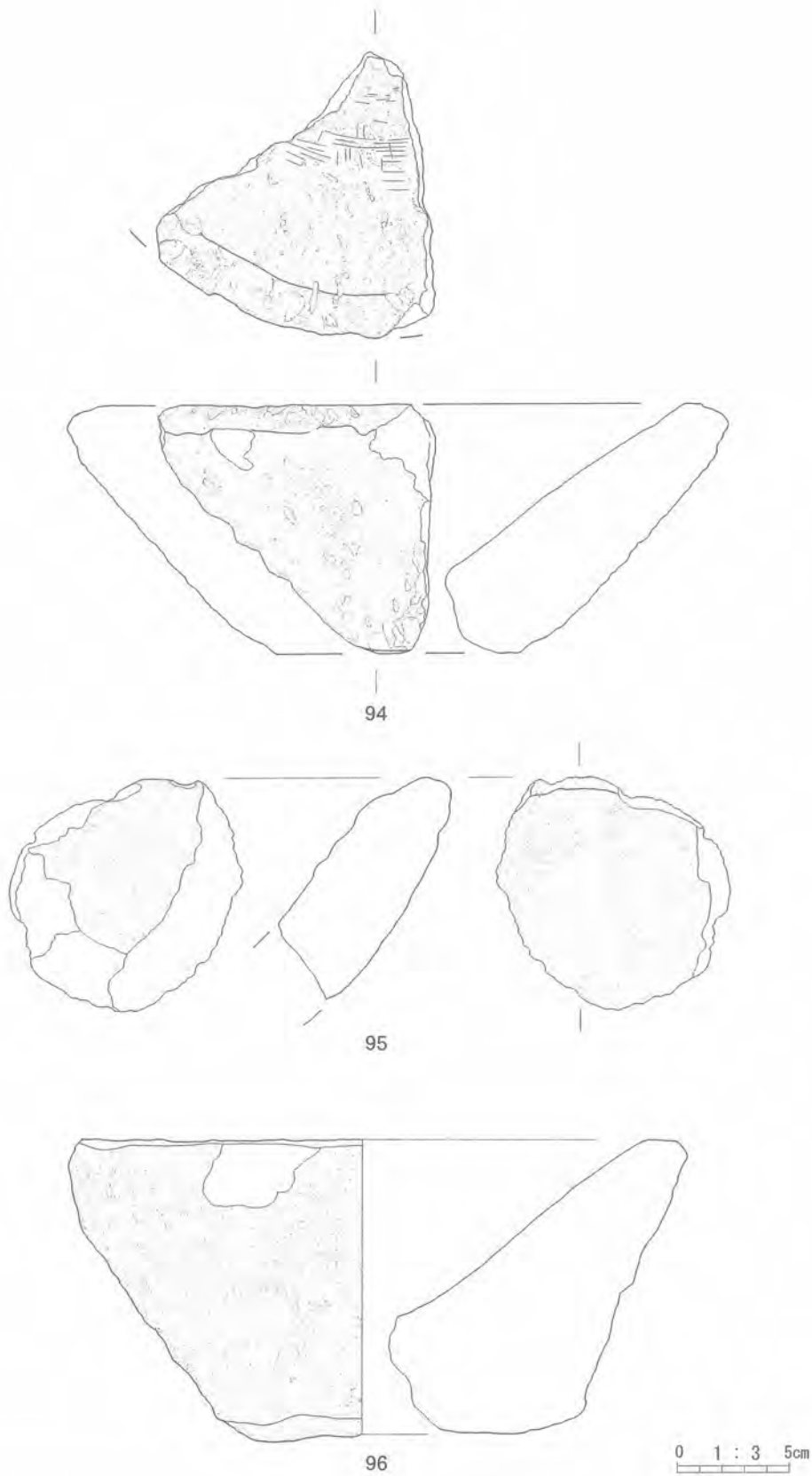
第109圖 遺構外出土遺物(4)



第110図 遺構外出土遺物(5)

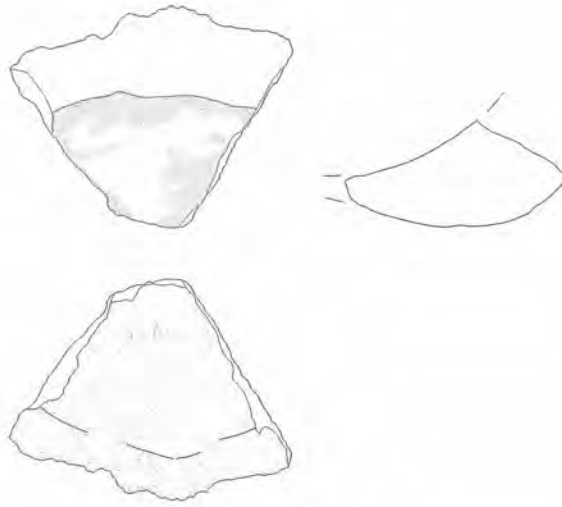
No.	出土遺構	出土地点	層位	銭文		外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	重量 (g)	初鑄年代	備考
				面	背							
59	遺構外	X-8 Y-32	盛土層中	元祐通寶	無背	24.2~24.3	6.6~6.8	1.1	2.3~2.8	2.8	北宋1086年	行書
60	遺構外	X-13 Y+16	盛土層中	永樂通寶	無背	21.9~22.0	5.2~5.3	0.6~0.9	1.0~1.6	0.9	中世末~ 近世初頭	—
61	遺構外	X-7 Y-33	盛土層中	無文銭	無背	18.5	7.0~7.1	0.6~0.7	—	0.9	不明	—
62	遺構外	X-3 Y+4	盛土層下面	寛口口口	無背	21.2	—	0.8	1.9	0.6	近世	一部残存 寛永か
63	遺構外	X-2 Y+45	盛土層中	不明	不明	22.3~22.7	6.0~6.1	1.1	1.6~2.1	2.1	不明	—
64	遺構外	X-13 Y+31	覆土中	不明	不明	22.6~22.8	5.1~5.5	2.5~3.0	2.2~3.0	3.1	不明	—
65	遺構外	X+14 Y+10	II層中	不明	不明	19.5~20.0	3.5~4.0	1.3~1.5	1.5~1.8	1.9	不明	—
66	遺構外	X+14 Y+10	5層中	元祐通寶	無背	24.1~24.5	6.1	1.1	3.0~3.5	2.0	北宋 1086年	行書 一部欠損
67	遺構外	X+3 Y-12	IIb層下面	嘉祐通寶	無背	24.0~24.1	6.9~7.0	0.9~1.0	2.5~2.9	2.0	北宋 1056年	真書
68	遺構外	X+6 Y-18	地山直上	無文銭	無背	17.3	—	0.6	—	0.7	不明	半分に折曲
69	遺構外	X+14 Y+10	覆土中	朝鮮通寶	無背	23.3~23.4	5.1~5.2	1.5~2.0	2.0~2.1	2.6	初鑄年1423年	真書
70	遺構外	X+14 Y+10	覆土中	熙寧元寶	無背	22.9~23.0	6.1~6.2	1.1	2.4~2.5	1.6	北宋 1068年	真書
71	遺構外	廃土中	不明	熙寧元寶	無背	23.9~24.1	7.0~7.1	1.0~1.1	2.4~2.5	2.5	北宋 1068年	—
72	遺構外	X+20 Y+93	覆土中~ 下面	不明	不明	22.1~22.2	5.6~5.7	0.9~1.0	1.5~3.0	1.8	不明	—
73	遺構外	X+20 Y+93	覆土中~ 下面	不明	不明	19.0	5.6~5.8	0.6~0.8	—	0.9	不明	—
74	遺構外	X+20 Y+93	覆土中~ 下面	不明	不明	18.7~19.0	5.7~6.1	0.7~0.8	—	0.7	不明	—
75	遺構外	X+20 Y+93	覆土中~ 下面	不明	不明	16.8~18.0	6.0~7.0	0.5~0.6	—	0.4	不明	—
76	遺構外	X+12 Y+74	盛土層中	不明	不明	23.7~23.8	なし	1.7~1.8	1.0	4.8	不明	—
77	遺構外	X+36 Y+90	盛土層下面	不明	不明	21.9~22.1	6.2~6.5	0.9~1.0	2.5~3.0	2.1	不明	—
78	遺構外	X+36 Y+87	盛土層下面	無文銭	無背	17.9~18.0	8.1~8.2	0.5	—	0.4	不明	—
79	遺構外	X+37 Y+90	盛土層下面	洪武通寶	無背	22.1	—	1.3~1.5	1.2~2.0	2.3	明 1368年	一部欠損
80	遺構外	X+11 Y+65	表土下位	不明	不明	23.3~23.5	6.5~6.6	1.0	1.6~2.1	2.2	不明	—
81	遺構外	X+7 Y-18	廃土中	開元通寶	無背	24.1~24.2	6.4~6.5	1.5~1.6	1.9~2.1	2.9	南唐 960年	真書
82	遺構外	X+24 Y+4	覆土中	元祐通寶	無背	24.5~24.6	5.9~6.0	1.1~1.2	3.6~3.9	3.2	北宋 1086年	行書
83	遺構外	X+8 Y-4	覆土中	天聖元寶	無背	25.0~25.1	6.5~6.9	1.5	2.2~2.3	4.3	北宋 1023年	真書
84	遺構外	X+16 Y+41	表土下位	不明	不明	21.5~21.9	7.1~7.2	2.1	—	2.1	不明	—
85	遺構外	X+16 Y+41	表土下位	不明	不明	25.0~25.1	6.5	1.1~1.2	2.5~2.8	3.0	不明	—
86	遺構外	X+16 Y+41	表土下位	不明	不明	23.0	6.0~6.1	2.1	2.0~2.3	2.7	不明	—
87	遺構外	X+16 Y+41	表土下位	不明	不明	23.3~23.5	6.4~6.5	1.3~1.5	2.0	3.2	不明	—
88	遺構外	X+20 Y+12	覆土下位	洪武通寶	無背	23.0~23.1	5.5~5.6	1.4~1.5	2.0~2.6	3.0	明 1368年	—
89	遺構外	X+38 Y+17	盛土層中	不明	不明	22.1	—	1.1~1.2	—	1.5	不明	破片3個体 で完形
90	遺構外	X+34 Y+18	平場面 覆土中	至和通寶	無背	24.7~24.9	6.8~6.9	1.1~1.2	3.0~3.2	2.4	北宋 1054年	真書
91	遺構外	X-16 Y+35	盛土層下位	不明	不明	22.9~23.0	5.4~5.8	1.5~2.1	2.9~3.2	1.8	不明	破片4個体 で完形 真書
92	遺構外	X+8 Y+30	盛土層中	不明	不明	22.2~23.0	7.2~7.3	1.0~1.1	1.9~2.2	1.9	不明	—
93	遺構外	X+6 Y+31	覆土下位	不明	不明	22.3~23.2	6.1~6.2	1.5~1.9	3.1~3.2	3.0	不明	—

第4表 遺構外出土遺物(3)(4)(5)観察表



No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
94	石鉢	X+10 Y+10付近 覆土中位	26.4	10.9	11.2	遺物No.360
95	石鉢	X+10 Y+10付近 覆土中位	—	—	—	遺物No.361
96	石鉢	X+12 Y-2付近 地山上面	25.6	10.8	13.7	遺物No.362

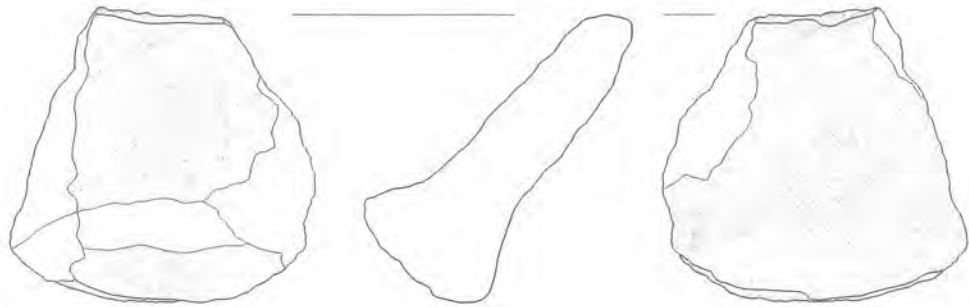
第111図 遺構外出土遺物(6)



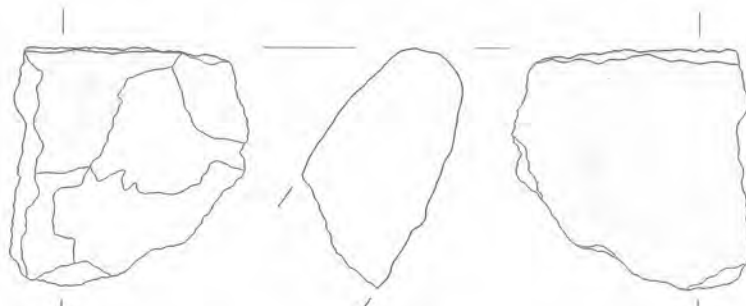
97



98



99

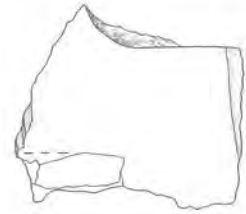
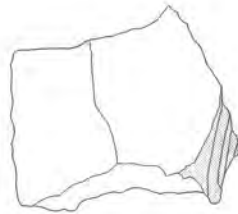
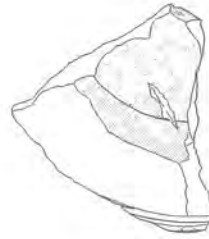


100

0 1 : 3 5cm

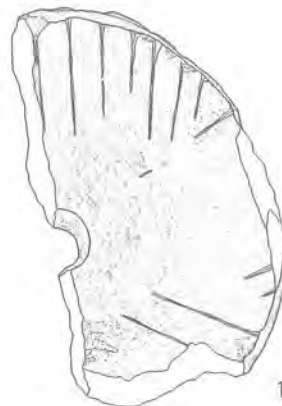
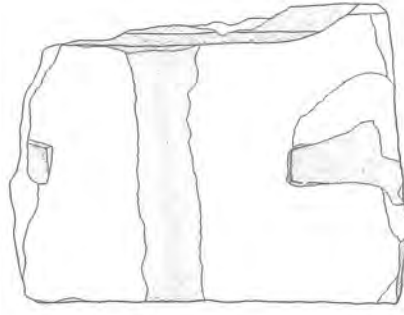
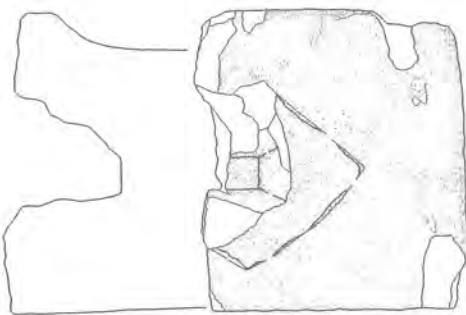
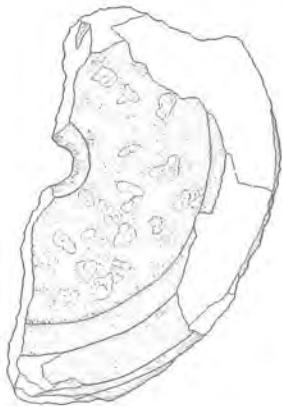
No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
97	石鉢	X-9 Y-14 地山漸移層上面	-	-	-	遺物No.359
98	石鉢	X+12 Y-2付近 地山上面	-	-	-	遺物No.363
99	石鉢	X+12.4 Y-4.6 地山漸移層	-	-	11.6	遺物No.905
100	石鉢	X+36.2 Y+20.6付近 平場 覆土中	-	-	-	遺物No.1246

第112図 遺構外出土遺物(7)



101

No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
101	石臼	X+10 Y+10付近 覆土中位	-	-	-	茶臼・上石か 遺物No.383

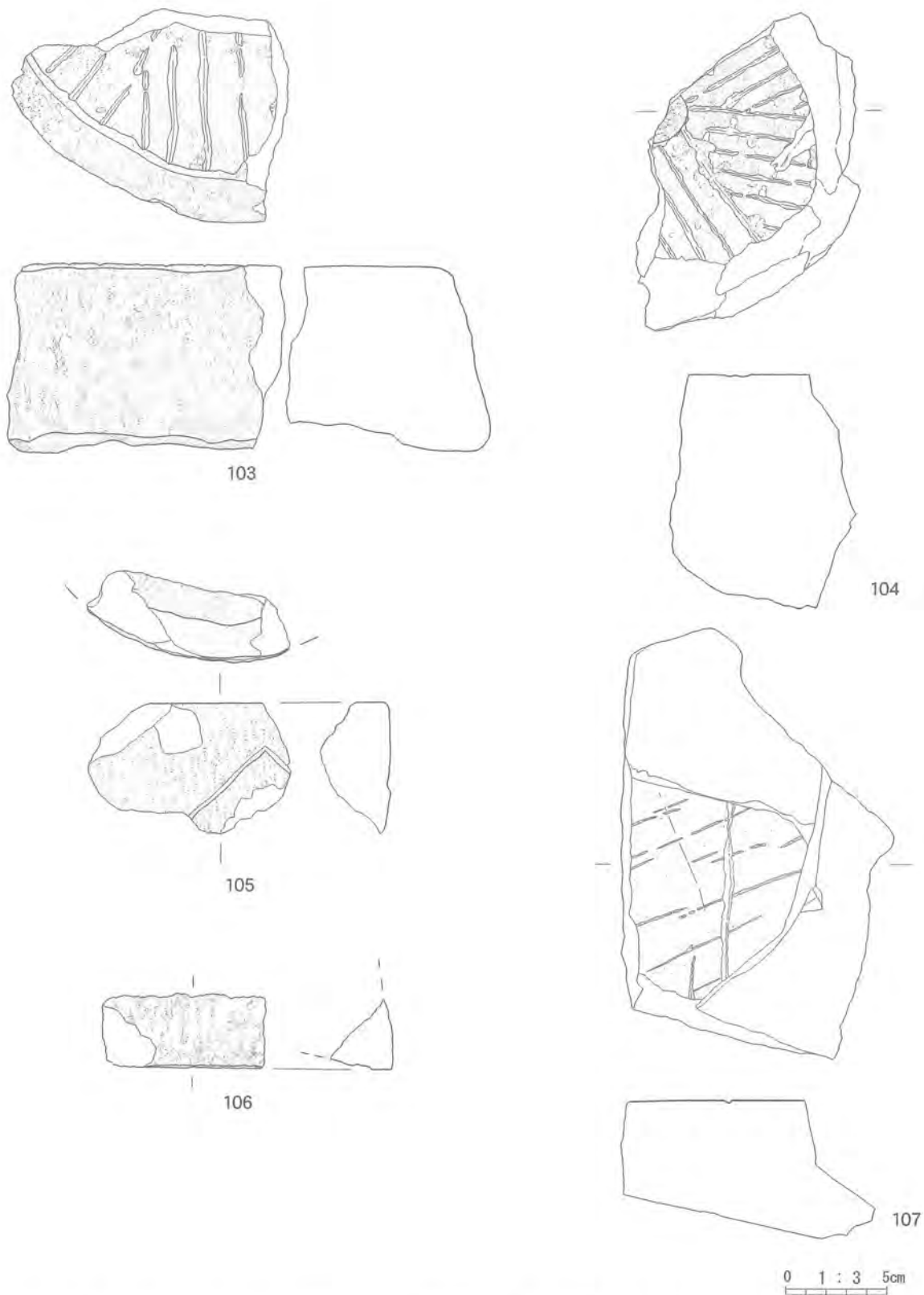


102

No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
102	石臼	X+17 Y+11付近 地山漸移層	14.8	17.5	12.1	茶臼・上石か 遺物No.384

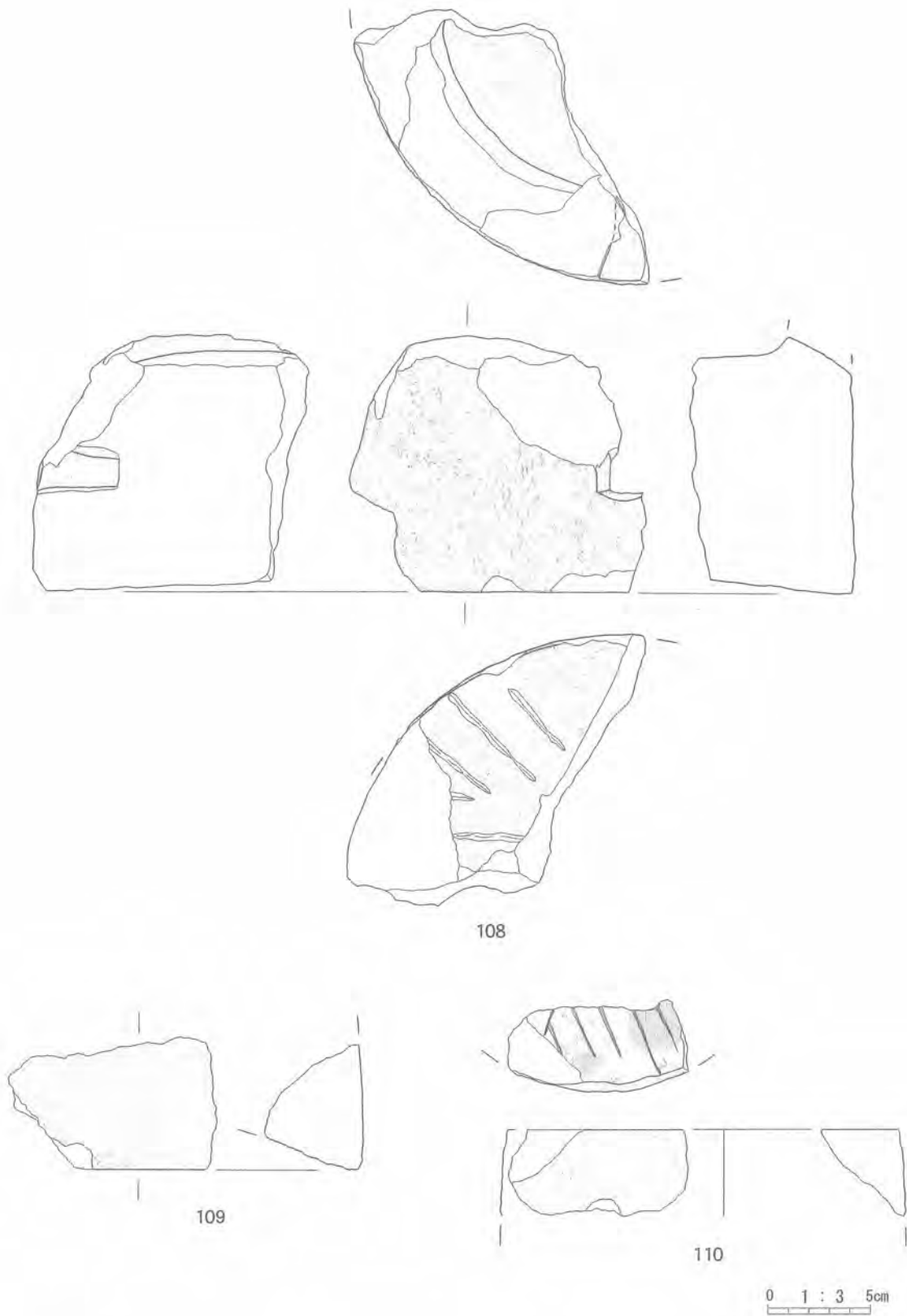
0 1 : 3 5cm

第113図 遺構外出土遺物(8)



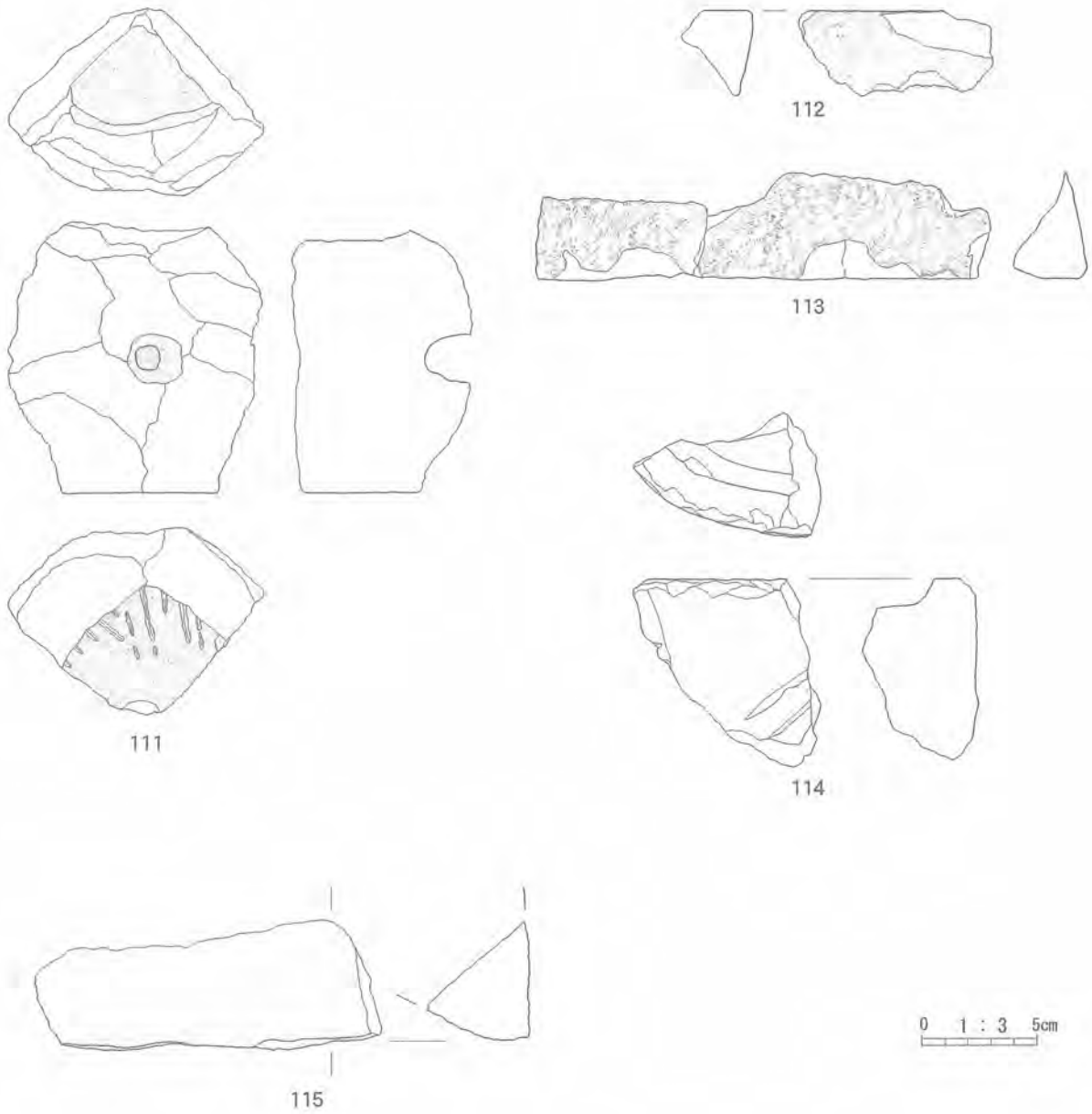
No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
103	石臼	X-1 Y+19 覆土中位	20.2	20.2	9.4	下石 遺物No.367
104	石臼	塵土中	—	—	11.7	下石 遺物No.368
105	石臼	X+7 Y+8 覆土中位	—	—	—	上石 遺物No.369
106	石臼	X-16 Y+10 覆土中	—	—	—	下石 遺物No.371
107	石臼	X+10 Y+11 覆土中	—	—	—	下石 遺物No.374

第114図 遺構外出土遺物(9)



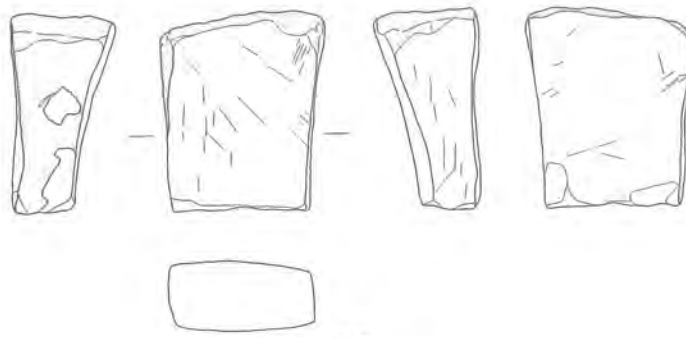
No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
108	石臼	X+11 Y-2付近 地山面	-	27.0	-	上石 遺物No.378
109	石臼	X+39.7 Y+33.2 斜面部 覆土中位	-	-	-	下石 遺物No.908
110	石臼	X+48 Y+38.8 斜面部 地山漸移層	19.3	-	-	下石 遺物No.909

第115図 遺構外出土遺物(10)

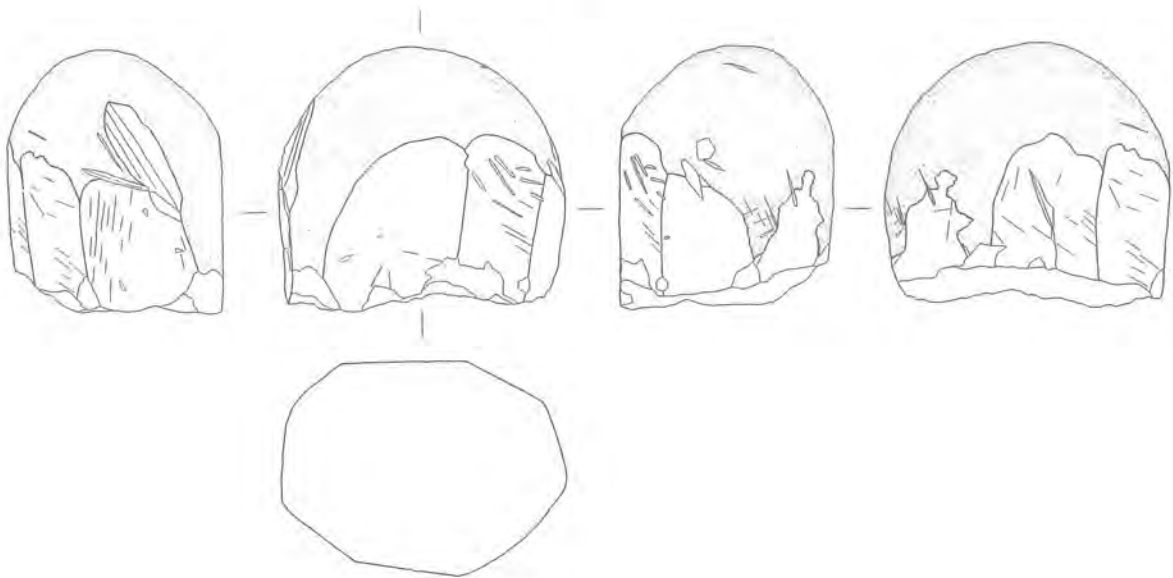


No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
111	石臼	X+10 Y+69 覆土中	—	—	—	上石 遺物No.912
112	石臼	X+23.6 Y+21.5 斜面部 地山面	—	—	—	上石 遺物No.1244
113	石臼	X+35.9 Y+19.5付近 平場覆土中	—	—	—	下石 遺物No.1248
114	石臼	廢土中(X+6.4 Y+28.8付近)	—	—	—	上石 遺物No.1254
115	石臼	X+23.4 Y+11.7 覆土下位	—	—	—	下石 遺物No.907

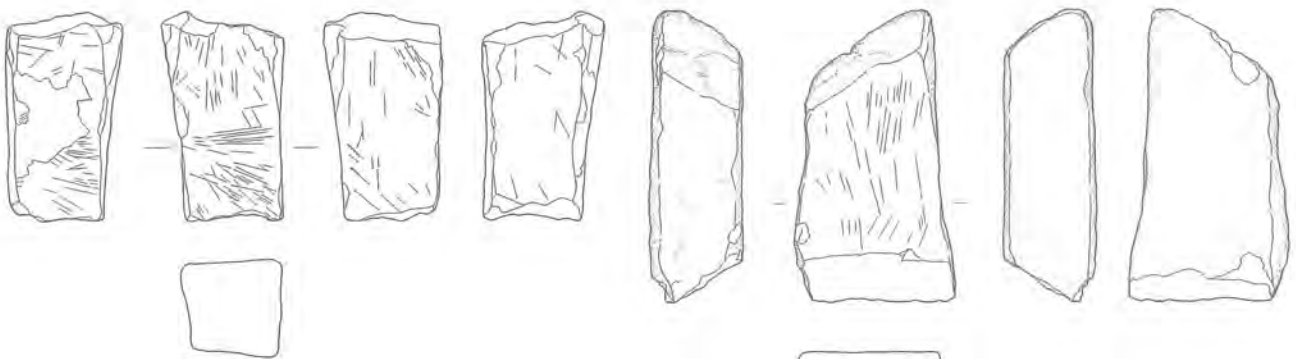
第116図 遺構外出土遺物(11)



116



117



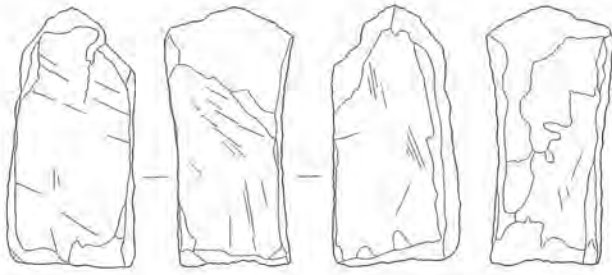
118

119

0 1 3 5cm

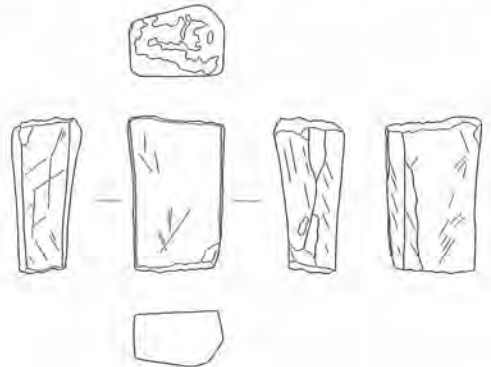
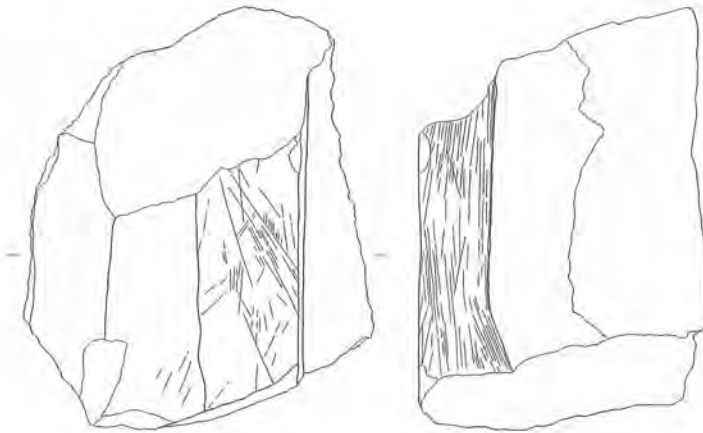
No.	種類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
116	砥石	X-4 Y+12付近 表土中	8.0	6.0	2.8	遺物No.390
117	砥石	X-15 Y+8付近 盛土層 下面	10.5	11.5	8.6	遺物No.393
118	砥石	X+16 Y+13付近 盛土層中	8.4	4.9	3.9	遺物No.394
119	砥石	X+15 Y+13付近 覆土中位	11.2	6.4	3.6	遺物No.396

第117図 遺構外出土遺物(12)

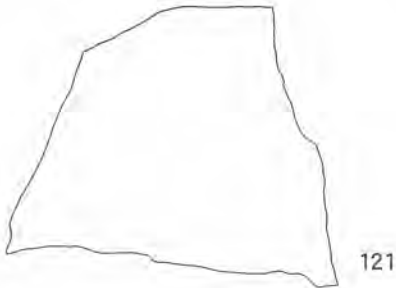


120

No.	種類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
120	砥石	X+16 Y+12覆土中位	10.4	5.1	5.1	遺物No.397
121	砥石	X+19 Y-10付近 地山面	17.0	14.0	11.2	遺物No.401
122	砥石	X+29 Y+147付近 覆土下面	6.3	3.9	2.8	遺物No.914
123	砥石	X+38 Y+87付近 覆土下面	10.6	2.2	遺物No.915	
124	砥石	X+7 Y+62付近 流入土中	11.2	8.8	11.0	遺物No.916



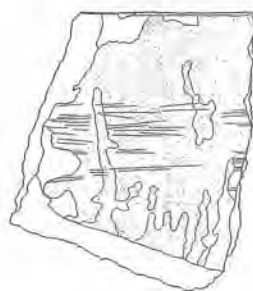
122



121



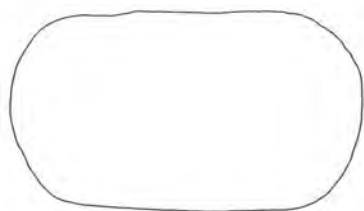
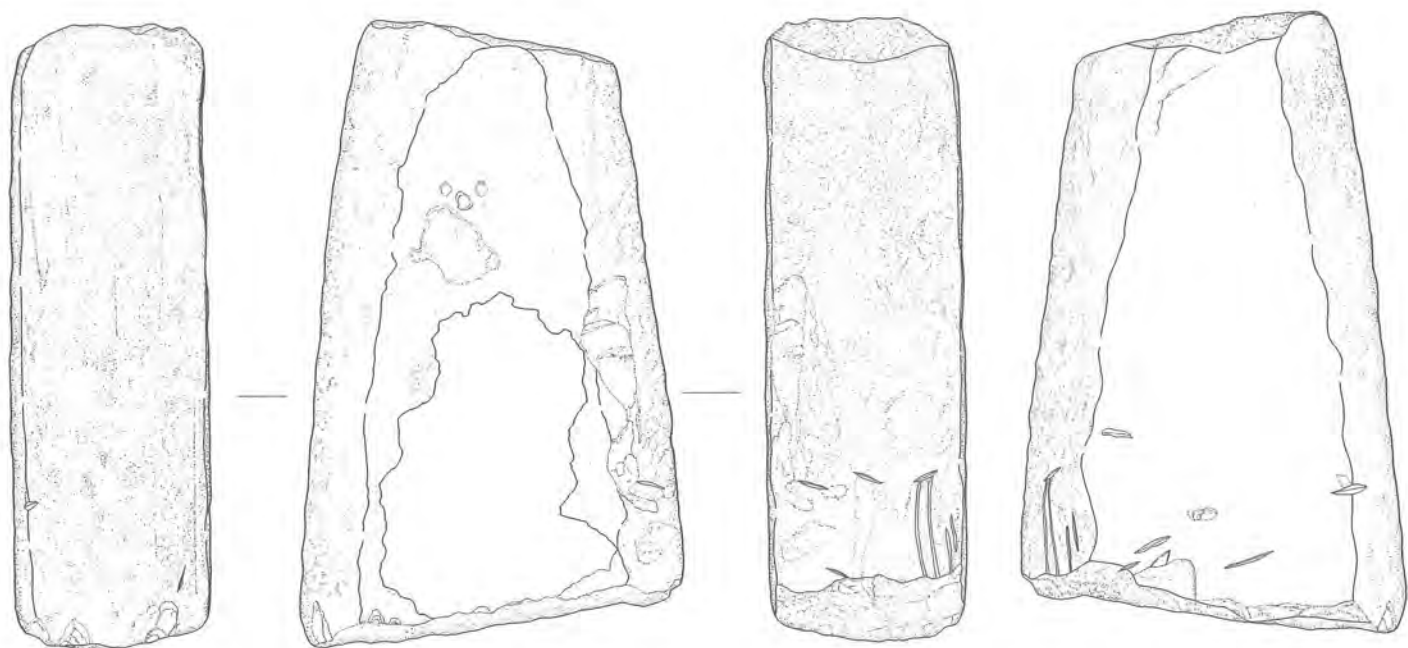
123



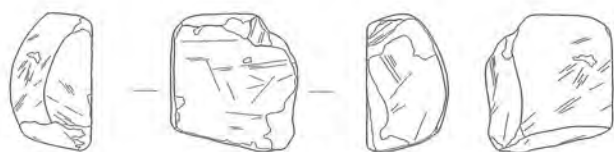
124

0 1 : 3 5cm

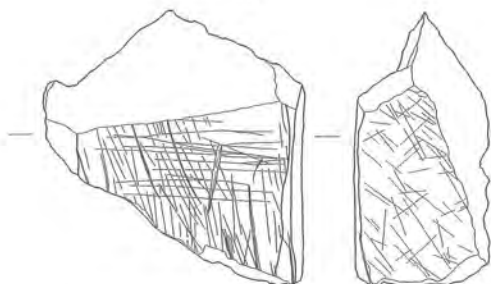
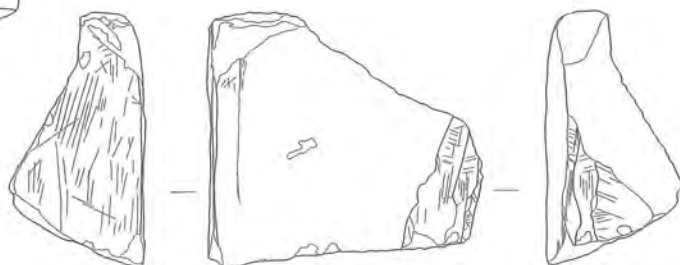
第118図 遺構外出土遺物(13)



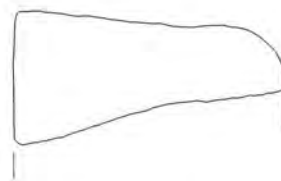
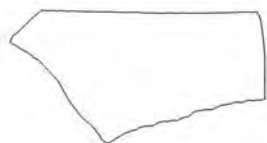
125



126



127

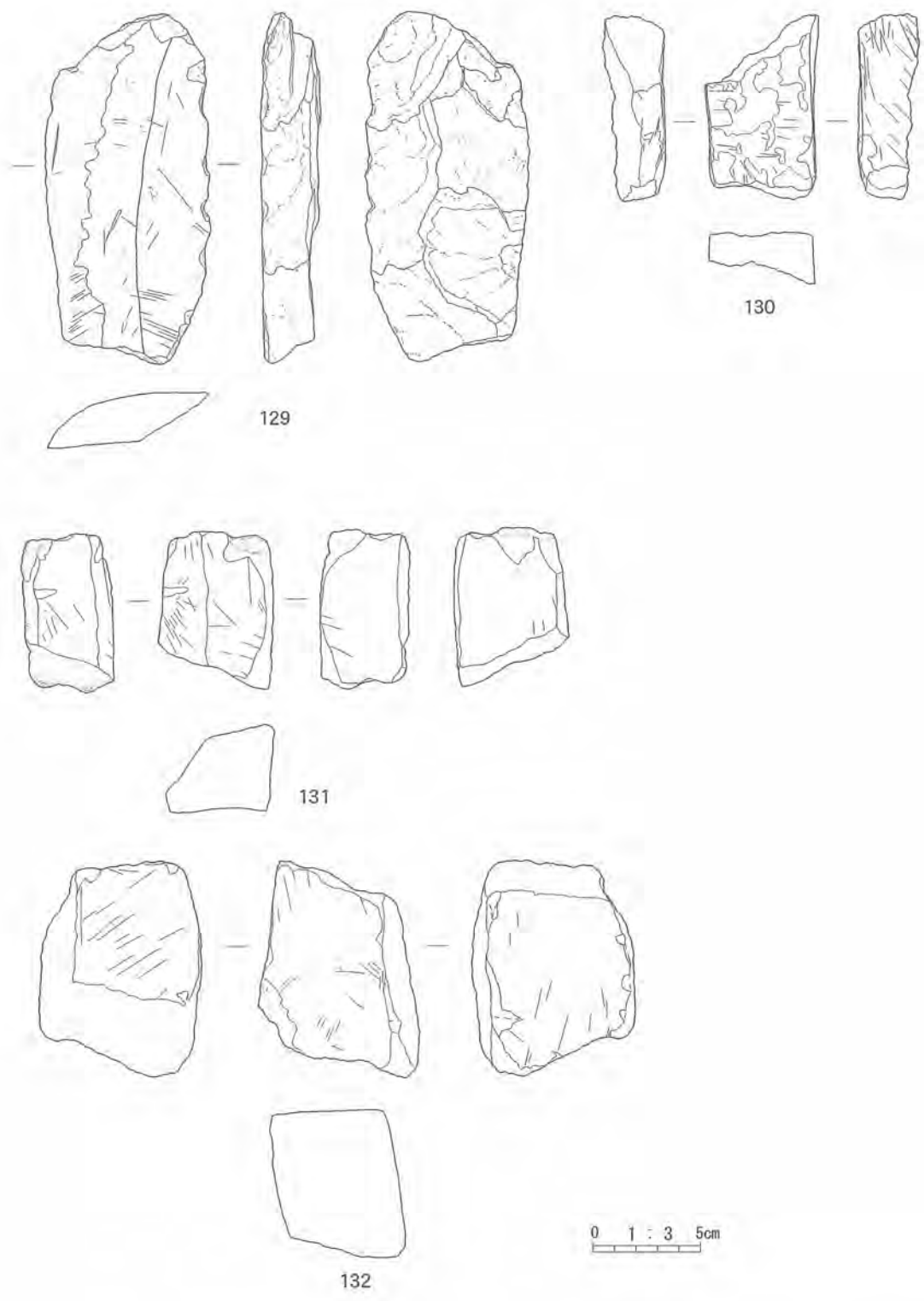


128

0 1 : 3 5cm

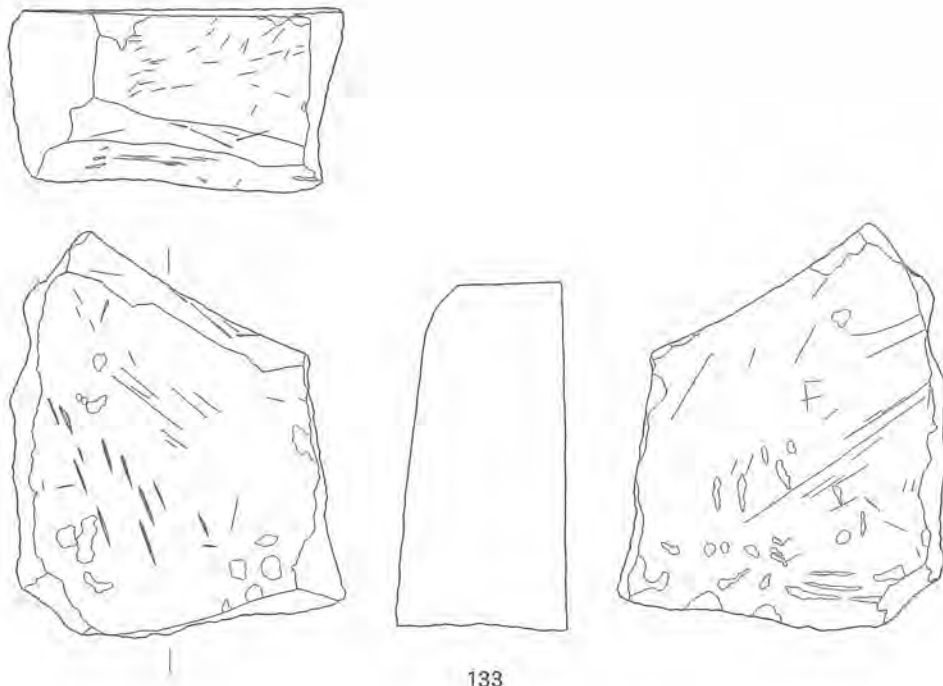
No.	種類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
125	砥石	X+18.2 Y-10.1付近 斜面部 地山 漸移層	25.1	15.5	8.0	遺物No.917
126	砥石	X+12.3 Y-9.8付近 覆土中	5.5	5.1	3.3	遺物No.918
127	砥石	X+11.7 Y-2.5付近 地山 漸移層	11.0	10.5	5.3	遺物No.919
128	砥石	X+27.6 Y+6.5付近 地山面	10.2	11.0	5.4	遺物No.921

第119図 遺構外出土遺物(14)

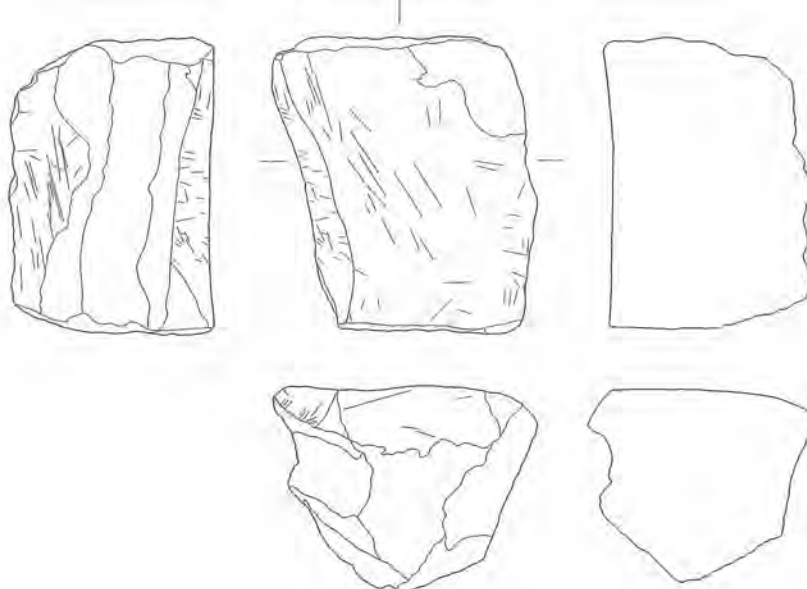


No.	種類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
129	砥石	X+17.5 Y-4.3付近 地山面	16.5	7.7	2.8	遺物No.923
130	砥石	X+12.5 Y+25 斜面部 覆土下位	8.7	4.9	2.4	遺物No.1245
131	砥石	平場 西端部	7.4	5.1	4.1	遺物No.1251
132	砥石	X+6.31 Y+28.65 覆土下位	10.2	7.6	6.9	遺物No.1252

第120図 遺構外出土遺物(15)



133

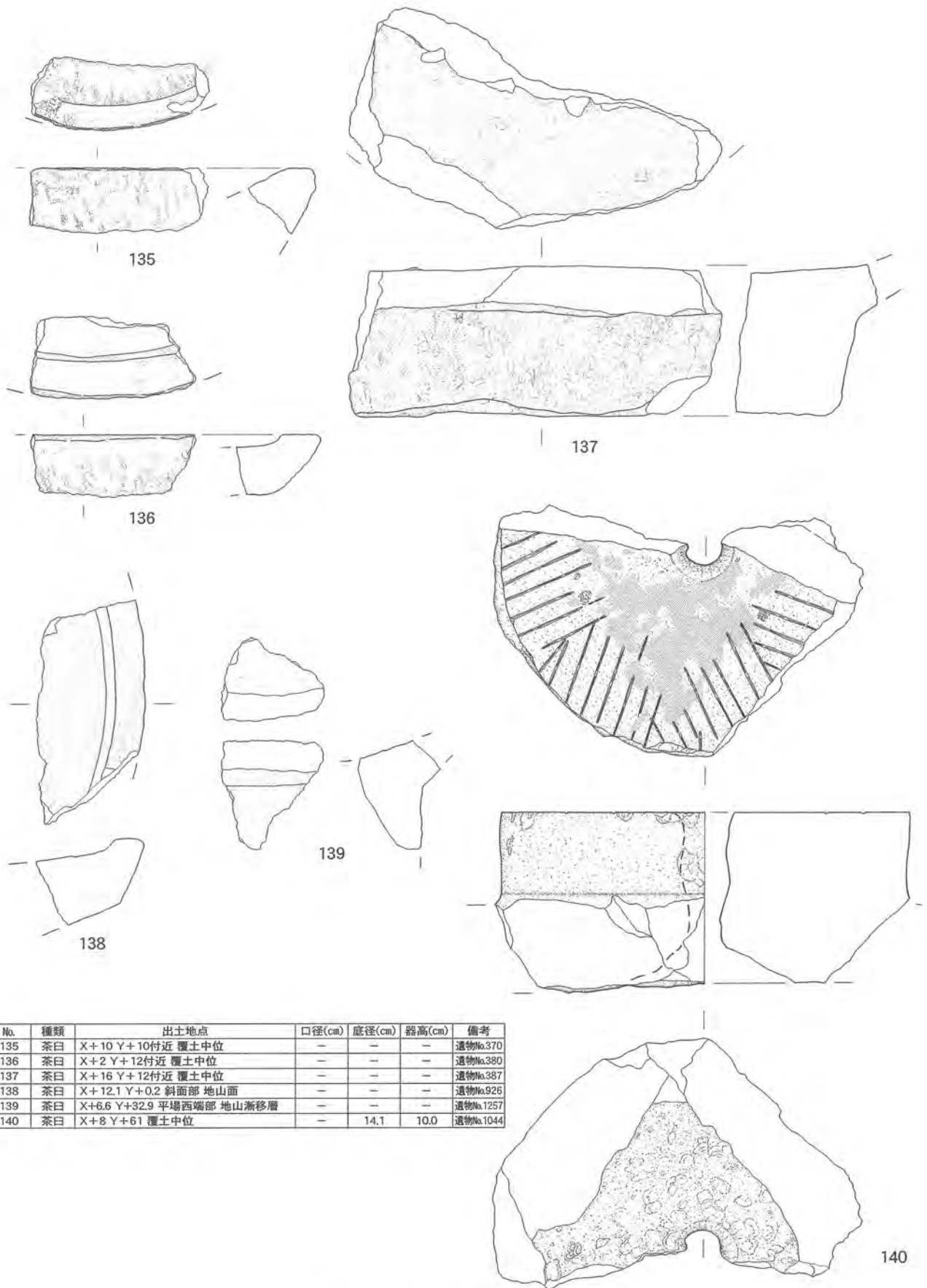


134

0 1 3 5cm

No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
133	砥石	X+2.89 Y+22.53付近 廃土中(斜面部)	13.8	13.4	7.0	遺物No.1253
134	砥石	X-12.1 Y+40.4付近 表土下位	11.9	10.6	7.7	遺物No.1256

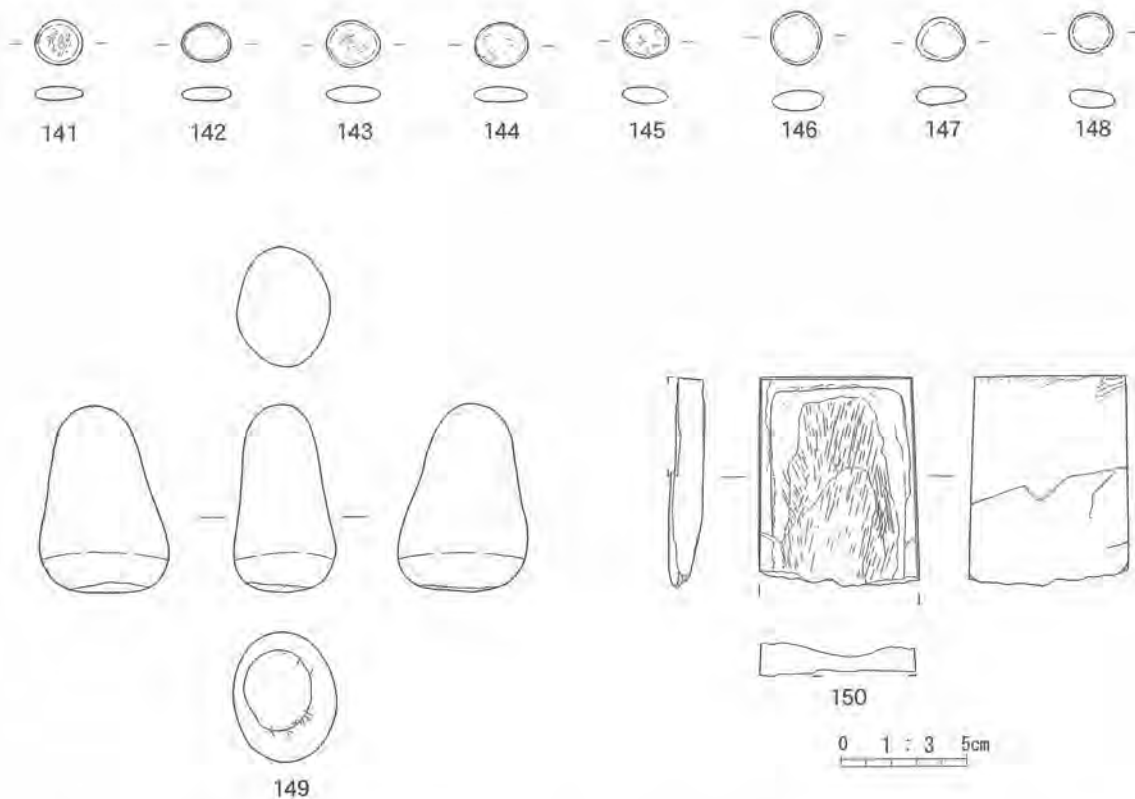
第121図 遺構外出土遺物(16)



No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
135	茶臼	X+10 Y+10付近 覆土中位	-	-	-	遺物No.370
136	茶臼	X+2 Y+12付近 覆土中位	-	-	-	遺物No.380
137	茶臼	X+16 Y+12付近 覆土中位	-	-	-	遺物No.387
138	茶臼	X+12.1 Y+0.2 斜面部 地山面	-	-	-	遺物No.926
139	茶臼	X+6.6 Y+32.9 平場西端部 地山漸移層	-	-	-	遺物No.1257
140	茶臼	X+8 Y+61 覆土中位	-	14.1	10.0	遺物No.1044

第122図 遺構外出土遺物(17)

0 1 3 5cm

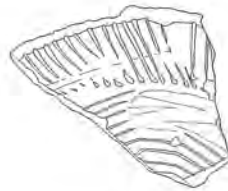


No.	種類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
141	碁石	SK1019付近より西1m 盛土中	1.9	1.9	0.5	2.9	遺物No.405
142	碁石	X-8 Y-19 盛土中	1.6	2.0	0.6	2.8	遺物No.406
143	碁石	X-2 Y+2 盛土下面	1.9	2.2	0.7	4.3	遺物No.408
144	碁石	X+10 Y+10付近 III層(盛土)	1.8	2.2	0.6	3.6	遺物No.409
145	碁石	X+10 Y+10付近 覆土中	1.6	1.8	0.6	2.5	遺物No.410
146	碁石	X+25 Y+5付近 地山面	2.2	2.1	0.8	4.6	遺物No.928
147	碁石	X+25 Y+5付近 地山面	1.7	2.0	0.7	3.3	遺物No.928
148	碁石	X+38.6 Y+18.5 平場 覆土中位	1.6	1.8	0.7	2.8	遺物No.929
149	石製品	X-81.2 Y+25.4付近 斜面部 覆土上面	7.5	5.2	4.1	-	スケッチ遺物No.372
150	石製品	X+13.8 Y+26.2付近	8.4	6.4	1.3	-	遺物No.1249

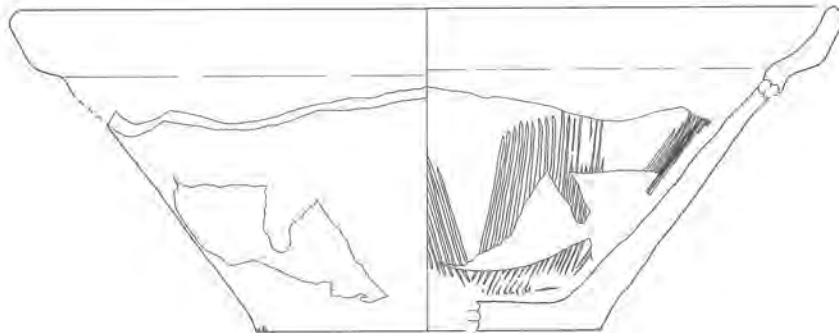
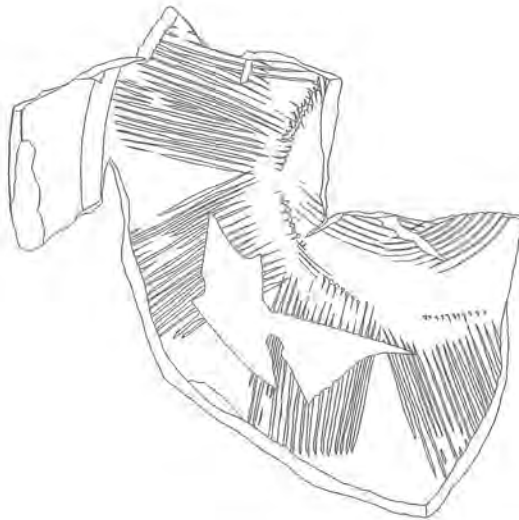
第123図 遺構外出土遺物(18)



151



152

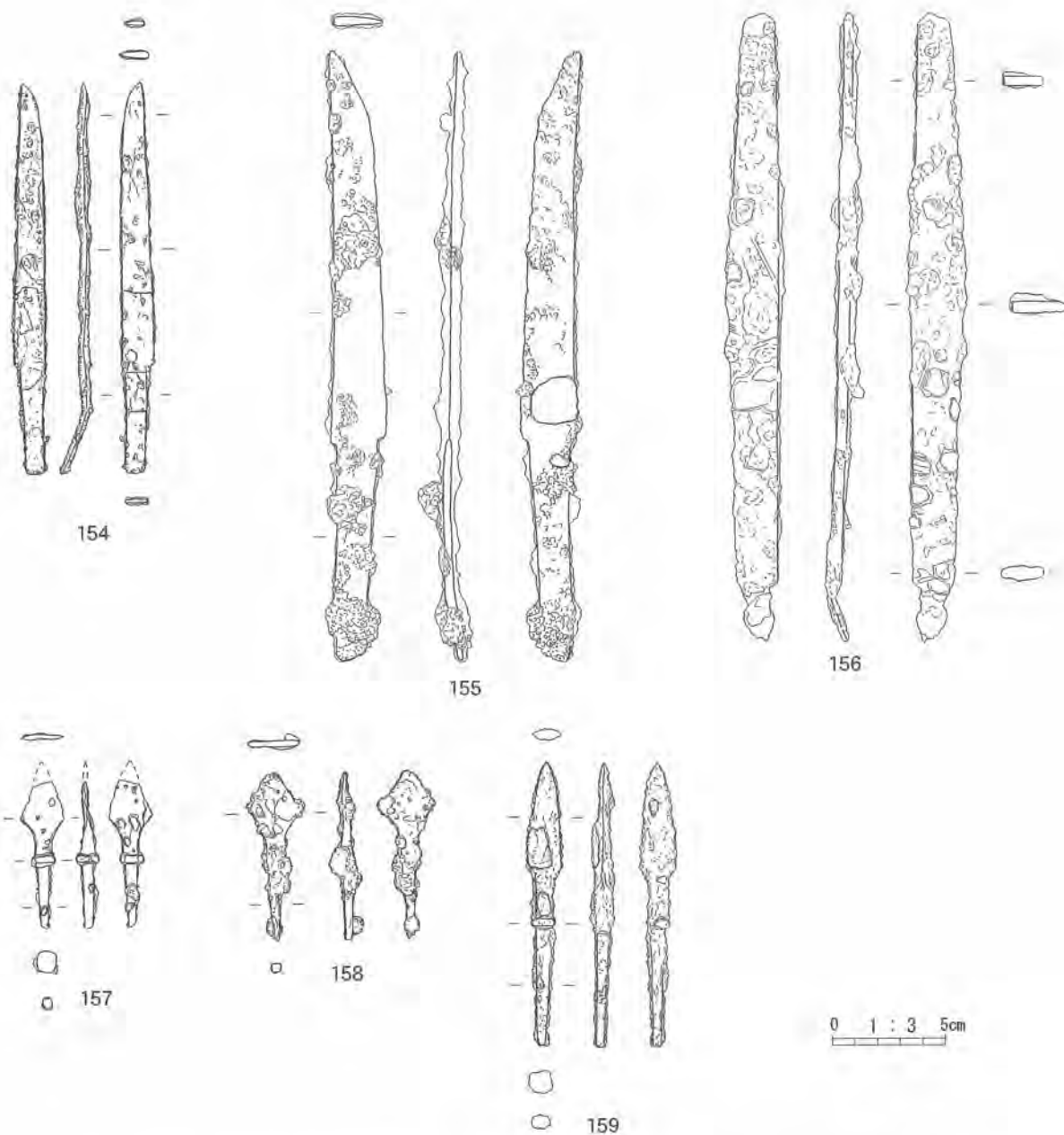


153

0 1 : 3 5cm

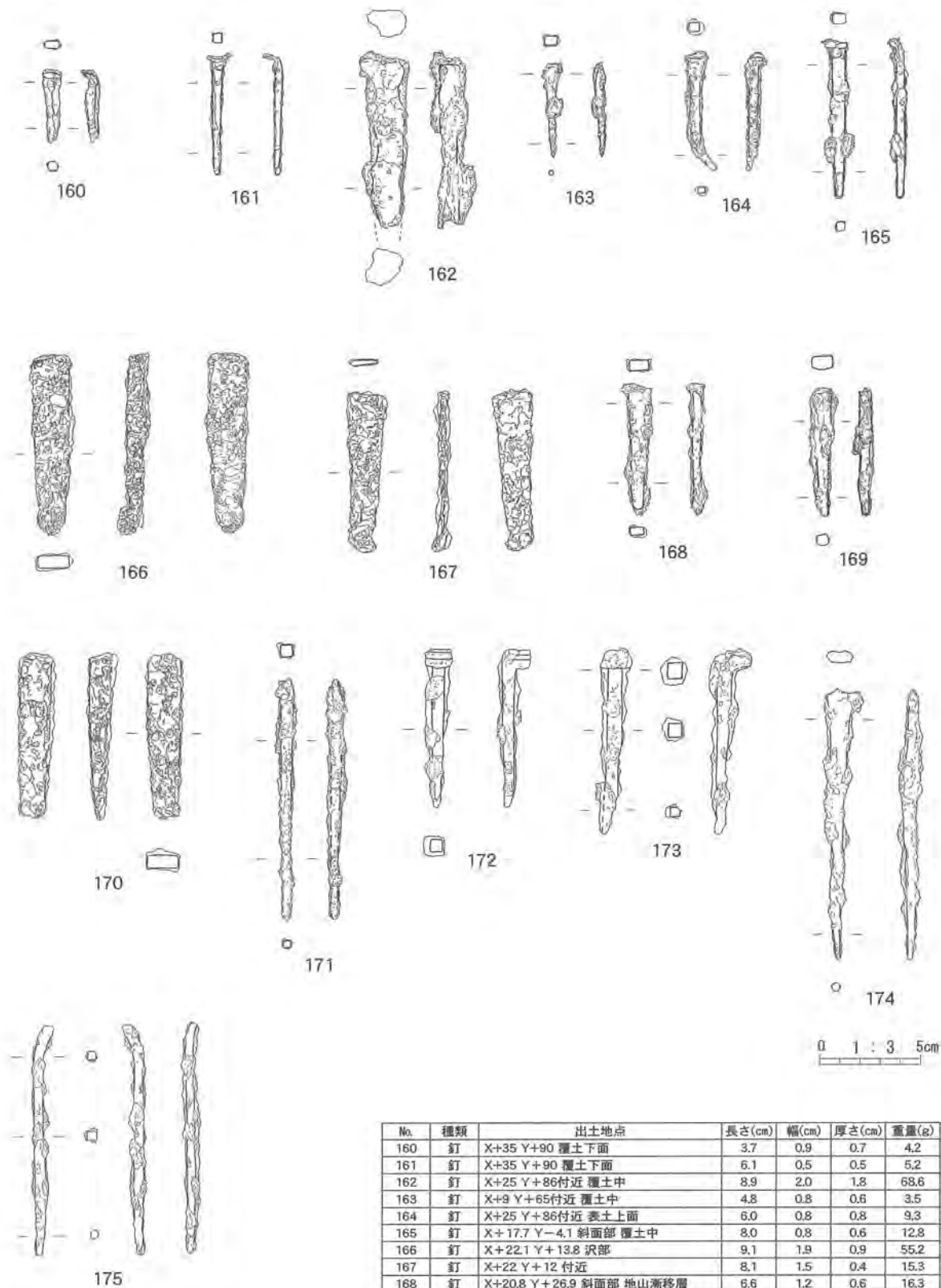
No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
151	火入	X+10 Y+10付近 覆土中	9.9	—	4.1	石製 底部三足 1/4残存 遺物No.402
152	擂鉢	X-18.3 Y+27.6 斜面部 覆土中位	32.2	10.8	—	18世紀前半 遺物No.790
153	擂鉢	X+35.2 Y+13.9 斜面部 覆土上位	—	13.8	13.0	18世紀前半 遺物No.789

第124図 遺構外出土遺物(19)



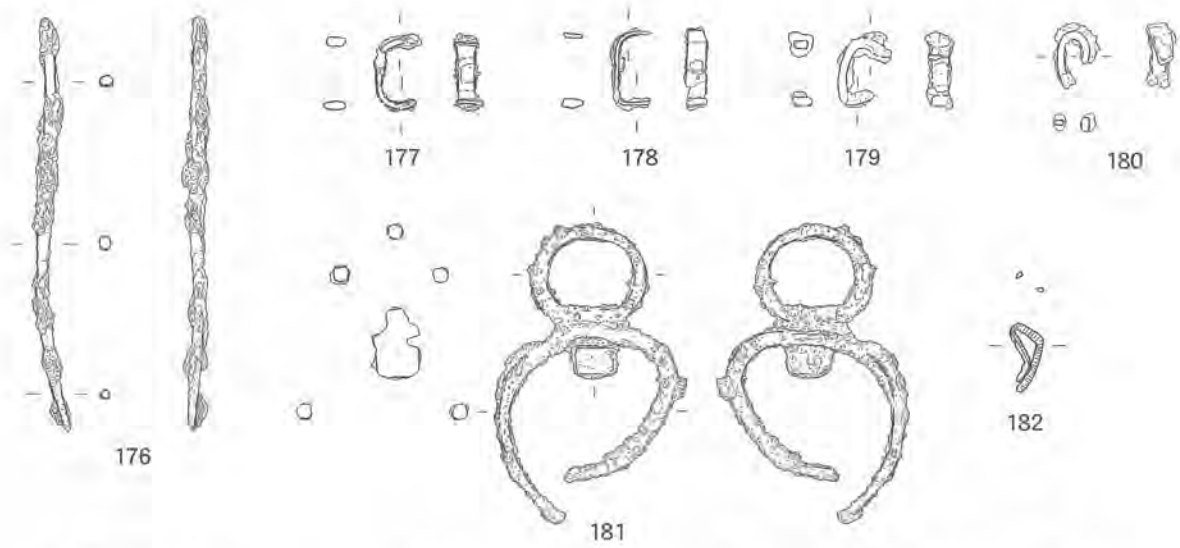
No.	種類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
154	刀子	X+10 Y+63 覆土中	17.5	1.4	0.4	15.3	遺物No.853
155	刀子	X+20 Y+27 斜面部 地山漸移層	27.3	2.3	0.7	115.4	遺物No.875
156	刀子	X+27.9 Y+24.5 平場西端 表土層下位	28.0	2.4	1.0	109.1	遺物No.1279
157	鉄鍬	X+19 Y-3 覆土中	6.6	1.9	0.3	10.0	遺物No.861
158	鉄鍬	X+12 Y+55 斜面部 表土下位	7.6	2.4	0.7	13.1	遺物No.876
159	鉄鍬	X+7.9 Y+28.9 平場西端部 覆土下位	12.8	1.2	0.5	26.6	遺物No.1293

第125図 遺構外出土遺物(20)

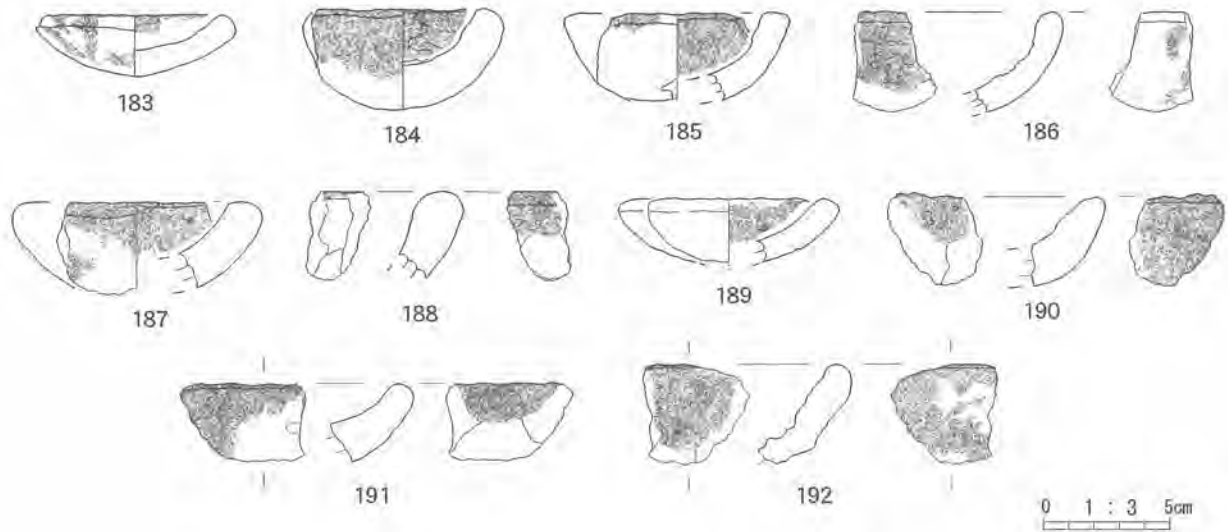


No.	種類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
160	釘	X+35 Y+90 覆土下面	3.7	0.9	0.7	4.2	遺物No.839
161	釘	X+35 Y+90 覆土下面	6.1	0.5	0.5	5.2	遺物No.839
162	釘	X+25 Y+86付近 覆土中	8.9	2.0	1.8	68.6	遺物No.843
163	釘	X+9 Y+65付近 覆土中	4.8	0.8	0.6	3.5	遺物No.848
164	釘	X+25 Y+86付近 表土上面	6.0	0.8	0.8	9.3	遺物No.857
165	釘	X+17.7 Y-4.1 斜面部 覆土中	8.0	0.8	0.6	12.8	遺物No.859
166	釘	X+22.1 Y+13.8 沢部	9.1	1.9	0.9	55.2	遺物No.870
167	釘	X+22 Y+12 付近	8.1	1.5	0.4	15.3	遺物No.873
168	釘	X+20.8 Y+26.9 斜面部 地山漸移層	6.6	1.2	0.6	16.3	遺物No.877
169	釘	X+38.6 Y+18.5 平場 覆土中位	6.5	1.2	0.7	14.4	遺物No.879
170	釘	X-13.4 Y+53.3 斜面部 覆土中位	8.3	1.7	1.1	54.1	遺物No.881
171	釘	X-10.4 Y+56.0 平場 地山漸移層	12.1	0.9	0.8	18.8	遺物No.883
172	釘	X+35.8 Y+22.2 平場 覆土中	7.9	1.1	1.0	17.4	遺物No.1274
173	釘	X+44.8 Y+37.7付近 覆土上位	9.3	1.4	1.4	20.9	遺物No.1287
174	釘	X+5.09 Y32.32 平場西端部 覆土下位	13.6	1.4	0.6	23.0	遺物No.1300
175	釘	X-15.63 Y+31.11 覆土下位	10.6	1.1	0.7	10.0	遺物No.1311

第126図 遺構外出土遺物(21)

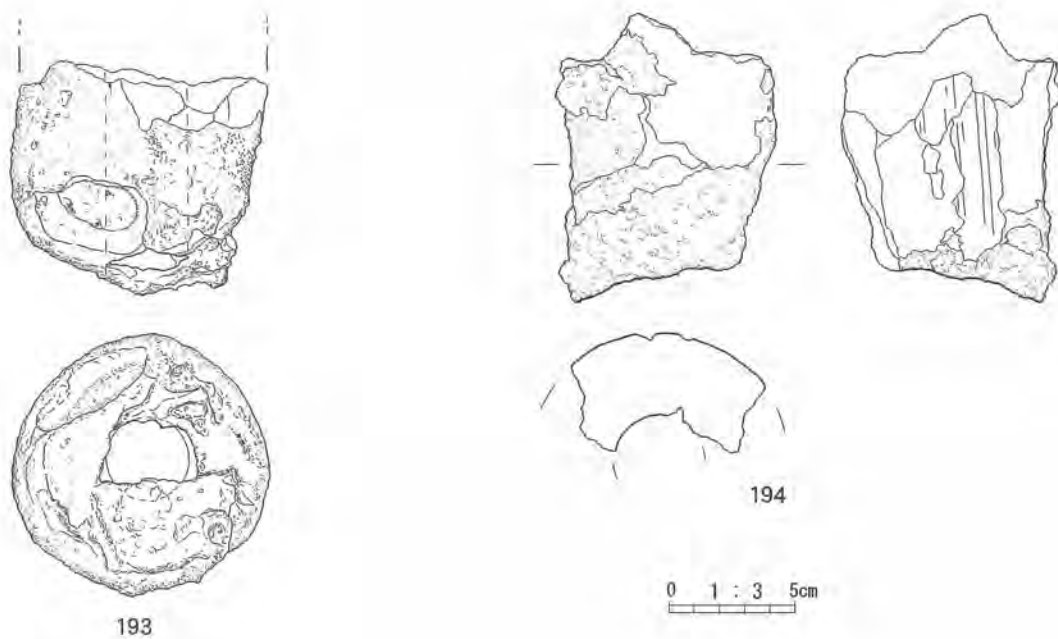


No.	種類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
176	鉄製品	X-5 Y+5付近 覆土中位	16.5	0.6	0.5	15.3	棒状 遺物No.874
177	鉄製品	X-18.4 Y+33.3付近 覆土中位	3.2	0.7	0.4	3.6	遺物No.1190
178	鉄製品	X-18.42 Y+33.29付近 覆土中位	3.3	0.8	0.2	3.4	遺物No.1190
179	鉄製品	X-19.01 Y+33.62 覆土中位	3.1	1.0	1.0	4.7	遺物No.1191
180	鉄製品	X-19.01 Y+33.62 覆土中位	2.6	0.7	0.6	2.9	遺物No.1191
181	鉄製品	X-10.12 Y+56.67 平坦部 覆土下位	12.1	7.7	2.0	82.2	遺物No.1309
182	銅製品	X+5.4 Y28.8 平場西端部 覆土下位	-	-	-	2.0	刻み有り 遺物No.1265



No.	種類	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
183	埴埴	X-16 Y+6 覆土下位	8.0	-	2.5	丸底 遺物No.182
184	埴埴	X+10 Y+10付近 覆土中位	8.0	-	4.1	丸底 遺物No.185
185	埴埴	X+1 Y+10 覆土中位	-	-	-	遺物No.191
186	埴埴	X+12 Y-1 覆土上位	-	-	-	遺物No.196
187	埴埴	廃土中	8.2	-	-	遺物No.197
188	埴埴	X+33.7 Y+23.7 平場 覆土中位	-	-	-	遺物No.1270
189	埴埴	X36.2 Y+18.5 地山面	8.8	-	-	遺物No.1271
190	埴埴	X+1 Y+24 平場西側 覆土中位	-	-	-	遺物No.1272
191	埴埴	X-8 Y-17 地山漸移層	9.4	-	-	遺物No.181
192	埴埴	X+10 Y+10付近 覆土中位	-	-	-	遺物No.190

第127図 遺構外出土遺物(22)



No.	種類	出土地点	内径(cm)	外径(cm)	備考
193	羽口	X+10 Y+63 流入土中	3.3	10.0	残存長9.4cm 遺物No.829
194	羽口	糜土中	3.6	10.3	遺物No.885

第128図 遺構外出土遺物(23)

IV 山口館跡の自然科学分析

山口館跡の考古地磁気調査

秋田大学 工学資源学部 西谷忠師

1. はじめに

山口館跡で検出された製鉄遺構から試料を採集して考古地磁気調査を行なった。この調査は残留磁化方向から年代を推定することを目的としている。

2. 試料について

山口館跡は岩手県宮古市、JR宮古駅から北西約1.5kmの位置にある城館跡である。図1に山口館跡の位置を示す。この遺跡から検出されたSI1035号工房跡から試料を採集した。試料採集地点の経緯度は北緯39° 38' 58.4"、東経141° 56' 32.2"である。この地点における地磁気偏角は-7.655度(西偏)、地磁気伏角は53.31度である。図2にSI1035号工房跡の平面図を示す。図2の試料位置の拡大図を図3に示す。試料は36個採集した。表1に採集試料の一覧を示す。



図1 山口館跡の位置

黒丸で示した点が山口館跡である。2万5千分の1地形図は宮古(5941-37)である。

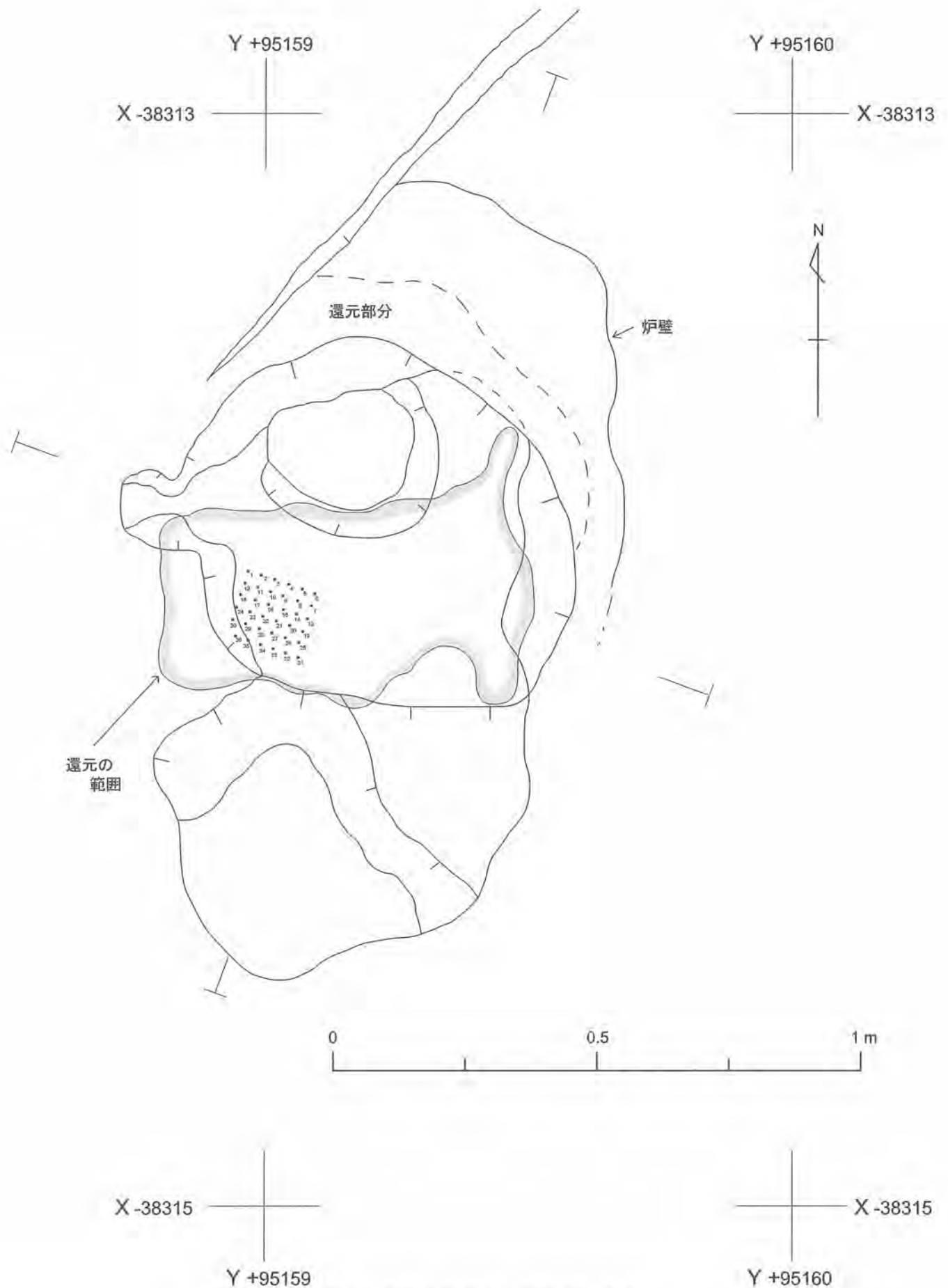


図2 SI1035号工房跡の平面図と試料採集位置

図中に試料番号を示す。試料位置の拡大図は図3である。



図3 SI1035号工房跡から採集した試料の位置

表1 山口館跡 採集試料一覧

遺構名	遺構種類	試料名	緯度 (北緯)	経度 (東経)	試料数	帯磁率 ($\times 10^{-3}$ SI)
山口館跡						
SI1035	工房跡	SN35	39° 38′ 55.42″	141° 56′ 32.18″	36	1.18±0.36

写真1は試料採集前の状況で、写真2はポリカーボネイト製の試料ホルダーを打ち込んだ状態である。



写真1 山口館跡
SI1035号工房跡

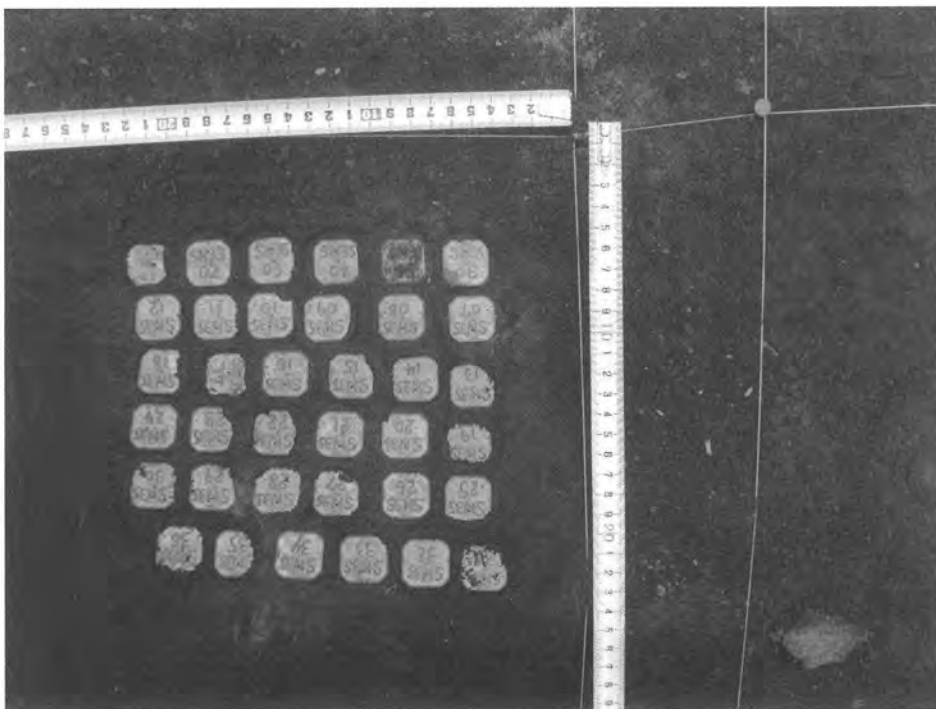


写真2 SI1035号
工房跡試料位置

3. 自然残留磁化の測定

採集した試料のまま、何の処理も行なっていない状態で残留磁化を測定した。この自然残留磁化方向の分布状態を等積投影法で表現したものが図4である。真北基準の値に変換するため、測定された偏角に -7.655 度加えた。試料各々の磁化方向は黒丸で、平均を×印で示してある。95%の確率で真の値が含まれる範囲を楕円で表現した。自然残留磁化の測定結果を表2に示す。表2で示した95%信頼区間は値が小さいほど平均値の信頼性が高く、精密度パラメータは値が大きいほど信頼性が高いことを示す。

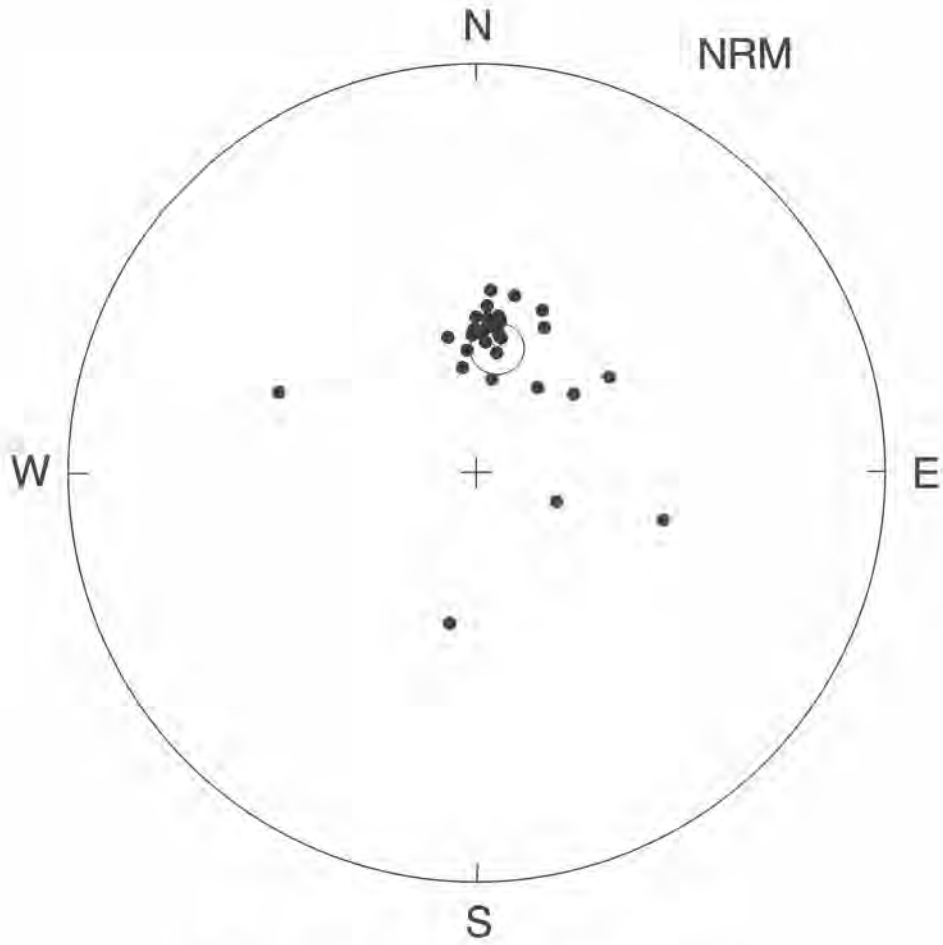


図4 SI1035号工房跡の自然残留磁化分布
黒丸は現在の地球磁場と同じ極性を示す。

表2 自然残留磁化測定結果

試料名	測定 試料数	平均伏角 (度)	平均偏角 (度)	95%信頼区間 (度)	精密度 パラメータ	平均残留磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/cm)
SN35	36	65.18	9.43	5.1	22.7	3.53

4. 交流消磁

自然残留磁化には熱を受けたときに獲得した成分と二次的に獲得した成分が含まれている。熱を受けたときの残留磁化方向を特定するため、二次磁化成分を除去する必要がある。この操作が交流消磁である。試料6個ごとに1つの割合で細かなステップで段階交流消磁を行なう。図5はSI1035試料04と09の段階交流消磁の結果である。黒丸が残留磁化方向を水平面に投影したもの、白丸が垂直面に投影したものである。NRMと表示してある位置から交流磁場が大きくなるにつれて磁化方向が変化する様子が表示されている。試料04、09共にほぼ直線的に原点へと向かって減少している。よって、これらの試料には二次磁化成分が含まれていないことが分かる。図6はSI1035試料15、21、27、33の段階交流消磁の結果である。試料15と21は04や09と同様、直線的に原点に向かう減少傾向が見られる。試料27と33は、3mTの交流磁場で減少傾向に変化が見られる。3mTより強い交流磁場で磁化成分は原点に向かって減少しているため、3mTの磁場で二次磁化成分が消去されていることがわかる。この傾向をふまえて、3mTで全ての試料に対して交流消磁を行なった。

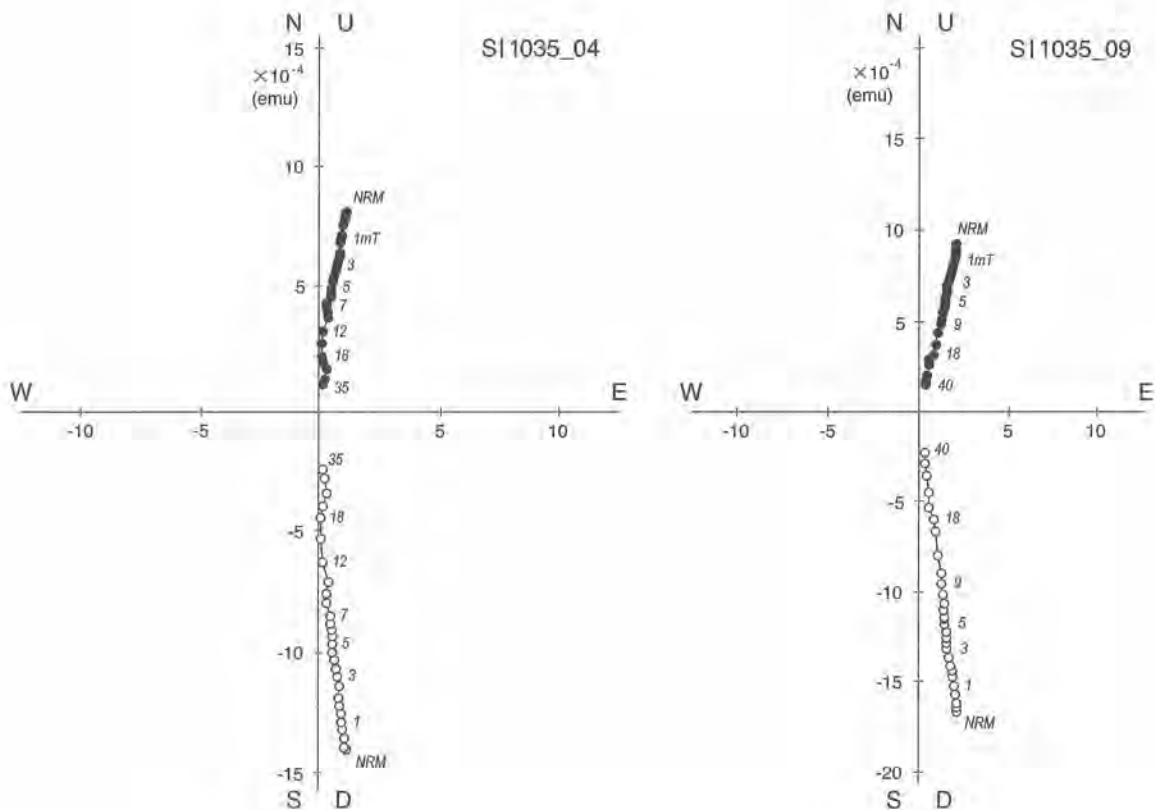


図5 SI1035号工房跡試料04、09の段階交流消磁

黒丸が水平面投影(NS-EW)、白丸が垂直面投影(UD-EW)である。

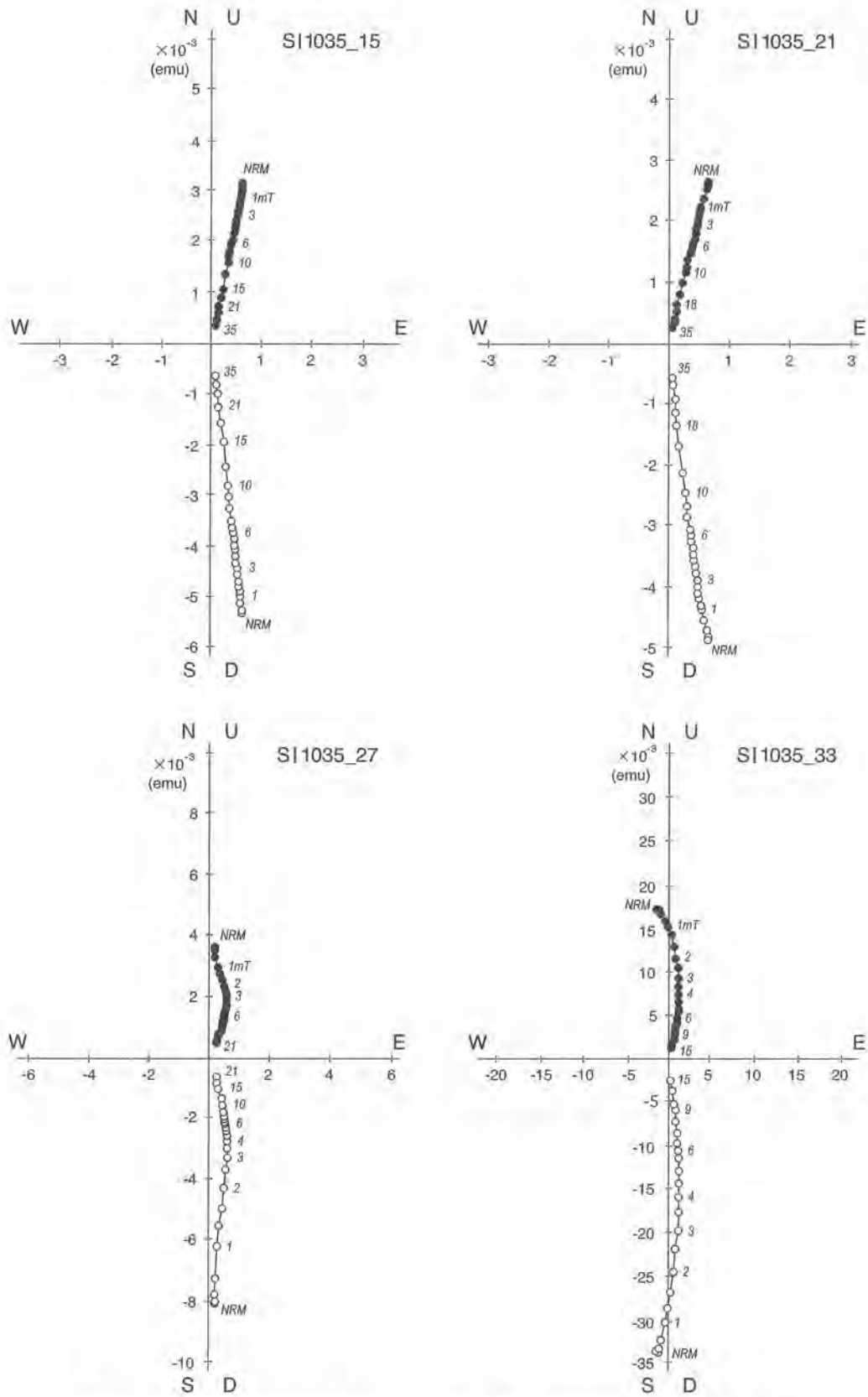


図6 SI1035号工房跡の試料15、21、27、33に対する段階交流消磁

5. 二次磁化成分消去後の磁化方向

最適消磁磁場で交流消磁を実行した後の磁化方向は最後に加熱された時の地磁気方向を示しているはずである。しかし、サンプルホルダーの挿入時の誤差や砂レキの影響で磁化方向が乱されている場合がある。明らかに平均にふさわしくないと判断されるデータを取り除いて平均を求めたのが表3である。残留磁化分布と平均を図7に示す。

表3 交流消磁後の平均磁化方向

試料名	最適消磁 磁場(mT)	平均 試料数	平均伏角 (度)	平均偏角 (度)	95%信頼 区間(度)	精密度 パラメータ	平均磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/cm)
SI1035	3	24	61.49	4.10	1.1	676.8	2.49

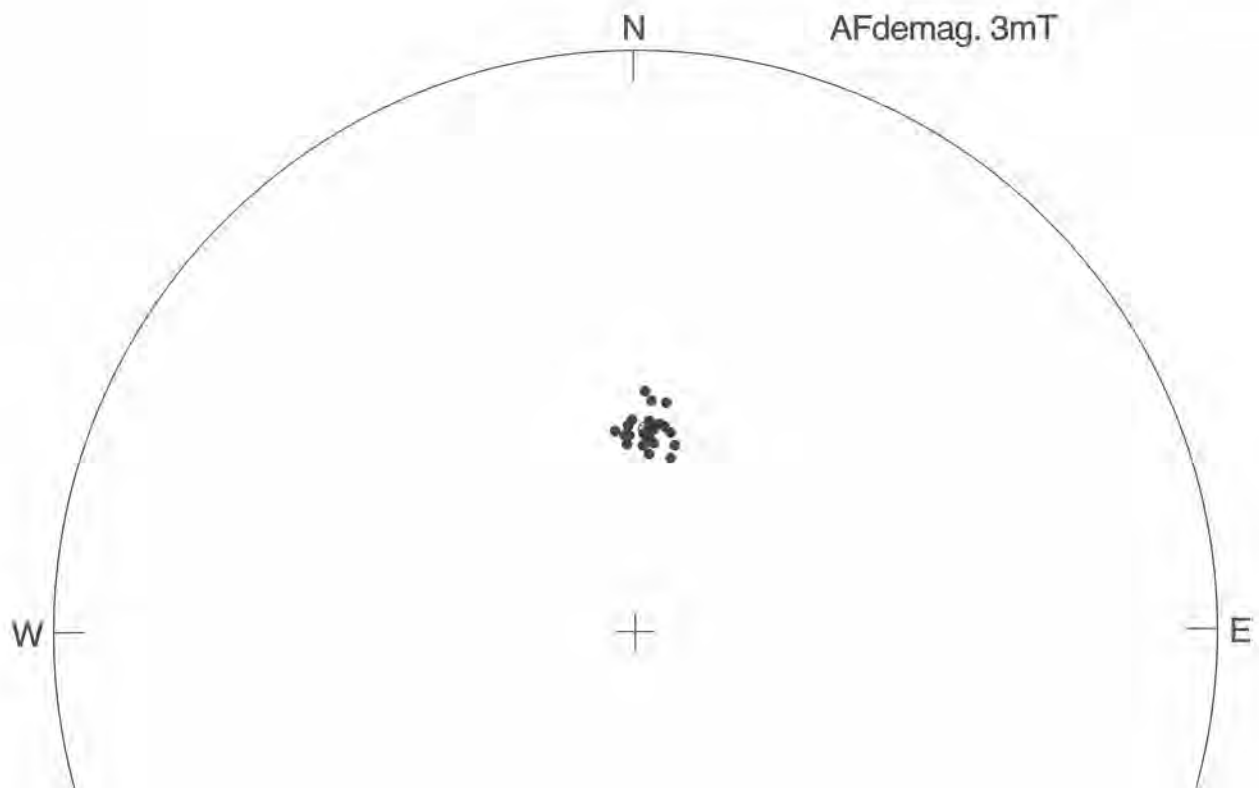


図7 SI1035号工房跡交流消磁後の磁化分布

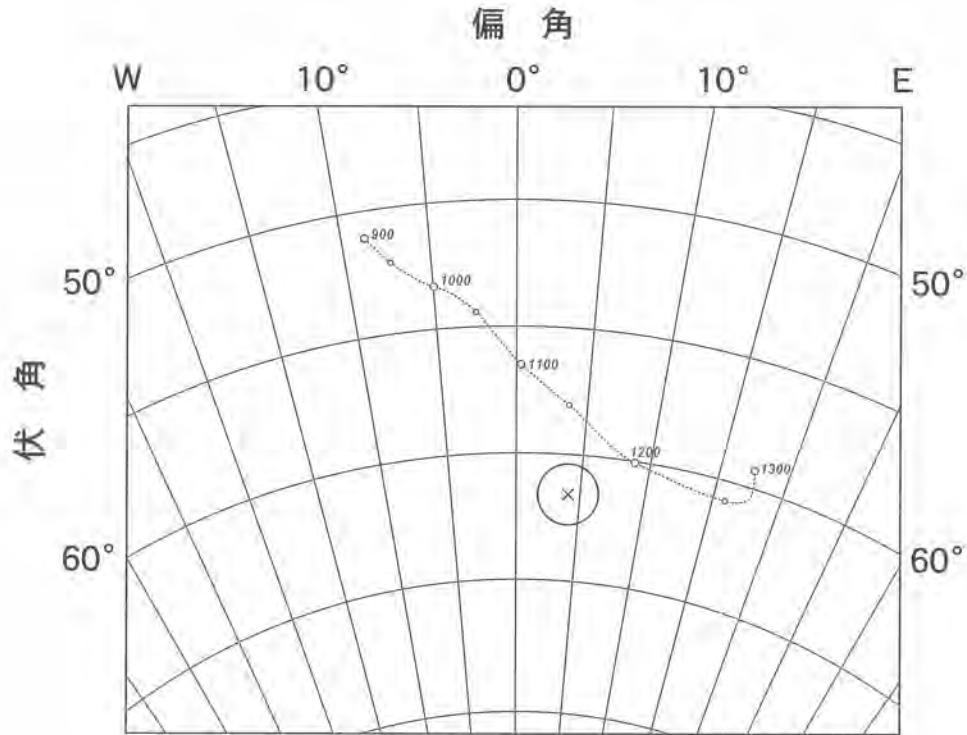


図8 地磁気永年変化とSI1035号工房跡の平均磁化方向
 ×印は平均磁化方向、楕円は95%信頼区間である。点線で地磁気永年変化と年代を示した。

6. 年代の推定

平均の残留磁化方向と地磁気永年変化を比較して年代の推定を行なう。図8は交流消磁後の平均磁化方向および95%信頼区間と山口館跡に変換した地磁気永年変化を同時に示したものである。地磁気永年変化の地域差は現在と同じであると仮定した。誤差の範囲を考慮して年代を推定すると、SI1035号工房跡は1185±15年と得られる。

表4 残留磁気から推定した年代

遺構名	考古地磁気推定年代
山口館跡 SI1035号工房跡	1185±15 A.D.

山口館跡ならびに近内中村遺跡の熱残留磁気調査

秋田大学 工学資源学部 西谷忠師

1. はじめに

山口館跡および近内中村遺跡で検出された焼土遺構、炉、鍛冶炉跡から試料を採集して考古地磁気調査を行なった。この調査は熱残留磁気の方向から年代を推定することを目的としている。

2. 試料について

山口館跡は岩手県宮古市、JR宮古駅から北西約1.6kmの位置にある城館跡である。近内中村遺跡はこの山口館跡から西方約2.3kmに位置している。図1に山口館跡および近内中村遺跡の位置を示す。これらの遺跡から試料を採集した。表1に採集試料の一覧を示す。この表の座標値は日本測地系(10系)に従っている。この地点における現在の地磁気偏角、地磁気伏角の値も示した。世界測地系(10系)に従った平面直角座標及び緯度経度の値を表2に対比して示してある。

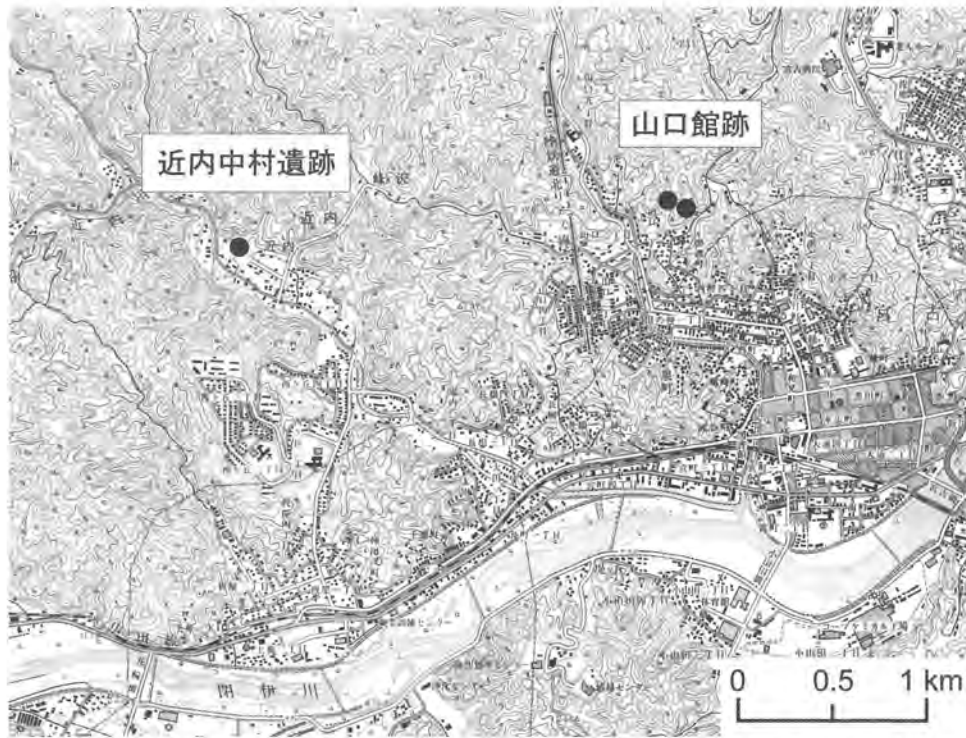


図1 山口館跡と近内中村遺跡の位置

表1 山口館跡および近内中村遺跡採集試料一覧

遺構名	種類	X(m)	Y(m)	緯度(度)	経度(度)	地磁気伏角(度)	地磁気偏角(度)	試料数(個)
山口館跡								
SN1100	焼土遺構	-38,291.500	+95,133.500	N39.649766	E141.941978	53.312154	-7.654895	24
SN1103	焼土遺構	-38,291.160	+95,139.120	N39.649768	E141.942043	53.312153	-7.654881	24
SI1209	炉	-38,293.500	+95,133.500	N39.649748	E141.941978	53.312134	-7.654888	24
SN1071	鍛冶炉跡	-38,283.250	+95,213.650	N39.649831	E141.942913	53.312169	-7.654710	24
SN1098	焼土遺構	-38,288.880	+95,129.850	N39.649790	E141.941936	53.312183	-7.654913	24
近内中村遺跡								
第377号	竪穴住居地床炉	-38,563.200	+92,855.450	N39.647569	E141.915397	53.311366	-7.659996	24

(注)日本測地系(10系)表示による

表2 日本測地系(Bessel楕円体)と世界測地系(GRS-80楕円体)による位置表示 (第10系)

遺構名	種類	日本測地系 X(m)	Y(m)	緯度(北緯)	経度(東経)
		世界測地系 X(m)	Y(m)	緯度(北緯)	経度(東経)
山口館跡					
SN1100A	焼土遺構	-38,291.500	+95,133.500	39° 38' 59.1574"	141° 56' 31.1201"
		-37,984.1302	+94,833.2239	39° 39' 09.38147"	141° 56' 18.20805"
SN1103	焼土遺構	-38,291.160	+95,139.120	39° 38' 59.1662"	141° 56' 31.3560"
		-37,983.7902	+94,838.8438	39° 39' 09.39025"	141° 56' 18.44394"
SII209	炉	-38,293.500	+95,133.500	39° 38' 59.0925"	141° 56' 31.1191"
		-37,986.1301	+94,833.2239	39° 39' 09.31663"	141° 56' 18.20702"
SN1071	鍛冶炉跡	-38,283.250	+95,213.650	39° 38' 59.3928"	141° 56' 34.4863"
SN1098	焼土遺構	-37,975.8807	+94,913.3734	39° 39' 09.61693"	141° 56' 21.57396"
		-38,288.880	+95,129.850	39° 38' 59.2438"	141° 56' 30.9684"
		-37,981.5102	+94,829.5740	39° 39' 09.46787"	141° 56' 18.05632"
近内中村遺跡					
第377号	竪穴住居地床炉	-38,563.200	+92,855.450	39° 38' 51.2487"	141° 54' 55.4283"
		-38,255.8219	+92,555.1919	39° 39' 01.47095"	141° 54' 42.52492"

試料採集現場での作業を、近内中村遺跡第377号竪穴住居地床炉での例を示す。写真1～写真5に手順を示す。走向角と傾斜角は測定値を変換するときに必要な数値である。写真6はポリカーボネイト製の試料ホルダーを打ち込んだ状態である。写真7～写真18は山口館跡の各遺構での試料採集時の写真である。



写真1 傾斜角を測れるように整地する



写真2 水平線と北方向とのなす角（走向）を測定する



写真3 傾斜角を測定する
走向角と傾斜角は測定時に使用する



写真4 試料打ち込み用ガイドをセット



写真5 木槌でホルダーを打ち込む



写真6 近内中村遺跡 第377号 竪穴住居地床炉
試料ホルダーを打ち込んだ状態



写真7 山口館跡 SN1100A焼土遺構
試料ホルダーを打ち込んだ状態

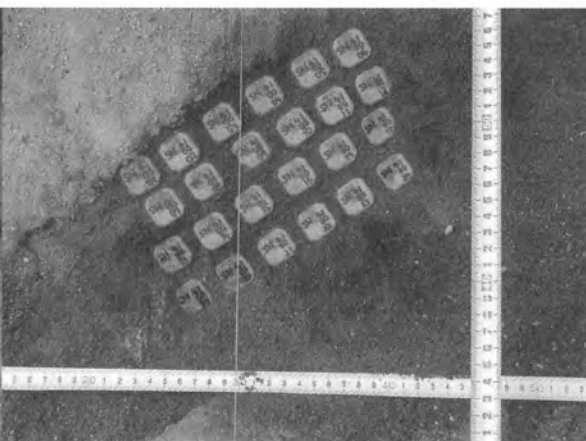


写真8 SN1100A焼土遺構
試料ホルダーには遺構名と番号を書く



写真9 SN1103焼土遺構

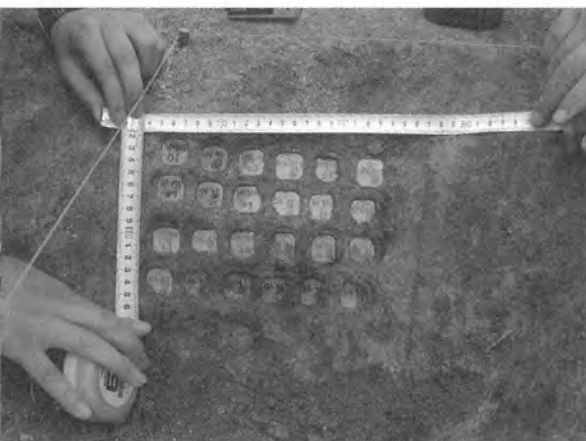


写真10 SN1103焼土遺構

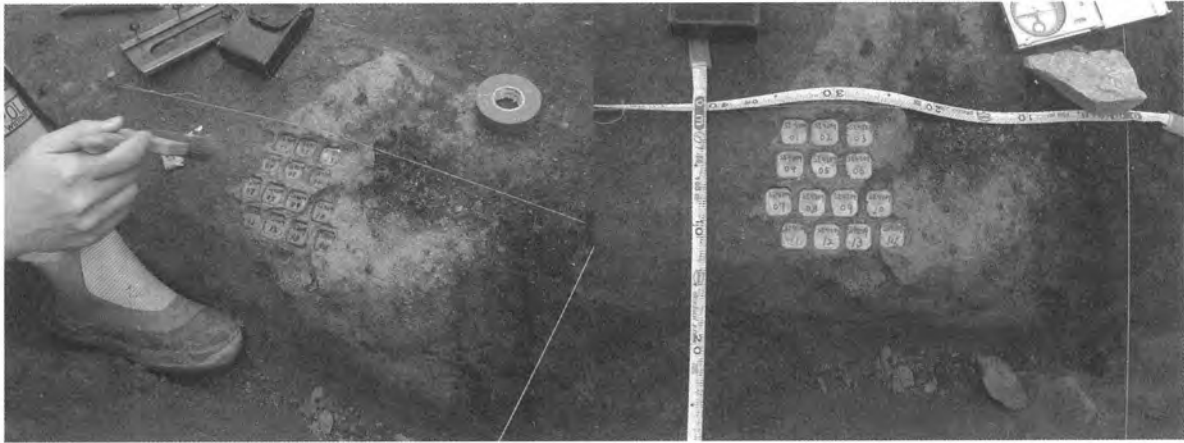


写真11 SI1209炉
試料No.1～No.14まで先に採集した

写真12 SI1209炉
これらの試料を取り上げてから次の作業に入る



写真13 SI1209炉
次に試料No.15～No.24まで採集する

写真14 SI1209炉



写真15 SN1071鍛冶炉跡

写真16 SN1071鍛冶炉跡

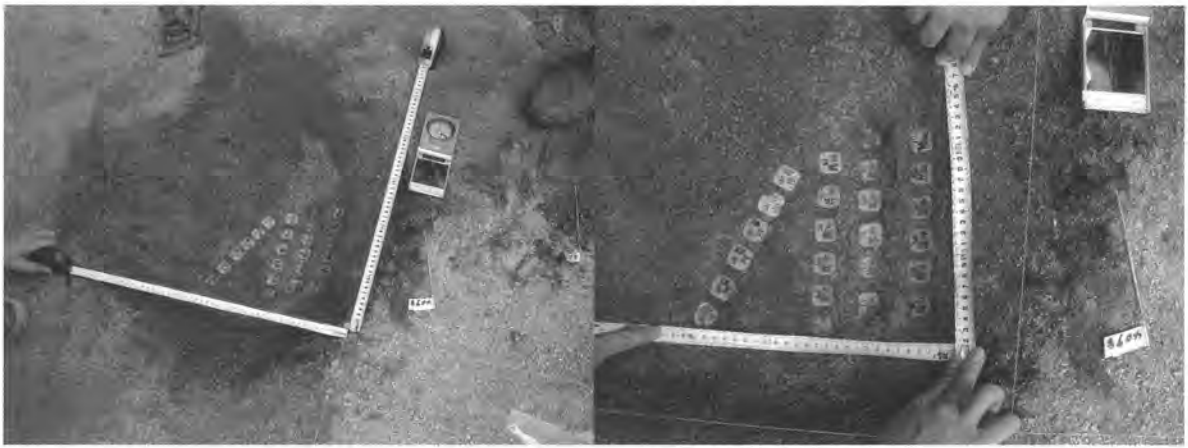


写真17 SN1098焼土遺構

写真18 SN1098焼土遺構

3. 自然残留磁化の測定

試料採集の後、何の処理も行っていない状態で残留磁化（自然残留磁化）を測定した。この自然残留磁化方向の分布状態を等積投影法で表現したものが図2～図3である。図2は近内中村遺跡、図3は山口館跡の自然残留磁化結果である。真北基準の値に変換するため、試料採集地点における現在の真北方向に対する地磁気偏角方向を、測定した偏角に加えた。試料各々の磁化方向は黒丸で、平均を×印で示してある。95%の確率で真の値が含まれる範囲を楕円で表現した。自然残留磁化の測定結果を表3に示す。表3で示した95%信頼区間は値が小さいほど平均値の信頼性が高く、精密度パラメータは値が大きいほど信頼性が高いことを示す。

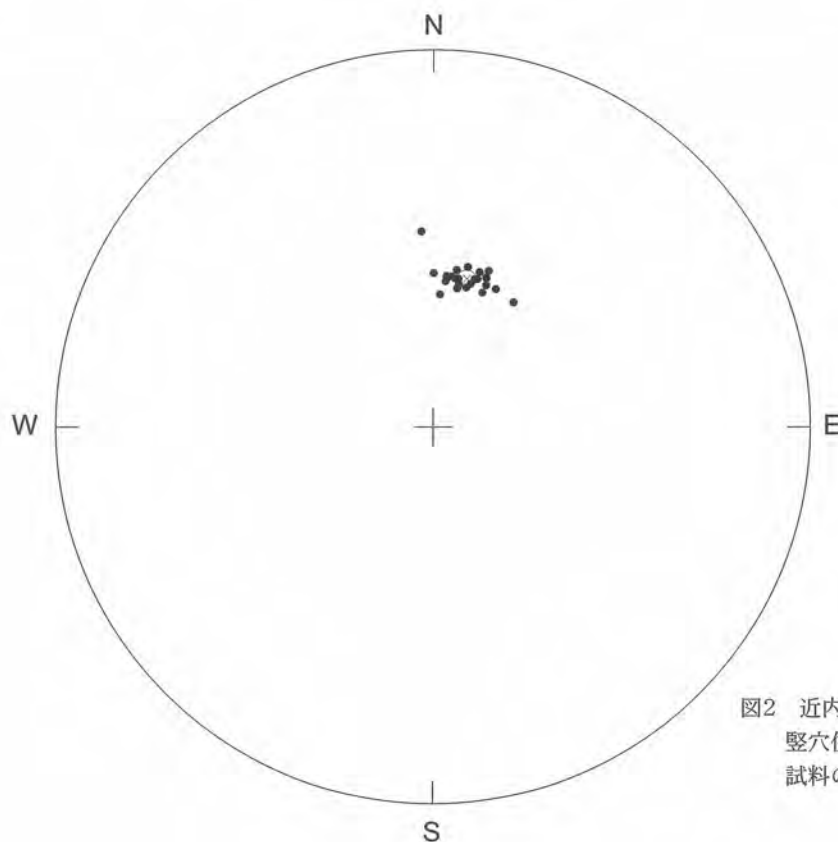


図2 近内中村遺跡 第377号
 竪穴住居地床炉から採集した
 試料の自然残留磁化分布

表3 自然残留磁化測定結果一覧

遺構名	種類	試料数	平均伏角(度)	平均偏角(度)	補正後の伏角(度)	95%信頼区間(度)	精密度パラメータ
山口館跡							
SN1100A	焼土遺構	24	54.544	11.474	3.820	2.209	180.30
SN1103	焼土遺構	24	54.718	13.583	5.928	1.387	455.76
SI1209	炉	24	53.442	17.840	10.185	8.687	12.58
SN1071	鍛冶炉跡	24	48.726	1.827	-5.827	5.764	27.33
SN1098	焼土遺構	24	48.978	10.549	2.894	1.412	440.16
近内中村遺跡							
第377号	竪穴住居地床炉	24	56.886	20.419	12.759	1.941	233.41

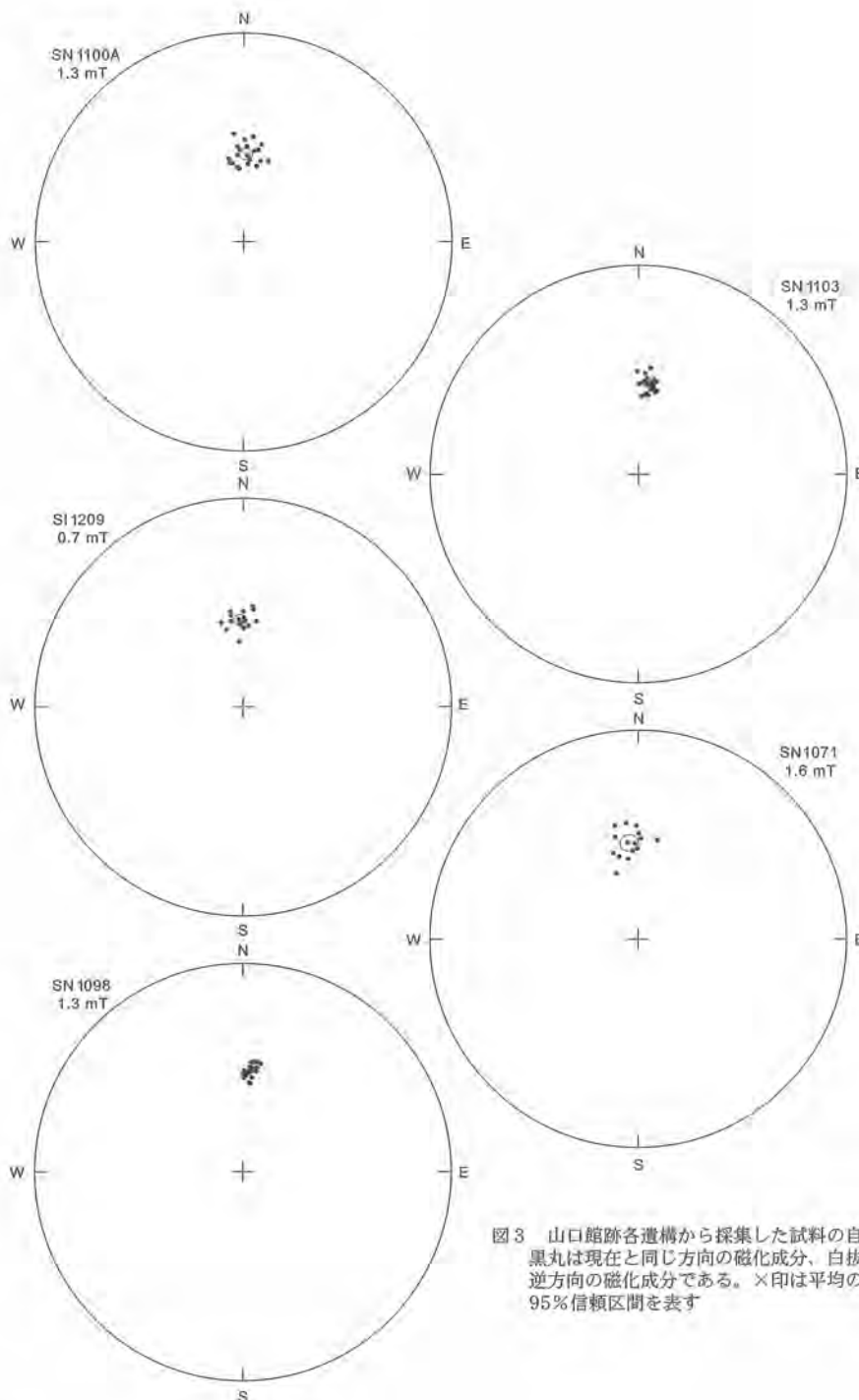


図3 山口館跡各遺構から採集した試料の自然残留磁化分布
 黒丸は現在と同じ方向の磁化成分、白抜き丸は現在と逆方向の磁化成分である。×印は平均の位置を、楕円は95%信頼区間を表す

4. 交流消磁

自然残留磁化には熱を受けたときに獲得した成分と二次的に獲得した成分が含まれている。熱を受けたときの残留磁化方向を特定するため、二次磁化成分を除去する必要がある。この操作が交流消磁である。試料6個ごとに1つの割合で細かなステップで段階交流消磁を行なう。図4は近内中村遺跡第377号竪穴住居地床炉試料04の段階交流消磁の結果である。NS-WEが残留磁化方向を水平面に投影したもの、UD-WEが垂直面に投影したものである。NRMと表示してある位置から交流磁場が大きくなるにつれて磁化方向が変化する様子が表示されている。試料04の場合、0.7mT以上の交流磁場に対してほぼ直線的に原点へと向かって減少している。よって、この試料には0.7mTで交流消磁すれば、二次磁化成分が除去できることが分かる。山口館跡SN1100A、SN1103、SI1209、SN1071、SN1098から代表的な試料を選んで段階交流消磁を行った結果が図5と図6である。図4と同様に直線的に原点に向かう減少傾向が見られる。磁化方向のまとめ具合も判断して最適交流磁場を決定し、この磁場ですべての試料の交流消磁を行った。

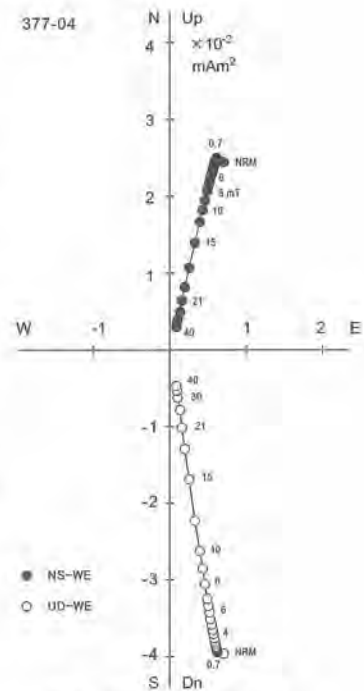


図4 近内中村遺跡第377号
竪穴住居地床炉 試料04に
対する段階交流消磁

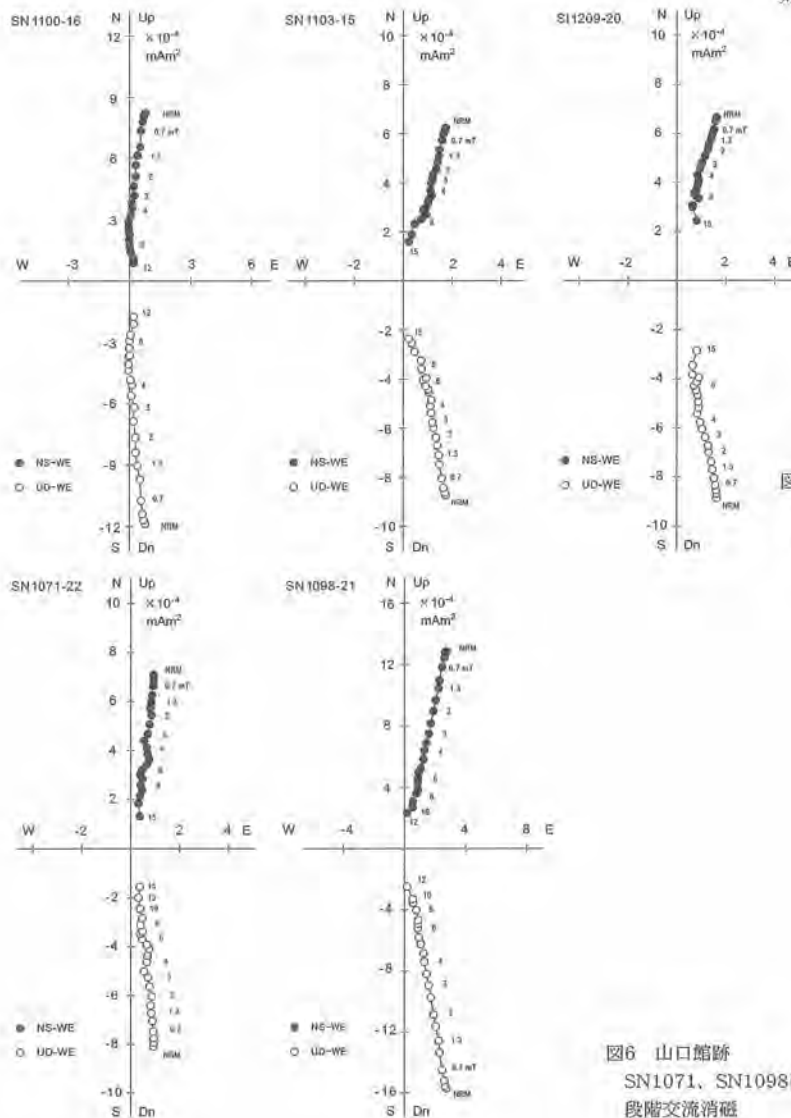


図5 山口館跡
SN1100A、SN1103、SI1209
に対する段階交流消磁

図6 山口館跡
SN1071、SN1098に対する
段階交流消磁

5. 二次磁化成分消去後の磁化方向

最適消磁磁場で交流消磁を実行した後の磁化方向は最後に加熱された時の地磁気方向を示しているはずである。しかし、サンプルホルダーの挿入時の誤差や砂レキの影響で磁化方向が乱されている場合がある。明らかに平均にふさわしくないと判断されるデータを取り除いて平均を求めた。近内中村遺跡試料に対して交流消磁を行った後の磁化分布と平均を示したものが図7である。山口館跡の試料に対する交流消磁の結果が図8である。

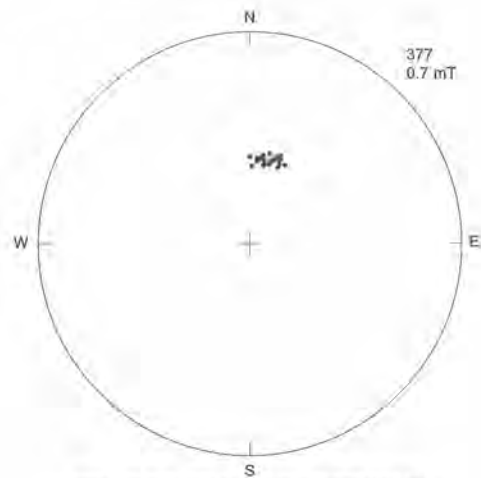


図7 交流消磁後の近内中村遺跡第377号
竪穴住居地床炉試料の磁化分布

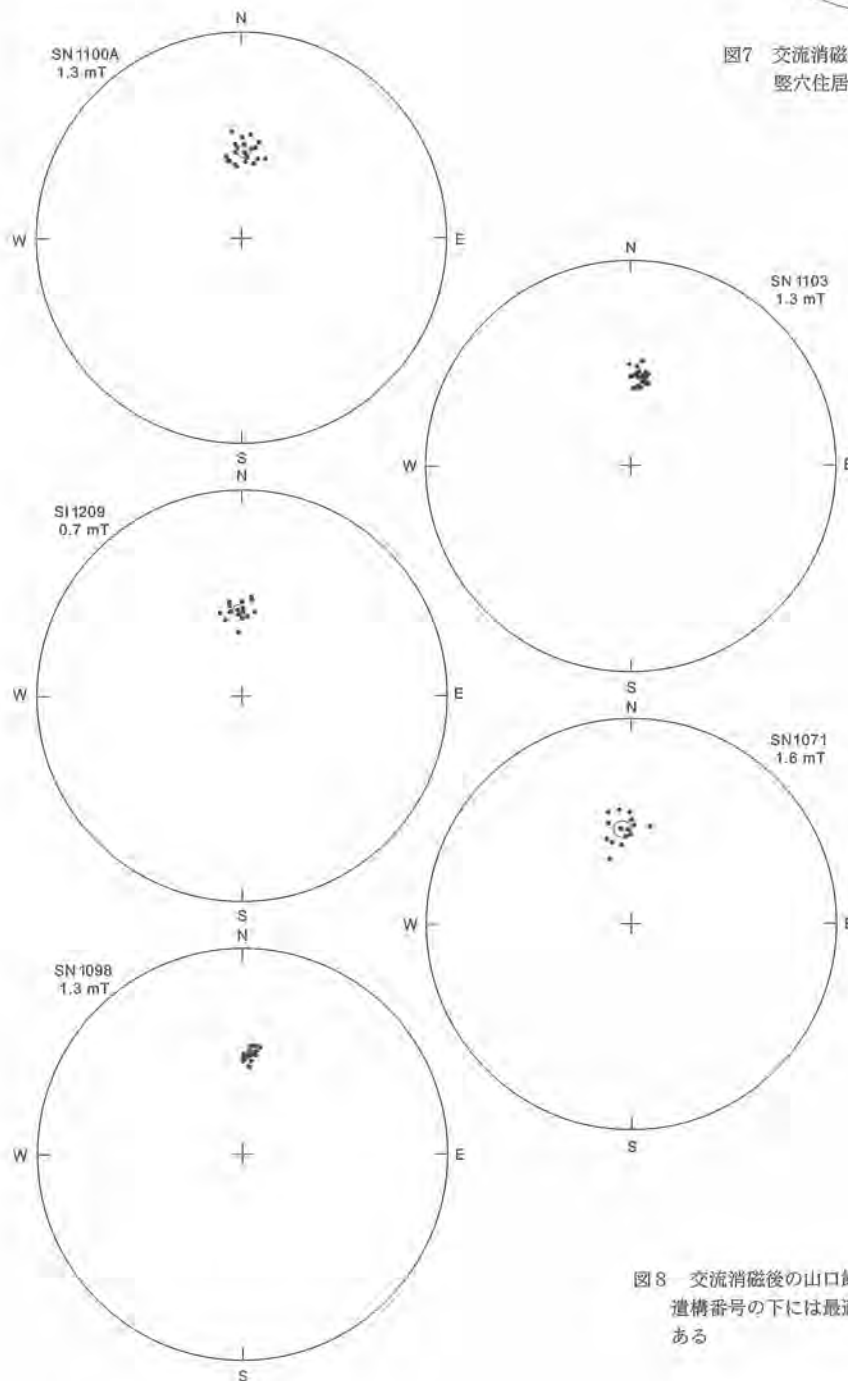


図8 交流消磁後の山口館跡試料の磁化分布
遺構番号の下には最適消磁磁場が示して
ある

6. 年代の推定

平均の残留磁化方向と地磁気永年変化を比較して年代の推定を行なう。図9は近内中村遺跡第377号竪穴住居地床炉の交流消磁後の平均磁化方向および95%信頼区間を示したものである。同時に近内中村遺跡に変換した地磁気永年変化を示してある。ここで、地磁気永年変化の地域差は現在と同じであると仮定した。誤差の範囲を考慮して年代を推定すると、第377号竪穴住居地床炉は 4500 ± 20 B.P.と考えられる。同様に山口館跡の各遺構試料に対しては図10に示した。推定年代を表4に示す。

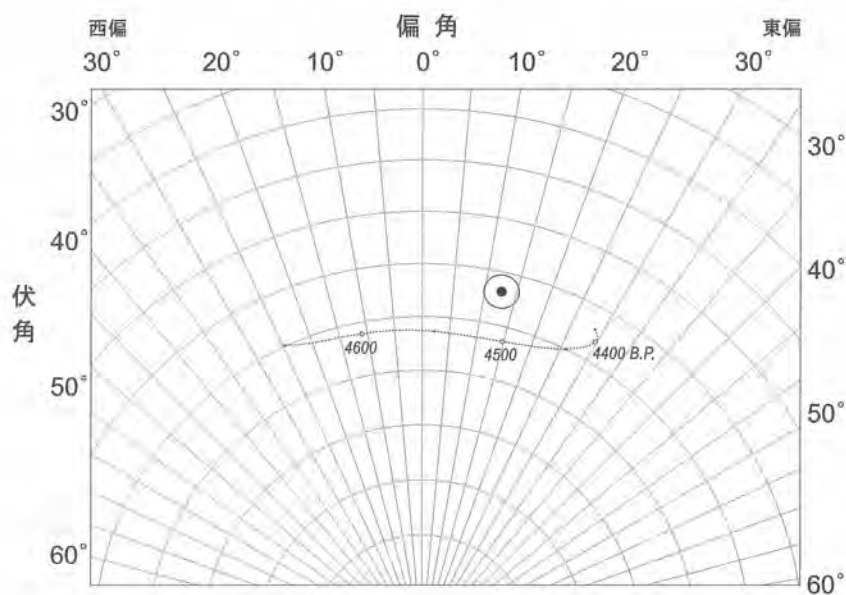


図9 近内中村遺跡第377号竪穴住居地床炉の残留磁化平均方向と地磁気永年変化曲線

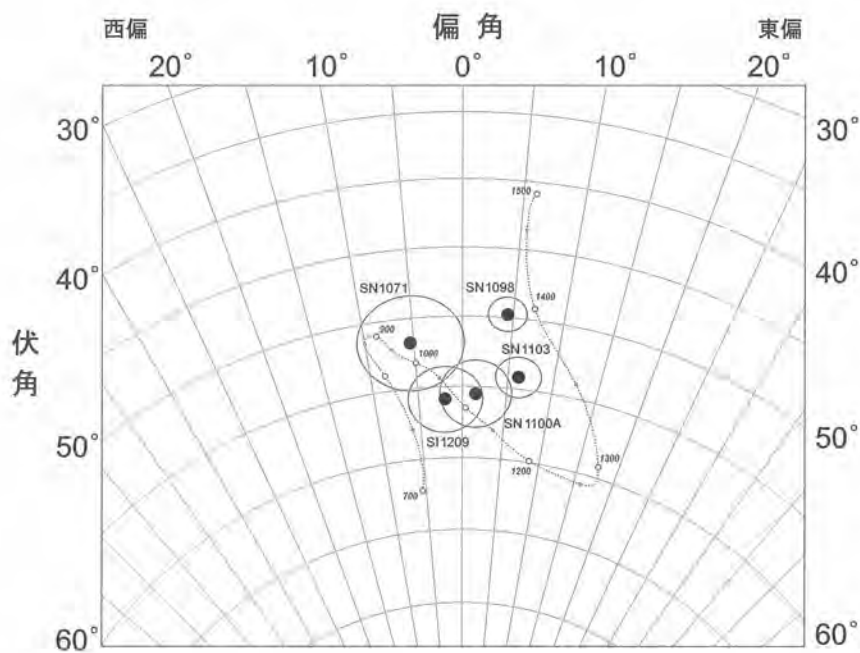


図10 山口館跡の各遺構の残留磁化平均方向と地磁気永年変化曲線

表4 測定結果一覧

遺構名種類	最適消磁磁場(mT)	平均数	平均伏角(度)	平均偏角(度)	補正後の偏角(度)	95%信頼区間(度)	精密度パラメータ	推定年代
山口館跡								
SN1100A 焼土遺構	1.3	21	55.515	9.172	1.517	2.343	185.0	1100±50 A.D.
SN1103 焼土遺構	1.3	24	54.162	13.816	6.161	1.462	410.5	1130±40 A.D. または 1370±20 A.D.
SI1209 炉	0.7	16	55.879	5.700	-1.955	2.369	243.5	1075±50 A.D.
SN1071 鍛冶炉跡	1.6	15	51.739	2.307	-5.348	3.436	124.8	980±80 A.D.
SN1098 焼土遺構	1.3	22	49.768	12.077	4.422	1.236	630.2	1050±40 A.D. または 1400±20 A.D.
近内中村遺跡								
第377号 竪穴住居地床炉	0.7	22	56.833	20.324	12.664	1.552	400.1	4500±20 B.P.

山口館跡の熱残留磁気調査

秋田大学 工学資源学部 西谷忠師

1. はじめに

山口館跡で検出された炉から試料を採集して考古地磁気調査を行なった。この調査は熱残留磁気の方
向から年代を推定することを目的としている。

2. 試料について

山口館跡は岩手県宮古市、JR宮古駅から北西約1.6kmの位置にある城館跡である。図1に山口館跡の位
置を示す。この遺跡から試料を採集した。試料採集位置を図2に示す。表1に採集試料の一覧を示す。こ
の表の座標値は日本測地系(10系)に従っている。この地点における現在の地磁気偏角、地磁気伏角の値
も示した。世界測地系(10系)に従った平面直角座標及び緯度経度の値を表2に対比して示してある。

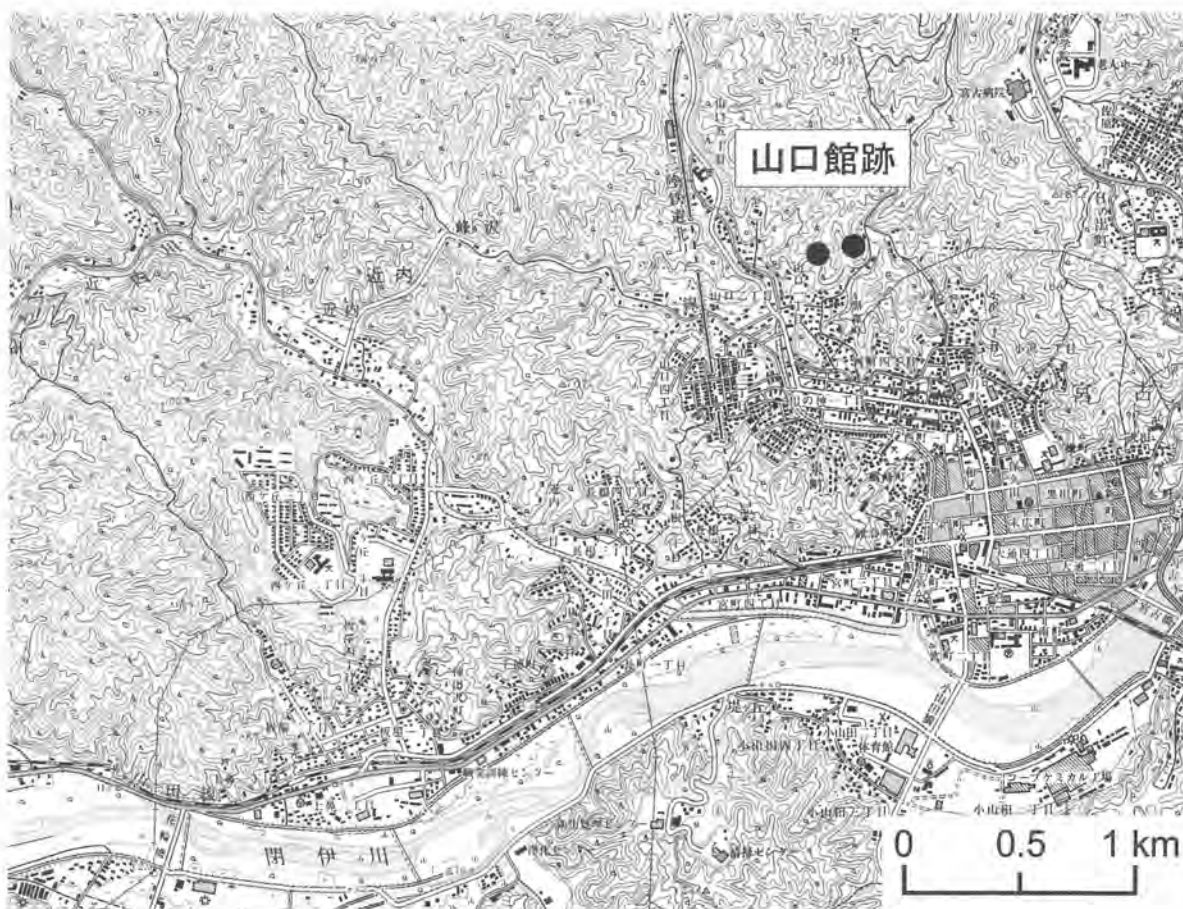


図1 山口館跡の位置

表1 採集試料一覧

遺構名	種類	X(m)	Y(m)	緯度(度)	経度(度)	地磁気 伏角(度)	地磁気 偏角(度)	試料数
SI1318	SN1	-38,290.300	+95,178.490	N39.649772	E141.942502	53.3121	-7.6548	24
SI1318	SN5	-38,291.720	+95,179.190	N39.649759	E141.942510	53.3121	-7.6548	24
SI1483	SN1	-38,305.080	+95,185.545	N39.649638	E141.942582	53.3120	-7.6547	24

(注)日本測地系(10系)表示による

表2 日本測地系(Bessel楕円体)と世界測地系(GRS-80楕円体)による位置表示 (第10系)

遺構名	種類	日本測地系 X(m)	Y(m)	緯度(北緯)	経度(東経)
		世界測地系 X(m)	Y(m)	緯度(北緯)	経度(東経)
SI1318	SN1	-38,290.300	+95,178.490	39° 38' 59.1783"	141° 56' 33.0079"
		-37,982.9304	+94,873.213	39° 39' 09.40241"	141° 56' 20.09563"
SI1318	SN5	-38,291.720	+95,179.190	39° 38' 59.1320"	141° 56' 33.0365"
		-37,984.3501	+94,878.9135	39° 39' 09.35610"	141° 56' 20.12426"
SI1483	SN1	-38,305.080	+95,185.545	39° 38' 58.6962"	141° 56' 33.2961"
		-37,997.7105	+94,885.2680	39° 39' 08.92040"	141° 56' 20.38388"

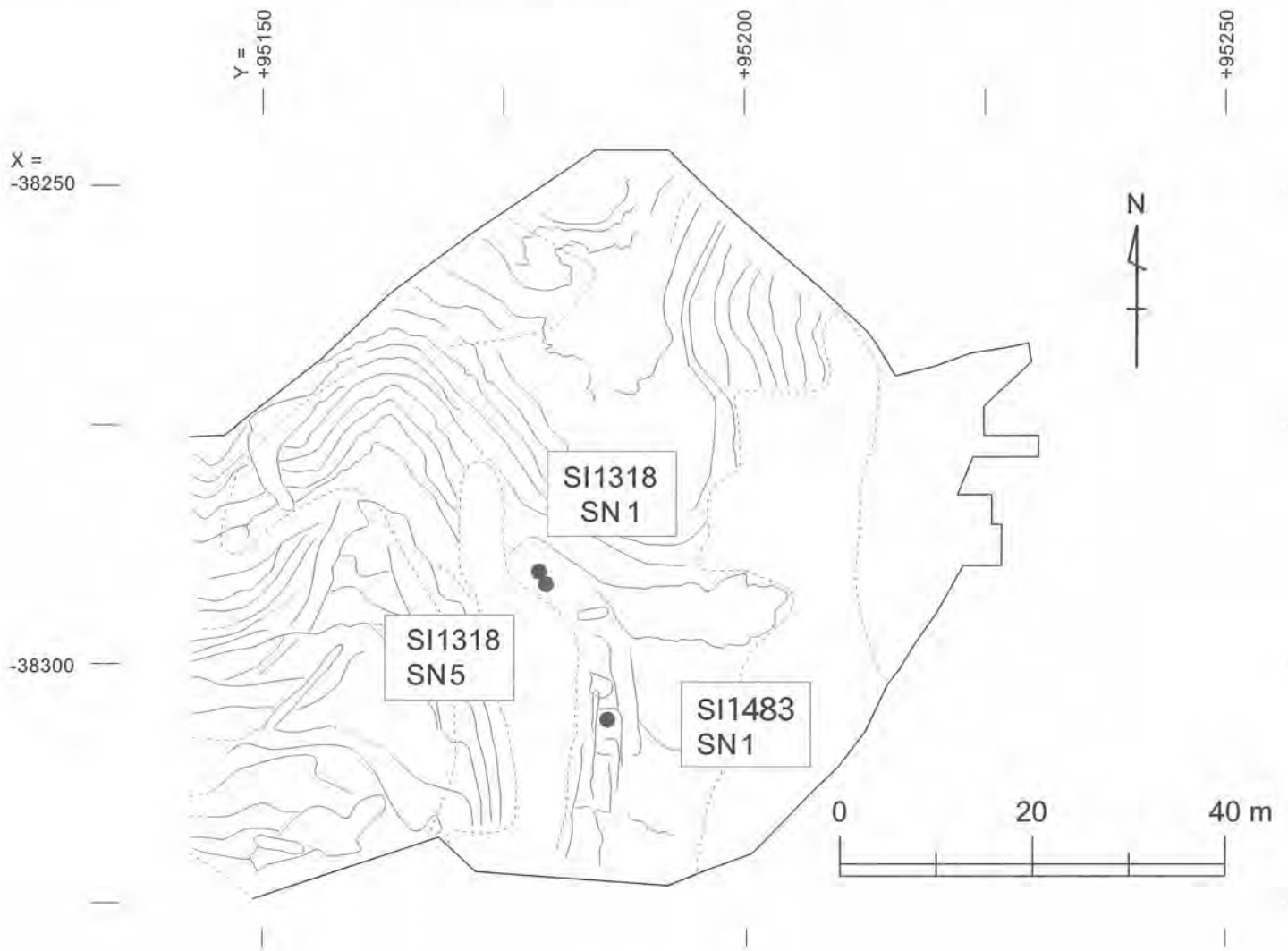


図2 試料採集位置
座標値X, Yは日本測地系 (10系) による

試料採集現場での状況を、写真1～写真6に示す。現場では挿入した試料キューブの走向角と傾斜角を測定して残留磁気方向の補正に用いる。

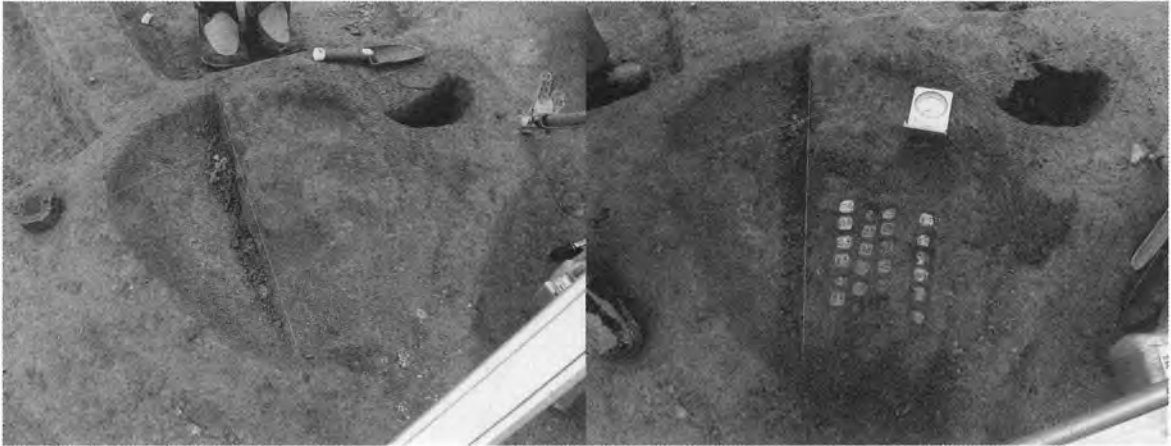


写真1 SI1318 SN1全体

写真2 SI1318 SN1
試料用キューブを打ち込んだ状態

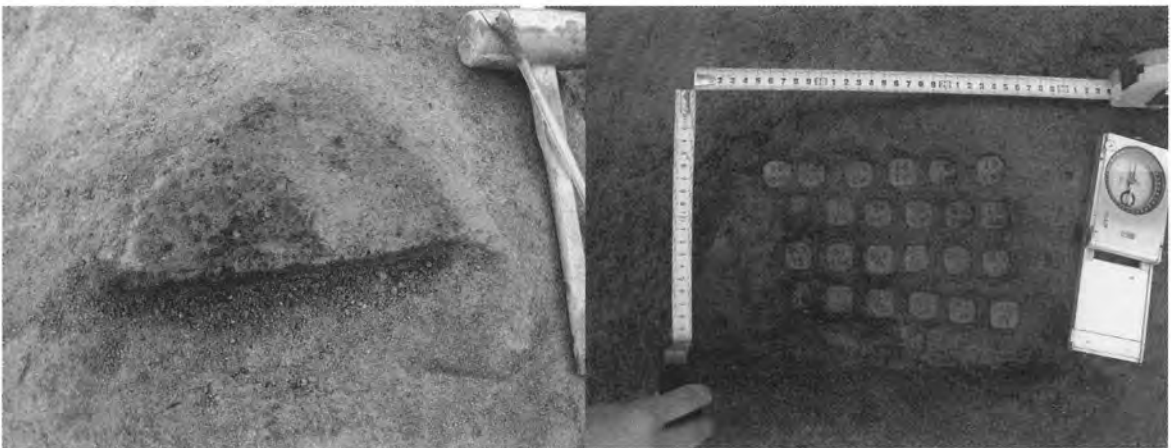


写真3 SI1318 SN5全体

写真4 SI1318 SN5 試料

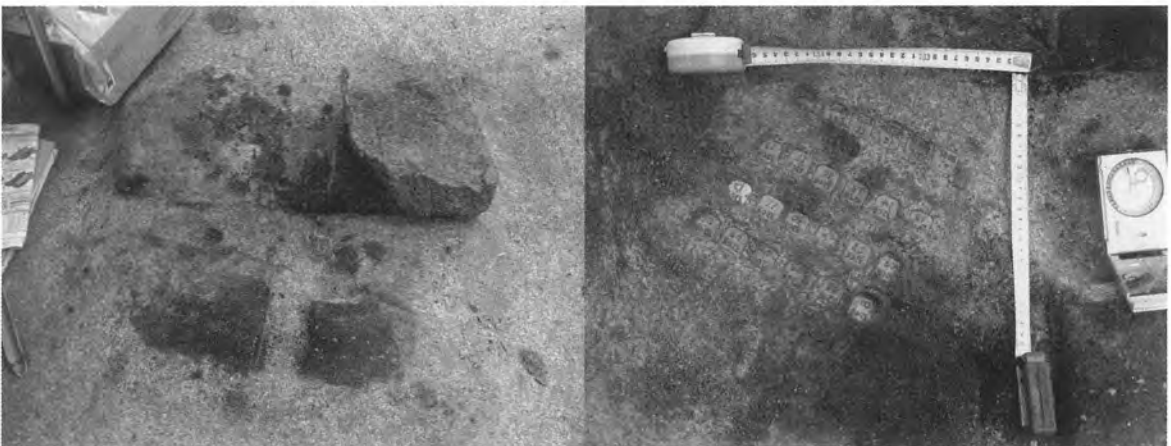


写真5 SI1483 SN1 全体

写真6 SI1483 SN1
試料キューブを打ち込んだ状態

3. 自然残留磁化の測定

試料採集の後、何の処理も行っていない状態で残留磁化（自然残留磁化）を測定した。この自然残留磁化方向の分布状態を等積投影法で表現したものが図3である。真北基準の値に変換するため、試料採集地点における現在の真北方向に対する地磁気偏角方向を、測定した偏角に加えた。試料各々の磁化方向は黒丸で、平均を×印で示してある。95%の確率で真の値が含まれる範囲を楕円で表現した。自然残留磁化の測定結果を表3に示す。表3で示した95%信頼区間は値が小さいほど平均値の信頼性が高く、精密度パラメータは値が大きいほど信頼性が高いことを示す。

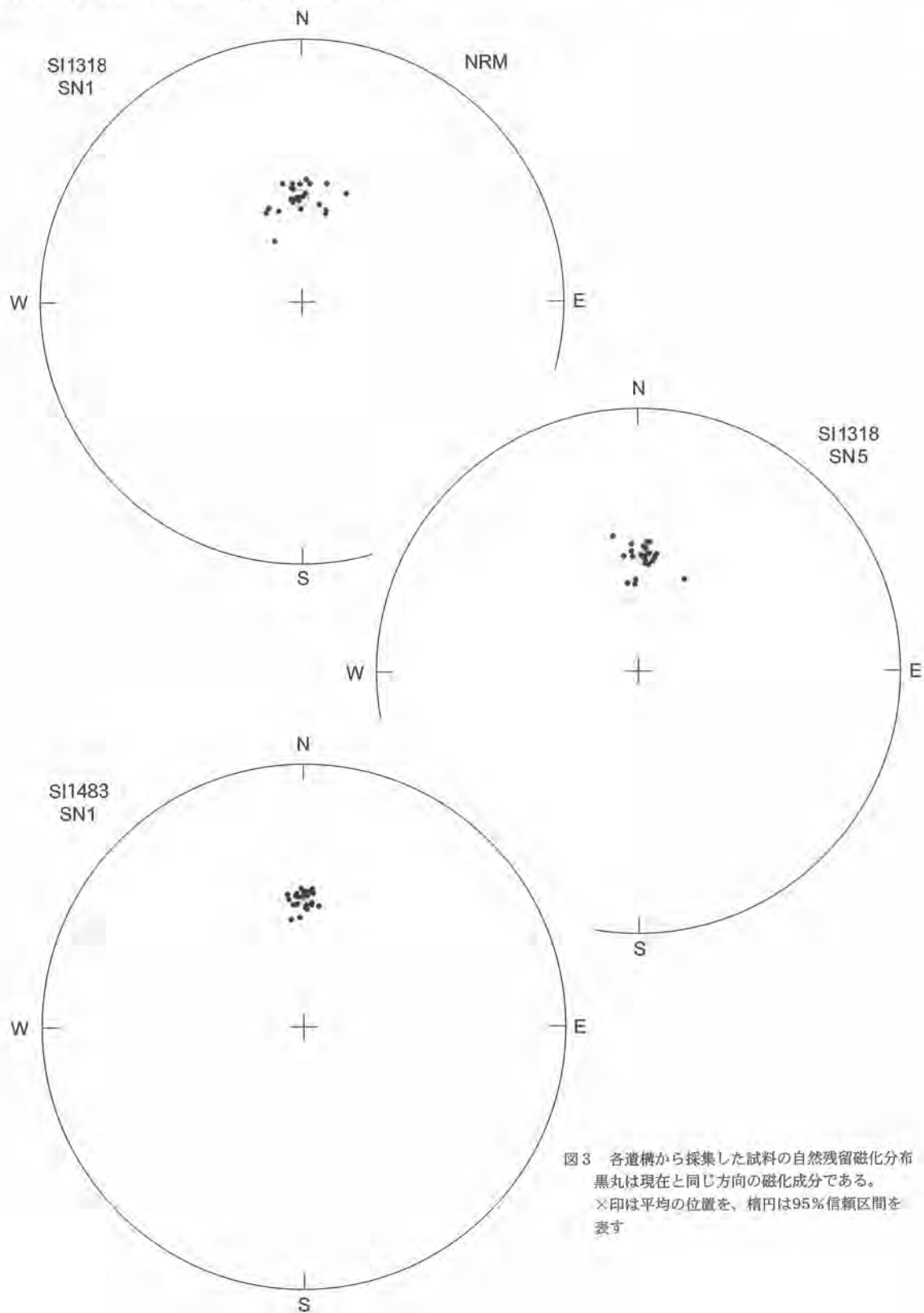


図3 各遺構から採集した試料の自然残留磁化分布
黒丸は現在と同じ方向の磁化成分である。
×印は平均の位置を、楕円は95%信頼区間を表す

表3 自然残留磁化測定結果一覧

遺構名	種類	平均数	平均伏角 (度)	平均偏角 (度)	補正後の 偏角(度)	95%信頼 信頼区間	精密度 パラメータ
SI1318	SN1	24	57.68	6.52	1.13	2.663	124.4
SI1318	SN5	24	54.38	10.32	2.66	2.133	193.4
SI1483	SN1	24	49.99	7.46	-0.20	1.342	487.3

平均偏角は現場での磁北基準の値、補正後の偏角とは真北を基準とした値である。

4. 交流消磁

自然残留磁化には熱を受けたときに獲得した成分と二次的に獲得した成分が含まれている。熱を受けたときの残留磁化方向を特定するため、二次磁化成分を除去する必要がある。この操作が交流消磁である。試料6個ごとに1つの割合で細かなステップで段階交流消磁を行なう。図4はSI1318 SN1およびSI1318 SN5の段階交流消磁で、図5がSI1483 SN1の段階交流消磁の結果である。NS-WEが残留磁化方向を水平面に投影したもの、UD-WEが垂直面に投影したものである。NRMと表示してある位置から交流磁場が大きくなるにつれて磁化方向が変化する様子が表示されている。交流磁場が大きくなるにつれて、すべての試料でほぼ直線的に磁化強度が減少し、原点方向に向かっていく傾向が見える。わずかに減少傾向の変化する部分を検討して、二次磁化成分を消去する最適の交流磁場を求めた。SI1318 SN1では2.5mT、SI1318 SN5では3mT、SI1483 SN1では2mTと判断し、この磁場で残りの試料に対して交流磁場を行った。

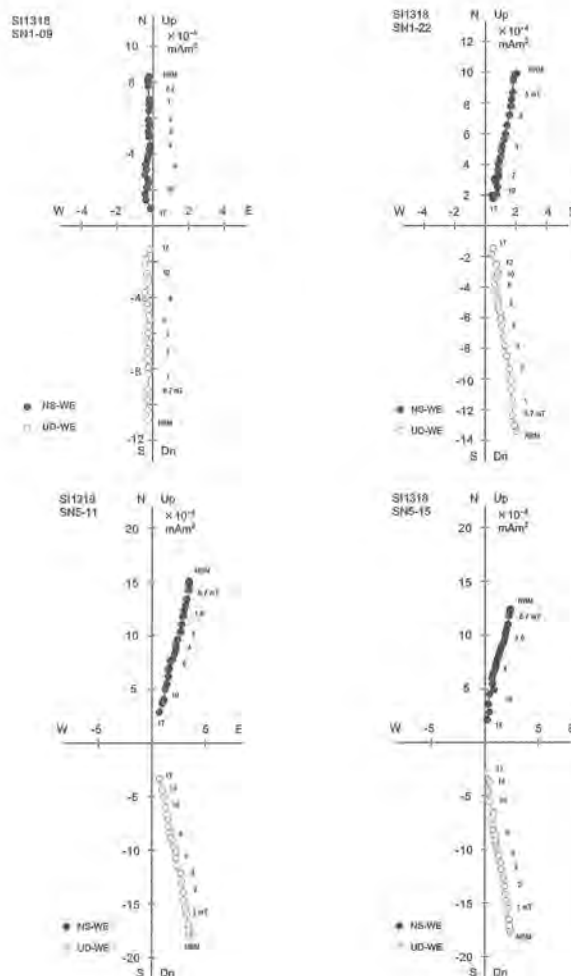


図4 段階交流消磁

上部がSI1318 SN1試料09、22、下部がSI1318 SN5試料11、15に対する段階交流消磁である。

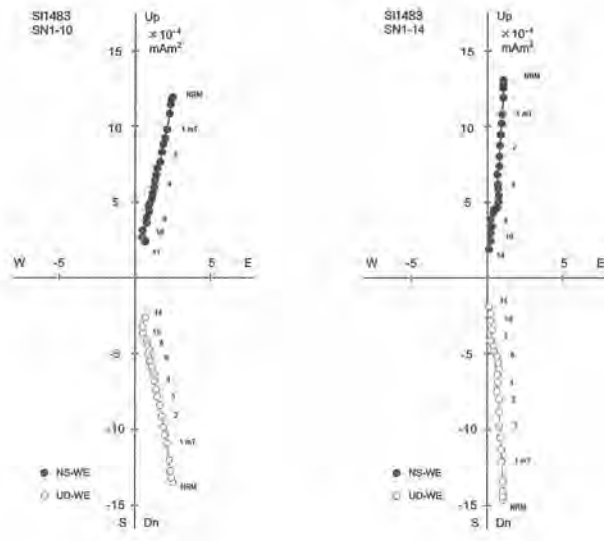


図5 段階交流消磁
SI1483 SN1に対する段階
交流消磁

5. 二次磁化成分消去後の磁化方向

最適消磁磁場で交流消磁を実行した後の磁化方向は最後に加熱された時の地磁気方向を示しているはずである。しかし、サンプルホルダーの挿入時の誤差や砂レキの影響で磁化方向が乱されている場合がある。明らかに平均にふさわしくないと判断されるデータを取り除いて平均を求めた。山口館跡試料に対して交流消磁を行った後の磁化分布と平均を示したものが図6である。

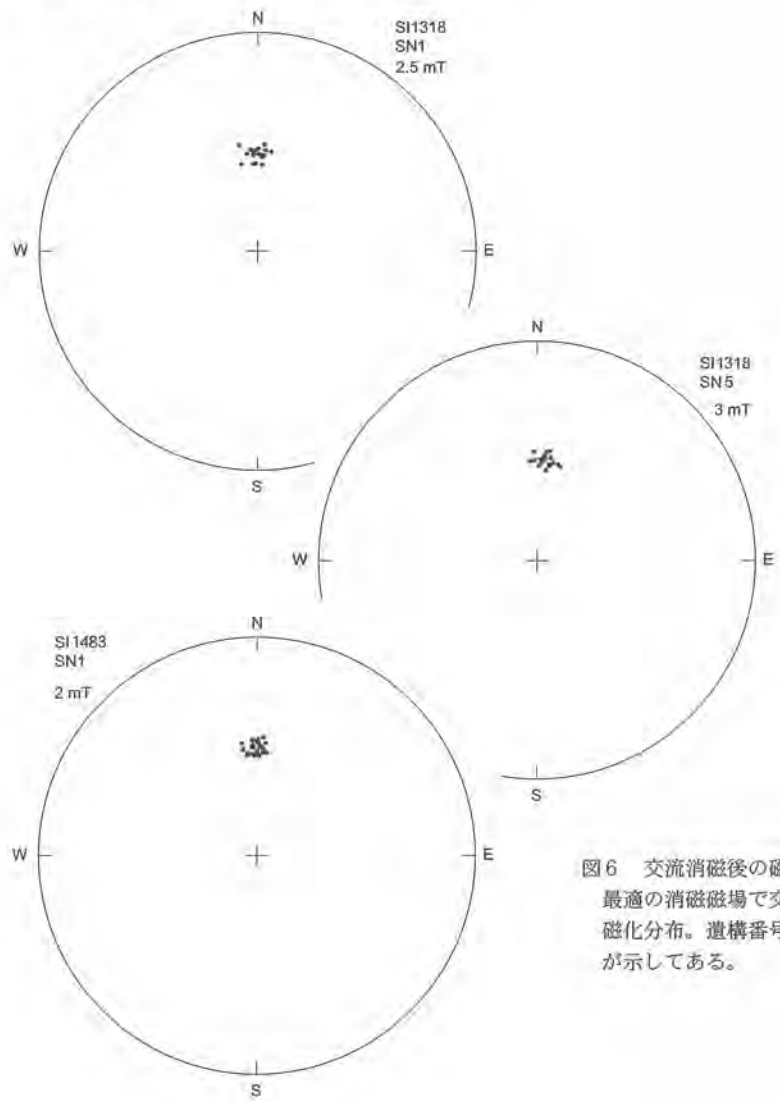


図6 交流消磁後の磁化分布
最適の消磁磁場で交流消磁を行った後の
磁化分布。遺構番号の下に最適消磁磁場
が示してある。

6. 年代の推定

平均の残留磁化方向と地磁気永年変化を比較して年代の推定を行なう。図7は交流消磁後の平均磁化方向および95%信頼区間を示したものである。同時に地磁気永年変化を示してある。ここで、地磁気永年変化の地域差は現在と同じであると仮定した。誤差の範囲を考慮して年代を推定すると、SI1318 SN1では1380±20A.D.、SI1318 SN5では1370±10A.D.、SI1483 SN1では1405±10A.D.となった。一覧を表4に示す。

表4 測定結果一覧

遺構名	種類	最適消磁磁場(mT)	平均数	平均伏角(度)	平均偏角(度)	補正後の偏角(度)	95%信頼区間(度)	精密度パラメータ	考古地磁気推定年代
SI1318	SN1	2.5	16	53.43	6.94	-0.71	1.856	396.2	1380±20A.D.
SI1318	SN5	3	19	52.37	12.38	-4.72	1.451	536.2	1370±10A.D.
SI1483	SN1	2	24	49.08	7.04	-0.62	1.186	623.5	1405±10A.D.

(注) 偏角のマイナスは西偏を示す。

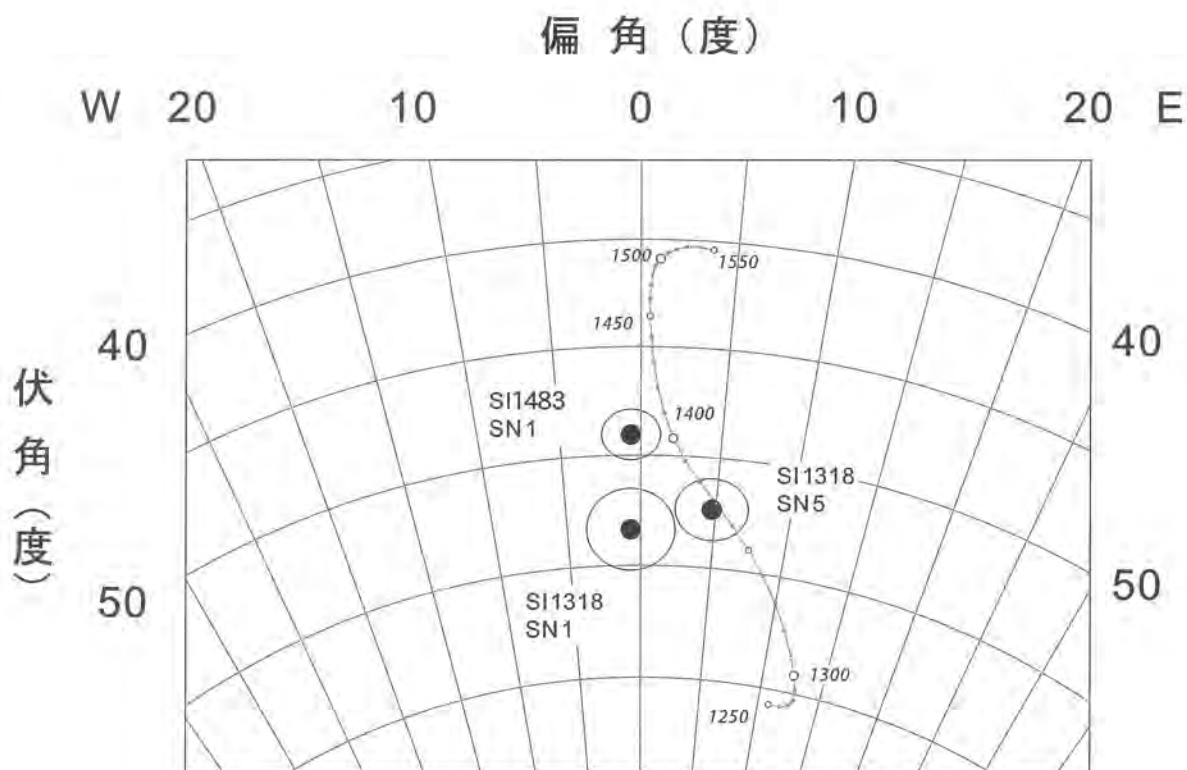


図7 各遺構の残留磁化平均方向と地磁気永年変化曲線

分析・試験結果報告書
山口館跡出土鉄滓の分析・調査

目 次

1. はじめに	200
2. 調査項目および試験・検査方法	200
3. 調査結果および考察	201
4. まとめ	204
5. 参考	205
6. 図表・写真	206
・表1 調査資料と調査項目	206
・表2 鉄滓資料の化学成分分析	206
・図1 出土鉄滓類の全鉄量と酸化チタン量の分布図	207
・図2 製錬滓と鍛冶滓の分類	207
・図3 砂鉄系鍛冶滓と鉍石系製錬滓の分類	208
・写真 外観写真	209-213
・写真 顕微鏡組織写真	214-217

山口館跡出土鉄滓の分析・調査

川鉄テクノリサーチ株式会社
分析・評価事業部
埋蔵文化財調査研究室

1. はじめに

岩手県宮古市教育委員会殿が、北部環状線道路の建設により中世の城館跡である山口館跡の遺跡記録を残すため、平成8年度から発掘調査を開始した。その発掘調査で、山口館跡（岩手県宮古市山口字第5地割久保外）から出土した鉄滓類について、学術的な記録と今後の調査のための一環として化学成分分析を含む自然科学的観点での調査を依頼された。調査の観点として、鉄滓5点について、①製鉄原料の推定、②製鉄工程上の位置づけおよび③観察上の特記事項などを中心に調査した。その結果について報告する。

2. 調査項目および試験・検査方法

(1) 調査項目

表1 に調査資料と調査項目を一覧表で示す。

(2) 試験・観察方法

(i) 重量計測、外観観察および金属探知調査

資料重量の計量は電子天秤を使用して行い、少数点2位以下で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、資料の外観をmm単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。資料の出土位置や資料の種別等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査については、直径30mmのリング状フェライト磁石を使用し、官能検査により「強・稍強・中・稍弱・弱」の5ランクで、個別調査結果を表示した。遺物内の残存金属の有無を金属探知機(MC: metal checker)を用いて調査した。

(ii) 化学成分分析

化学成分分析は鉄鋼に関するJIS分析法に準じて行っている。

- ・全鉄(T.Fe)：三塩化チタン還元-ニクロム酸カリウム滴定法。
 - ・金属鉄(M.Fe)：臭素メタノール分解-EDTA滴定法。・酸化第一鉄(FeO)：ニクロム酸カリウム滴定法。
 - ・酸化第二鉄(Fe₂O₃)：計算。・化合水(C.W.)：カールフィッシャー法。・炭素(C)：燃焼-赤外線吸収法。
 - ・ライム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化マンガン(MnO)、酸化ナトリウム(Na₂O)、イオウ(S)、珪素(Si)、マンガン(Mn)、リン(P)、銅(Cu)、ニッケル(Ni)、クロム(Cr)、アルミニウム(Al)、バナジウム(V)、チタン(Ti)：ICP発光分光分析法。
 - ・シリカ(SiO₂)、アルミナ(Al₂O₃)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化チタン(TiO₂)、酸化リン(P₂O₅)、酸化カリウム(K₂O)：ガラスビード蛍光X線分析法。
- 但しCaO、MgO、MnOは含有量に応じてICP分析法 または ガラスビード蛍光X線分析法を選択。
- ・カルシウム(Ca)、マグネシウム(Mg)、酸化ナトリウム(Na₂O)：原子吸光法。
 - ・灰分、揮発分：重量法。・リン(P)：吸光度法。・イオウ(S)：燃焼-中和滴定法。

鉄滓中成分は、18成分（全鉄T.Fe、金属鉄M.Fe、酸化第一鉄FeO、酸化第二鉄Fe₂O₃、シリカSiO₂、アルミナAl₂O₃、ライムCaO、酸化マグネシウムMgO、酸化ナトリウムNa₂O、酸化カリウムK₂O、酸化チタンTiO₂、酸化マンガンMnO、酸化リンP₂O₅、化合水C.W.、炭素C、ヴァナジウムV、銅Cu、コバルトCo）を化学分析している。

(iii) 顕微鏡組織写真

資料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上）する。金属箇所はナイタール（5%硝酸アルコール液）で腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、金属組織および介在物（不純物、非金属鉱物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として100倍および400倍で撮影を行う。必要に応じて実体顕微鏡（5倍～20倍）による観察もする。

3. 調査結果および考察

分析調査結果を図表にまとめて7頁～9頁に示す。表1に、調査資料と調査項目をまとめた。表2は鉄滓の化学成分分析結果を示す。これまでの鉄滓分析結果（約600点）を製造工程に分類・作図し、今回の分析結果を図示することによって、製造工程（砂鉄系製錬と鍛冶精錬、砂鉄製錬と鉍石製錬）の位置づけと製鉄の始発原料を検討できる。すなわち、図1は出土鉄滓類の全鉄量と酸化チタン量の分布図、図2は製錬滓と鍛冶滓の分類図、および図3は砂鉄系鍛冶滓と鉍石系製錬滓の分類図をそれぞれ示す。

資料の外観写真を10頁～14頁、および顕微鏡組織写真を15頁～19頁に示す。化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮し、考察する。各資料について、タイトル：資料番号、資料種別（括弧内は推定された製造工程）、着磁力、MC（金属探知機判別）を一行で示す。そして、各資料の調査項目、すなわち、外観観察（外観と表示）、顕微鏡組織観察（顕微鏡組織と表示）および化学成分分析（化学成分と表示）の調査結果をまとめ、考察する。各資料の最も確からしい推定結果を最後にまとめる。以下、資料番号順に述べる。

資料番号No.3 流出滓（製錬滓） 着磁力：無、MC：無

外観：外観写真を10頁に示す。総重量は247.8g、長さ38.6mm×幅31.2mm×厚さ14.5mm。割欠面が2面ある黒色溶融滓で、破面の一部に茶色の水酸化鉄が発生している。破面は細かな発泡痕があるが緻密で小型ながら重量感がある。上面は凹凸がなく滑らかで、下面は光沢があり流れたような様相の偏平な資料である。

顕微鏡組織：組織写真を15頁に示す。写真背面に崩れた短冊状のファイヤライトと前面に僅かに樹枝状のマグネタイトが観察される。ファイヤライトが主な組織である。

化学成分：化学成分分析の結果を表2に示す。全鉄(T.Fe) 38.6% に対して、酸化第一鉄（ウスタイト:FeO）は47.8%、酸化第二鉄（ヘマタイト:Fe₂O₃）は1.0%で、Fe₂O₃とFeOの比率は、2：98で、シリカ（Silica: SiO₂）は30%と高く、平衡状態図（6頁参考：鉄滓の平衡状態図を参照）のファイヤライトの領域に近いと見られる。滓中成分の指標となる造滓成分（SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+Na₂O+K₂O）は46%である。砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタン（Titanium dioxide:TiO₂）が2%で、バナジウム（Vanadium:V）を0.2%含有する。鉍石に含有される成分の一つである銅（Copper:Cu）は0.001%と少ない。したがって、低酸化チタン含有の砂鉄を始発原料とした可能性が高い。

一方、本資料の製造工程の位置づけとして、これまでの組成分析結果（データ）を整理し、図1に、全鉄（T. Fe）と酸化チタン（TiO₂）の関係を示す。図2には、T. Fe（%）と造滓成分（SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+Na₂O+K₂O）（%）の関係を示す。本資料は、図1では、砂鉄系製錬滓グループの領域にある。図2では、鉍石系製錬滓グループと砂鉄系鍛冶滓グループに属し、低酸化チタン含有の砂鉄を始発原料に使用したと推察される。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分は製錬滓（製鉄工程の初期）を示し、顕微鏡組織はファイヤライト（製鉄工程の初期）を示している。すなわち、本資料は、製鉄反応では滓化が進行していて、金属鉄は生成していないと推察される。

したがって、本資料は、①製錬滓（流出滓）で、②低酸化チタン含有の砂鉄を始発原料に使用した可能性が高い、と推定される。

資料番号No.5 炉内滓（精錬鍛冶滓） 着磁力：稍弱、MC：無（錆瘤に弱く有）

外観：外観写真を11頁に示す。総重量は83.8g、長さ70.3mm×幅51.6mm×厚さ32.8mm。凹凸が激しく、水酸化鉄と砂礫の混合物に覆われている。表面には木炭痕が見られる。資料中央部の水酸化鉄瘤には割れが入っており錆化進行中である。この部分にMC反応がある。

顕微鏡組織：組織写真を16頁に示す。写真前面に樹枝状および繭玉状のウスタイトが観察される。背面には、やや崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。ウスタイトとファイヤライトが主な組織である。したがって、金属鉄が生成していたと推察される。

化学成分：化学成分分析の結果を表2に示す。全鉄50%に対して、Fe₂O₃とFeOの比率は、34：66で、シリカ17%と高く、平衡状態図のマグネタイトの領域に近いと見られる。しかし、化合物が1.8%とやや高く、金属鉄は一部錆化し、オキシ水酸化鉄（ゲーサイト）が存在していると推察されるので、製鉄過程での鉄滓中の酸素比率の推定は難しい。

造滓成分は25%で、砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが2%で、バナジウムを0.26%含有する。本資料の製造工程の位置づけとして、図1～図3にプロットした。本資料は、図1では、砂鉄系製錬滓グループと精錬鍛冶滓グループの境界領域に属している。図2では、鉍石系製錬滓グループと砂鉄系鍛冶滓グループに近い位置（低酸化チタン含有砂鉄系）にある。図3では、精錬鍛冶滓のグループ属している。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分は精錬鍛冶滓（製鉄工程の後期）を示し、顕微鏡組織はウスタイト（製鉄工程の中期・後期）を示している。すなわち、本資料は、製鉄反応では金属鉄が生成する段階まで進行していると推察される。

したがって、この資料は、①精錬鍛冶滓（炉内滓）で、②低酸化チタン含有の砂鉄を始発原料に使用した可能性が高い、と推定される。

資料番号No.6 流出滓（製錬滓） 着磁力：弱、MC：無

外観：外観写真を12頁に示す。総重量は52.8g、長さ55.0mm×幅27.4mm×厚さ16.6mm。割欠面が3面にある黒色熔融滓で破面は緻密である。上面は波紋状に丸く盛り上がり、微細な発泡痕がある。下面は光沢のある表面の凹部に床材が付着している。重量感はあるがMC反応は無い。

顕微鏡組織：組織写真を17頁に示す。写真前面に樹枝状のウスタイトが観察される。写真の中間面

には四角形のマグネタイト、背面にはやや崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。ファイヤライトが主な組織である。

化学成分：化学成分分析の結果を表2に示す。全鉄46%に対して、 Fe_2O_3 と FeO の比率は、7：93で、シリカ23%と高く、平衡状態図のウスタイトとファイヤライトの境界領域に近いと見られる。造滓成分は36%で、砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが3%で、バナジウムを0.21%含有する。

一方、本資料の製造工程の位置づけとして、図1～図2にプロットした。本資料は、図1では、砂鉄系製錬滓グループと精錬鍛冶滓グループの境界領域に属している。図2では、鉍石系製錬滓グループと砂鉄系鍛冶滓グループに近い位置（低酸化チタン含有砂鉄系）にある。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分は製錬滓と精錬鍛冶滓の中間（製鉄工程の中期）を示し、顕微鏡組織はファイヤライトとマグネタイト（製鉄工程の初期・中期）を示している。すなわち、本資料は、製鉄反応では金属鉄が生成する段階の近くに進行していると推察される。

したがって、この資料は、①製錬滓（流出滓）で、②鉄源には低酸化チタン含有の砂鉄を使用した可能性が高い、と推定される。

資料番号No.10 流出孔滓（精錬鍛冶滓） 着磁力：弱、MC：無

外観：外観写真を13頁に示す。総重量は47.0g、長さ58.7mm×径16～20mm。両端に割欠面があり棒飴折片状で铸件湯道状のようにも見える。破面は緻密で、表面には白色の砂礫を含むごま塩状の床材が付着している。反対側は気泡痕が多く凸凹がある。床材部と気泡部は除去してサンプリングした。

顕微鏡組織：組織写真を18頁に示す。写真前面には、樹枝状および繭玉状のウスタイトが観察される。背面には、やや崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。ウスタイトとファイヤライトが主な組織である。したがって、金属鉄が生成する段階まで製鉄反応は進行していると推察される。

化学成分：化学成分分析の結果を表2に示す。全鉄55%に対して、 Fe_2O_3 と FeO の比率は、9：91で、シリカ15%で、平衡状態図のウスタイトの領域に近いと見られる。造滓成分は24%で、砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが2%で、バナジウムを0.22%含有する。

一方、本資料の製造工程の位置づけとして、図1～図3にプロットした。本資料は、図1では、砂鉄系製錬滓グループと精錬鍛冶滓グループの境界領域に属している。図2では、鉍石系製錬滓グループと砂鉄系鍛冶滓グループに近い位置（低酸化チタン含有砂鉄系）にある。図3では、精錬鍛冶滓のグループに属している。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、外観は製鉄過程で流出した様子を呈しているが、化学成分は精錬鍛冶滓（製鉄工程の後期）を示し、顕微鏡組織はウスタイト（製鉄工程の中期・後期）を示している。すなわち、本資料は、製鉄反応では金属鉄が生成する段階まで進行していると推察される。

したがって、この資料は、①精錬鍛冶滓（流出孔滓）で、②低酸化チタン含有の砂鉄を始発原料に使用した可能性が高い、と推定される。

資料番号No.12 炉内滓（製錬滓） 着磁力：無、MC：無

外観：外観写真を14頁に示す。総重量は21.4g、長さ63.5mm×幅24.2mm×厚さ20.0mm。気泡痕が多く、薄くやや平坦でカサカサした感じの軽石状資料である。発泡した部分には白い砂礫をかみ込んでおり、炉壁材も含んでいるようで全体は灰色である。

顕微鏡組織：組織写真を19頁に示す。写真前面の四角形～多角形状のマグネタイトと多角形状で孔のあるウルボスピネルが観察され、写真の背面には、やや崩れた短冊状のファイヤライトが全面に観察される。ファイヤライトが主な組織である。

化学成分：化学成分分析の結果を表2に示す。全鉄40%に対して、 Fe_2O_3 と FeO の比率は、10：90で、シリカ27%と高く、平衡状態図のファイヤライトの領域に近いと見られる。造滓成分は42%で、砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが4%で、バナジウムを0.38%含有する。

一方、本資料の製造工程の位置づけとして、図1～図2にプロットした。本資料は、図1では、砂鉄系製錬滓グループの領域に属している。図2では、鉍石系製錬滓グループと砂鉄系鍛冶滓グループに近い位置（低酸化チタン含有砂鉄系）にある。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分は製錬滓（製鉄工程の初期）を示し、顕微鏡組織はファイヤライトとマグネタイト（製鉄工程の初期・中期）を示している。すなわち、本資料は、製鉄反応では金属鉄は生成していないと推察される。

したがって、この資料は、①製錬滓（炉内滓）で、②低酸化チタン含有の砂鉄を始発原料に使用した可能性が高い、と推定される。

4. まとめ

各資料の調査結果および考察結果を以上に述べた、それらの結果を以下にまとめる。

- (1) 資料中の酸化チタン含有量 (TiO_2) は2.3%～3.9%と低く、低酸化チタン含有の砂鉄を始発原料とした製鉄で発生した鉄滓と推定される。
- (2) 鉄滓中の化学成分を製造工程（砂鉄系製錬、砂鉄系精錬鍛冶、砂鉄系鍛錬鍛冶）に分類し、本調査結果を同図にプロットした。資料No. 3、No. 6とNo.12は製錬滓の領域に、資料No. 5とNo.10は精錬鍛冶滓と製錬滓の両領域にある。
- (3) 顕微鏡組織では、鉄滓中のシリカ (SiO_2) 成分が15%～30%と高く、ファイヤライト ($2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$) が主な組織である。資料No. 5とNo.10は、ファイヤライトとウスタイト (FeO) が観察され、金属鉄が生成する段階まで製鉄反応が進んでいた鉄滓と推察される。
- (4) 化学成分および顕微鏡組織の結果から、資料No. 3、No. 6とNo.12は砂鉄系製錬滓（製鉄工程の初期段階で発生した鉄滓）と推定される。資料No. 5とNo.10は砂鉄系精錬鍛冶滓（製鉄反応で金属鉄を生成する段階に発生した鉄滓）と推定される。

5. 参考

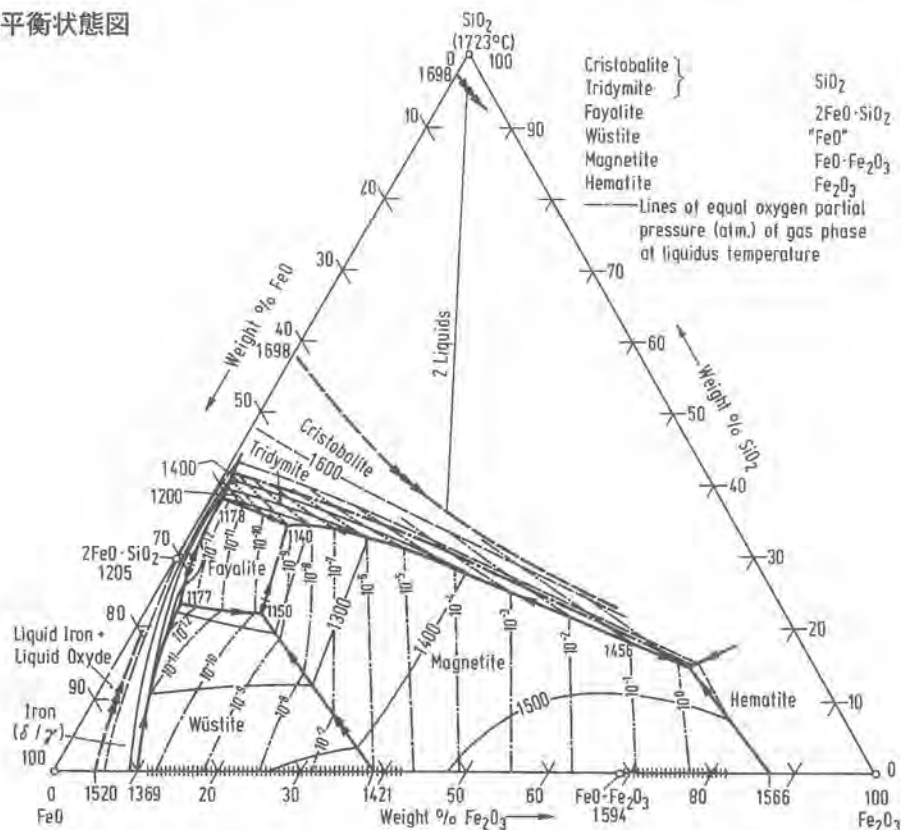
(1) 鉄滓の顕微鏡組織について

鉄滓を構成する化合物結晶には、一般的に表のような鉱物組織がある。酸化鉄 (Fe_2O_3 , Fe_3O_4 , FeO)、二酸化ケイ素 (シリカ: SiO_2)、アルミナ (Al_2O_3) および酸化チタン (TiO_2) を組み合わせた化合物 (固溶体) が多く、これらは鉱物結晶は含有量にも依存するが、X線回折により検出され確認できる。鉄滓中の低融点化合物がガラス相 (非晶質) を形成することがあり、X線回折では検出されない。

表A1 鉄滓の顕微鏡鉱物組織とその観察状況

鉱物組織名 (和)	鉱物名 (英)	化学式	偏光顕微鏡観察状況
ヘマタイト	Hematite	$\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$	赤褐色～赤紫色
マーゲマイト	Maghemite	$\gamma\text{-Fe}_2\text{O}_3$	赤紫色～黒紫色
マグネタイト	Magnetite	Fe_3O_4	白青色、四角または多角盤状
ウスタイト	Wustite	FeO	灰白色、繖玉状または樹枝状
ファイヤライト	Fayalite	$2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$	薄い青灰色、短冊状の長い結晶
ウルボスピネル	Ulvospinel	$2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$	白色、四角～角形板状結晶
イルメナイト	Ilmenite	$\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$	白色、針状・棒状の長い結晶
プシュードブルッカイト	Pseudobrookite	$\text{FeO}\cdot 2\text{TiO}_2$	白色、針状の結晶
ハーシナイト	Hercynite	$\text{FeO}\cdot\text{Al}_2\text{O}_3$	ウスタイト中に析出、ごま粒状。
ゲーサイト	Goethite	$\alpha\text{-FeOOH}$	白、黄色、リング状が多い。

(2) 鉄滓の平衡状態図



FeO-Fe₂O₃-SiO₂系体状態図 (by Osborn and Muan): Slag Atlas
 [ドイツ鉄鋼協会] (1981) [Verlag Stahleisen] Dusseldorf, Fig.106, p.76

6. 図表・写真

表1 調査資料と調査項目

資料 No.	出土遺構	資料種別	重量 g	着磁力	MC反応	外観 写真	化学 成分	組織 写真
3	SI1035	流出滓	27.8	無	無	○	○	○
5	SI1035	炉内滓	83.8	稍弱	無(錆に弱)	○	○	○
6	SI1035	流出滓	52.8	稍弱	無	○	○	○
10	SI1035	炉内孔滓	47.0	稍強	微弱	○	○	○
12	SI1035	炉内滓	21.4	稍弱	無	○	○	○

註(1) 資料の名称、番号、資料種別は貴センター記載資料による。

(2) ○は、観察・測定調査の実施項目を示す。

(3) MC反応とは、メタルチェッカー(金属探知機)による残存金属の有無を示す。

表2 山口館跡出土鉄滓の化学成分分析結果 (%)

資料 No.	T. Fe	M. Fe	FeO	Fe ₂ O ₃	SiO ₂	Al ₂ O ₃	CaO	MgO	比率(%)	
									Fe ₂ O ₃	FeO
3	38.6	0.73	47.8	1.02	29.8	9.26	3.24	2.10	2.1	97.9
5	50.6	0.45	43.9	22.9	16.8	4.92	1.35	1.25	34.3	65.7
6	46.2	0.84	54.5	4.28	22.7	5.73	3.36	2.34	7.3	92.7
10	55.4	0.79	64.3	6.62	15.5	4.25	2.03	1.43	9.3	90.7
12	39.7	0.76	45.7	4.89	26.9	6.88	4.07	3.03	9.7	90.3

資料 No.	Na ₂ O	K ₂ O	TiO ₂	MnO	P ₂ O ₅	C.W.	Co	C	V	Cu	造滓 成分
3	0.61	1.02	2.34	0.31	0.369	0.26	0.009	0.08	0.20	0.001	46.0
5	0.24	0.41	2.28	0.23	0.323	1.81	0.009	0.70	0.26	0.003	25.0
6	0.51	0.81	2.88	0.37	0.482	0.31	0.013	0.03	0.21	0.003	35.5
10	0.35	0.54	2.42	0.28	0.388	0.30	0.012	0.02	0.22	0.001	24.1
12	0.54	0.87	3.88	0.46	0.517	0.46	0.015	0.05	0.38	0.002	42.3

C.W.=化合水、造滓成分=SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+Na₂O+K₂O

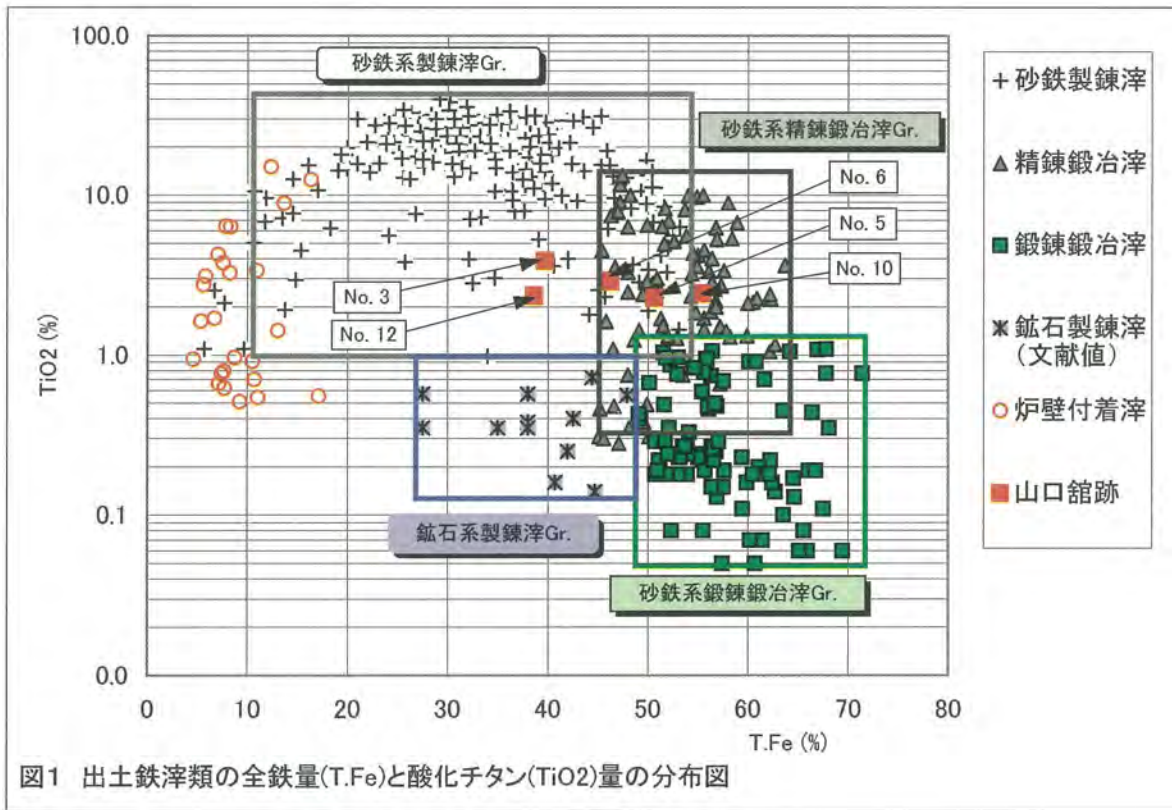


図1 出土鉄滓類の全鉄量(T.Fe)と酸化チタン(TiO2)量の分布図

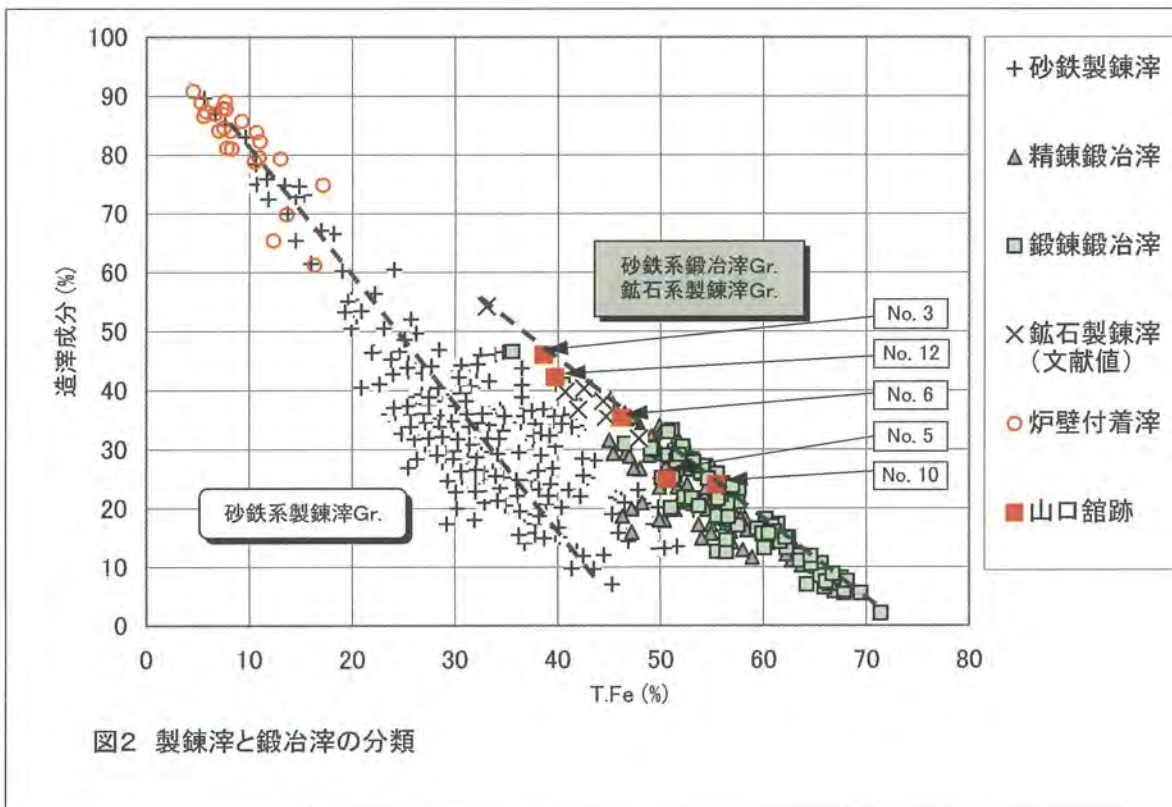
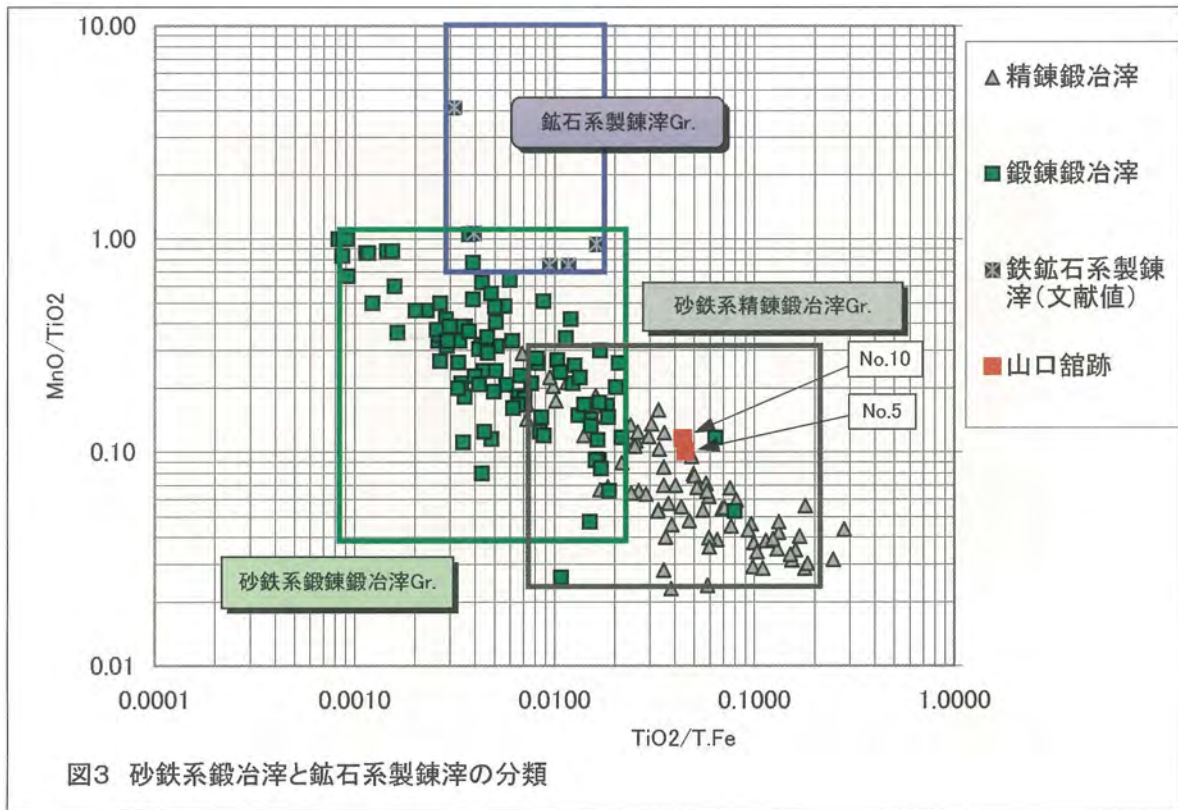


図2 製錬滓と鍛冶滓の分類



・外観写真

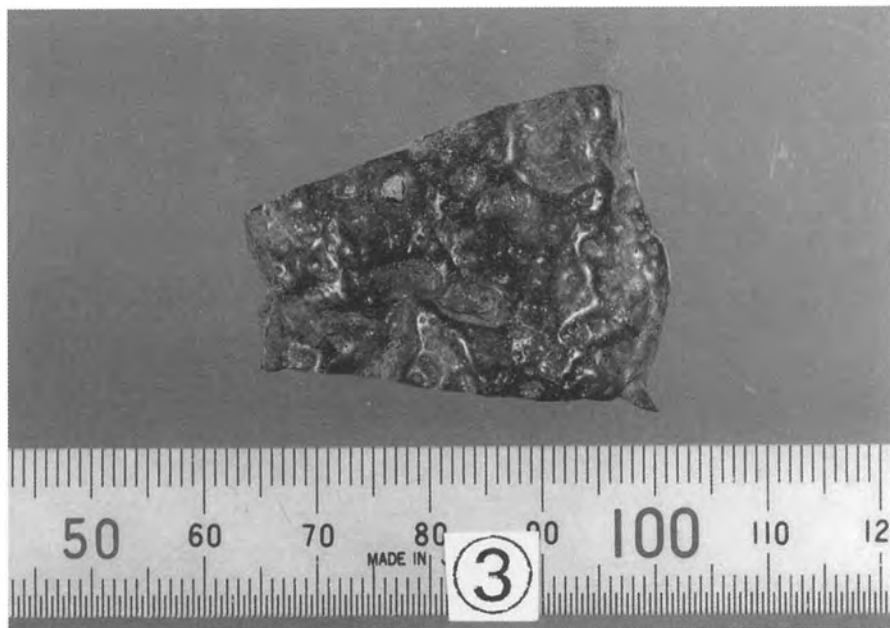


写真 山口館跡 資料No.3
流出滓の外観写真

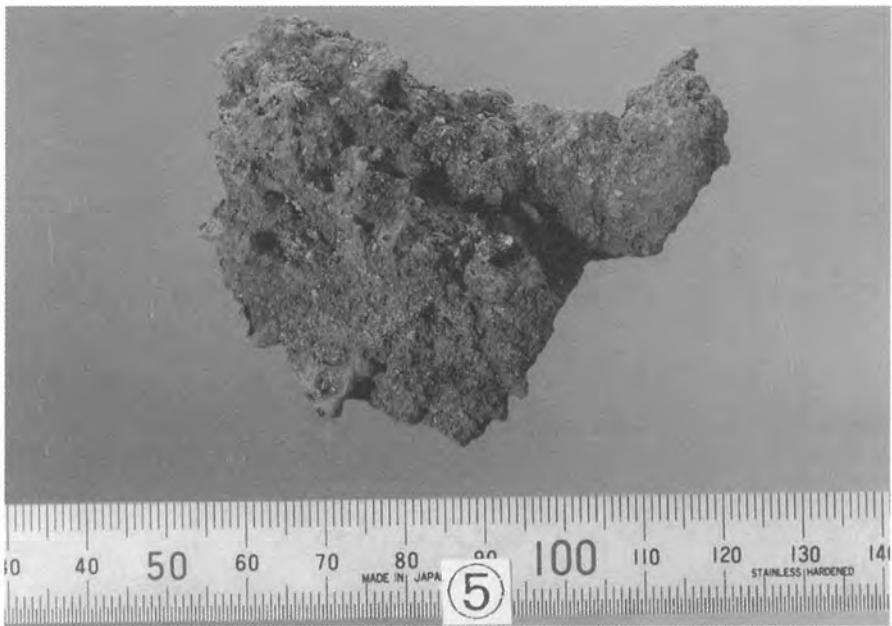
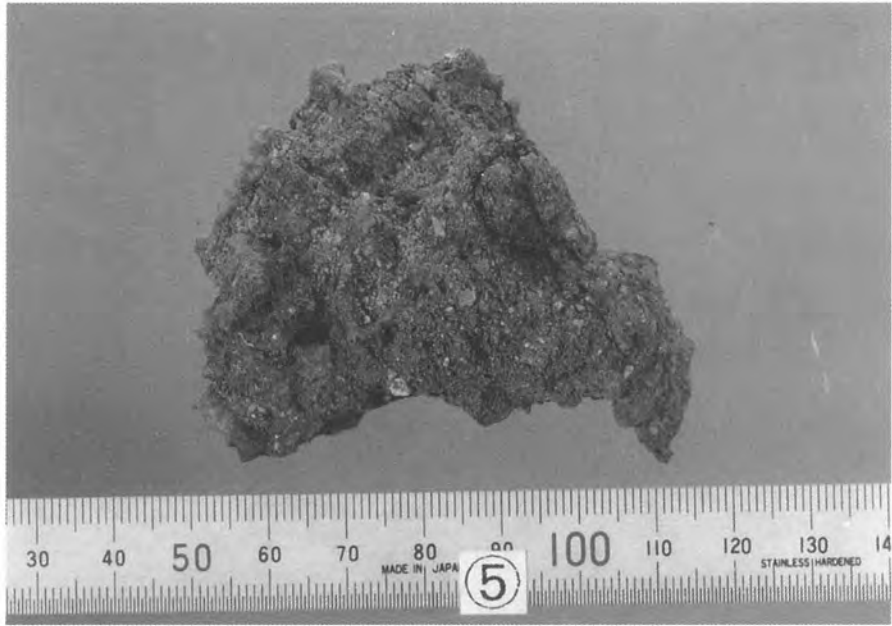


写真 山口館跡 資料No.5
炉内滓の外観写真



写真 山口館跡 資料No.6
流出滓の外観写真

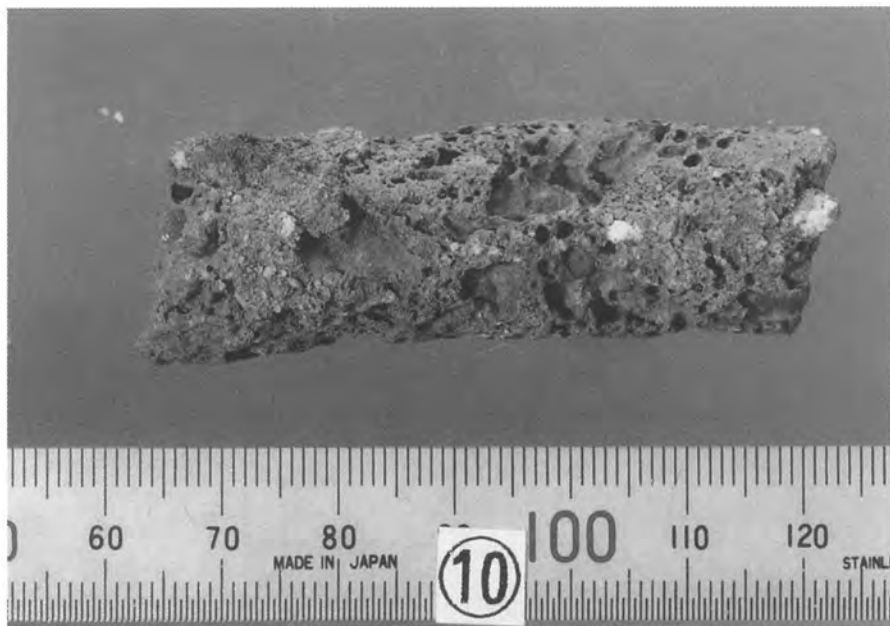
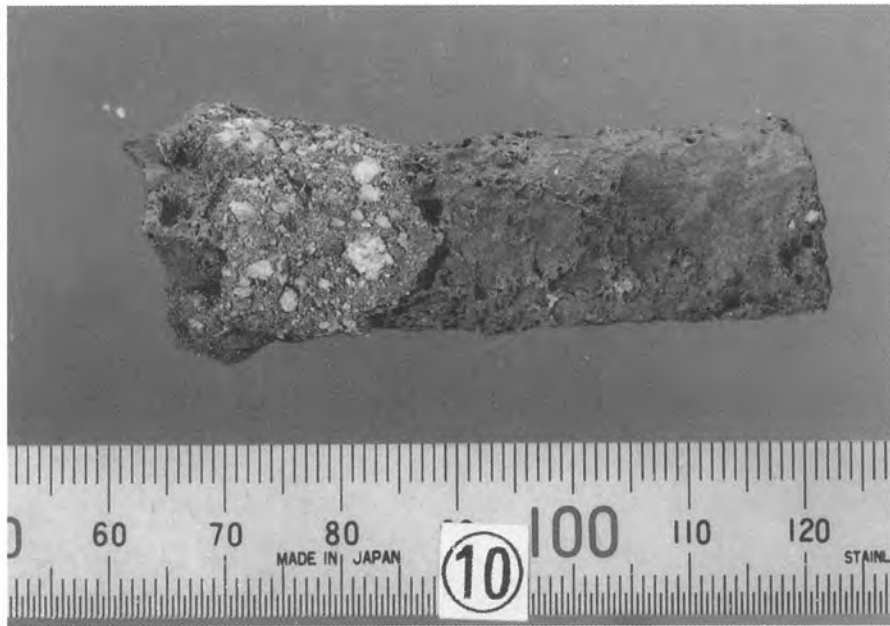


写真 山口館跡 資料No.10
流出孔滓の外観写真

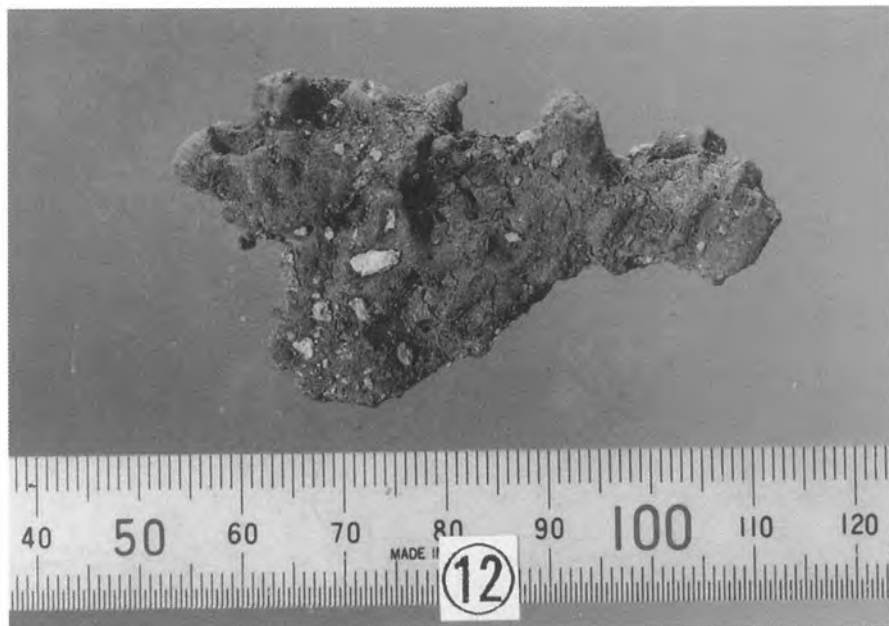
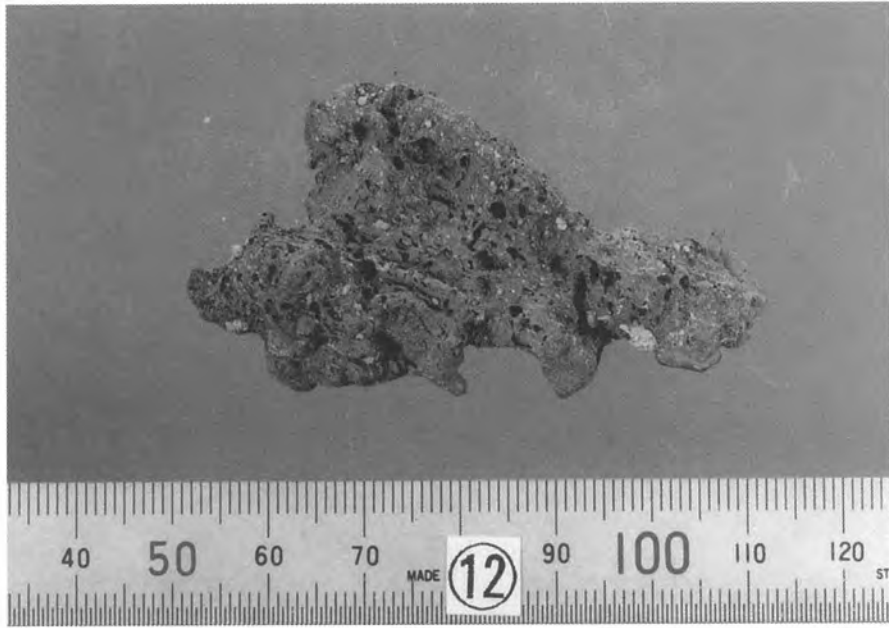
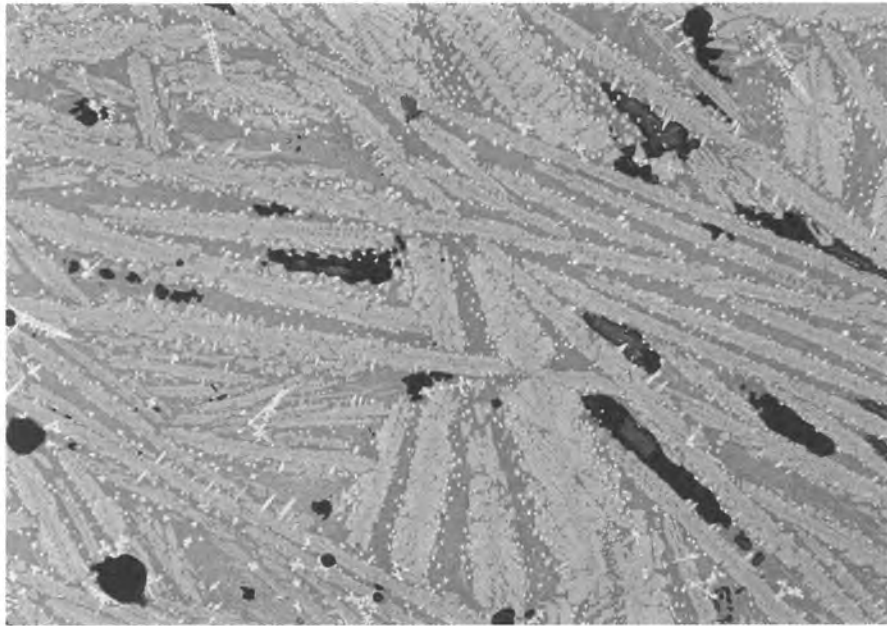


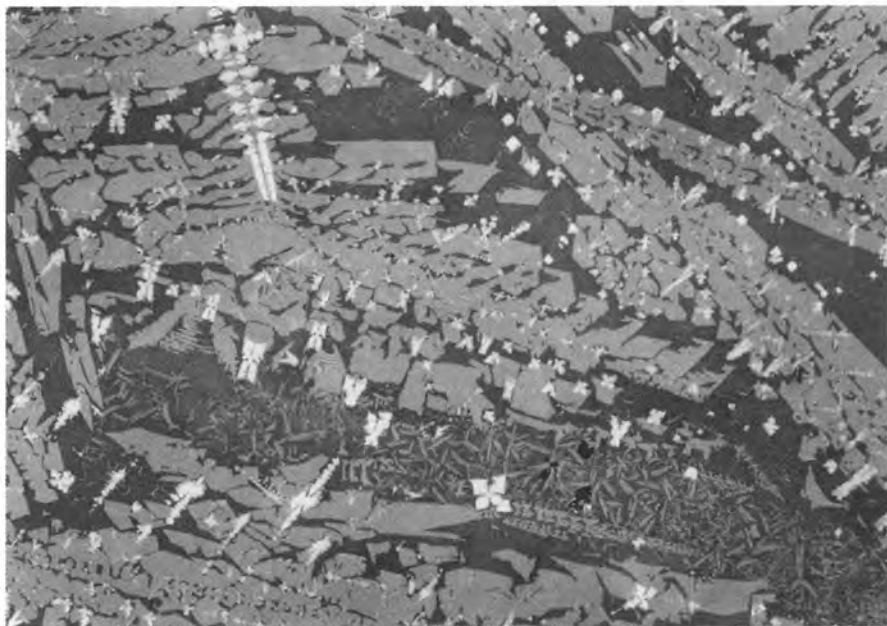
写真 山口館跡 資料No.12
炉内滓の外観写真

・顕微鏡組織写真



x100

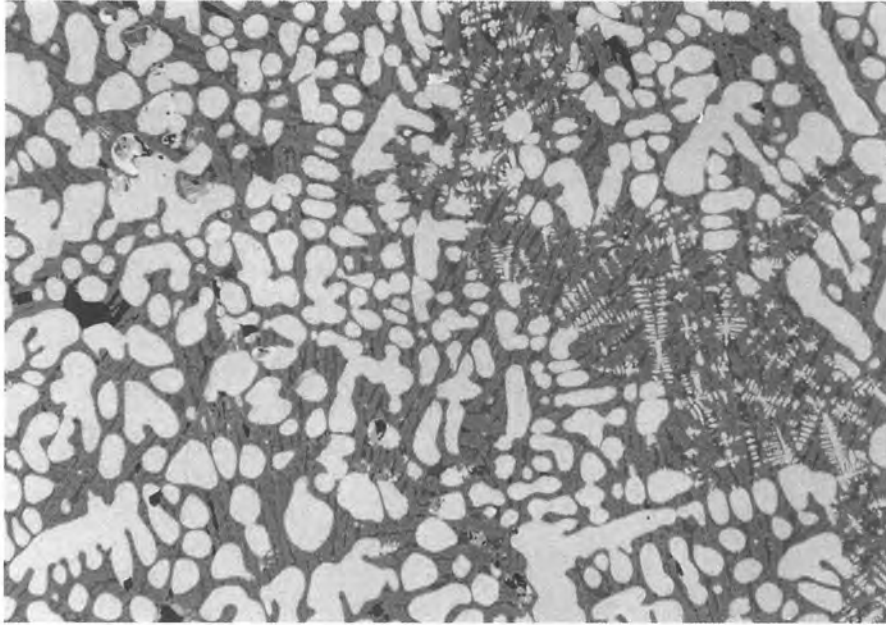
1cm : 100 μ m



x400

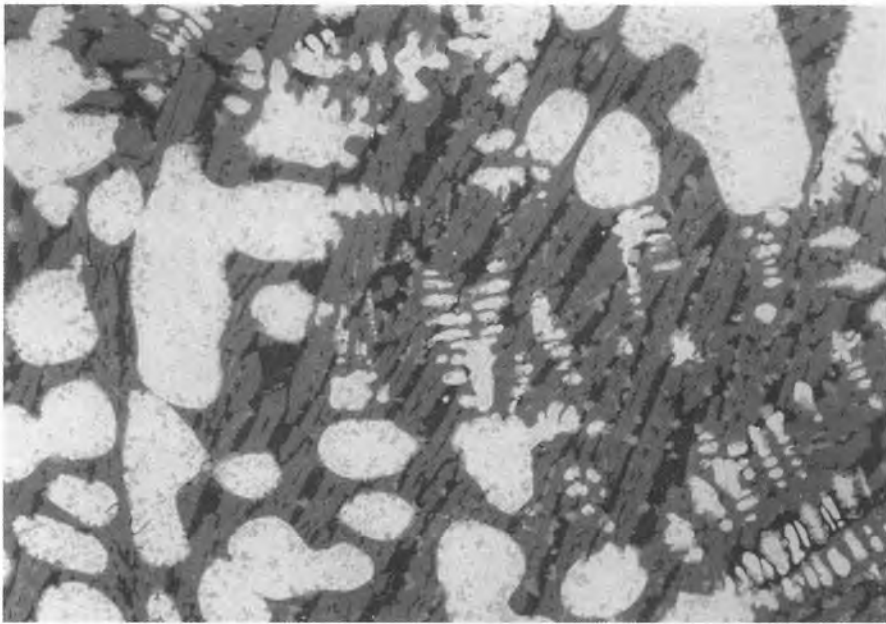
1cm : 25 μ m

写真 山口館跡 資料No. 3
流出滓の顕微鏡組織写真



x100

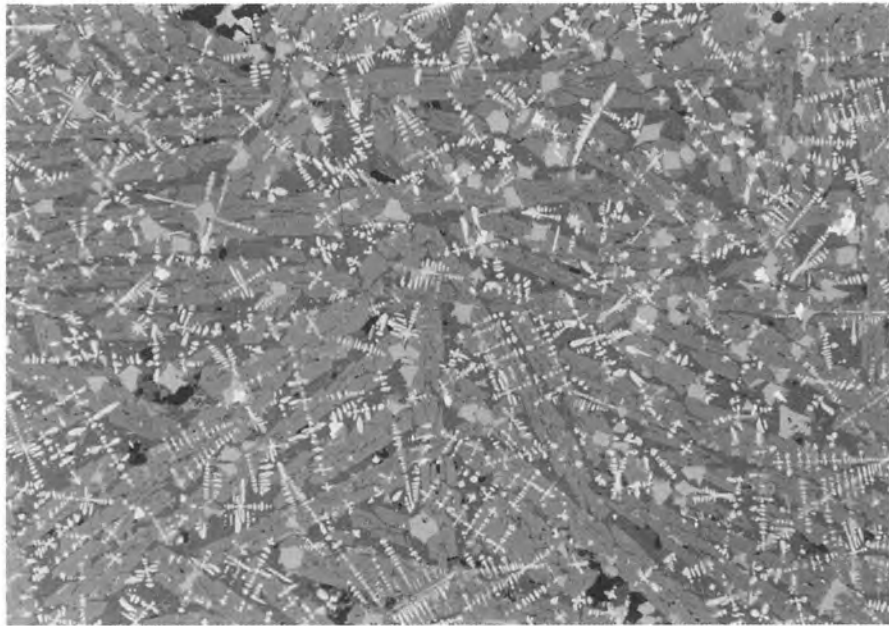
1cm : 100 μ m



x400

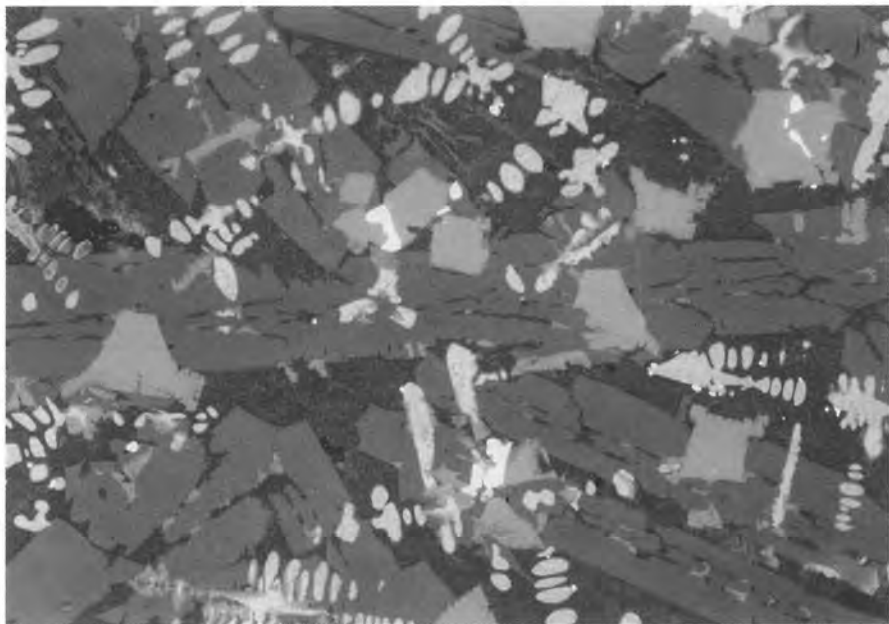
1cm : 25 μ m

写真 山口館跡 資料No.5
炉内滓の顕微鏡組織写真



x100

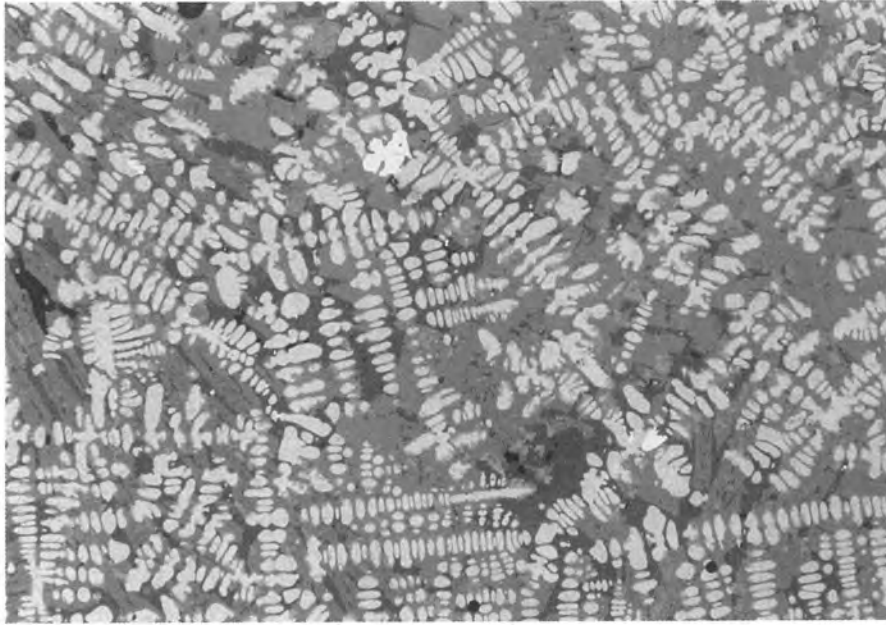
1cm : 100 μ m



x400

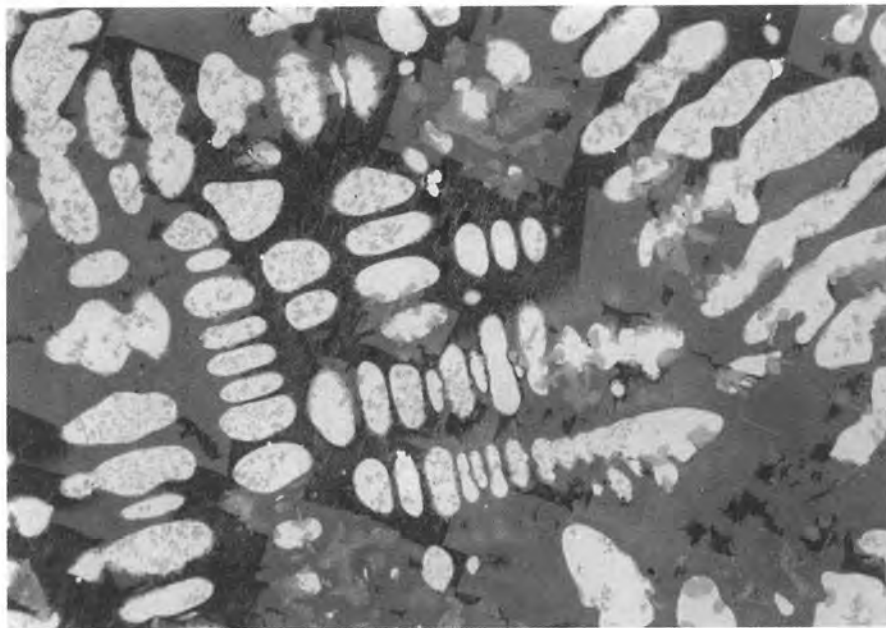
1cm : 25 μ m

写真 山口館跡 資料No.6
流出滓の顕微鏡組織写真



x100

1cm : 100 μ m



x400

1cm : 25 μ m

写真 山口館跡 資料No.10
流出孔滓の顕微鏡組織写真

放射性炭素年代測定結果報告書

(AMS 測定)

山口館跡

平成17年3月28日

年代測定結果報告書

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期5568 年を使用しています。
- 2) BP 年代値は、1950 年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出しています。
複数回（通常は4回）の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS 測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもあります。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{As} - {}^{14}\text{AR}) / {}^{14}\text{AR}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{As} - {}^{13}\text{APDB}) / {}^{13}\text{APDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{As}$ ：試料炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度： $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})\text{S}$ または $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})\text{S}$

${}^{14}\text{AR}$ ：標準現代炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度： $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})\text{R}$ または $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})\text{R}$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ${}^{13}\text{C}$ 濃度 (${}^{13}\text{As} = {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$) を測定し、PDB（白亜紀のペレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、IAA では加速器により測定中に同時に ${}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるとしたときの ${}^{14}\text{C}$ 濃度 (${}^{14}\text{AN}$) に換算した上で計算した値です。(1) 式の ${}^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$${}^{14}\text{AN} = {}^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{As} \text{ として } {}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{As} \text{ として } {}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{AN} - {}^{14}\text{AR}) / {}^{14}\text{AR}] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP 年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

${}^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon)がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\text{‰})$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代(Conventional Radiocarbon Age ; yrBP)が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

IAA Code No.	試料	BP 年代および炭素の同位体比
IAAA-42399 #879-1	試料採取場所：宮古市山口第5地割字久保 試料形態：木炭 試料名(番号)：SI1035号	Libby Age(yrBP) : 920 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.81 ± 0.83 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -108.5 ± 4.3 pMC(%) = 89.15 ± 0.43
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -108.2 ± 4.0 pMC(%) = 89.18 ± 0.40 Age (yrBP) : 920 ± 40
IAAA-42400 #879-2	試料採取場所：宮古市山口第5地割字久保 試料形態：木炭 試料名(番号)：SK1040号	Libby Age(yrBP) : 900 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.98 ± 0.81 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -105.6 ± 4.5 pMC(%) = 89.44 ± 0.43
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -105.6 ± 4.3 pMC(%) = 89.44 ± 0.43 Age (yrBP) : 900 ± 40
IAAA-42401 #879-3	試料採取場所：宮古市山口第4地割字田野前 試料形態：木炭 試料名(番号)：SK1070号	Libby Age(yrBP) : 380 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -30.20 ± 0.63 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -46.7 ± 4.6 pMC(%) = 95.33 ± 0.46
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -56.8 ± 4.4 pMC(%) = 94.32 ± 0.44 Age (yrBP) : 470 ± 40
IAAA-42402 #879-4	試料採取場所：宮古市山口第5地割字久保 試料形態：木炭 試料名(番号)：SK1313号	Libby Age(yrBP) : 580 ± 50 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.29 ± 0.77 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -69.1 ± 6.2 pMC(%) = 93.09 ± 0.62
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -71.5 ± 6.0 pMC(%) = 92.85 ± 0.60 Age (yrBP) : 600 ± 50

V 調査のまとめ

検出遺構について

1 SD1207号道跡・SB 1151号・1277号門跡

SD1207号道跡は調査事前の地形測量に現地地形として部分的に確認されていた遺構である。今回の調査が比較的大規模の調査であり、面的な調査ができたことで確認できた遺構と考える。

SD1207号道跡は高所に築かれた山口館跡と麓を行き来するために築かれたものと考えられる。この道跡は山口館跡中心部の平場群が築かれた尾根の裾部分を通り、館中心部に続くことが調査により判明した。平成8年から行われた一連の調査は館跡を東西に縦断するかたちで調査が行われ、このSD1207号道跡ような遺構はこれ以外に確認されていない。このことから、SD1207号道跡が築かれた周辺が館跡の正面である可能性が高い。

SD1207号道跡の動線上に位置にSB1151号、SB1277号門跡を検出する。

SB1151号門跡はその西側にある平場への出入り口と考えられる。

SB1277号門跡は館跡中心部がある尾根の西側縁辺部に築かれている。この門跡は北側に控える館跡中心部の防御を目的としたものと考えられる。

城館跡における門跡の検出例は、館跡の全面調査が行われた磯鷄館山遺跡、金浜館跡も含め宮古市内での調査において、山口館跡のこの2例のほかはない。

館を築くにあたり、館への出入りをどこから行い、それをどのように築くかは、館の防御上重要なことであったと考えられる。山頂の館と麓を行き来する日常的な使い勝手も考慮しつつ、有事に備え防御する配慮も必要な部分と考えられる。また、館に築かれた複数の平場を連携させるためにはこの道が必要であり、平場間にこの道をいかに設定するかは館の防御機能を決める重要なポイントであったと考えられる。

山口館跡の出入りに使用されたSD1207号道跡は尾根の裾に沿って築かれており、上方の尾根からの防御が可能となる位置にある。また、SB1277号門跡は現地の状況では周囲の視界がよく、この展望の良さがこの位置に門跡を設置した理由ではないかと考えられる。

2 堀跡

堀跡は平成14年度調査区、15年度調査区で検出された。

SD1034号堀跡は、調査事前の地形測量で確認された平坦部と対応するように検出された。現地地形平坦部はSD1034号堀跡廃絶後、この地形を生かし造成されたものと考えられる。

この平坦部は山口館跡縄張り図にあるようにさらに西側へ続くことが確認されており、あわせてSD1034号堀跡も西側に続くことが調査により判明している。この平坦部は、縄張り図で見ると柱穴跡群が検出された平場に沿って続いていることが確認できる。このことからこのSD1034号堀跡は柱穴跡群が検出された平場を防御するための堀跡と考えられる。柱穴跡群、SD

1034号堀跡とともに構築時期を想定できる遺物は出土していないが、この柱穴跡群が確認された平場とこの堀跡は、一連の設計のもと築かれ、館の一部を構成していた施設の可能性が考えられる。そしてこの平場とSD1034号堀跡の組み合わせから、この平場と堀跡の間の斜面部は切岸として築かれた可能性が考えられる。

SD1093号空堀跡は山口館跡中心部と考えられる平場群が築かれた尾根の東側裾部分で検出される。

SD1093号はこの尾根に沿って南北に築かれている。このSD1093号はその出土遺物からも中世に築かれた遺構であり、その位置から西側に控える尾根上の平場、またはこの平場に築かれたであろう施設を防御するために築かれた遺構と考えられる。この尾根の西側で中世と考えられる竪穴住居跡、建物跡が検出されていることから、SD1093号堀跡と西側尾根の間の斜面は切岸跡と考えることも可能である。

3 堀切跡

SD1311号堀切跡は山口館跡中心部と考えられる平場群がある尾根に築かれており、この中心部への直接の進入を防ぐ目的に設けられたと考えられる。縄張り図から、堀切跡と考えられる痕跡はSD1311号堀切跡のほかにその北側で4箇所確認でき、いずれもSD1311号堀切跡が確認された尾根上でみることができる。

4 竪穴住居跡

SI1239A・B号、SI1484号竪穴住居跡はともに時期を同定できる遺物が出土しなかった。SI1484号については、宮古市赤畑遺跡検出の2号住居跡と形態が類似する。この2号住居跡は県内で確認された同様な遺構との比較から中世と考えられており、SI1484号の時期もおおむね中世頃と考えたい。SI1239号は、遺構の過半以上消失しており、時代等、詳細については不明である。

5 建物跡

館跡中心部から南に伸びる尾根の西側で確認する。SB1485号、1481号、1487号、1399号、1383号が建物跡として確認され、いずれも近い位置に重複して築かれている。これら建物跡は竪穴住居跡や竪穴建物跡、掘立柱建物跡となる可能性がある。ただし、斜面部に立地することから平場を作り出すため竪穴を築き、ここに建物を構えた可能性も考えられ、また焼土遺構など火気の痕跡が確認できないことから、おおまかではあるが建物跡とした。これらの遺構は斜面に立地し、下方にあたる西側部分が消失し、遺構の全体を把握できなかったことも遺構の性格を同定できなかった理由としてあげられる。

ただ、これら建物跡の時期はおおむね中世の時期に比定される。これら建物跡がすべて同時期とは断定できないが、この尾根西側斜面に集中して遺構が確認され、またこの建物跡とSD1207号道跡が近接した位置関係にあることは両者に何かしらの関連性が伺える。

6 工房跡

鉄の生産および鉄製品の製造を目的としたものであり、竪穴を築き作業場とした遺構である。

SI1035号は竪穴に製鉄炉を築いた工房跡であり、出土する鉄滓の観察、自然科学分析の結果から12世紀頃の製鉄作業を目的とした工房跡であることが判明した。宮古市内において、製鉄炉跡と想定される遺構はこのSI1035号のほかに、小堀内Ⅲ遺跡、萩沢Ⅱ遺跡、青猿Ⅰ遺跡で確認されている。しかし、時期の特定、鉄滓の分析による炉の性格の特定が十分でないため、再検討が必要と考えられる資料となっている。

ただし、遺構のありかたとして、SN1035号の周囲ではこれと同様の製鉄炉跡は検出されていない。この状況から、このSN1035号は家内的に鉄生産が行われた施設跡と考えられる。

SI1209A号工房跡は平坦部の南側縁辺部で確認され、南側は斜面となり、東側はSD1207号道跡により削平を受けている。

このSB1209B号建物跡は、鍛冶工房跡として築かれたSI1209A号工房跡の廃絶後にこの遺構の竪穴を利用して根太跡を設け床張した建物跡と考えられる。この遺構の時期は重複するSD1207号より古いことから、中世以前と考えられる。

宮古市内の遺跡調査において、根太跡を伴う建物跡の検出例はなく、このSB1209B号が初例となる。中世以前の時代に築かれた遺構であるが、この時代の遺構検出例が宮古市内では少数例しかなく、比較は難しい。土間ではない、床板を張った建物跡が当地域でどの時期から築かれたのかを知る大きな手掛かりになるものと考えられる。

SI1318号工房跡はSD1311号堀切跡の西側に築かれた遺構である。調査においてSI1318号とSD1311号は、重複する状況で検出されるが、両者の新旧関係を把握することはできなかった。

SI1318号とSD1311号の新旧関係については、本報告で図示できないが、現地の状況からSD1311号が古く、SI1318号新しい可能性を考えたい。SD1311号はその東側において、尾根を完全に掘りぬいている。堀切跡という性格からその西側においてもこれと同様に掘りぬいていた可能性が高い。現地の状況ではSD1311の西側はSI1318号と重複しているが、SD1311号の痕跡は重複するSD1318号内では確認されていない。この状況からSD1311号が廃絶後に、その西側を平坦に掘削してSD1318号が築かれたと考えられる。

SI1318号は出土遺物から16世紀頃と考えられる。この時期の鉄関連の工房跡は宮古市内での検出例はなく、比較事例の増加を待ち検討したい。

7 柱穴跡群

柱穴跡群は掘立柱建物跡を構成する遺構と考えられる。柱穴跡群を検出した地点は調査事前

の地形測量で平坦部として確認されていた。

縄張り図から、この平場は調査区の北西側へと続き、柱穴跡群もあわせて北西側に続くものと考えられる。調査区はこの平場の南東端に位置する。この柱穴跡群について掘立柱建物跡として組み合わせを試み、1間1間としては成り立つものはあった。しかし、上記の通り平坦部の端に調査区が位置し、これら柱穴跡をもつ建物跡は調査区の北西側にさらに続く可能性が高く、建物跡としてまとめず報告をすることとした。今後、この柱穴跡群については再検討したい。

8 墓坑跡

SK1060号墓坑跡は、遺構内から出土した染付碗から15世紀後葉以降と考えられる。遺構の南側は後世の土坑跡によって失われるが、方形の掘り込みに焼土が人為的に入れ込まれている状況が確認できた。15世紀の墓坑跡の検出例は宮古市内ではなく、当地域内での比較事例の増加を待ちたい。

出土遺物について

1 陶磁器

出土した45点の中世陶磁器について、うち37点が輸入陶磁器であり、その8割を占める。遺構外からの出土が多く、かつ破片資料であるため、詳しい比較は難しい。しかし、輸入陶磁器が国産陶磁器に比べ多く出土したことは、この地域での陶磁器の消費傾向をある程度反映したものと踏まえたい。

2 石製品

出土した石製品として、茶臼、石臼、石鉢、砥石、碁石、硯、火入がある。

多くが遺構外からの出土である。遺物の時期は特定できないが、山上にある館跡から出土したこと、調査で検出された遺構の多くが中世のものであり、この前後の時期の遺構が少ないことから、すべての石製品ではないが、一部館跡に伴う資料も含まれるものと考えられる。

山口館跡の縄張り図について

今回の発掘調査により、山口館跡は15世紀から16世紀にかけて館として使われていた遺跡と考えられる。

SD1207号道跡は館跡に伴う遺構と考えられ、この道跡は麓の集落と館跡を結び、かつ館跡の主要な通り道であったと考えられる。館跡の平場と平場を結ぶこの道跡の時期が15世紀以降のものだと判明したことから、これに係る平場もほぼこの時期に比定されるものと考えられる。

山口館跡は、従来の指摘にあるとおり改修された可能性が考えられる。

縄張り図において、北側の平場は堀切で区画され、平場がそれぞれが独立して築かれ、連携が取れていない作りであるのに対し、南側の平場は連続するように築かれている。南側の平場では、平場があつまって連携して防御するという意向がその配置から見受けられ、北側の独立した平場と比べ、洗練されたプランとなっている。このことから、山口館跡は、北側の平場群と南側のそれに分けられ、南側の平場群が北側の平場群と比べ新しい可能性が考えられる。

<参考文献>

- 三輪茂雄 『粉と白』 1999
- 田口昭二 『美濃焼』 1983
- 大橋康二 『肥前陶磁』 1989
- 平凡社 『やきもの事典』 1984
- 中世土器研究会 『概説 中世の土器・陶磁器』 1995
- 九州近世陶磁学会 『九州陶磁の編年』 2000
- 美濃古窯研究会 『美濃の古陶』 1976
- 日本貿易陶磁研究会 『貿易 陶磁研究 No.1-No.5』 1998
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 『岩手県埋蔵文化財調査報告書第142集 -赤畑遺跡-』 1989
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 『岩手県埋蔵文化財調査報告書第203集 -猪川館跡-』 1994
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 『岩手県埋蔵文化財調査報告書第310集 -山口館跡-』 1999
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 『岩手県埋蔵文化財調査報告書第353集 -篠館跡-』 2000
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 『岩手県埋蔵文化財調査報告書第390集 -山根館跡-』 2002
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 『岩手県埋蔵文化財調査報告書第450集 -島田Ⅱ遺跡-』 2004
- 宮古市教育委員会 『宮古市埋蔵文化財調査報告書第14集 -青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)-』 1988
- 宮古市教育委員会 『宮古市埋蔵文化財調査報告書第38集 -萩沢Ⅱ遺跡-』 1993
- 宮古市教育委員会 『宮古市埋蔵文化財調査報告書第43集 -磯鶏館山遺跡-』 1995
- 宮古市教育委員会 『宮古市埋蔵文化財調査報告書第51集 -赤畑・天神山・山口館遺跡-』 1998
- 宮古市教育委員会 『宮古市埋蔵文化財調査報告書第52集 -藤畑遺跡-』 1998
- 宮古市教育委員会 『宮古市埋蔵文化財調査報告書第53集 -赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡-』 1999
- 宮古市教育委員会 『宮古市埋蔵文化財調査報告書第57集 -山口館跡-』 2002
- 東京大学出版会 『中世奥羽の世界』 1978
- 高志書院 『鎌倉・室町時代の奥州』 2002
- 千田嘉博 『織豊系城郭の形成』 2000
- 盛岡市遺跡の学び館 『乱世を駆けぬけた武将たち-城館からみた馬淵川・北上川流域の中世史-』 図録 2005

写真図版



1 調査区遠景(上空・南から)



2 調査区遠景(上空・西から)

写真図版1



1 調査区遠景(上空・南南西から)



2 調査状況(北から)



1 2002年調査状況



2 SD1034号空堀跡 完掘（東から）



3 SD1034号空堀跡 土層堆積状況（西から）

写真図版3



1 SD1034号空堀跡 土層堆積状況(南から)



2 SK1029号墓坑跡 検出状況(南から)



3 SK1029号墓坑跡 人骨頭部(南から)



1 SI1035号工房跡 炉跡使用面（南から）



2 2003年 東側調査区調査状況（東から）



3 2003年 東側調査区調査状況（東から）

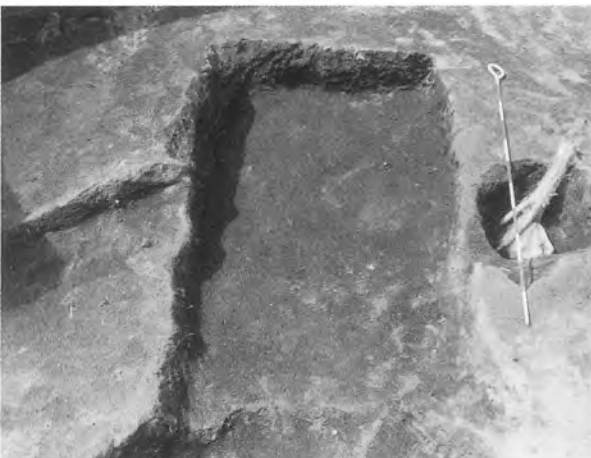
写真図版5



1. SD1093号空堀跡・SD1095号溝跡 完掘 (南から)



2 SD1093号空堀跡 土層堆積状況 完掘 (南から)



3 SK1060号墓杭跡 完掘 (南から)



4 SK1060号墓杭跡 土層堆積状況 (南から)



1 SK1070号炭焼跡 完掘（東から）



2 2003年 西側調査区 調査状況（東から）



3 柱穴跡群 完掘（南西から）

写真図版7



1 SI1209A号工房跡 炉跡検出状況（南から）



2 SI1209A号工房跡 西側炉跡検出状況（南から）



3 SB1151号門跡 完掘（東から）



4 SD1207号道跡 完掘（SB1151号門跡 北側付近 北東から）



1 2004年調査区平場 完掘 (北から)



2 SD1207号道跡屈曲部 完掘 (南から)



3 SB1277号門跡 完掘 (西から)

写真図版9



1 SD1311号堀切跡 完掘（東から）



2 SD1311号堀切跡 土層堆積状況（東から）



3 SD1311号堀切跡 土層堆積状況（西から）



1 SI1318号工房跡付近 完掘（南から）



2 建物跡群 完掘（南から）



3 SI1484号竪穴住居跡 完掘（西から）

写真図版11



1 SD1039号出土遺物



2 SK1024号出土遺物



3 SK1313号出土遺物



4 SK1029号出土遺物



5 SI1035号出土遺物



6 SD1093号出土遺物



7 SD1093号出土遺物



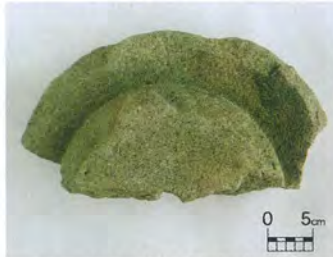
8 SK1104号出土遺物



9 SKP1135号出土遺物



10 SD1311号出土遺物



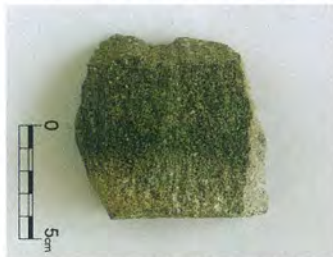
11 SD1311号出土遺物



12 SI1318号出土遺物



13 SD1320号出土遺物



14 SK1486号出土遺物



15 SD1207号出土遺物



16 SD1207号出土遺物



17 SD1093号出土遺物



18 SB1483号出土遺物



写真図版12



1 SK1060号出土遺物



2 SD1207号出土遺物 (外面)



3 SD1207号出土遺物 (内面)

写真図版13



1 中世陶磁器 外面 (遺構外)



2 中世陶磁器 内面 (遺構外)

報 告 書 抄 録

ふりがな	やまぐちたてあと							
書名	山口館跡							
副書名	市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	70							
編著者名	安原 誠							
編集機関	宮古市教育委員会（岩手県）							
所在地	〒027-8501 岩手県宮古市新川町2番1号 Tel 0193-62-2111 Fax 0193-63-9119							
発行年月日	2007年3月							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 〇° 〇' 〇"	東経 〇° 〇' 〇"	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまぐちたてあと 山口館跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やまぐち 山口	3202	LG23-2310	39° 39' 7"	141° 56' 16"	20010913～ 20010927	200㎡	市道北部環状線 道路改良工事
やまぐちたてあと 山口館跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やまぐち 山口	3202	LG23-2310	39° 39' 8"	141° 56' 17"	20020415～ 20021129	1368㎡	市道北部環状線 道路改良工事
やまぐちたてあと 山口館跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やまぐち 山口	3202	LG23-2310	39° 38' 9"	141° 56' 22"	20030409～ 20031215	1917㎡	市道北部環状線 道路改良工事
やまぐちたてあと 山口館跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やまぐち 山口	3202	LG23-2310	39° 39' 9"	141° 56' 20"	20040407～ 20041110	2700㎡	市道北部環状線 道路改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
山口館跡	集落跡 城館跡	中世 江戸時代 古代末期	道跡 堀跡 堀切跡 門跡 竪穴住居跡 工房跡 竪穴状土坑跡 建物跡 墓坑跡 土坑跡 炭焼跡	中世陶磁器 鉄製品 石製品 鉄滓 鍛造剥片				

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- | | | | |
|----|---|----|--|
| 1 | 1979 「宮古市大付遺跡発掘調査報告書」 | 40 | 1993 「崎山遺跡群Ⅶー平成4年度発掘調査概報ー」 |
| 2 | 1980 「宮古市千徳遺跡発掘調査概報」 | 41 | 1994 「崎山遺跡群Ⅷー平成5年度発掘調査概報ー」 |
| 3 | 1983 「宮古市遺跡分布調査報告書1」 | 42 | 1995 「赤前Ⅰ牛子沢遺跡ー平成4年度発掘調査報告書ー」 |
| 4 | 1984 「宮古市遺跡分布調査報告書2」 | 43 | 1995 「磯鷗館山遺跡発掘調査報告書」 |
| 5 | 1984 「赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書」 | 44 | 1995 「崎山貝塚ー範囲確認調査報告書ー」 |
| 6 | 1985 「宮古市遺跡分布調査報告書3」 | 45 | 1995 「笹沢Ⅰ・加村・仲祖Ⅲ・榑ノ神遺跡ー市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書ー」 |
| 7 | 1985 「金浜館跡発掘調査報告書」 | 46 | 1995 「花原市遺跡ー平成4年度発掘調査報告書ー」 |
| 8 | 1986 「宮古市遺跡分布調査報告書4」 | 47 | 1995 「宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚」 |
| 9 | 1986 「宮古市遺跡分布図ー昭和60年度版」 | 48 | 1996 「大付遺跡ー平成5年・6年度発掘調査報告書ー」 |
| 10 | 1986 「中谷地・島田遺跡調査報告書」 | 49 | 1997 「花原市遺跡ー平成8年度発掘調査報告書ー」 |
| 11 | 1987 「崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書」 | 50 | 1997 「白石遺跡ー第6次発掘調査報告書ー」 |
| 12 | 1987 「寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書」 | 51 | 1998 「赤畑・天神山・山口館ー北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書ー」 |
| 13 | 1987 「崎山遺跡群Ⅰー昭和61年度発掘調査概報ー」 | 52 | 1998 「藤前遺跡ー平成9年度発掘調査報告書ー」 |
| 14 | 1988 「青藜Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀台館)」 | 53 | 1999 「赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡ー水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書ー」 |
| 15 | 1988 「崎山遺跡群Ⅱー昭和62年度発掘調査概報ー」 | 54 | 1999 「千鶴Ⅳ遺跡ー水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書ー」 |
| 16 | 1989 「千鶴遺跡ー昭和62年度発掘調査報告書ー」 | 55 | 1999 「崎山貝塚ー第12次・13次内容確認調査概報ー」 |
| 17 | 1989 「トロノ木Ⅰ遺跡ー第1～7次発掘調査報告書ー」 | 56 | 2000 「木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡ー特別高压送電線5号工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書ー」 |
| 18 | 1989 「崎山遺跡群Ⅲー昭和63年度発掘調査概報ー」 | 57 | 2002 「山口館跡ー北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書ー」 |
| 19 | 1989 「高根遺跡ー昭和63年度発掘調査報告書ー」 | 58 | 2002 「小沢Ⅱ大上遺跡ー市内遺跡発掘調査報告書2ー」 |
| 20 | 1989 「狐崎Ⅱ遺跡ー昭和63年度発掘調査報告書ー」 | 59 | 2003 「大又沢Ⅱ遺跡ー東北電力宮古へりポート移設工事関係発掘調査報告書」 |
| 21 | 1989 「崎山トロノ木Ⅳ遺跡ー昭和63年度調査報告書ー」 | 60 | 2003 「上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡ー市内遺跡発掘調査報告書3ー」 |
| 22 | 1990 「狐崎遺跡ー平成元年度発掘調査報告書ー」 | 61 | 2003 「早稲橋Ⅱ遺跡第6次調査ー市内遺跡発掘調査報告書3ー」 |
| 23 | 1990 「崎山遺跡群Ⅳー平成元年度発掘調査概報ー」 | 62 | 2003 「下在家Ⅰ遺跡ー平成14年度発掘調査報告書ー」 |
| 24 | 1990 「磯鷗館山遺跡ー昭和63年度発掘調査報告書ー」 | 63 | 2004 「大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡ー市道開伊崎線改良工事関係発掘調査報告書ー」 |
| 25 | 1990 「鯨ヶ崎館山貝塚ー平成元年度発掘調査報告書ー」 | 64 | 2005 「弘川館跡ー瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書ー」 |
| 26 | 1991 「崎山遺跡群Ⅴー平成2年度発掘調査概報ー」 | 65 | 2006 「高浜Ⅵ地神遺跡ー高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書ー」 |
| 27 | 1991 「青藜Ⅰ・千徳城遺跡群ー平成元年・2年度発掘調査報告書ー」 | 66 | 2006 「崎山貝塚第20次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査ー市内遺跡発掘調査報告書5ー」 |
| 28 | 1990 「鹿野町遺跡ー昭和63年度発掘調査報告書ー」 | 67 | 2006 「八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡ー市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書ー」 |
| 29 | 1991 「弘川Ⅰ遺跡ー平成2年度発掘調査報告書ー」 | 68 | 2006 「木戸井内Ⅳ遺跡ー宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書ー」 |
| 30 | 1992 「金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書」 | 69 | 2006 「菅ノ沢遺跡発掘調査ー市内遺跡発掘調査報告書6ー」 |
| 31 | 1992 「重茂館遺跡群ー第1次調査報告書ー」 | | |
| 32 | 1992 「黒森町Ⅰ遺跡ー平成2年度発掘調査報告書ー」 | | |
| 33 | 1992 「高根遺跡ー平成3年度発掘調査報告書ー」 | | |
| 34 | 1992 「鯉沢遺跡群ー平成2年度発掘調査報告書ー」 | | |
| 35 | 1992 「大付遺跡ー平成3年度発掘調査報告書ー」 | | |
| 36 | 1992 「細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡ー農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書ー」 | | |
| 37 | 1992 「崎山遺跡群Ⅵー平成3年度発掘調査概報ー」 | | |
| 38 | 1993 「笹沢Ⅱ遺跡ー平成4年度発掘調査報告書ー」 | | |
| 39 | 1993 「早稲橋Ⅱ遺跡ー第1次・第2次発掘調査報告書ー」 | | |

宮古市埋蔵文化財調査報告書 70

山口館跡

ー市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書ー

平成19年3月発行

発行 岩手県宮古市教育委員会
〒027-8501 岩手県宮古市新川町2番1号
TEL 0193-62-2111 FAX 0193-63-9119

印刷 花坂印刷工業株式会社
〒027-0081 岩手県宮古市新川町1番2号
TEL 0193-62-3125

